

令和3年度 文部科学省委託事業
DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業

テクノロジーを利活用して介護DXを進める
現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発
及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究

成果報告書

令和5年3月

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人敬心学園が実施した令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の成果をとりまとめたものです。

成果報告書の発刊にあたって

「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」における「テクノロジーを活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究」にご協力いただいた関係者様をはじめ、皆さまに心より感謝申し上げます。

本事業は、VR 等の最先端のテクノロジーを活用し、産官学が連携して進めてまいりました「DX 福祉職養成プログラムの開発実証」プロジェクトであります。ここ3年間続くコロナ禍と、昨年からのロシア・ウクライナ戦争で社会は大きく変化しております。特に、我々教育現場や医療介護職の現場は、対人サービス業そのものであり、人々との接触やコミュニケーションが基本の職業であるため、甚大な影響を受けております。このような状況下におきましては、今回の DX 等成長分野を中心とした「就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」は社会的にも大きな意義があるとともに、大きな注目を集めている、時代を先取りした事業でございます。

先端のテクノロジーを活用した産官学連携事業の有効性を確認する実証研究事業にご協力いただいた「こおりやま東都学園様」や「三幸福祉カレッジ様」、「スマート介護士」のプログラムを共有させていただいた社会福祉法人「善光会様」に感謝申し上げます。また、VR コンテンツ等でご協力いただいている「インターピア株式会社様」、動画教材の撮影にご協力いただきました「杜の癒しハウス文京関口様」や「キャストリンク株式会社様」、そして「株式会社マイナビ様」など、産業界の皆さまにも感謝申し上げます。さらに、講座を行うにあたって、「株式会社 FUJI 様」や「日邦工業株式会社様」、「マッスル株式会社様」や「CYBERDYNE 株式会社様」といった介護福祉機器の企業様にも多大なご協力をいただきました。また、大学等の研究者の皆さまにも多数ご参加いただいております。それぞれの分野の関係者様のご協力でここまで進めてくださいましたこと、心から感謝申し上げます。最後に、熱心にこの研究プロジェクトに取り組んでいただいた川廷センター長、小林英一事業責任者、渡邊みどり様、担当の内田和宏様にも心より感謝を申し上げます。

本事業は、介護と ICT をつなぎ合わせたプログラムとして、日本の介護人材不足の解消や、日本の介護を国際社会へ広げていくための、新たな取り組みの第一歩になったと思います。この取り組みが、今後、教育界や産業界で実用化されていくことを、心から願っております。

学校法人敬心学園
理事長 小林光俊

令和3年度 文部科学省委託事業

DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業
テクノロジーを活用して介護DXを進める現場実践能力の高い介護職の効果的な養成
プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究

目次

I. 事業概要	5
1. 事業名	6
2. 事業の趣旨	6
(1) 当該実証研究が必要な背景について	6
(2) プログラム開発に向けたアンケート調査	8
(3) アンケート調査を踏まえて検討したプログラムの概要	12
3. 事業体制	16
(1) プログラム実施体制	16
(2) 各機関の役割・協力事項	16
(3) プログラム連携機関と提供するプログラムイメージ	17
4. プログラム概要	18
(1) 実証研究するプログラム	18
(2) 想定する受講者数、受講者の募集方法	20
(3) プログラムで習得できる能力と就職・転職先	20
5. スケジュール	21
(1) 事業スケジュール	21
(2) プログラムスケジュール	22
6. 組織体制	23
(1) 運営企画委員会	23
(2) プログラム開発委員会	24
(3) 実証委員会	26
(4) 外部評価委員会	28
II. 実証検証報告書	29
1. 初任者研修	30
2. スマート介護士	31
(1) 第1回スマート介護士	31
(2) 第2回スマート介護士	34
3. 実践教育プログラム	38

(1) 介護の課題と未来の展望、プラスαで学ぶ介護の実践	38
(2) 介護技術実践	42
(3) リスクマネジメント	45
(4) リスキリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER	48
(5) 介護演習 1 日目	51
(6) 介護演習 2 日目	54
(7) これからの介護 DX について	57
(8) チームリーダー介護マネジメント研修	60
(9) 就職サポート・振り返りテスト・修了式	63
4. 部分受講について	67
(1) スマート介護士（郡山健康科学専門学校）	67
(2) 実践教育プログラム（郡山健康科学専門学校）	70
Ⅲ. 調査概要	73
1. プログラムごとの修了者	74
(1) 初任者研修	74
(2) スマート介護士	75
(3) 実践教育プログラム	75
2. スマート介護士について	76
(1) 第 1 回	76
(2) 第 2 回（郡山健康科学専門学校）	76
(3) 第 3 回	77
(4) 全体を踏まえて	77
3. 実践教育プログラム受講前アンケート調査	78
(1) 調査対象者と調査期間	78
(2) 調査項目	78
(3) 倫理的配慮	79
(4) 結果	79
4. 実践教育プログラム受講後アンケート調査	87
(1) 調査対象者と調査期間	87
(2) 調査項目	87
(3) 倫理的配慮	88
(4) 結果	88
5. 実践教育プログラム受講前後アンケート調査の比較	99
(1) 介護の仕事への興味について	99
(2) 介護の仕事に就職するかについて	99

(3) 主観的介護実践力について-----	100
6. プログラム全体の振り返り（受講後インタビュー調査）-----	101
(1) 調査対象者と調査期間-----	101
(2) 倫理的配慮-----	101
(3) インタビュー調査についてのまとめ-----	101
IV. 成果報告会-----	107
1. 事務局からの成果報告-----	109
2. 座談会「DX を活用して人材不足を乗り越える福祉の未来」-----	136
V. 本年度の事業評価-----	143
1. はじめに-----	144
2. 外部評価委員会の役割-----	144
3. 評価方法について-----	144
4. 運営企画委員会に対する評価-----	145
5. プログラム開発委員会に対する評価-----	145
6. 実証委員会に対する評価-----	146
7. 外部評価委員からの評価-----	147
(1) 事業全体の評価-----	147
(2) 事業の改善点-----	148
(3) 今後への期待-----	149
8. 総評-----	149
VI. 本年度の振り返りと今後の展望-----	151
1. プログラム開発委員会-----	152
2. 実証委員会-----	153
3. 事業責任者-----	154
資料-----	157

I . 事業概要

1. 事業名

テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究

2. 事業の趣旨

日本が抱える社会問題として、3つの大きな課題がある。1つ目は、2025年問題が抱える医療や介護などの社会保障費の増大への対策である。2つ目は、生産年齢人口の減少による経済の停滞と人手不足である。これらの課題を解決するために国は、生産力の維持・向上を必要としており、女性や高齢者の活躍推進や、働きやすい環境の整備、生産性の向上への仕組みづくりなどの対策を急ピッチで進めている。さらに、3つ目として大きな課題となっていたのが、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた失業者・休業者に対する生活の保障である。

これらの課題を踏まえ、本研究事業では、生産力の維持・向上の支援として、宿泊業、飲食サービス業などの職業人をターゲットとし、対人スキルを活かす多様な人材として、同じ対人サービスである介護職への雇用促進サポートを行い、対人サービス職としていた失業者や退職者が、また新たな対人サービス業に転職できるよう、就労も含めた雇用システムの仕組みづくり、ICTスキル等を身に付け即実践が出来るDXを活用した介護職教育プログラムの開発を行う目的とする。

(1) 当該実証研究が必要な背景について

本プログラムが必要な背景について、「1. 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた失業者・休業者への雇用促進」、「2. 介護人材不足と介護現場の生産性向上」、「3. 課題解決に向けた介護養成教育の必要性」の3つがあげられる。

(i) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた失業者・休業者への雇用促進の必要性

総務省によると、2022年1月の就業者数は6,646万人となり、前年同月比で32万人減少し、就業者のうち、正規職員数は3,554万人であり、前年同月比で27万人減少したとの報告があった¹⁾。1年以上失業状態にある人は、2021年10-12月期において、流行前に比べ31%増の64万人と、リーマン危機以来の増加が続くことも報告されている²⁾。

そのなかでも、特に影響を受けたのが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出により、営業時間の短縮やイベントの中止・制限等の要請が行われた、飲食業やサービス業であった。2020年に全国で休業・解散した企業について、産業別にみると、最多は飲食業や宿泊業、非営利的団体などを含むサービス業の1万5,624件（構成比31.4%、前年比17.9%増）となっており、以下、建設業8,211件（構成比16.5%、前年比16.8%増）、小売業6,168件（構成比12.4%、前年比7.2%増）となっている。産業を細分化した業種別では、飲食店が1,711件（前年比6.5%増）、飲食料品卸売業が1,002件（前年比22.6%増）

となっており、1,000件を超えたとの報告があった³⁾。さらに、2020年の消費者の外出、及び飲食店の売上は、2000年以降過去最大の減少率となったと報告されている⁴⁾。このように、飲食業やサービス業は、新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けた業界の一つであり、業界の失業者・非正規雇用労働者への就職・転職の支援は、喫緊の課題であると考えられる。

また、日本標準職業分類⁵⁾によると、介護業界は飲食業やサービス業と同様、サービス職業従事者に位置づけられており、対人サービスといった共通点がある。そのため、人を対象にする分野として、就職・転職の際に、飲食業やサービス業の経験が介護業界にも活かせるのではないかと考えた。そこで本プログラムでは、新型コロナウイルス感染症により最も影響を受けた分野であり、かつ新たな参入の促進が期待できる人材として、飲食業・サービス業からの就業者・転職者を対象とした。

(ii) 介護人材不足と介護現場の生産性向上の必要性

日本の将来推計人口によると、65歳以上人口は2042年にピークを迎えると予測されており、15～64歳の生産年齢人口については減少が予測されている⁶⁾。そのため、2025年の介護人材の供給見込みは215.2万人、需要見込みは253.0万人となり、37.7万人の介護人材が不足すると推計されている⁷⁾。このような状況に対して、国は、さまざまな介護職員確保への打開策を展開している。厚生労働省は、介護職員を確保するための総合的な人材確保対策の取り組みとして、「介護職員の処遇改善」、「多様な人材の確保・育成」、「離職防止・定着促進・生産性向上」、「介護職の魅力向上」、「外国人材の受入れ環境整備」といった施策を示している⁸⁾。そこで、本プログラムでは「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の目的と照らし合わせ、そのうち「多様な人材の確保・育成」、「離職防止・定着促進・生産性向上」を踏まえて開発することとした。

2030年には日本の労働人口の約49%が就いている職業で、AIやロボットに代替することが可能になるという研究結果が出ている⁹⁾。生産年齢人口が減少するなか、介護分野においても、介護職員の「量」と「質」の好循環を生み出すためには、AIやロボットによる自動化を活用するDXが今後ますます必要となる。厚生労働省も、ICTを活用することにより、働きやすい環境作りに繋がり、介護業界のイメージを刷新しつつ、活躍の場を創出し、介護分野への多様な人材の参入促進につなげていくことを目指している⁸⁾。

一方で、2021年2月に介護労働安定センターが実施した1,240の介護事業所を対象とした調査では、「現時点で情報通信技術（ICT）は導入していない」と回答する事業所が約半数であった。また、同調査で、新型コロナウイルス感染症禍でのICT機器を活用した業務について、「ICTによる介護実施記録の作成」が36.3%、「ICTによるケアの時間の削減」が24.9%、「ICTによる人で不足の解消」が22.9%となっており、「介護ロボットの導入によるケアの代用」にいたっては、16.4%と非常に低い結果となっている。介護職目線での情報通信技術（ICT）の悪い効果としては、「上手く使いこなせず、むしろ業務負荷となっている」、「利用

する職員と利用しない職員に分かれてしまっている」、「導入したものの活用しきれていない」という項目が上位であった¹⁰⁾。

以上、ICT やデジタルの導入や活用は、必要に迫られているが、介護現場ではなかなか進んでいない状況である。介護人材不足解消のためには、人材確保とともに、介護の生産性の向上が求められている。そのためには、現場の介護職員が ICT やデジタルを活用できることが、今後は必須の条件となっており、そのような介護職を養成するために、これらの課題を踏まえた教育プログラムの検討が求められていると考える。

(iii) 課題解決に向けた介護養成教育の必要性

公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が行った「令和 3 年度介護福祉士養成施設の入学定員充足度状況等に関する調査」によると、2021 年の介護養成施設数は 327 施設と、前年より 20 施設も減少している。また、定員数については 13,040 人となり、前年に比べ約 600 名減少している¹¹⁾。新型コロナウイルスの感染拡大により留学生が入国できない現状を踏まえると、今後、さらに学生の募集停止に追い込まれる養成校が増え、担い手確保への悪影響が懸念されることが考えられる。介護人材不足の解消が喫緊の課題であるが、そのためには、人材確保とともに、介護の生産性の向上も求められている。そのため、介護養成校には、介護職員が ICT やデジタルを利活用できるようになるための教育プログラムを開発することも求められている。また、介護養成校が ICT やデジタルの利活用も取り入れたプログラムを提供することは、介護の魅力の向上にもつながり、若い世代の「介護離れ」を抑制する一助になることも考えられる。そこで、本プログラムでは、介護の知識や技術だけでなく、ICT やデジタルについても学ぶことができるプログラムを開発することとした。

(2) プログラム開発に向けたアンケート調査

以上のような背景を踏まえ、本プログラムでは、受講者が飲食業やサービス業で培ってきた「スキル」や「経験」を活かして福祉職に就職・転職できるよう、介護福祉の専門的な知識や技術にのみならず、ICT やデジタルが活用できる人材を養成することを目的とし、「DX 福祉職養成プログラム」を開発することとした。また、プログラムの開発に向けて、介護現場や介護養成校の教員にアンケートを実施した。以下に、その結果の報告を行う。

(i) 調査対象者と調査期間

介護事業所におけるマネジメント職（施設管理者、主任、チームリーダー等）112 名、ならびに介護養成校において初任者研修・実務者研修・介護福祉士養成に 3 年以上従事している講師・教員 120 名を対象として、Google Form のアンケート機能を用いた質問紙調査を行った。なお、対象者は研究実施者の機縁法によって求めた。調査は 2022 年 9 月 14 日～9 月 30 日に行った。

(ii) 調査項目

1) 基本情報

介護事業所におけるマネジメント職については、働いている事業所の種類や役職について尋ねた。また、介護養成校における講師・教員については、担当している養成種別や経験年数について尋ねた。

2) 介護職員に求める資質や能力について

介護事業所におけるマネジメント職、ならびに介護養成校の講師・教員に対し、「介護職として即戦力になるために、どのような力が必要だと思うか」、「現在、現場の介護職に足りない力はどんな力か」について尋ねた。

3) ICT やデジタル機器に関する活用状況について

介護事業所におけるマネジメント職に対しては、「現在、ICT やデジタル機器を事業所で導入しているか」、「現場の介護職員は ICT やデジタル機器を使いこなしているか」、「研修の中に、介護の ICT やデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れているか」について、尋ねた。

また、介護養成校の講師・教員に対しては、「ICT やデジタル機器（介護ロボット等）の授業を取り入れる必要があると思うか」、「講義の中に、ICT やデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れているか」について尋ねた。

4) 介護事業所にて介護の研修や講座で取り入れたい内容について

介護事業所におけるマネジメント職に対して、「介護の研修や講座で取り入れたい内容は何か」について、自由記述にて尋ねた。

(iii) 倫理的配慮

敬心学園職業教育研究開発センター研究倫理専門委員会で承認を得て実施した（承認番号 22-04）。調査にあたり、アンケートは自由意思で回答すること、無記名であり匿名性を確保してあること、研究協力への承諾はアンケートの回収をもって研究への協力に承諾が得られたとすること、アンケートに協力しない場合においても一切不利益は発生しないことを記載した。

(iv) 結果

1) 基本情報

介護事業所におけるマネジメント職の基本属性の結果を表 1 に示した。対象者の働いている事業所は、訪問介護事業所が最も多く 32 名（29.1%）であった。役職については、管理者が最も多く 57 名（51.4%）であった。

表1 介護事業所におけるマネジメント職の基本属性に関する基本統計量

変数/水準	合計 (n = 112) (100.0)	
	人数	%
働いている事業所		
特別養護老人ホーム	16	(14.5)
介護老人保健施設	4	(3.6)
有料老人ホーム	1	(0.9)
サービス付き高齢者向け住宅	22	(20.0)
認知症対応型共同生活介護	2	(1.8)
訪問介護事業所	32	(29.1)
通所介護事業所	13	(11.8)
小規模多機能型居宅介護事業所	7	(6.4)
居宅介護支援事業所	7	(6.4)
その他	8	(7.1)
役職		
管理者	57	(51.4)
課長	8	(7.2)
主任	21	(18.9)
リーダー	19	(17.1)
その他	7	(6.3)

介護養成校の講師・教員の基本属性の結果を表2に示した。対象者の働いている養成種別は、実務者研修が最も多く61名(48.1%)であった。従事年数については、5年以上10年未満が最も多く52名(43.7%)であった。

表2 介護養成校の講師・教員の基本属性に関する基本統計量

変数/水準	合計 (n = 120) (100.0)	
	人数	%
養成種別		
初任者研修	34	(29.3)
実務者研修	61	(48.1)
介護福祉士養成	14	(48.1)
その他	7	(48.1)
従事年数		
3年以上5年未満	19	(16.0)
5年以上10年未満	52	(43.7)
10年以上15年未満	21	(17.6)
15年以上20年未満	19	(16.0)
20年以上	8	(6.7)

2) 介護職員に求める資質や能力について

介護事業所におけるマネジメント職が介護職員に求める資質や能力の結果について、表3に示した。「介護職として即戦力になるために、どのような力が必要だと思いますか」について、「利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力」が89名(79.5%)と最も多く、続いて「様々なことに対して気づき、対応できる力」が73名(65.2%)、「根拠のある考え方ができ、実践できる力」が25名(22.3%)であった。「現在、現場の介護職に足りない力はどんな力だと思いますか」では、「様々なことに対して気づき、対応できる力」が55名(49.1%)と最も多く、「根拠のある考え方ができ、実践できる力」が49名(43.8%)、

続いて「介護業務にデジタルを活用できる力」が 29 名 (25.9%) であった。

表3 介護職員に求める資質や能力 (介護事業所におけるマネジメント職)

変数/水準	合計 (n = 112) (100.0)	
	人数	%
I. 介護職として即戦力になるために、どのような力が 必要だと思いますか。(複数回答可)	利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力	86 (79.5)
	様々なことに対して気づき、対応できる力	71 (65.2)
	根拠のある考え方ができ、実践できる力	65 (22.3)
	危険を判断し、即対応できる力	23 (20.5)
	介護業務にデジタルを活用できる力	5 (4.5)
	チームをまとめることができるリーダーシップ力	5 (4.6)
	自らキャリアを切り開いていく力	1 (2.7)
II. 現在、現場の介護職に足りない力は何な力だと思 いますか。(複数回答可)	利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力	25 (22.3)
	様々なことに対して気づき、対応できる力	55 (49.1)
	根拠のある考え方ができ、実践できる力	49 (43.8)
	危険を判断し、即対応できる力	24 (21.4)
	介護業務にデジタルを活用できる力	29 (25.9)
	チームをまとめることができるリーダーシップ力	16 (14.3)
	自らキャリアを切り開いていく力	24 (21.4)

また、介護養成校の講師・教員が介護職員に求める資質や能力の結果について、表 4 に示した。「介護職として即戦力になるために、どのような力が必要だと思いますか」について、「利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力」が 86 名 (71.7%) と最も多く、続いて「様々なことに対して気づき、対応できる力」が 71 名 (59.2%)、「根拠のある考え方ができ、実践できる力」が 65 名 (54.2%) であった。「現在、現場の介護職に足りない力は何な力だと思えますか」では、「様々なことに対して気づき、対応できる力」が 55 名 (49.1%) と最も多く、「根拠のある考え方ができ、実践できる力」が 91 名 (75.8%) と最も多く、続いて「様々なことに対して気づき、対応できる力」が 50 名 (41.7%)、「自らキャリアを切り開いていく力」が 30 名 (25.0%) であった。

表4 介護職員に求める資質や能力に対する調査 (介護養成校の講師・教員)

変数/水準	合計 (n = 120) (100.0)	
	人数	%
I. 介護職として即戦力になるために、どのような力が 必要だと思いますか。(複数回答可)	利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力	86 (71.7)
	様々なことに対して気づき、対応できる力	71 (59.2)
	根拠のある考え方ができ、実践できる力	65 (54.2)
	危険を判断し、即対応できる力	9 (7.5)
	介護業務にデジタルを活用できる力	2 (1.7)
	チームをまとめることができるリーダーシップ力	3 (2.5)
	自らキャリアを切り開いていく力	3 (2.5)
II. 現在、現場の介護職に足りない力は何な力だと思 いますか。(複数回答可)	利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力	28 (21.7)
	様々なことに対して気づき、対応できる力	50 (41.7)
	根拠のある考え方ができ、実践できる力	91 (75.8)
	危険を判断し、即対応できる力	15 (12.5)
	介護業務にデジタルを活用できる力	11 (9.2)
	チームをまとめることができるリーダーシップ力	18 (13.3)
	自らキャリアを切り開いていく力	30 (25.0)

3) ICT やデジタル機器に関する活用状況について

介護事業所における ICT やデジタル機器の活用状況の結果について、表 5 に示した。「現在、ICT やデジタル機器を事業所で導入していますか」について、「導入している」が 67 名 (60.9%) であった。「現場の介護職員は ICT やデジタル機器を使いこなせていますか」については、「あまり使いこなせていない」が 38 名 (37.3%)、「全く使いこなせていない」が 10 名 (9.8%) であった。

表5 介護事業所におけるICTやデジタル機器の活用状況

変数/水準	合計 (n = 112) (100.0)	
	人数	%
I. 現在、ICTやデジタル機器を事業所で導入していますか。	導入している	67 (60.0)
	導入していない	43 (38.1)
II. 現場の介護職員はICTやデジタル機器を使いこなせていますか。	とても使いこなせている	7 (6.0)
	少し使いこなせている	38 (37.3)
	あまり使いこなせていない	47 (48.1)
	全く使いこなせていない	10 (9.8)
III. 研修の中に、介護のICTやデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れていますか。	取り入れている	31 (29.2)
	取り入れていない	75 (70.8)

また、介護養成校における ICT やデジタル機器に関する取り組み状況の結果について、表6に示した。「ICT やデジタル機器（介護ロボット等）の授業を取り入れる必要があると思いますか」について、「そう思う」が51名（42.5%）、「少しそう思う」が44名（36.7%）であった。「講義の中に、ICT やデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れていますか」については、「導入していない」が104名（88.9%）であった。

表6 介護養成校におけるICTやデジタル機器に関する取り組み状況

変数/水準	合計 (n = 120) (100.0)	
	人数	%
I. ICTやデジタル機器（介護ロボット等）の授業を取り入れる必要があると思いますか。	そう思う	51 (42.5)
	少しそう思う	44 (38.7)
	あまりそう思わない	23 (19.2)
	全くそう思わない	2 (1.7)
II. 講義の中に、ICTやデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れていますか。	導入している	13 (11.1)
	導入していない	104 (88.9)
III. 介護養成課程を受講している学生はデジタルを使いこなせていますか。	とても使いこなせている	10 (11.2)
	少し使いこなせている	50 (58.2)
	あまり使いこなせていない	24 (27.0)
	全く使いこなせていない	5 (5.6)

4) 介護事業所にて介護の研修や講座で取り入れたい内容について

介護事業所にて介護の研修や講座で取り入れたい内容について、記入された自由回答をカテゴリーごとにまとめたものを表7に示した。「介護技術」、「認知症」、「制度」、「接遇」、「ICT・デジタル」、「マネジメント・リーダーシップ」、「リスクマネジメント」、「分析方法」の8つのカテゴリーに分けられた。

(3) アンケート調査を踏まえて検討したプログラムの概要

アンケート結果を概観すると、「介護職として即戦力になるために、どのような力が必要だと思いますか」については、介護事業所におけるマネジメント職と介護養成校の講師・教員ともに、「利用者・職員との円滑な関係が築けるコミュニケーション力」、「様々なことに対して気づき、対応できる力」、「根拠のある考え方ができ、実践できる力」が高い割合を占めていた。一方、「現在、現場の介護職に足りない力はどんな力だと思いますか」については、介護事業所におけるマネジメント職と介護養成校の講師・教員ともに、「様々なことに対して気づき、対応できる力」、「根拠のある考え方ができ、実践できる力」は共通して高かったが、次に高かったのが、介護事業所におけるマネジメント職では、「介護業務にデジタルを活用できる力」、介護養成校の講師・教員では「自らキャリアを切り開いていく力」であった。そのため、即戦力としては「介護実践」につながる力が求められているが、足りな

い力としては、「ICT やデジタル機器」や「キャリアを考える力」など、介護実践以外の力を養成することも求められていることが示唆された。

表7 介護事業所にて介護の研修や講座で取り入れたい内容

介護技術	利用者体験
	施設実習にて身体技術を学ぶ
	大柄の人の移乗
	移乗などの実技技術
	ボディメカニクス
認知症	三大介護や日常生活支援
	個人記録、事故報告などの書類の書き方
制度	認知症の正しい理解
接遇	認知症に対する対応など実践的な研修
	介護に関する制度の理解
ICT・デジタル	介護保険法の要点に関する学習
	接遇研修
	不適切な対応など
マネジメント リーダーシップ	マナーや言葉使い、モラルについて
	介護ICTの有効性と導入方法
	介護ロボットを活用した実践
	ICT化に向けた情報の把握
リスクマネジメント	先端施設の研修
	ICT関連商品を実用したロールプレイング
	PDCAサイクルの活用方法
分析手法	エンパワメント
	介護現場の業務改善への取り組み
	利用者の在宅におけるリスクヘッジ
分析手法	リスクに対する対応力
	緊急時対応
	転倒予防
	データの分析方法
	ロジカルシンキング
	定量的評価に基づくアセスメント方法
	考えるということ

ICT やデジタル機器に関する活用状況については、介護事業所の約 6 割が導入しているが、半数以上が使いこなせておらず、約 7 割が事業所内で教育できていない状況であった。介護養成校の講師・教員では、約 8 割が ICT やデジタル機器に関する授業の必要性を感じているが、約 8 割が授業に取り入れることができている状況であった。介護事業所においても介護養成校においても、ICT やデジタルの必要性を認識はしているが、ほとんど運用や活用ができていないことが、本結果より示唆された。

介護事業所にて介護の研修や講座で取り入れたい内容については、「介護技術」、「認知症」、「制度」、「接遇」といった直接介護に関わる知識や技術だけでなく、「ICT・デジタル」に加え、「マネジメント・リーダーシップ」、「リスクマネジメント」、「分析方法」といった介護現場の運営やマネジメントとといったことも求められていることが示唆された。

以上、先述した社会的背景、およびアンケート結果より、本プログラムでは、介護の入門的講座である「介護職員初任者研修（130 時間）」、これからの日本の社会福祉を担う使命感とそれに基づく持続可能な介護サービス提供モデルの必要性を理解する「スマート介護士（15 時間）」、加えて、ファシリテートができリーダーとなる力や、自分のキャリアを考える力、ICT やロボットが活用できる力の修得を目指す、オリジナルの「実践教育プログラム（60 時間）」と、3つの講座を1つにしたプログラムを開発することとした（図1）。加えて、介護人材不足の現状も顧みて、就職サポートも提供することとした。

「介護職員初任者研修」については、見学実習等の実習が必須でなくなったことによって「技術確認ができない」、「施設や介護のイメージが学べない」、また、実習がなくなったことにより、就職や就職後への影響が懸念されるといった指摘もある¹²⁾。また、「スマート介護士」は、「要介護者の生活機能の把握とあるべき支援を企画する」、「効率的なオペレーションシステムを構築し、継続的に改善する」、「利用者や同僚職員などの関係者を指導する」、「介護ロボット・ICT機器の特性を把握する」を到達目標としている¹³⁾。そのため、「介護」と「ICTやデジタル」の技術や知識を介護現場にて実践するためには、「介護」と「ICTやデジタル」を組み合わせた実践的なプログラムが必要であると考え、「実践教育プログラム」をオリジナルで開発することとした。さらに、現状、勤続年数3年未満の離職者が全体の約6割を占めている状況を踏まえると、就職先とのマッチングが重要であると考え、就職サポートも一体となったプログラムとすることとした¹⁴⁾。

附記

「2. 事業の趣旨」は、敬心・研究ジャーナル第6巻第2号に掲載された「【実践報告】令和3年度文部科学省委託事業「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業に向けた事業」における「DX福祉職養成プログラム」開発の試み」の一部修正を加えたものである。

【参考文献】

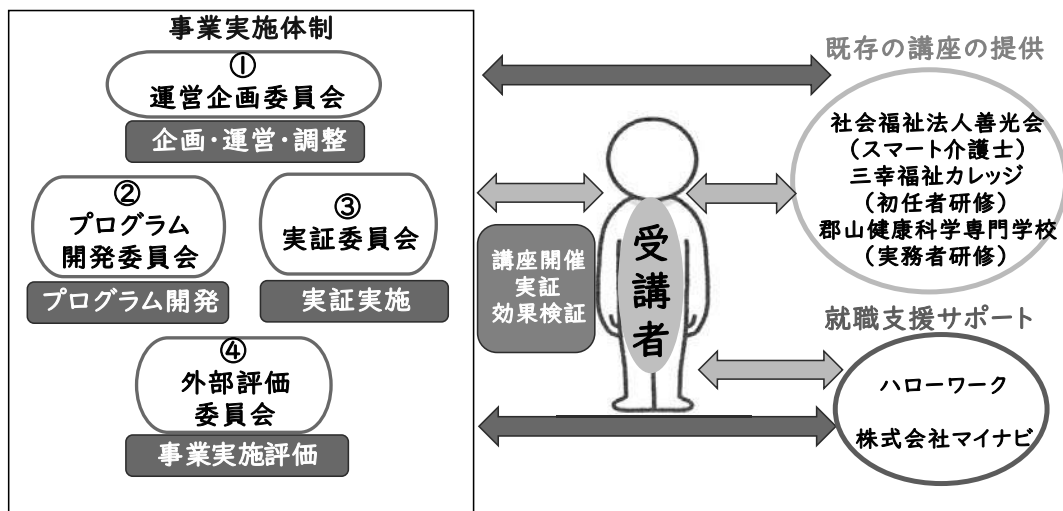
1. 総務省（2022）「労働力調査（基本集計）2022年（令和4年）1月分」
<https://www.stat.go.jp/data/roudou/rireki/tsuki/pdf/202201.pdf>（2022.11.10閲覧）
2. 日本経済新聞（2022）「コロナ禍、長期失業64万人 リーマン危機以来の上昇（2022年3月15日発表）」
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQQUA03A7N0T00C22A2000000/>
（2022.11.10閲覧）
3. 東京商工リサーチ（2021）「2020年休廃業・解散企業動向調査」
https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20210118_01.html（2022.11.10閲覧）
4. 内閣省（2021）「マンスリートピックス新型コロナウイルス感染症禍の外出産業の動向～需要側・供給側からの振り返り～」
https://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2021/0430/topics_061.pdf
（2022.11.10閲覧）
5. 総務省（2009）「日本標準職業分類（平成21年12月統計基準設定）」
https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/kou_h21.htm
（2022.11.10閲覧）
6. 内閣府（2020）「令和2年版高齢社会白書」
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_1_1.html
（2022.11.10閲覧）

7. 厚生労働省（2015）「2025 年に向けた介護人材にかかる需給推計について」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000088998.html>（2022. 11. 10 閲覧）
8. 厚生労働省（2022）「介護現場における ICT の利用促進」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-ict.html>（2022. 11. 10 閲覧）
9. 野村総合研究所（2015）「日本の労働人口の 49%が人工知能やロボット等で代替可能に～601 種の職業ごとに、コンピューター技術による代替確率を試算～」
https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/news/newsrelease/cc/2015/151202_1.pdf（2022. 11. 10 閲覧）
10. 介護労働安定センター（2021）「令和 2 年度介護労働実態調査（特別調査）結果について」
http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/20210727r02_kekkagaiyou.pdf（2022. 11. 10 閲覧）
11. 日本介護福祉士養成施設協会（2021）「令和 3 年度介護福祉士養成施設の入学定員充足度状況等に関する調査」
<https://kaiyokyo.net/news/d1d0b611b159b0df7fb78aca393740f83898dee4.pdf>（2022. 11. 10 閲覧）
12. 一般財団法人 長寿社会開発センター（2015）「介護職員初任者研修の実態把握と効果的・効率的な実施に関する調査研究事業」
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000140382.pdf>（2022. 11. 10 閲覧）
13. 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所（2018）「介護ロボット運用の専門資格「スマート介護士」」
<https://www.zenkoukai.jp/japanese/news/6104>（2022. 11. 10 閲覧）
14. 介護労働安定センター（2022）「令和 3 年度 介護労働実態調査結果について」
http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2022r01_cw_genjou.pdf（2022. 11. 10 閲覧）

3. 事業体制

(1) プログラム実施体制

プログラムは、以下のような体制で実施した。



- ①プロジェクトに参加する当事者を含む多様な関係者による事業の目的、目標、運営方法の検討・共有を行う。各委員会の調整も行う。
- ②教育プログラムを開発する。それに伴い、教員用授業マニュアルおよび受講する受講生のためのテキストを作成する。
- ③開発された教育プログラムを受講生を対象に実施し、評価を行う。
- ④第三者として、教育プログラムの評価効果測定を担当するとともに、事業全体への評価・検証や助言を行う。

(2) 各機関の役割・協力事項

(i) 教育機関

- ①教育プログラム開発
- ②教員用授業マニュアル作成
- ③受講生用テキスト・教材（データ）作成
- ④試行実施後の教育プログラムの改善提案

(ii) 企業・業界団体

1) 介護・介護関係事業者

- ①就職受け入れ
- ②実習の受け入れ
- ③開発する教育プログラムに対する現場視点での助言
- ④教育プログラムへの評価
- ⑤授業マニュアル作成の協力

- ⑥教育機関同様の試行実施の協力
- ⑦離職防止のためなど業界の取り組みとのコラボレーションを検討

2) IT 関係事業者

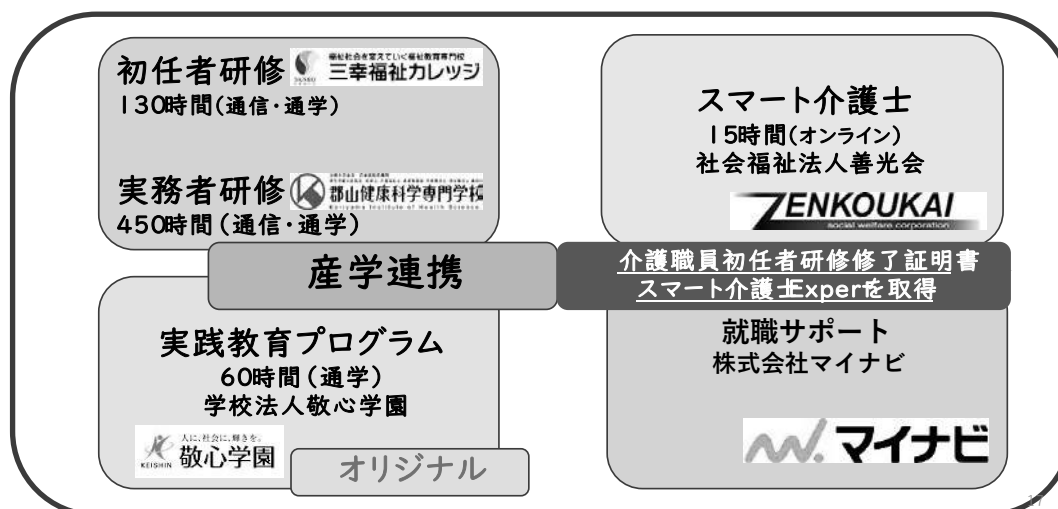
- ①DX システムにおける使用上の助言
- ②DX システム導入のためのマニュアルなどの作成
- ③試行実施の際、操作方法などを問い合わせするヘルプデスクでの協力
- ④試行実施の際、受講生をサポート

(iii) 行政機関

- ①教育プログラムの導入に対する評価・助言
- ②教育プログラムが広く受け入れてもらうための助言
- ③事業全体に対する評価

(3) プログラム連携機関と提供するプログラムイメージ

プログラムは、以下のような機関と連携して提供する。



- ・ 初任者研修 …三幸福祉カレッジ
- ・ 実務者研修 …学校法人こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校
- ・ スマート介護士 …社会福祉法人 善光会
- ・ 実践教育プログラム …学校法人 敬心学園 職業教育研究開発センター
- ・ 就職サポート …(株)マイナビ

4. プログラム概要

(1) 実証研究するプログラム

(i) 介護職員初任者研修（座学 40 時間・実践 90 時間／130 時間）

科目	通信	通学	学習時間
1. 職務の理解	×	6時間	6時間
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	7.5時間	1.5時間	9時間
3. 介護の基本	3時間	3時間	6時間
4. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	7時間	2時間	9時間
5. 介護におけるコミュニケーション技術	3時間	3時間	6時間
6. 老化の理解	3時間	3時間	6時間
7. 認知症の理解	3時間	3時間	6時間
8. 障害の理解	1.5時間	1.5時間	3時間
9. こころとからだのしくみと生活支援技術	12時間	63時間	75時間
10. 振り返り	×	4時間	4時間
合計	40時間	90時間	130時間

(ii) 介護福祉士実務者研修（座学 400 時間・実践 50 時間／450 時間）

科目	通信	通学	学習時間
人間の尊厳と自立	○	×	5時間
社会の理解 I	○	×	5時間
社会の理解 II	○	×	30時間
介護の基本 I	○	×	10時間
介護の基本 II	○	×	20時間
コミュニケーション技術	○	×	20時間
生活支援技術 I	○	×	20時間
生活支援技術 II	○	×	30時間
介護過程 I	○	×	20時間
介護過程 II	○	×	20時間
発達と老化の理解 I	○	×	10時間
発達と老化の理解 II	○	×	20時間
認知症の理解 I	○	×	10時間
認知症の理解 II	○	×	20時間
障害の理解 I	○	×	10時間
障害の理解 II	○	×	20時間
こころとからだのしくみ I	○	×	20時間
こころとからだのしくみ II	○	×	60時間
医療的ケア	○	×	50時間
介護過程 III	×	○	40時間
医療的ケア演習I*	×	○	10時間
合計			450時間

(iii) スマート介護士 (15 時間)

科目	オンライン	学習時間
スマート介護士概論(講義)	○	1時間
スマート介護士概論(演習)	○	1時間
ケアテック基礎論-ロボット・センサー編(講義)	○	1時間
ケアテック基礎論-ロボット・センサー編(演習)	○	1時間
ケアテック基礎論-ICT編&通信環境構築編(講義)	○	1時間
ケアテック基礎論-ICT編&通信環境構築編(演習)	○	1時間
オンライン施設見学	○	1時間
科学的介護基礎論(講義)	○	1時間
科学的介護基礎論(演習)	○	1時間
ケアテック導入の実践理論(講義)	○	1時間
ケアテック導入の実践理論(演習)	○	1時間
科学的介護の実践理論(講義)	○	1時間
科学的介護の実践理論(演習)	○	1時間
スマート介護士試験	○	1時間
スマート介護士解説	○	1時間
合計		15時間

(IV) オリジナル実践教育プログラム (60 時間)

講義名	授業目標	学習時間
介護職の課題と未来の展望 プラスαで学ぶ介護の実践	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、根拠や気づきのある介護が必要なのか分かり、実践できる。 安全な介助を行うためにはどの順番で行えばよいか分かり、実践できる。 	6時間
介護技術実践(介護過程) リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の展開が考えられ実践できる 利用者の状態に合わせた支援ができるように介護過程やリスクが考えられ実践できる。 	12時間
リスクリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER	<ul style="list-style-type: none"> リスクリングの学びの前に、「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたい生き方、働き方をしたいのか」について内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる。 ありたい生き方、働き方に近づくために、保有するキャリア資産(知識・スキル、能力、経験、人脈等)を棚卸し、捨てるもの、磨くもの、加えるべきものを明確にして、アンラーン(捨てる)とアップスキリング(磨く)、リスクリング(加える)の学びにつなげることができる。 ありたい生き方・働き方に自分を導くキャリアの羅針盤(こだわり抜きたい譲れない仕事観・人生観等)を創ることができる。 	6時間
介護演習	<ul style="list-style-type: none"> 介護現場を知り、イメージができるようになる。 最新の介護現場を知り、よい意味での先入観を持つことができる。 動画教材を用いた現場での活用実体を知り、当たり前に使っているイメージを持つ。 	18時間
これからの介護DXについて	<ul style="list-style-type: none"> 介護におけるICT利用の現状や今後の展望について学び、職場の中で介護DXを実践するための基本的な考え方を習得する。 	6時間
チームリーダー 介護マネジメント研修	<ul style="list-style-type: none"> チームリーダーの役割の必要性を説明できる チームリーダーになることの条件を説明できる 主体的に問題を見つけて解決することができる 業務を円滑に行うためにファシリテーションができる 	6時間
就職活動の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> 就職先に求めることを説明できる。 自分のキャリアをもとにできる可能性の仕事をイメージできる。 客観的に自分自身を観ることができる。 	6時間

(2) 想定する受講者数、受講者の募集方法

- (i) 受講者数：非正規雇用労働者・失業者 40名程度
東京都：定員20名程度／福島県：定員20名程度
- (ii) ターゲット：コロナの影響を受けた、失業者・休業者、宿泊業、飲食サービス業などの職業人
- (iii) 受講募集：ハローワークからの紹介、実務者・初任者研修実施養成校 Web 広告・企業が扱う転職サービスへの広告記載、開催地自治体の広報への記載を行う。介護専門紙の広告を行う。
- (IV) 受講受付窓口：敬心学園職業教育研究開発センターのリカレント担当部署事業担当宛に、受講者から申し込みをしてもらう。定員の人数になり次第受付を終了とする。

(3) プログラムで習得できる能力と就職・転職先

(i) 身につけられる能力

- 1) 介護 DX を使いこなせ、他の介護職にも教示できる ICT スキル能力
- 2) 介護現場で実践できる介護ロボット操作ができる能力
- 3) 前職の経験を踏まえて、DX を活用した高いコミュニケーション能力
- 4) DX を活用して地域や社会のニーズに対応できる力
- 5) 前職の経験を踏まえたチームのファシリテーターとなる調整力

(ii) 企業等において期待される活躍

- 1) 質の高いサービスの提供ができる
- 2) 利用者のニーズに即対応ができる
- 3) DX を活用することで仕事の効率化が図れる
- 4) IT が苦手な介護職員に対して、活用できるよう教示することができる
- 5) 離職者の防止ができる

(iii) 想定される就職・転職先

1) 高齢者福祉

訪問介護事業所、デイケアサービス、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護付き有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者住宅等

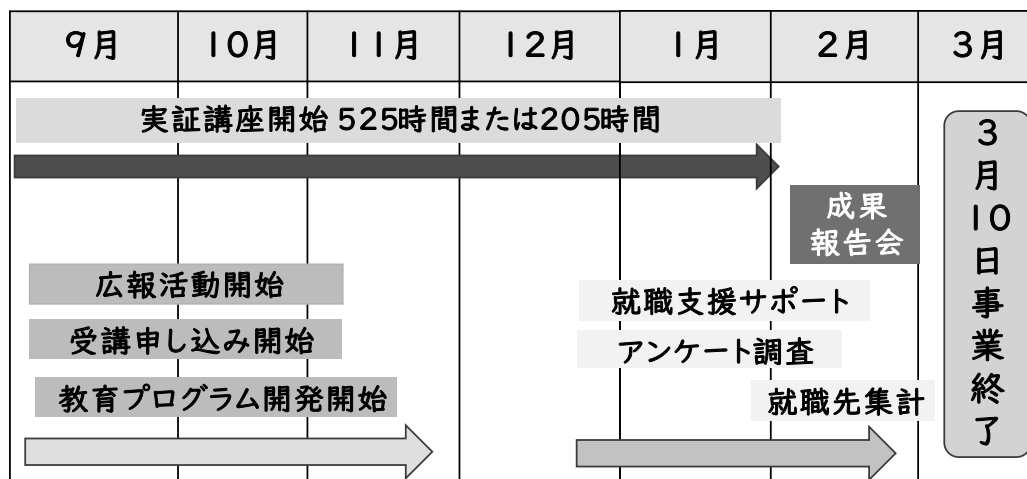
2) 障がい者福祉

訪問介護事業所、就労継続支援 A 型・B 型、身体障害者施設や知的障害者施設、共同生活援助（グループホーム）等

5. スケジュール

(1) 事業スケジュール

事業スケジュールは以下の通りである。



事業の採択が8月24日(水)であった。そのため、9月より広報、教育プログラム開発、受講生申し込み受付を開始する。2023年2月2日(木)の講座終了後に、アンケート・ミニテスト・就職者の集計などを行い、検証結果をまとめる。2月24日(金)に成果報告会を開催する。事業の終結は2023年の3月10日までとなる。

(2) プログラムスケジュール

コース名		コースⅠ (八王子)	コースⅡ (立川)	コースⅢ (新宿①)	コースⅣ (池袋)	コースⅤ (新宿②)	コースⅥ (錦糸町)
申込締切	一般	10/5(水)	10/7(金)	10/31(月)	11/8(火)	11/29(火)	12/8(木)
	職業訓練受講 給付金対象	9/16(金)	9/20(火)	10/12(水)	10/20(木)	11/10(木)	11/21(月)
1. 事前ガイダンス	オンライン/対面	随時	随時	随時	随時	随時	随時
2. 開講式	オンライン/対面	10/7(金)	10/11(火)	11/2(水)	11/10(木)	12/1(木)	12/12(月)
3. 初任者研修	教室	八王子	立川	新宿①	池袋	新宿②	錦糸町
	1日目 9:30~17:40	10/10(月)	10/13(木)	11/3(木)	11/11(金)	12/2(金)	12/13(火)
	2日目 9:30~16:40	10/18(火)	10/19(水)	11/10(木)	11/17(木)	12/8(木)	12/19(月)
	3日目 9:30~16:40	10/20(木)	10/20(木)	11/11(金)	11/18(金)	12/9(金)	12/20(火)
	4日目 9:30~16:40	10/21(金)	10/21(金)	11/14(月)	11/21(月)	12/12(月)	12/21(水)
	5日目 9:30~17:40	10/24(月)	10/26(水)	11/15(火)	11/24(木)	12/13(火)	12/22(木)
	6日目 9:30~16:40	10/25(火)	10/27(木)	11/17(木)	11/25(金)	12/15(木)	12/23(金)
	7日目 9:30~16:40	10/27(木)	10/28(金)	11/18(金)	11/28(月)	12/16(金)	12/26(月)
	8日目 9:30~16:40	10/28(金)	11/2(水)	11/21(月)	12/1(木)	12/19(月)	12/27(火)
	9日目 9:30~16:40	10/31(月)	11/4(金)	11/22(火)	12/2(金)	12/20(火)	12/28(水)
	10日目 9:30~16:40	11/1(火)	11/9(水)	11/24(木)	12/5(月)	12/22(木)	1/5(木)
	11日目 9:30~17:40	11/3(木)	11/11(金)	11/25(金)	12/8(木)	12/23(金)	1/6(金)
	12日目 9:30~16:40	11/4(金)	11/16(水)	11/28(月)	12/9(金)	12/26(月)	1/9(月)
	13日目 9:30~16:40	11/7(月)	11/18(金)	11/29(火)	12/15(木)	12/27(火)	1/12(木)
	14日目 9:30~16:40	11/10(木)	11/23(水)	12/1(木)	12/16(金)	1/9(月)	1/16(月)
15日目 9:30~15:40	11/11(金)	11/30(水)	12/5(月)	12/22(木)	1/12(木)	1/17(火)	
※スマート介護士・実践教育プログラム からの受講をご希望の方の申込締切り		11/22(火)			12/9(金)	1/4(水)	
4. スマート介護士 【15時間】 + 実践教育プログラム 【10日間】 ※スマート介護士・ 実践教育プログラム からの部分受講も可 能です。	教室	東京都区内			東京都区内	東京都区内	
	1日目 9:30~18:00	12/6(火)			12/23(金)	1/18(水)	
	2日目 9:30~18:00	12/7(水)			12/26(月)	1/19(木)	
	3日目 9:30~18:00	12/8(木)			12/27(火)	1/20(金)	
	4日目 9:30~18:00	12/9(金)			12/28(水)	1/23(月)	
	5日目 9:30~18:00	12/12(月)			1/5(木)	1/24(火)	
	6日目 9:30~18:00	12/13(火)			1/6(金)	1/25(水)	
	7日目 9:30~18:00	12/14(水)			1/10(火)	1/26(木)	
	8日目 9:30~18:00	12/15(木)			1/11(水)	1/27(金)	
	9日目 9:30~18:00	12/16(金)			1/12(木)	1/30(月)	
10日目 9:30~18:00	12/19(月)			1/13(金)	1/31(火)		
予備日 9:30~18:00	12/20(火)			1/16(月)	2/1(水)		
5. 修了式	オンライン/対面	12/21(水)			1/17(火)	2/2(木)	

※初任者研修は、5つの会場で6期間の開催であった。

※実践教育プログラムは、受講生数の関係で1月18日(水)~の1回のみとなった。

6. 組織体制

(1) 運営企画委員会

委員会名	運営企画委員会		
目的・役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体の企画、運営 ・ 事業進捗の管理調整 ・ 事業計画の到達点、評価指標の設定 ・ 評価基準の確認 ・ 実証調査、実施、研修会の運営企画 		
検討の 具体的内容	本プロジェクトに参加する当事者による事業の目的・目標・計画立案、 運営方法の検討		
委員数	8名	開催頻度	3回

委員会の構成員			
	氏名	所属・職名	役割等
1	小林 光俊	学校法人敬心学園 理事長	・ 運営企画委員会
2	川廷 宗之	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター長	・ 運営企画委員委員長 ・ 実践教育プログラム講師
3	小林 英一	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	・ 運営企画委員会副委員長 ・ プログラム開発委員会 ・ 実証委員会
4	竹下 康平	株式会社 ビーブリッド 代表取締役	・ 運営企画委員会 ・ プログラム副委員長 ・ 実践教育プログラム講師
5	宮本 隆史	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者	・ 運営企画委員会 ・ プログラム開発委員長 ・ 実証委員会副委員長 ・ 実践教育プログラム講師
6	柳沼 亮一	三幸福社会 営業広報部 部長法人科 学的介護担当 学校法人三幸学園 東京未来大学 福 祉保育専門学校 介護福祉科 講師	・ 運営企画委員会 ・ 実証委員会委員長 ・ プログラム委員会 ・ 実践教育プログラム講師
7	大本 昇	株式会社アライヴテック 代表取締役	・ 運営企画委員会
8	内田 和宏	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	・ 運営企画委員会副委員長 ・ プログラム開発委員会 ・ 実証委員会

(2) プログラム開発委員会

委員会名	プログラム開発委員会		
目的・役割	実践教育プログラムの企画・開発する。それに伴う教材の企画・開発をする。		
検討の 具体的内容	①実践教育プログラムの開発 ②カリキュラム・授業案・教材の作成 ③教材動画の作成 ④ミニテストと実技		
委員数	15名	開催頻度	6回

委員会の構成員			
	氏名	所属・職名	役割等
1	宮本 隆史	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会 ・プログラム開発委員長 ・実証委員会副委員長 ・実践教育プログラム講師
2	竹下 康平	株式会社 ビーブリッド 代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会 ・プログラム副委員長 ・実践教育プログラム講師
3	柳沼 亮一	三幸福社会 営業広報部 部長法人 科学的介護担当 学校法人三幸学園 東京未来大学福 祉保育専門学校介護福祉科講師	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会 ・実証委員会委員長 ・プログラム委員会 ・実践教育プログラム講師
4	三浦 雅範	コニカミノルタ株式会社 グループ 業務執行役員 QOL ソリューション 事業部長 兼 コニカミノルタ QOL ソ リューションズ株式会社 代表取締 役社長	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会
5	菊地 克彦	聖徳大学 文学部教養デザインコー ス 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会 ・実践教育プログラム講師
6	高橋 利明	社会福祉法人南生会 施設長	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会 ・実証委員会
7	得永 真人	公益社団法人かながわ福祉サービ ス振興会 ロボット・ICT 推進 課長	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会

8	伊藤 健次	公立大学法人山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科准教授	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム作業部会 ・実践教育プログラム講師
9	八子 久美子	学校法人 敬心学園 日本福祉教育専門学校 学科 新設準備室 室長	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会
10	五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会
11	神 智淳	お茶の水ケアサービスコ・メディカルアカデミー 代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会
12	笹島 慶太	株式会社 マイナビ 未来応援事業本部進学情報事業部営業統括部東日本営業3部	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会
13	小林 英一	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会副委員長 ・プログラム開発委員会 ・実証委員会
14	渡邊みどり	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム開発委員会
15	内田 和宏	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会副委員長 ・プログラム開発委員会 ・実証委員会

(3) 実証委員会

委員会名	実証委員会		
目的・役割	開発した、教育プログラムとそれに伴う教材を使って実証し検証する。		
検討の 具体的内容	<p>以下の項目について実証調査を行う</p> <p>①受講生を対象に、講座の実施を行う。</p> <p>②学習効果測定が基本なので、当該科目の授業の試験結果が基本データとなる。授業後のその都度、試験を行うなど、学習効果の測定を精密化する。</p> <p>③受講生の主観的評価を聞く。(プログラムの理解度・内容について) また、前項で触れているように、学習効果測定が基本であるので、ミニテスト(筆記・実技)で、効果が明確になる評価方法を取る。なお、改善を目指すためのアンケートなども並行して行う予定である。</p> <p>④全国の養成校・施設を対象に、既存の介護養成校のカリキュラムと、現場の求めるスキルに関する調査を行い、次年度のプログラムの内容を改善していく。</p>		
委員数	7人	開催頻度	7回

委員会の構成員

	氏名	所属・職名	役割等
1	柳沼 亮一	三幸福社会 営業広報部 部長法人 科学的介護担当 学校法人三幸学園 東京未来大学福 祉保育専門学校介護福祉科講師	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会 ・実証委員会委員長 ・プログラム委員会 ・実践教育プログラム講師
2	宮本 隆史	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・運営企画委員会 ・プログラム開発委員長 ・実証委員会副委員長 ・実践教育プログラム講師
3	窪木 守	学校法人こおりやま東都学園 郡山 健康科学専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実証委員会
4	阿比留 志郎	社会福祉法人 梅仁会 理事長	<ul style="list-style-type: none"> ・実証委員会
5	高橋 利明	社会福祉法人南生会 施設長	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会 ・実証委員会

6	小林 英一	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営企画委員会副委員長 ・ プログラム開発委員会 ・ 実証委員会
7	内田 和宏	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営企画委員会副委員長 ・ プログラム開発委員会 ・ 実証委員会

(4) 外部評価委員会

委員会名	外部評価委員会		
目的・役割	<p>【目的】 外部評価委員会は直接点検・評価を行うことはせず、各プロジェクトが行う自己点検・評価の結果をメタ評価実施することで、評価の有効性、適切性について第三者の立場から客観的のある評価を行う。</p> <p>【役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画段階において、目標が明確か、目標を達成したことを測定する評価指標は適切か、事業がスムーズに進み、大きな成果が得られるように助言する。 ・プログラムの評価効果測定を担当するとともに、事業全体への評価・検証を行う。 		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業企画・運営に関する助言 ・事業運営と成果に関する評価と検証 ・開発したプログラムそれに伴う教材の検証 		
委員数	5名	開催頻度	3回

委員会の構成員

	氏名	所属・職名	役割等
1	藤本 順也	川崎市経済労働局イノベーション推進室 ウェルフェアイノベーション担当	・外部評価委員会
2	和田 義人	学校法人 千葉学園 千葉商科大学人間社会学部 教授	・外部評価委員会
3	光山 誠	公益社団法人 全国老人保健施設協会 人材対策委員会	・外部評価委員会
4	篠塚 恭一	NPO 日本トラベルヘルパー（外出支援専門員）協会 会長	・外部評価委員会
5	町 亞聖	フリーアナウンサー	・外部評価委員会

II. 実証検証報告

1. 初任者研修

<p>実施期間／場所 受講生数／修了生数</p>	<p>2022年10月10日(月)～2022年11月11日(金) ／八王子(八王子中町ビル6F)教室 〒192-0085 東京都八王子市中町5-1 八王子中町ビル6F 受講生数0名／修了生数0名 (職業訓練受講給付金申請者0名)</p> <p>2022年10月13日(木)～2022年11月30日(水) ／立川(立川三和ビル3F)教室 〒190-0012 東京都立川市曙町2-32-3 立川三和ビル3F 受講生数0名／修了生数0名 (職業訓練受講給付金申請者0名)</p> <p>2022年11月3日(木)～2022年12月5日(月) ／新宿(グラフィオ西新宿6F)教室 〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-15 グラフィオ西新宿6F 受講生数1名／修了生数0名 (職業訓練受講給付金申請者0名) ※1名は、2日目以降都合が合わず、プログラム終了後に受講予定</p> <p>2022年11月11日(木)～2022年12月22日(木) ／池袋(後藤ビル5F)教室 〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-11-9 後藤ビル5F 受講生数1名／修了生数1名 (職業訓練受講給付金申請者0名)</p> <p>2022年12月2日(金)～2023年1月12日(木) ／新宿(グラフィオ西新宿6F)教室 〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-15 グラフィオ西新宿6F 受講生数4名／修了生数4名 (職業訓練受講給付金申請者0名)</p> <p>2022年12月13日(金)～2023年1月17日(火) ／錦糸町(フナダ錦糸町駅前ビル4F)教室 〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-5-11 フナダ錦糸町駅前ビル4F 受講生数4名／修了生数1名 (職業訓練受講給付金申請者0名) ※3名は、就業中の仕事が多忙となり、2日目以降受講せずプログラム終了後に受講予定</p>
------------------------------	---

2. スマート介護士

(1) 第1回 スマート介護士

■実証実施日	2023年1月11日(水)、1月12日(木)
■実証場所	Zoom オンライン
■実証担当者	内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1月11日(水)	スケジュール
9:00~10:30	講義「スマート介護士」 はじめに+スマート介護士概論
10:40~12:10	講義「スマート介護士」ケアテック基礎論 (ICT①)
13:00~14:30	講義「スマート介護士」ケアテック基礎論 (ICT②)
14:40~16:10	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論 (ロボット・センサー①)
16:20~17:50	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論 (ロボット・センサー②)

1月12日(木)	スケジュール
9:00~10:30	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎 (通信環境) +オンライン施設見学
10:40~12:10	講義「スマート介護士」ケアテック導入の実践理論
13:00~14:30	講義「スマート介護士」科学的介護の基礎&実践理論
14:40~16:10	講義「スマート介護士」スマート介護士資格 確認テスト
16:20~17:50	講義「スマート介護士」テストの解説+ラップアップ

実証報告書

実証場所	受講生各自宅（オンライン）	実施日	2023年1月11日(木)、12日(金)
調査員名	内田和宏（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 渡邊みどり（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会）		
委託事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護DXを進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>・2023年1月11日(木)</p> <p>9:00~10:30 講義「スマート介護士」 (はじめに+スマート介護士概論)</p> <p>10:40~12:10 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ICT①))</p> <p>13:00~14:30 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ICT②))</p> <p>14:40~16:10 講義「スマート介護士」 (ケアテック基礎論 (ロボット・センサー①))</p> <p>16:20~17:50 講義「スマート介護士」 (ケアテック基礎論 (ロボット・センサー②))</p> <p>・2023年1月12日(金)</p> <p>9:00~10:30 講義「スマート介護士」 (ケアテック基礎 (通信環境)+オンライン施設見学)</p> <p>10:40~12:10 講義「スマート介護士」(ケアテック導入の実践理論)</p> <p>13:00~14:30 講義「スマート介護士」(科学的介護の基礎&実践理論)</p> <p>14:40~16:10 講義「スマート介護士」 (スマート介護士資格 確認テスト)</p> <p>16:20~17:50 講義「スマート介護士」(テストの解説+ラップアップ)</p>		
効果検証	修了テスト、アンケート : テスト 受講生4名/4名 合格		
調査対象	受講生 : 4名		

受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような支援が行われているか、どのような支援を目指しているかを知ることができた。 ・難しい内容ではあったが、一から丁寧に講義してもらえて大変勉強になった。 ・本当に学びたい人でないと、講義についていくのが難しいところがあると思った。 ・ワークもあって、あっという間に時間が過ぎた。質問の時間の際に、受講生に投げかけたりして、もう少し受講生と交流しながらだと、より講座が楽しくなると思った。 ・介護に関するシステム化によることを、もっと介護現場が学ぶべきである。
授業の様子、課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年12月のスマート介護士公式テキストの大幅刷新を受けて、多くのスライドやワークが今回初めて講義で使用するものであった。そのため、パートによっては、内容をやや詰め過ぎてしまい質疑の時間を十分確保できていなかったり、進行にもたついたりする事があった。 ・一日あたりのコマ数が多く、一日の終わりには、とても疲れている様子であった。
備考	

【当日の様子】



(2) 第2回 スマート介護士

■実証実施日	2023年1月27日(金)、30日(月)
■実証場所	Zoom オンライン
■実証担当者	内田和宏 (企画運営委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1月27日(金)	スケジュール
9:00~10:30	講義「スマート介護士」 はじめに+スマート介護士概論
10:40~12:10	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論 (ICT①)
13:00~14:30	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論 (ICT②)
14:40~16:10	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論 (ロボット・センサー①)
16:20~17:50	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論 (ロボット・センサー②)

1月30日(月)	スケジュール
9:00~10:30	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎 (通信環境) +オンライン施設見学
10:40~12:10	講義「スマート介護士」ケアテック導入の実践理論
13:00~14:30	講義「スマート介護士」科学的介護の基礎&実践理論
14:40~16:10	講義「スマート介護士」スマート介護士資格 確認テスト
16:20~17:50	講義「スマート介護士」テストの解説+ラップアップ

実証報告書

実証場所	受講生各自宅 (Zoom オンライン)	実施日	2023年1月27日(金) 2023年1月30日(月)
調査員名	内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護DXを進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年1月27日(金) 9:00~10:30 講義「スマート介護士」(はじめに+スマート介護士概論) 10:40~12:10 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ICT①)) 13:00~14:30 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ICT②)) 14:40~16:10 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ロボット・センサー①)) 16:20~17:50 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ロボット・センサー②)) ・ 2023年1月30日(月) 9:00~10:30 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎 (通信環境)+オンライン施設見学) 10:40~12:10 講義「スマート介護士」(ケアテック導入の実践理論) 13:00~14:30 講義「スマート介護士」(科学的介護の基礎&実践理論) 14:40~16:10 講義「スマート介護士」(スマート介護士資格 確認テスト) 16:20~17:50 講義「スマート介護士」(テストの解説+ラップアップ) 		
効果検証	修了テスト、アンケート : テスト 受講生 4名/4名 合格		
調査対象	受講生 : 4名		

<p>受講生の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生のインターネット環境に差があるため、途中で一時繋がらないトラブルがあった。 ・終日のオンライン講義は体力的・精神的に負担となるため、1日あたりのコマ数の調整が必要である。 ・講師の自己紹介の際に、もっと講師の方々が介護分野でどのようなインフルエンサーを与えているのかを具体的に話してもらえたら良かった（個人ワーク1つ分の代わりに講師の方々と交流する時間を持てると良いと思った）。講師の方々が介護業界をどうして行こうとしているのかといった想いなどを聞くことができるような、講義の中に”遊び”を持たせて頂けると、深い交流ができるのではないかなと思った。 ・2日間ともリモートで約8h/1日の受講は初めてだったので慣れていなかった。実践的なツールの使用方法なども盛り込まれていて、とても勉強になったが、スケジュールがタイトだったので、テストは後日別枠であったらよいと思った。 ・介護ICT、介護ロボットについて、使うことを避けて通れないものというイメージがあり、具体的に導入のメリットまで考えられていなかった。課題の明確化、職場の合意形成などプロセスを知ることができ大変勉強になった。また、知識や情報を学んだ後に導入計画策定のグループワークができたことで理解が深まった。 ・端的にかつ包括的にICTについての知見を深めることができた点が、素晴らしく思った。そしてまた、ICTを導入するためには、どうしたらよいかということ、実際にワークを通して取り組むことによって、ICTの現場へ導入について工夫された講義をされていた。最後に、今後の科学的介護の展望と課題について示してもらえることで、介護業界に対する展望が持てたことも非常に良かった。 ・講座中、グループワークで触れられていたが、ICTや介護ロボットの導入に肯定的でない現場や職員も多いため、どのようなメリットがあるのか、どのようなツールがあるのか、どのような課題を解消してくれるのかなど、具体的に知ることができる講座だった。
<p>授業の様子、課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生はZoomで顔を出して、意欲的に取り組んでいた。しかし、朝から夕方までという講義設定だったため、コマ数の設定を検討した方がよい。 ・事前のプログラムで介護全般に関する知識を既に持たれていて、且つ受講者同士の人間関係もある程度深まっていたため、とても進行し易く感じた。 ・たいへん前向きに参加している受講生が多く、グループワークでは、

	自分たちの休憩時間を削って熱心にディスカッションされている様子が印象的であった。
備考	

3. オリジナル実践プログラム

(1) 介護の課題と未来の展望、プラスαで学ぶ介護の実践

■実証実施日	2023年1月18日(水)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	小林英一(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 川廷宗之(運営企画委員会) 渡邊みどり(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

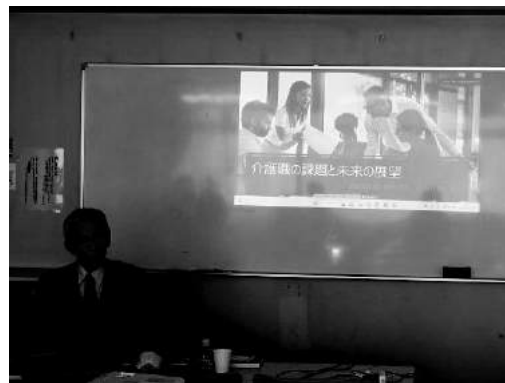
1月18日	スケジュール
9:00~10:00	会場設営、打ち合わせ
10:00~11:00	オリエンテーション ・事業責任者の挨拶 小林 英一 氏 ・プログラム概要についての説明 事務局 ・受講生自己紹介 ・受講前アンケートの実施
11:10~12:40	講義「介護職の課題と未来の展望」 川廷 宗之 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター センター長)
12:40~13:30	休憩
13:30~15:00	講義「プラスαで学ぶ介護の実践」 渡邊 みどり 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター 研究員)
15:10~16:40	講義「プラスαで学ぶ介護の実践」、ミニテスト 渡邊 みどり 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター 研究員)
16:40~17:00	片付け・終了

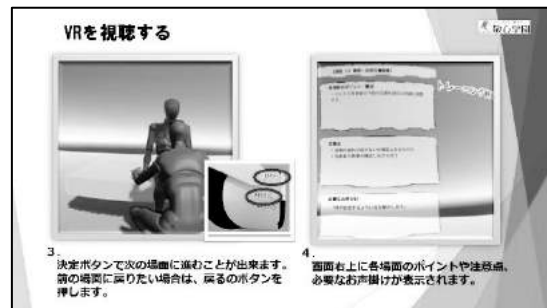
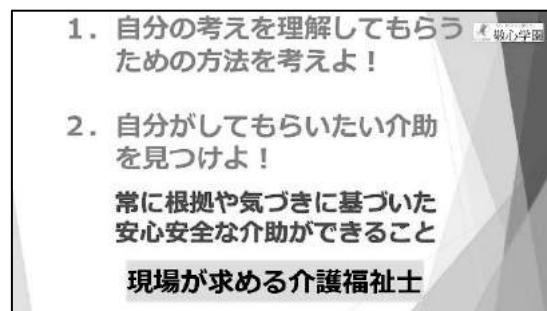
実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日 本福祉教育専門学校 高田校舎 233 教室	実施日	2023 年 1 月 18 日(水)
調査員名	小林英一（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 川廷宗之（運営企画委員会） 渡邊みどり（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 内田和宏（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会）		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年 1 月 18 日(水) 11 : 10~12 : 40 講義「介護職の課題と未来の展望」 13 : 30~15 : 00 講義「プラスαで学ぶ介護の実践」 15 : 10~16 : 40 講義「プラスαで学ぶ介護の実践」 		
調査対象	受講生： 4 名		
ミニテスト結果	ミニテスト：「プラスαで学ぶ介護の実践」（全 3 問） 3 問正解：1 名、2 問正解：3 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者研修では介護技術の話が主だったため、「介護職の課題と未来の展望」というマクロな視点での講義は新鮮で、とても興味深かった。 ・ 介護を通して健康になったことを評価する保険制度にするには、どうしたらよいかを考える必要があるのではないか。 ・ 初任者研修で学んだ知識や技術を、より実践的なものに落とし込める講座であった。 ・ 初任者研修で学んだことをかみ砕いて説明してもらえたので、初任 		

	<p>者研修で学んだことに納得感が増した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VR を使用しての介助体験が新鮮であった。 ・ 高齢者模擬キッドを装着したことにより、自らにとっての普通が、高齢者や障害者にとってはとても大変なことだと分かった。知識だけでなく、寄り添った介助、介護を意識して学んでいきたい。
<p>授業の様子、 課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は意欲的で、社会保障や科学的な介護等に興味を持っている受講生が多い。 ・ 初任者研修から引き続き参加している受講生は、お互いをすでによく知っているため、グループワークなどの講義に入りやすい様子であった。 ・ 講義を進めていくにあたり、受講生同士の関係構築をどのように進めていくのかを検討する必要がある。特に、知り合いではない受講生同士について、検討する必要がある。 ・ 初任者研修を受けてきているため、学ぶ意欲が高く、積極的に参加している。
<p>備考</p>	

【当日の様子】





(2) 介護技術実践

■実証実施日	2023年1月19日(木)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	柳沼亮一 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1月19日	スケジュール
9:00~9:30	会場設営、打ち合わせ
9:30~11:00	講義「介護技術実践」 柳沼 亮一 氏(三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当) ・初任者研修の復習(ベッドメイキング・スライディングシート・スライディングボード)
11:10~12:40	講義「介護技術実践」 柳沼 亮一 氏(三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当) ・ICFの考え方、アセスメントについて
13:30~15:00	講義「介護技術実践」 柳沼 亮一 氏(三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当) ・介護過程について
15:10~16:40	講義「介護技術実践」 柳沼 亮一 氏(三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当) ・介護過程を応用した計画立案(グループワーク) ・VRを使用した介護演習
16:40~17:00	片付け 終了

実証報告書

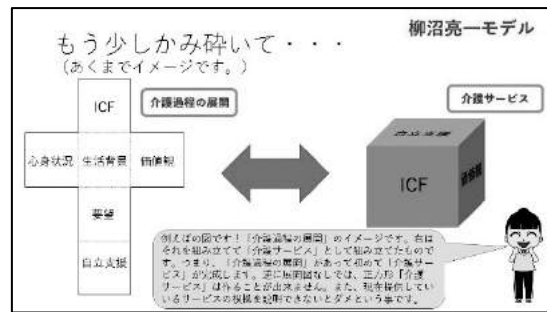
実証場所	学校法人敬心学園 日 本福祉教育専門学校 高田校舎 233 教室	実施日	2023 年 1 月 19 日 (木)
調査員名	柳沼亮一 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年 1 月 19 日 (木) 9 : 30 ~ 11 : 00 講義「介護技術実践」 11 : 10 ~ 12 : 40 講義「介護技術実践」 13 : 30 ~ 15 : 00 講義「介護技術実践」 15 : 10 ~ 16 : 40 講義「介護技術実践」 		
調査対象	受講生 : 6 名		
ミニテスト結果	ミニテスト : 「介護技術実践」 (全 3 問) 3 問正解 : 6 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の展開について、ICF との関連性の理解が深まった。 ・ プロフェッショナルの仕事として、介護の根拠が大事であることを理解した。 ・ 計画を立てる際に、限られた条件の中で要望を満たす難しさを実感した。 ・ プロフェッショナルとしての自覚を持つためにはどうするとよいか、指針を示してもらえた。 		
授業の様子、	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者研修の復習をしたが、時間が経つと内容を忘れていた様子であった。 		

<p>課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修にて介護過程を習いはするが、掘り下げて学ぶことはない様子であった。 ・VR を利用することで、一人でも何度も練習と復習を繰り返すことができる様子であった。 ・VR の使用方法は、一度説明を聞けば問題なく使用できている様子であった。 ・介護現場で起こりうる具体的な話を聞くことで、学んだ知識をより理解できるようになっている様子であった。
<p>備考</p>	

【当日の様子】



介護過程の展開
介護サービスを提供する際の土台となる根拠



(3) リスクマネジメント

■実証実施日	2022年1月20日(金)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	柳沼亮一 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

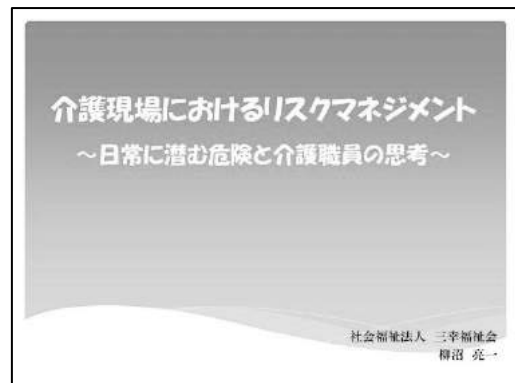
1月20日	スケジュール
9:00~9:30	会場設営、打ち合わせ
9:30~11:00	講義「初任者研修の復習・車いすからの移乗介助の復習 (VR を使用して)」 柳沼 亮一 氏 (三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当)
11:10~12:40	講義「リスクマネジメント」 柳沼 亮一 氏 (三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当 学校法人三幸学園 東京未来大学 福祉保育専門学校 介護福祉科 講師)
13:30~15:00	講義「リスクマネジメント」、高齢者疑似体験 柳沼 亮一 氏 (三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当 学校法人三幸学園 東京未来大学 福祉保育専門学校 介護福祉科 講師)
15:10~16:40	講義「これからの DX 介護について」 柳沼 亮一 氏 (三幸福社会 営業広報部 部長法人科学的介護担当 学校法人三幸学園 東京未来大学 福祉保育専門学校 介護福祉科 講師) ミニテスト
16:40~17:00	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日 本福祉教育専門学校 高田校舎 233 教室	実施日	2023 年 1 月 20 日(金)
調査員名	柳沼亮一（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 渡邊みどり（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 内田和宏（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会）		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 1 月 20 日(金)</p> <p>9 : 30～11 : 00 講義「移乗介助の復習（VR を使用して）」</p> <p>11 : 10～12 : 40 講義「リスクマネジメント」</p> <p>13 : 30～15 : 00 講義「リスクマネジメント」</p> <p>15 : 10～16 : 40 講義「これからの DX 介護について」</p>		
調査対象	受講生： 4 名		
ミニテスト結果	ミニテスト：「リスクマネジメント」（全 3 問） 3 問正解：2 名、2 問正解：2 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端技術だからと言って、導入するだけでは宝の持ち腐れということが分かった。現場の状況を把握し、分析したうえで、適切に介護ロボットを使ってゆくことで、職員の負担や不満を減らし、サービスの質向上につながるということが分かった。まずは、経営・管理側の学びがないことには、業界の改善はなしえないことが分かった。 ・初任者研修で具体的に示されていなかったリスクマネジメントの話を、具体的な職務の経験に基づき話を聞くことができ、より実践に活かす糧になった。 		

授業の様子、 課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に高齢者疑似体験をし、介助される側の気持ちをするこゝで、学ぶ際の視点に影響する様子であった。 ・理論や概念だけではなく、経験者から現場のリアルな話を聞くこゝで、より実践力が身につく様子であった。
備考	

【当日の様子】



(4) リスキリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER

■実証実施日	2023年1月24日(火)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	菊地克彦(プログラム開発委員会) 内田和宏(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

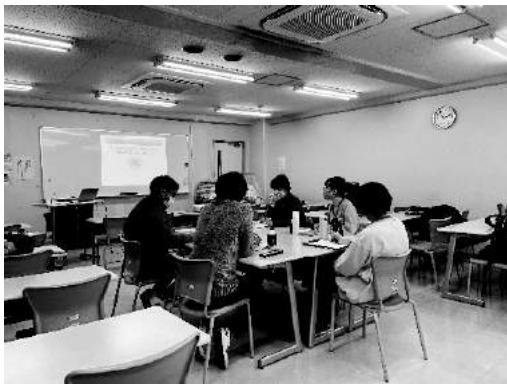
1月24日	スケジュール
9:00~9:30	会場設営、打ち合わせ
9:30~11:00	講義「リスキリングの前に考えるMY LIFE/MY CAREER」 菊地克彦(聖徳大学 文学部 教養デザインコース 教授)
11:10~12:40	講義「リスキリングの前に考えるMY LIFE/MY CAREER」 菊地克彦(聖徳大学 文学部 教養デザインコース 教授)
12:40~13:30	休憩
13:30~15:00	講義「リスキリングの前に考えるMY LIFE/MY CAREER」 菊地克彦(聖徳大学 文学部 教養デザインコース 教授)
15:10~16:40	講義「リスキリングの前に考えるMY LIFE/MY CAREER」 菊地克彦(聖徳大学 文学部 教養デザインコース 教授)
16:40~17:00	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日本 福祉教育専門学校 高田 校舎 233 教室	実施日	2023 年 1 月 24 日 (火)
調査員名	菊地克彦 (プログラム開発委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 1 月 24 日 (火)</p> <p>9 : 30~11 : 00 講義「リスクリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER」</p> <p>11 : 10~12 : 40 講義「リスクリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER」</p> <p>13 : 30~15 : 00 講義「リスクリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER」</p> <p>15 : 10~16 : 40 講義「リスクリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER」</p>		
調査対象	受講生 : 5 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで自分のキャリアについて、こんなに時間を取って考えたことがなかったので、とてもよかった。 ・今後の進路を考えている人と一緒に考えられたことがよかった。 ・ハローワーク等でも、このようなキャリア支援はあるが、ワークシートなどを渡されて、あとは自分でやって、ということが多かったので、しっかりと自分と向き合え、かつグループワークをすることで、自分の考えがさらに深まった。 ・自分のやりたいことが明確になった。 		
授業の様子、課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのキャリアを振り返り、自分の羅針盤を考えることで、これからの人生や、人生における仕事の位置づけを見直す機会になっている様子であった。 		

	<ul style="list-style-type: none">・一人で考えるのではなくグループで考えることで、自分の考えを言語化できていた様子である。・プライベートなことを話す機会が多いので、グループに信頼関係がないといけないのではないか。
備考	

【当日の様子】



(5) 介護演習 1日目

■実証実施日	2023年1月25日(水)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	伊藤健次(プログラム開発委員会) 内田和宏(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1月25日	スケジュール
9:00~9:30	会場設営、打ち合わせ
9:30~11:30	講義「動画教材を使用した介護現場で使用している福祉機器の見学」 伊藤健次(山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授) 内田和宏(敬心学園職業教育研究開発センター 研究員)
11:30~13:00	休憩・移動
13:00~15:00	東京都福祉保健財団 福祉用具体験講習会・見学会 ・スライディングシート、スライディングボード、車いす、リフトの活用
16:00~17:00	講義「体験内容のまとめとシェア」(オンライン) 伊藤健次(山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授)
17:00~17:30	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉 教育専門学校 高田校舎 233 教室	実施日	2023 年 1 月 25 日 (水)
調査員名	伊藤健次 (プログラム開発委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 1 月 25 日 (水)</p> <p>9 : 30 ~ 11 : 30 講義「介護演習指導」</p> <p>13 : 00 ~ 15 : 00 講義「介護演習指導」</p> <p>16 : 00 ~ 17 : 00 講義「介護演習指導」</p>		
調査対象	受講生 : 4 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・動画教材で見る限りの福祉機器では、導入するのは難しそうだと感じた。 ・実際に、福祉機器を使うことができてよかった。 ・スライディングシートやスライディングボードのように、アナログな福祉機器でも活用すればとても有用なものであると感じた。 		
授業の様子、課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修では福祉機器を使用していないため、実際にしようすることで大分イメージが固まった様子であった。 ・実際の介護現場を見たことがないため、知識で学んだことをアウトプットする場を作る必要があるのではないか。 		
備考			

【当日の様子】



(6) 介護演習 2日目

■実証実施日	2023年1月26日(木)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室 介護実習室B
■実証担当者	伊藤健次(プログラム開発委員会) 内田和宏(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1月26日	スケジュール
9:00~10:00	会場設営、打ち合わせ
10:00~12:00	介護演習指導(Hug、SASUKEの講義・体験) ・マッスル株式会社 ヘルスケア部長 尾形成美氏 ・日邦工業株式会社 営業部 東正和氏 ・ロボットソリューション事業本部 第四営業部 第2営業課 介護ロボットビジネス 竹本貴俊氏 ・事務局 内田和宏
12:00~13:00	休憩
13:00~15:00	介護演習指導(CYBERDYNEの講義・体験) ・CYBERDYNE 株式会社 つくばロボケアセンター センター長 兼営業部門 ロボケアセンター事業統括 貴志浩通氏 ・事務局 内田和宏
15:00~16:00	障壁への対応案の立案(事例を用いたグループワーク) ・事務局 内田和宏
16:00~17:10	介護演習指導(導入における障壁を知る) 伊藤健次(山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授)
17:10~17:30	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日本 福祉教育専門学校 高田 校舎 233 教室	実施日	2023 年 1 月 26 日 (木)
調査員名	伊藤健次 (プログラム開発委員会) 内田和宏 (運営運営委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 1 月 26 日 (木)</p> <p>10:00~12:00 講義「介護演習指導 (Hug、SASUKE の講義・体験)」</p> <p>13:00~15:00 講義「介護演習指導 (CYBERDYNE の講義・体験)」</p> <p>15:00~16:00 講義「障壁への対応案の立案 (事例を用いたグループワーク)」</p> <p>16:00~17:00 講義「介護演習指導 (導入における障壁を知る)」</p>		
調査対象	受講生: 4 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・見るだけのときと、実際に使用してみたときの、イメージのギャップがあった。重そうに見えていたものが、全く重くなく、思っていたよりすごく簡単に使えた。 ・使ってみると簡単に使えるものが多いので、介護現場でも見たり聞いたりするだけでなく、まずは使ってみるということが必要ではないかと感じた。 ・機器を作っている人の視点や工夫が素晴らしいと思った。介護現場とエンジニアが、更に連携するとよりよい福祉機器になっていくと感じた。 		
授業の様子、	・見るだけでなく実際に使用した際に、福祉機器へのポジティブなイ		

<p>課題等</p>	<p>メージチェンジが起きた様子であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場を見て、体験したうえで福祉機器を体験すると、更に現場に即した理解が促進されるのではないだろうか。 ・福祉機器が一同に会した体験会の機械やセッティングが非常に難しい。
<p>備考</p>	

【当日の様子】



(7) これからの介護 DX について

■実証実施日	2022 年 1 月 31 日(火)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233 教室 介護実習室 B
■実証担当者	内田和宏 (企画運営委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1 月 31 日	スケジュール
9 : 00~9 : 30	会場設営、打ち合わせ
9 : 30~11 : 00	講義「これからの介護 DX について」 <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットと介護 ICT の関係 ・介護現場で使用される ICT ・介護保険制度における ICT ・介護現場での実際の ICT 利用状況 ・介護における DX について 尾滝元太(株式会社 ビーブリッド)
11 : 10~12 : 40	講義「これからの介護 DX について」 <ul style="list-style-type: none"> ・介護向け ICT 製品の機能紹介 (デモ) HitomeQ 尾滝元太(株式会社 ビーブリッド)
13 : 30~15 : 00	講義「これからの介護 DX について」 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで介護現場での ICT 活用について考える 尾滝元太(株式会社 ビーブリッド)
15 : 10~16 : 40	講義「これからの介護 DX について」 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表&講師による講評 尾滝元太(株式会社 ビーブリッド)
16 : 40~17 : 00	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日 本福祉教育専門学校 高田校舎 233 教室 介護実習室 B	実施日	2023 年 1 月 31 日 (火)
調査員名	内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 1 月 31 日 (火)</p> <p>9 : 30 ~ 11 : 00 講義「これからの介護 DX について」</p> <p>11 : 10 ~ 12 : 40 講義「これからの介護 DX について」</p> <p>13 : 30 ~ 15 : 00 講義「これからの介護 DX について」</p> <p>15 : 10 ~ 16 : 40 講義「これからの介護 DX について」</p>		
調査対象	受講生 : 4 名		
ミニテスト結果	ミニテスト : 「これからの介護 DX について」 (全 3 問) 3 問正解 : 4 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場における ICT 導入の重要性は理解しているが、実際の現場の状況により、課題はいっぱいであると感じた。 ・実際に福祉機器メーカーの人から、紹介や解説を受けることができ、理解が深まった。 ・ICT を導入することが目的になってはいけないことを理解した。 		
授業の様子、課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークをする際に、前日にスマート介護士で学んだ ICT 技術を活用して、グループワークを行っていた。 ・見守り支援 HitomeQ のコニカミノルタ様に来ていただき、受講生に実際の様子を見てもらえたが、複数の見守り支援企業に来ていただ 		

	き、比較しながら学ぶ機会があれば、更に理解が深まるのではないか。
備考	

【当日の様子】



本日の授業の流れ

- 【1コマ目】
座学①介護現場におけるICT利用について
- 【2コマ目】
座学②介護向けICT製品を知る
- 【3コマ目】
グループワーク①介護現場でのICT活用を考える
- 【4コマ目】
グループワーク②発表・講評



IBIBrid

©2019 IBID Co., Ltd.

1

(8) チームリーダー介護マネジメント研修

■実証実施日	2023年2月1日(水)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	宮本隆史 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

2月1日	スケジュール
9:00~9:30	会場設営、打ち合わせ
9:30~11:00	講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 リーダーシップ概論① 宮本隆史 (社会福祉法人善光会 理事 最高執行責任者)
11:10~12:40	講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 リーダーシップ概論② 宮本隆史 (社会福祉法人善光会 理事 最高執行責任者)
12:40~13:30	休憩
13:30~15:00	講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 リーダーシップの実践 宮本隆史 (社会福祉法人善光会 理事 最高執行責任者)
15:10~16:40	講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 介護マネジメント概論 宮本隆史 (社会福祉法人善光会 理事 最高執行責任者)
16:40~17:00	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日本 福祉教育専門学校 高田 校舎 233 教室	実施日	2023 年 2 月 1 日 (水)
調査員名	宮本隆史 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 2 月 1 日 (水)</p> <p>9 : 30~11 : 00 講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 11 : 10~12 : 40 講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 13 : 30~15 : 00 講義「チームリーダー介護マネジメント研修」 15 : 10~16 : 40 講義「チームリーダー介護マネジメント研修」</p>		
調査対象	受講生 : 4 名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・職場のなかの「自分」としての役割や、診断表を通して、わかりやすく「自分」を知ることができた。 ・リーダーシップ、マネジメントについて学ぶ機会があまりなかったため、このような機会を通じて自分自身がどのようなリーダーシップを発揮してきたかについて、見直す機会となった。 ・介護業界に限らず、幅広い職種で応用できる考え方を学ぶことができた。 ・介護職に限らず、チームワークや人間関係がとても中であることを理解した。 		
授業の様子、	・「マネジメント」や「リーダーシップ」は、介護業界に限らず、どの業		

課題等	界でも求められてるが、本講座では介護現場の実例を通して、一般理論から介護現場理論までを網羅した講義であった。
備考	

【当日の様子】



CONFIDENTIAL

チームリーダー介護マネジメント研修

社会福祉法人善光会

CONFIDENTIAL 本日の「達成目標」

- ・チームリーダーの役割の必要性を説明できる
- ・チームリーダーになることの条件を説明できる
- ・主体的に問題を見つけて解決することができる
- ・業務を円滑に行うためのファシリテーションができる

(9) 就職サポート・振返りテスト・修了式

■実証実施日	2023年2月2日(木)
■実証場所	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 233教室
■実証担当者	小林英一(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏(運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 笹島慶太(プログラム開発委員会)
■実証補助	無

2月2日	スケジュール
9:00~9:30	会場設営、打ち合わせ
9:30~10:00	振返り「1日目~10日目までの振り返り」 渡邊 みどり 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター 研究員)
10:00~10:40	修了試験 事務局
11:00~12:30	講義「就職への準備と心得フォローアップ」 酒井貴文(株式会社マイナビ 医療・福祉エージェント事業本部 第1 営業統括本部(看護師・介護職))
12:30~13:30	休憩
13:30~16:00	振返りインタビュー、受講後アンケート
16:00~17:00	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人敬心学園 日本 福祉教育専門学校 高田 校舎 233 教室	実施日	2023 年 2 月 1 日 (水)
調査員名	小林英一 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 笹島慶太 (プログラム開発委員会)		
委託事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和 3 年度 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護 DX を進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>■2023 年 2 月 2 日 (木)</p> <p>9 : 30 ~ 10 : 00 振返り「1 日目 ~ 10 日目までの振り返り」</p> <p>10 : 00 ~ 10 : 40 修了試験</p> <p>11 : 00 ~ 12 : 30 講義「就職への準備と心得フォローアップ」</p>		
調査対象	受講生 : 4 名		
受講生の感想	・一般的な就職・転職支援の話だけでなく、DX を学んだ受講生に向けた介護業界への就職転職に向けた話をいただけたら良かった。		
授業の様子、課題等	<p>・実際に、介護業界へ就職するにしても、介護現場を知らなければ、すぐに就職するとは限らない様子である。実際に見学に行ってから決めたいという受講生がいる。</p> <p>・就職先を選択する際に、既に介護 DX に取り組んでいる介護事業者に就職するか、現在まだ導入できていないところに導入する役割になるために就職するか、判断に迷う様子であった。</p>		
備考			

【当日の様子】



新型コロナウイルス感染症対策チェックシート

1. 手洗いの徹底・不織布マスクの着用

- 実証関係者全員に不織布マスク着用の徹底を周知し、着用していない場合は配布等に努めている。
- 消毒備品等を各所に設置し、実証関係者全員に手洗いや手指消毒の徹底を周知している。

2. ソーシャルディスタンス(できるだけ距離を保つ)

- 座席の工夫など対人間隔を確保し、大声で会話しないよう周知している。

3. 「3つの密(密閉、密集、密接)」を避けて行動

- 3密が予想される場合、受講者数・滞在時間の制限等を行っている。
- 扉や窓を開け、扇風機を外部に向けて使用するなど、定期的な換気を行っている。

4. 施設の清掃・消毒

- 複数の人が触れる場所や物品を極力減らし、難しい場合はこまめに清掃・消毒している。
- 使用済みマスク等は、ビニール袋に入れて縛るなど密閉して捨てるよう表示している。
- 清掃・消毒・ごみ回収は手袋・マスクを着用し、事後に手洗い・手指消毒を徹底している。

5. 実証関係者全員の体調管理

- 受講生・教員・実証関係者で熱がある者は、入場をご遠慮いただくようお願いするなどの取組を行っている。
- 受講生・教員・実証関係者に検温や体調確認をさせ、毎日報告させている。
- 実証中に体調不良になった者はただちに帰宅させている。

4. 部分受講について

(1) スマート介護士（郡山健康科学専門学校）

■実証実施日	2023年1月19日(木)、1月20日(金)
■実証場所	学校法人こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校
■実証担当者	内田和宏（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会）
■実証補助	無

1月19日	スケジュール
9:00~10:30	講義「スマート介護士」 はじめに＋スマート介護士概論
10:40~12:10	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論（ICT①）
13:00~14:30	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論（ICT②）
14:40~16:10	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論（ロボット・センサー①）
16:20~17:50	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎論（ロボット・センサー②）
1月20日	スケジュール
9:00~10:30	講義「スマート介護士」 ケアテック基礎（通信環境）＋オンライン施設見学
10:40~12:10	講義「スマート介護士」ケアテック導入の実践理論
13:00~14:30	講義「スマート介護士」科学的介護の基礎&実践理論
14:40~16:10	講義「スマート介護士」スマート介護士資格 確認テスト
16:20~17:50	講義「スマート介護士」テストの解説＋ラップアップ

実証報告書

実証場所	学校法人こおりやま東都 学園 郡山健康科学専門 学校	実施日	2023年1月19日(木) 、20 日(金)
調査員名	内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)		
委託事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護DXを進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	<p>・2023年1月19日(木)</p> <p>9:00~10:30 講義「スマート介護士」 (はじめに+スマート介護士概論)</p> <p>10:40~12:10 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ICT①))</p> <p>13:00~14:30 講義「スマート介護士」(ケアテック基礎論 (ICT②))</p> <p>14:40~16:10 講義「スマート介護士」 (ケアテック基礎論 (ロボット・センサー①))</p> <p>16:20~17:50 講義「スマート介護士」 (ケアテック基礎論 (ロボット・センサー②))</p> <p>・2023年1月20日(金)</p> <p>9:00~10:30 講義「スマート介護士」 (ケアテック基礎 (通信環境)+オンライン施設見学)</p> <p>10:40~12:10 講義「スマート介護士」(ケアテック導入の実践理論)</p> <p>13:00~14:30 講義「スマート介護士」(科学的介護の基礎&実践理論)</p> <p>14:40~16:10 講義「スマート介護士」 (スマート介護士資格 確認テスト)</p> <p>16:20~17:50 講義「スマート介護士」(テストの解説+ラップアップ)</p>		
効果検証	テスト、アンケート		
調査対象	受講生： 31名		

受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホを実際に使うことなど、体験型の授業で楽しかった。 ・介護の最先端について学ぶのは大切だと思う。 ・介護士にとって有益な情報があり参考になった。 ・映像や実践があつて分かりやすかった。 ・今まで知らなかった知識を知れた。 ・AIの進歩によって福祉関連の仕事だけでなく、どの仕事においても負担を減少することができるかもしれないと思った。 ・体験型もあり学びやすかった。また、実際に開発から、使用されていることから参考になった。
授業の様子、 課題等	<p>前向きに参加されている学生もいたが、全体的にはやや学生には難易度が高すぎたように感じた。特に、1回目・3回目の講義で質問や意見交換が活発だった「科学的介護」は、講義について来れていない印象の学生が多く、その場での軌道修正に苦慮した。但し、最終講義でGoogleスライドを使って個人別に作成した「今後の目標」を1人ずつ見ると、一連の講義から学びや刺激を受けている学生が多数を占めており、一定の成果を実感している。</p>
備考	

(2) オリジナル実践プログラム (郡山健康科学専門学校)

■実証実施日	2022年1月27日(金)
■実証場所	学校法人こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校
■実証担当者	川廷宗之 (運営企画委員会)、窪木守 (実証委員会) 小林英一 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 渡邊みどり (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会) 内田和宏 (運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会)
■実証補助	無

1月27日	スケジュール
9:00~10:40	会場設営、打ち合わせ
10:40~12:10	・ 事業責任者の挨拶 ・ プログラム概要についての説明 ・ 講義「介護職の課題と未来の展望」 川廷 宗之 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター センター長)
13:00~14:30	講義「プラスαで学ぶ介護の実践」 渡邊 みどり 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター 研究員)
14:40~16:10	講義「プラスαで学ぶ介護の実践」 渡邊 みどり 氏 (敬心学園職業教育研究開発センター 研究員)
16:10~16:30	片付け 終了

実証報告書

実証場所	学校法人こおりやま東都 学園 郡山健康科学専門 学校	実施日	2023年1月27日(金)
調査員名	川廷宗之（運営企画委員会） 窪木守（実証委員会） 小林英一（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 渡邊みどり（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会） 内田和宏（運営企画委員会・プログラム開発委員会・実証委員会）		
委託事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業		
事業名	令和3年度 DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業 テクノロジーを利活用して介護DXを進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究		
調査名	「DX 福祉職養成プログラム開発のためのコンテンツを活用した教育プログラム調査」		
調査目的	DX 福祉職養成プログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。		
実証内容	・2023年1月27日(金) 10:40~12:10 講義「介護職の課題と未来の展望」 13:00~14:30 講義「プラスαで学ぶ介護の実践」 14:40~16:10 講義「プラスαで学ぶ介護の実践」		
効果検証	テスト、アンケート		
調査対象	受講生： 31名		
ミニテスト結果	ミニテスト：「プラスαで学ぶ介護の実践」（全3問） 3問正解：25名、2問正解：4名、1問正解：2名		
受講生の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職はこれからもなくならない仕事であることが分かった。 ・介護の内容に対して少し嫌なことがあったりしたけど、今回の講義を聞いて少し安心できた。 ・介護職として出来ることは多い、ということを学んだ。 ・VRで今までの授業とは違い、立体的にみることで、姿勢や声かけなどの表示があって分かりやすかった。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルを活用できる介護福祉士になりたい。 ・介護を行う上で、それがなぜ必要であるか、根拠=エビデンスがあつてこそ、安心・安全につながると感じた。 ・根拠や気づきに基づいて安心で安全な介護が出来るように「なぜ」の視点を大切にしていきたい。
授業の様子、 課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学生は実習に行つてある程度イメージがついてはいるが、VRで改めて確認した際に、よりイメージがついたという声があつた。 ・スマート介護士の資格を取得して、自信がついたという感想や、資格を活用してどのように現場で活躍できるか、という質問をしてくる学生がいた。
備考	

【当日の様子】



Ⅲ. 調査概要

1. プログラムごとの修了者

(1) 初任者研修

(i) 八王子（八王子中町ビル 6F）教室

・ 2022 年 10 月 10 日(月)～2022 年 11 月 11 日(金)

・ 受講生数 0 名／修了生数 0 名

(ii) 立川（立川三和ビル 3F）教室

・ 2022 年 10 月 13 日(木)～2022 年 11 月 30 日(水)

・ 受講生数 0 名／修了生数 0 名

(iii) 新宿（グラフィオ西新宿 6F）教室

・ 2022 年 11 月 3 日(木)～2022 年 12 月 5 日(月)

・ 受講生数 1 名／修了生数 0 名

※1 名は、2 日目以降都合が合わず、プログラム終了後に受講予定

(IV) 池袋（後藤ビル 5F）教室

・ 2022 年 11 月 11 日(木)～2022 年 12 月 22 日(木)

・ 受講生数 1 名／修了生数 1 名

(V) 新宿（グラフィオ西新宿 6F）教室

・ 2022 年 12 月 2 日(金)～2023 年 1 月 12 日(木)

・ 受講生数 4 名／修了生数 4 名（職業訓練受講給付金申請者 0 名）

(VI) 錦糸町（フナダ錦糸町駅前ビル 4F）教室

・ 2022 年 12 月 13 日(金)～2023 年 1 月 17 日(火)

・ 受講生数 4 名／修了生数 1 名

※3 名は、就業中の仕事が多忙となり、2 日目以降受講せずプログラム終了後に受講予定

(VII) 初任者研修修了者数 受講生数 10 名／修了生 6 名

(2) スマート介護士

(i) 介護士1回目(部分受講生4名:都内)

・2023年1月11日(水)~1月12日(木) 9:00~17:50

・受講生数4名/修了生数4名

(ii) 2回目(一部受講生31名:郡山健康科学専門学校)

・2023年1月19日(木)~1月20日(金) 9:00~17:50

・受講生数31名/修了生数31名

(iii) 3回目(プログラム受講生4名:都内)

・2023年1月27日(金)~1月30日(月) 9:00~17:50

・受講生数4名/修了生数4名

(IV) スマート介護士修了者合計数 受講生数39名/修了生39名

(3) 実践教育プログラム

・2023年1月18日(水)~2月2日(木)

・受講生数5名/修了生数4名

2. スマート介護士

(1) 第1回 (一部受講生4名：都内) 1月11日(水)-1月12日(木)

(i) 受講生の感想

- ・どのような支援が行われているか、どのような支援を目指しているかを知ることができた。
- ・難しい内容ではあったが、一から丁寧に講義してもらい大変勉強になった。
- ・本当に学びたい人でないと、講義についていくのが難しいところがあると思った。
- ・ワークもあって、あっという間に時間が過ぎた。質問の時間の際に、受講生に投げかけたりして、もう少し受講生と交流しながらだと、より講座が楽しくなると思った。
- ・介護に関するシステム化によることを、もっと介護現場が学ぶべきである。

(ii) 実施側の所感

1/11-12の講義は、2022年12月の公式テキストの大幅刷新を受けて、多くのスライドやワークが今回初めて講義で使用するものであった。そのため、パートによっては、内容をやや詰め過ぎてしまい質疑の時間を十分確保できていなかったり、進行にもたついたりする事があった。

(2) 第2回 (一部受講生31名：郡山健康科学専門学校) 1月19日(木)-1月20日(金)

(i) 受講生の感想

- ・スマホを実際に使うことなど、体験型の授業で楽しかった。
- ・介護の最先端について学ぶのは大切だと思う。
- ・映像や実践があって分かりやすかった。
- ・今まで知らなかった知識を知れた。
- ・AIの進歩によって福祉関連の仕事だけでなく、どの仕事においても負担を減少することができるかもしれないと思った。
- ・体験型もあり学びやすかった。また、実際に開発から使用されているところまで知れて参考になった。

(ii) 実施側の所感

1/19-1/20の講義は、前向きに参加されている学生もいたが、全体的にはやや学生には難易度が高すぎたように感じた。特に、1回目・3回目の講義で質問や意見交換が活発だった「科学的介護」は、講義について来れていない印象の学生が多く、その場での軌道修正に苦慮した。但し、最終講義でゲーグルスライドを使って個人別に作成した「今後の目標」を1人ずつ見ると、一連の講義から学びや刺激を受けている学生が多数を占めており、一定の成果を実感している。

(3) 第3回(プログラム受講生4名:都内)1月27日(金)-1月30日(月)

(i) 受講生の感想

- ・受講生のインターネット環境に差があり、途中で一時繋がらないトラブルがあった。
- ・終日のオンライン講義は体力的・精神的に負担となるため、1日あたりのコマ数の調整が必要である。
- ・講師の自己紹介の際に、もっと講師の方々が介護分野でどのようなインフルエンسを与えているのかを具体的に話してもらえたら良かった(個人ワーク1つ分の代わりに講師の方々と交流する時間を持てると良いと思った)。講師の方々が介護業界をどうして行こうとしているのかといった思いなどを聞くことができるような、講義の中に”遊び”を持たせて頂けると、深い交流ができるのではないかと思った。
- ・2日間ともリモートで約8h/1日の受講は初めてだったので慣れていなかった。実践的なツールの使用方法なども盛り込まれていて、とても勉強になったが、スケジュールがタイトだったので、テストは後日別枠であったらよいと思った。
- ・介護ICT、介護ロボットについて、使うことを避けて通れないものというイメージがあり、具体的に導入のメリットまで考えられていなかった。課題の明確化、職場の合意形成などプロセスを知ることができ大変勉強になった。また、知識や情報を学んだ後に導入計画策定のグループワークができたことで理解が深まった。
- ・端的にかつ包括的にICTについての知見を深めることができた点が、素晴らしく思った。そしてまた、ICTを導入するためには、どうしたらよいかということ、実際にワークを通して取り組むことによって、ICTの現場へ導入について工夫された講義をされていた。最後に、今後の科学的介護の展望と課題について示してもらえることで、介護業界に対する展望が持てたことも非常に良かった。
- ・講座中、グループワークで触れられていたが、ICTや介護ロボットの導入に肯定的でない現場や職員も多いため、どのようなメリットがあるのか、どのようなツールがあるのか、どのような課題を解消してくれるのかなど、具体的に知ることができる講座だった。

(ii) 実施側の所感

1/27-1/30の講義は、事前のプログラムで介護全般に関する知識を既に持たれていて、且つ受講者同士の人間関係もある程度深まっていたため、とても進行し易く感じた。また、たいへん前向きに参加している方が多く、グループワークでは、自分たちの休憩時間を削って熱心にディスカッションされている様子が印象的であった。

(4) 全体を踏まえて

全3回の講義を実施して、人数の違いはほとんど影響なかったが、対象者の違いによっての影響が大きかったため、今後様々な対象者に柔軟に対応できるようにスマート介護士プログラムを一層ブラッシュアップしていきたい。

3. 実践教育プログラム受講前アンケート調査

本プログラムでは、DX 福祉職養成プログラムにおける実践教育プログラム受講する人を対象に、介護職やキャリアに対する考えについてアンケート調査を行なった。

(1) 調査対象者と調査期間

DX 福祉職養成プログラムにおける実践教育プログラム受講者を対象として、Google Form のアンケート機能を用いたアンケート調査を行った。調査は 2023 年 1 月 18 日に行った。

(2) 調査項目

(i) 基本情報

基本情報については、性別、年齢、直前の仕事について尋ねた。

(ii) 介護への興味について

介護への興味について、「現在、介護の仕事に興味があるか」、「現在、介護の仕事に就職したいと考えてるか」について尋ねた。

(iii) 介護分野における主観的介護実践力について

介護分野における主観的介護実践力については、「課題に気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ、実践できる」、「何事にも根拠を示すことができ、解決方法の計画を立てることができ、実践できる」、「必要な ICT は何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる」、「自分が活躍できる仕事についてイメージすることができ、それに向けて計画していく事ができる」、「根拠や気づきのある介護がなぜ必要なのか理解でき、実践できる」、「安全な介助を行うための手順を理解でき、実践できる」、「介護過程の目的を理解して、介護課程の展開が考えられ実践できる」、「利用者の状態に合わせた支援ができるために、リスクを考えられ、実践できる」、「チームリーダーにおける役割の必要性を説明できる」、「チームリーダーになることの条件を説明できる」、「主体的に問題を見つけて解決することができる」、「業務を円滑に行うためのファシリテーションができる」、「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたいか、働き方をしたいのかについて内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる」、「ありたい生き方・働き方に自分を導くキャリアの羅針盤（こだわり抜きたい譲れない仕事観・人生観等）を創ることができる」、「介護における ICT 利用の現状や今後の展望について説明でき、介護 DX を実践するための基本的な考え方を理解している」といった 15 項目について尋ねた。これらの項目は、実践教育プログラムにおける各講座の達成目標に沿って作成した。

(Ⅳ) キャリアについて

キャリアについて、「就職先を選ぶ際に大切だと思うこと」、「今後、どのようなキャリアを積みたいと考えているか」について、最も当てはまるものを2つ尋ねた。

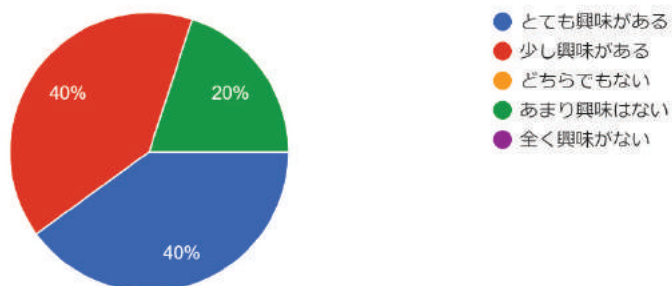
(3) 倫理的配慮

敬心学園職業教育研究開発センター研究倫理専門委員会で承認を得て実施した（承認番号 22-04）。調査にあたり、アンケートは自由意思で回答すること、無記名であり匿名性を確保してあること、研究協力への承諾はアンケートの回収をもって研究への協力に承諾が得られたとすること、アンケートに協力しない場合においても一切不利益は発生しないことを記載した。

(4) 結果

1. あなたは、現在、介護の仕事に興味がありますか？

5件の回答



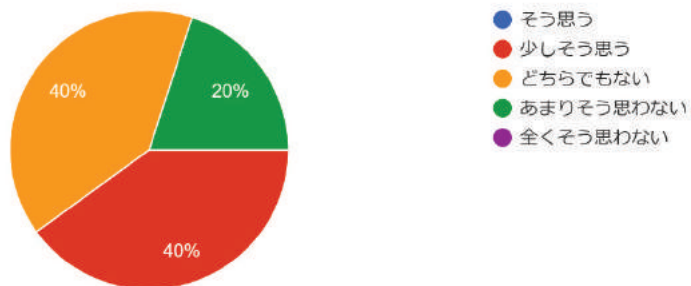
2. あなたは、現在、介護の仕事に就職したいと考えていますか？

5件の回答

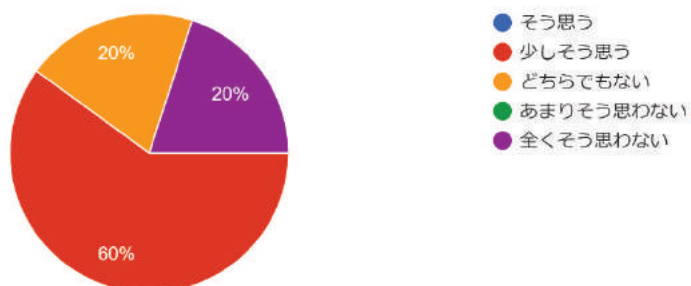


3. あなたは、介護の分野において、以下の項目について実践できると思いますか？1～5の当てはまるものを選んでください。

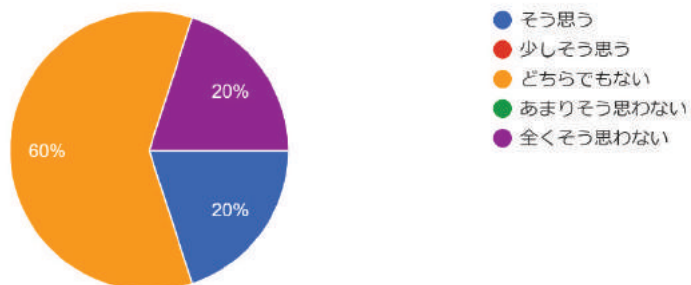
① 課題に気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ、実践できる
5件の回答



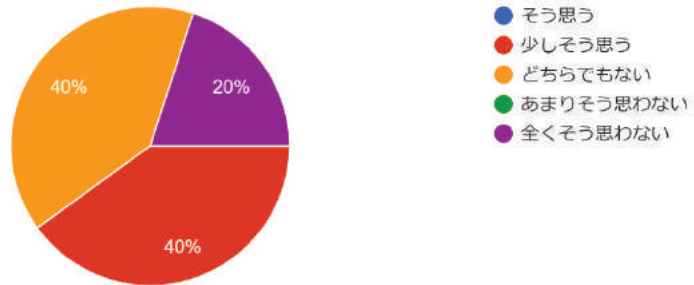
② 何事にも根拠を示すことができ、解決方法の計画を立てることができ、実践できる
5件の回答



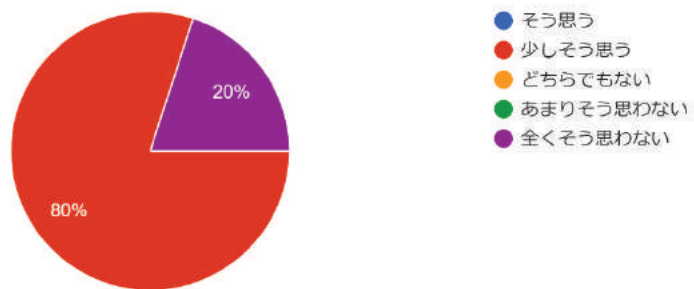
③ 必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる
5件の回答



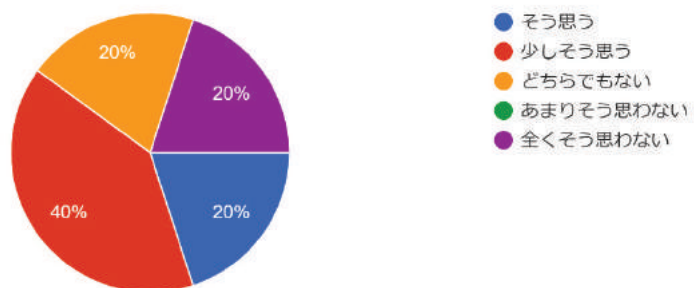
④自分が活躍できる仕事についてイメージすることができ、それに向けて計画していく事ができる
5件の回答



⑤根拠や気づきのある介護がなぜ必要なのか理解でき、実践できる
5件の回答

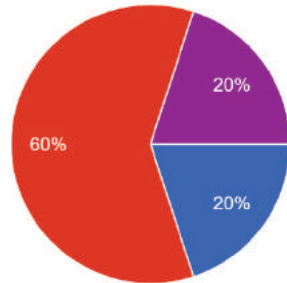


⑥安全な介助を行うための手順を理解でき、実践できる
5件の回答



⑦介護過程の目的を理解して、介護課程の展開が考えられ実践できる

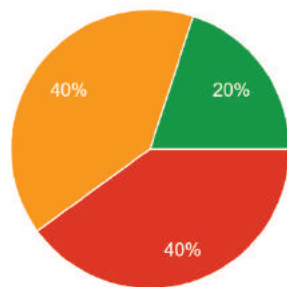
5件の回答



- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

⑧利用者の状態に合わせた支援ができるために、リスクを考えられ、実践できる

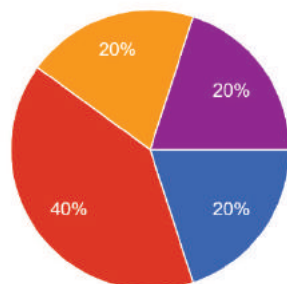
5件の回答



- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

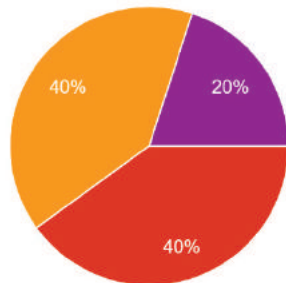
⑨チームリーダーにおける役割の必要性を説明できる

5件の回答



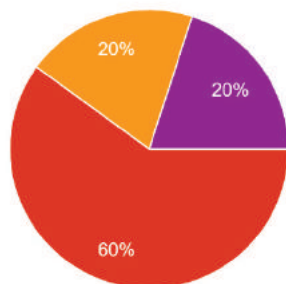
- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

⑩チームリーダーになることの条件を説明できる
5件の回答



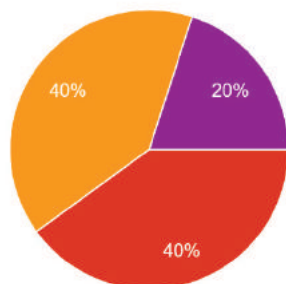
- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

⑪主体的に問題を見つけて解決することができる
5件の回答



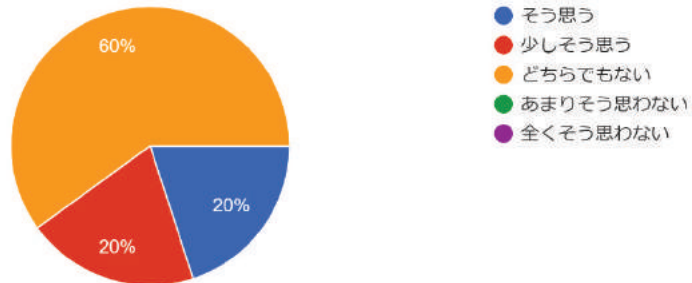
- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

⑫業務を円滑に行うためのファシリテーションができる
5件の回答

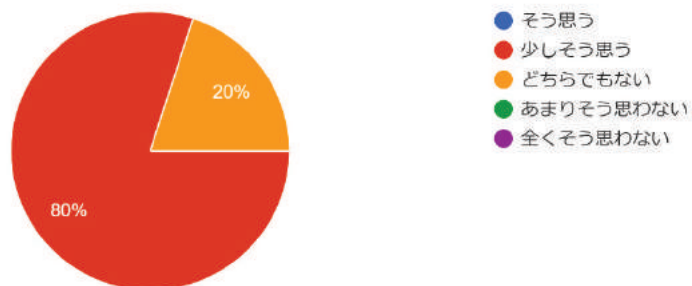


- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

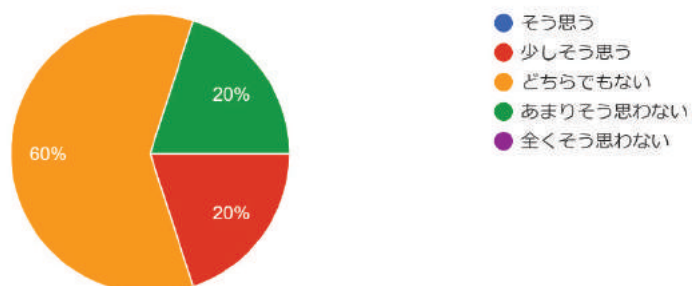
⑬「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合...、ありたい生き方、働き方を描くことができる
5件の回答



⑭ありたい生き方・働き方に自分を導くキャリアの...れない仕事観・人生観等)を創ることができる
5件の回答

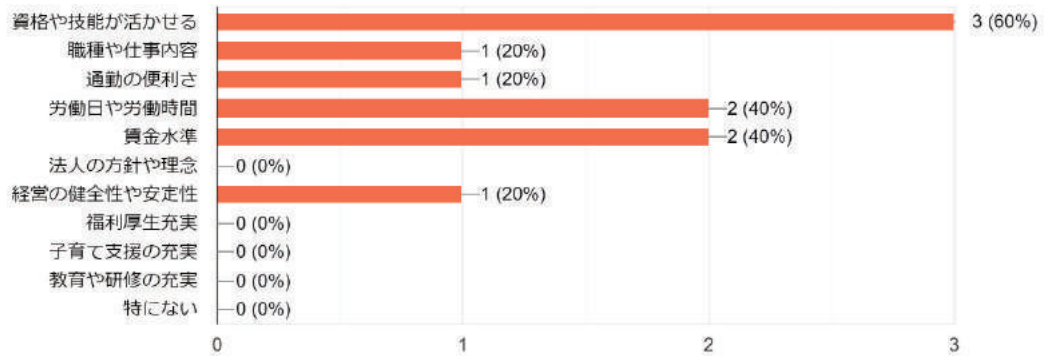


⑮介護におけるICT利用の現状や今後の展望につい...を実践するための基本的な考え方を理解している
5件の回答



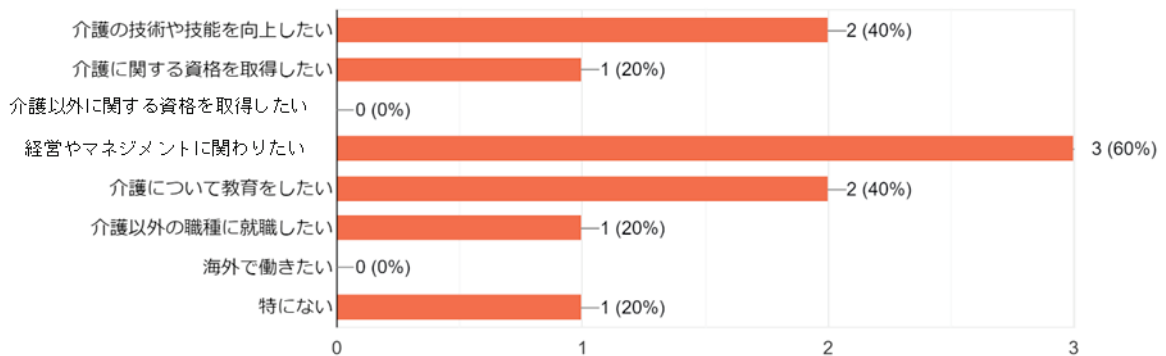
4. 就職先を選ぶ際に大切だと思うことは何ですか？最も当てはまる番号を2つ選んでください。

5件の回答



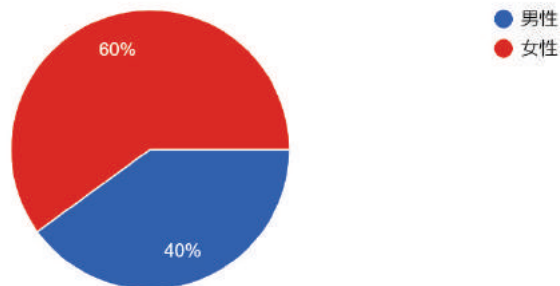
5. 今後、どのようなキャリアを積みたいと考えていますか？最も当てはまる番号を2つ選んでください。

5件の回答



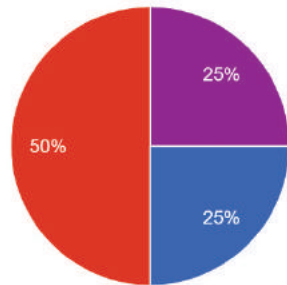
6. 性別についてお答えください。

5件の回答



7. 年齢についてお答えください。

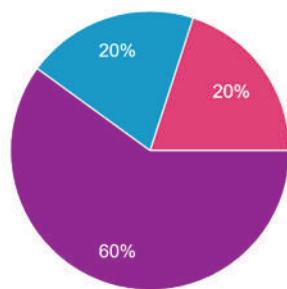
4件の回答



- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上

8. 直近の職業についてお答えください。

5件の回答



- 飲食業
- ホテル業
- 販売業
- イベント業
- 回答無し
- コールセンター
- 事務職

4. 実践教育プログラム受講後アンケート調査

DX 福祉職養成プログラムにおける実践教育プログラムを受講した人を対象に、介護職やキャリアに対する考えについてアンケート調査を行なった。

(1) 調査対象者と調査期間

DX 福祉職養成プログラムにおける実践教育プログラム受講者を対象として、Google Form のアンケート機能を用いたアンケート調査を行った。調査は 2023 年 2 月 2 日に行った。

(2) 調査項目

(i) 基本情報

基本情報については、性別、年齢について尋ねた。

(ii) 介護への興味について

介護への興味について、「受講前に比べ、介護の仕事に興味があるか」、「受講前に比べ、介護の仕事に就職したいと考えてるか」について尋ねた。

(iii) 介護分野における主観的介護実践力について

介護分野における主観的介護実践力については、「課題に気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ、実践できる」、「何事にも根拠を示すことができ、解決方法の計画を立てることができて、実践できる」、「必要な ICT は何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる」、「自分が活躍できる仕事についてイメージすることができ、それに向けて計画していく事ができる」、「根拠や気づきのある介護がなぜ必要なのか理解でき、実践できる」、「安全な介助を行うための手順を理解でき、実践できる」、「介護過程の目的を理解して、介護課程の展開が考えられ実践できる」、「利用者の状態に合わせた支援ができるために、リスクを考えられ、実践できる」、「チームリーダーにおける役割の必要性を説明できる」、「チームリーダーになることの条件を説明できる」、「主体的に問題を見つけて解決することができる」、「業務を円滑に行うためのファシリテーションができる」、「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたいか、働き方をしたいのかについて内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる」、「ありたい生き方・働き方に自分を導くキャリアの羅針盤（こだわり抜きたい譲れない仕事観・人生観等）を創ることができる」、「介護における ICT 利用の現状や今後の展望について説明でき、介護 DX を実践するための基本的な考え方を理解している」といった 15 項目について尋ねた。これらの項目は、実践教育プログラムにおける各講座の達成目標に沿って作成した。

(Ⅳ) キャリアについて

キャリアについて、「就職先を選ぶ際に大切だと思うこと」、「今後、どのようなキャリアを積みたいと考えているか」について、最も当てはまるものを2つ尋ねた。また、それぞれ、その理由について自由記述にて尋ねた。

(Ⅴ) DX 福祉職養成プログラムについて

DX 福祉職養成プログラムについて、「受講した講座の中で、一番習得できたと思う、講座はどの講座か」、「受講した講座の中で、一番習得が難しかった講座はどの講座か」、「講座の内容は、就職後に現場で即実践できると思う内容か」、「介護のDXについて、現場で即実践できそうか」、「今後も、自分で学びたいことがあったら学び直しをしたいと思っているか」について尋ねた。また、それぞれ、その理由について自由記述にて尋ねた。

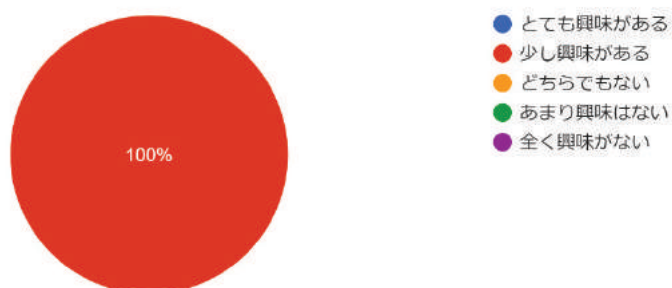
(3) 倫理的配慮

敬心学園職業教育研究開発センター研究倫理専門委員会で承認を得て実施した（承認番号 22-04）。調査にあたり、アンケートは自由意思で回答すること、無記名であり匿名性を確保してあること、研究協力への承諾はアンケートの回収をもって研究への協力を承諾が得られたとすること、アンケートに協力しない場合においても一切不利益は発生しないことを記載した。

(4) 結果

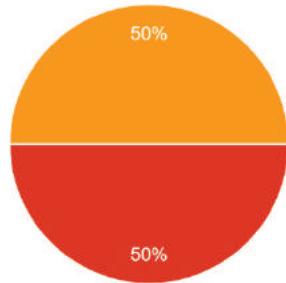
1. あなたは、受講前に比べ、介護の仕事に興味をもちましたか？

4件の回答



2. あなたは、受講前に比べ、介護の仕事に就職したいと考えていますか？

4件の回答

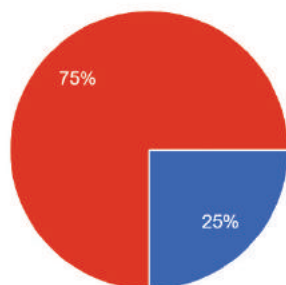


- とても介護の仕事に就職したいと考えている
- 少し介護の仕事に就職したいと考えている
- どちらでもない
- あまり介護の仕事に就職したいとは考えていない
- 全く介護の仕事に就職したいとは考えていない

3. あなたは、介護の分野において、以下の項目について実践できると思いますか？ 1～5の当てはまるものを選んでください。

①課題に気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ、実践できる

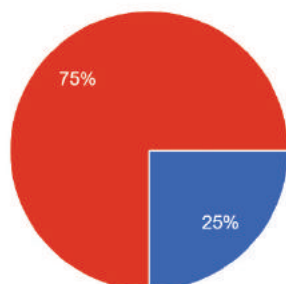
4件の回答



- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

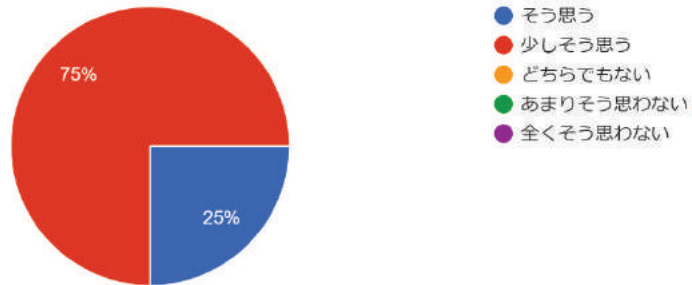
②何事にも根拠を示すことができ、解決方法の計画を立てることができ、実践できる

4件の回答

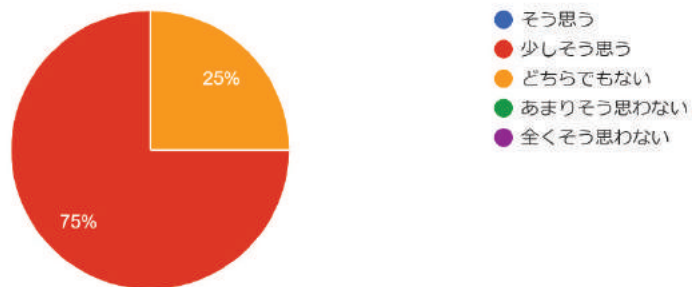


- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

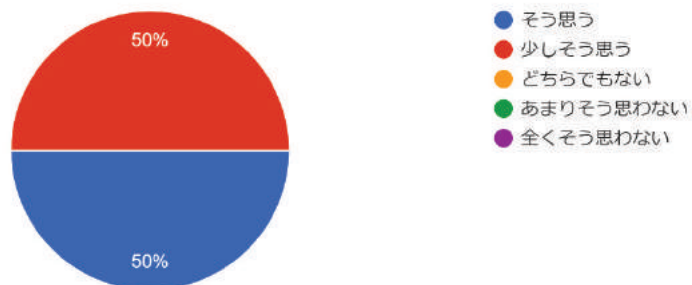
③必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる
4件の回答



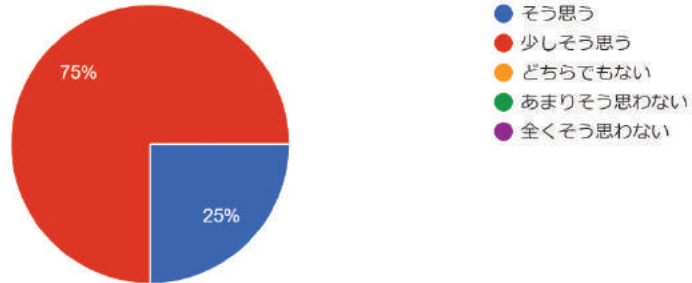
④自分が活躍できる仕事についてイメージすることができ、それに向けて計画していく事ができる
4件の回答



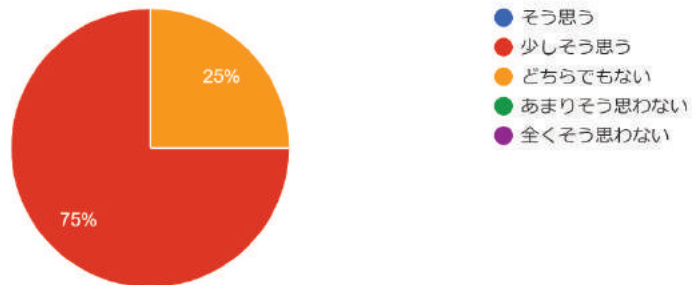
⑤根拠や気づきのある介護がなぜ必要なのか理解でき、実践できる
4件の回答



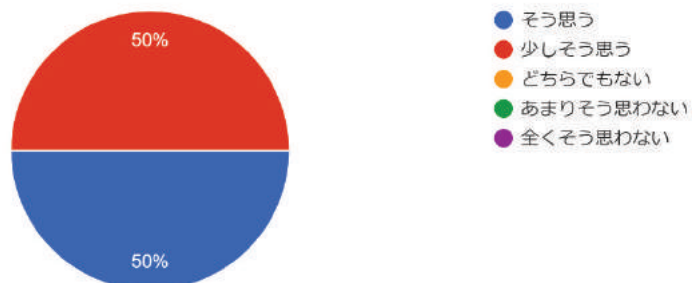
⑥安全な介助を行うための手順を理解でき、実践できる
4件の回答



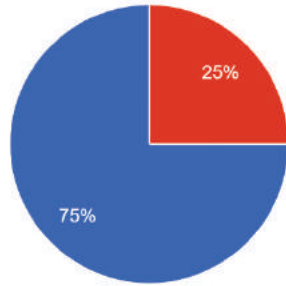
⑦介護過程の目的を理解して、介護課程の展開が考えられ実践できる
4件の回答



⑧利用者の状態に合わせた支援ができるために、リスクを考えられ、実践できる
4件の回答

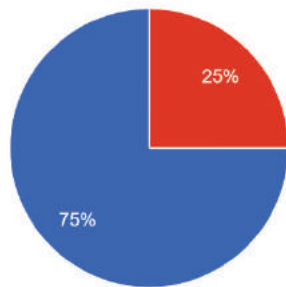


⑨チームリーダーにおける役割の必要性を説明できる
4件の回答



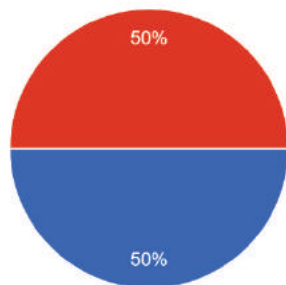
- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

⑩チームリーダーになることの条件を説明できる
4件の回答



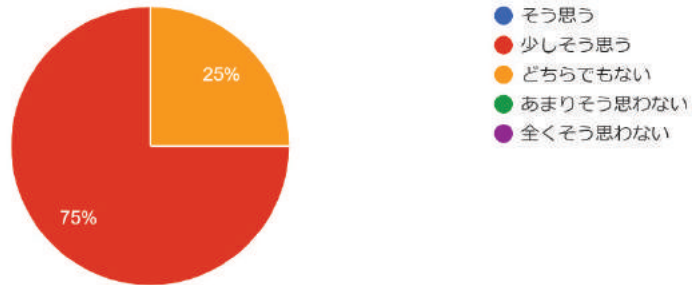
- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

⑪主体的に問題を見つけて解決することができる
4件の回答

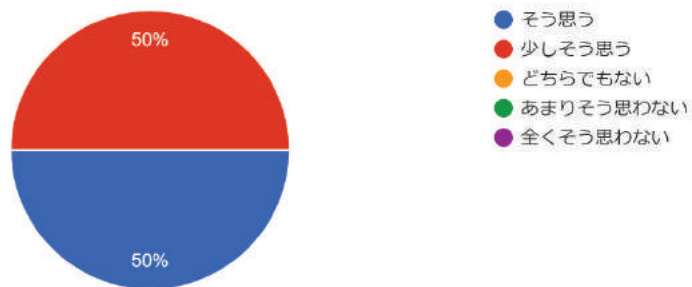


- そう思う
- 少しそう思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

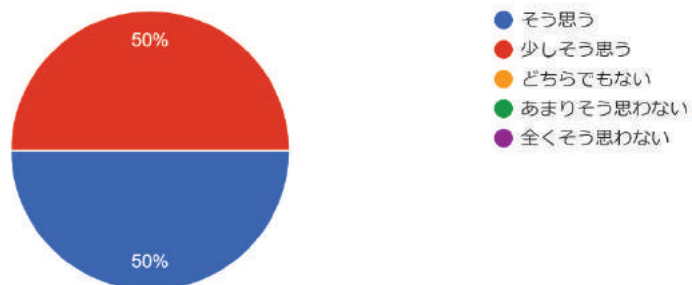
⑫業務を円滑に行うためのファシリテーションができる
4件の回答



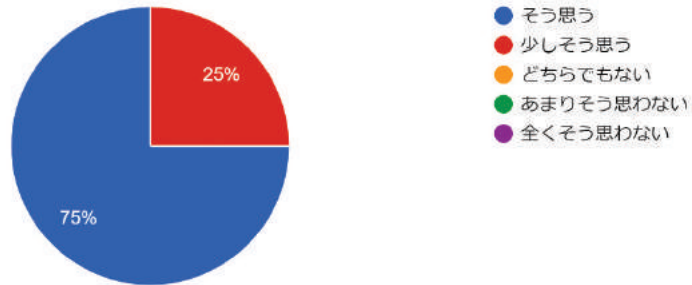
⑬「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合...、ありたい生き方、働き方を描くことができる
4件の回答



⑭ありたい生き方・働き方に自分を導くキャリアの...れない仕事観・人生観等)を創ることができる
4件の回答

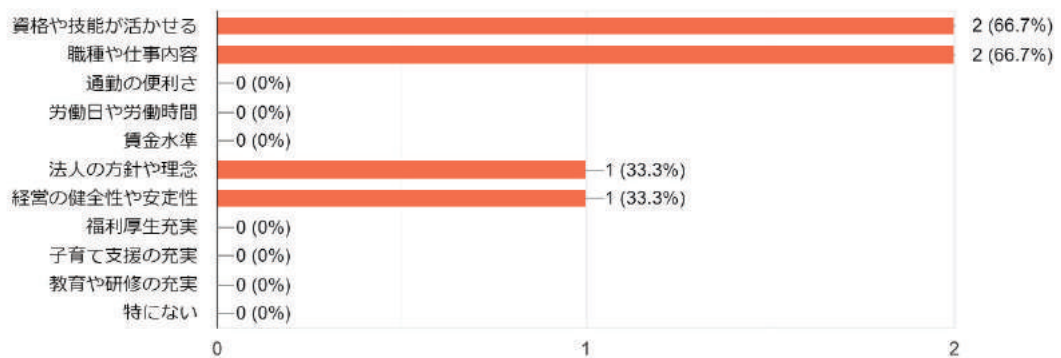


⑮介護におけるICT利用の現状や今後の展望について...を実践するための基本的な考え方を理解している
4件の回答



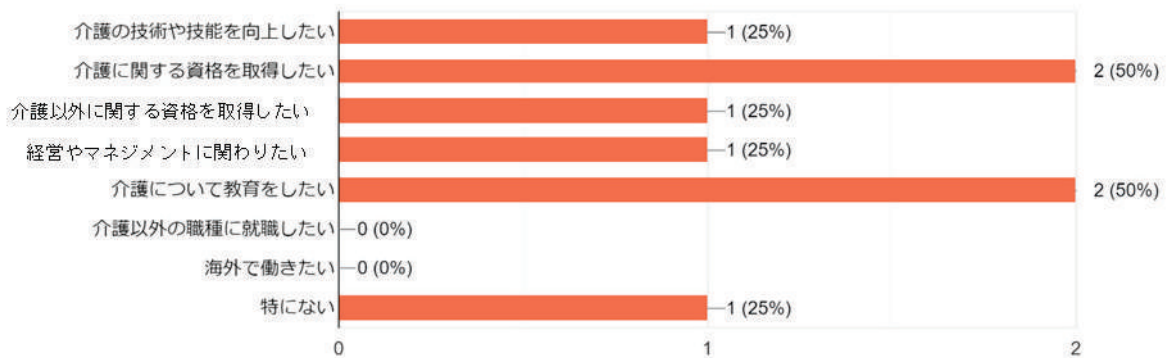
4. 就職先を選ぶ際に大切だと思うことは何ですか？最も当てはまる番号を2つ選んでください。

3件の回答



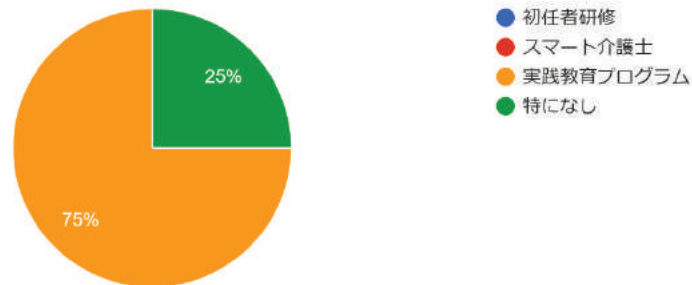
5. あなたは、今後、どのようなキャリアを積みたい？最も当てはまる番号を2つ選んでください。

4件の回答



6. 受講した講座の中で、一番習得できたと思う、講座はどの講座ですか？

4件の回答

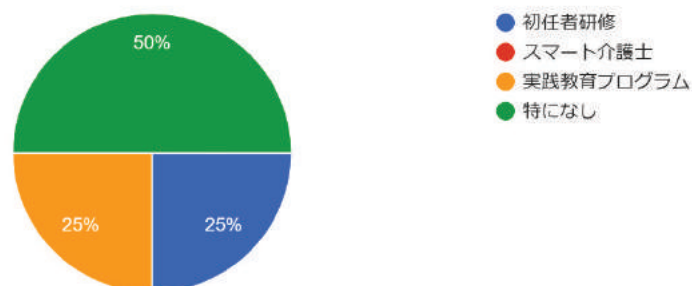


7. 6で答えた講座について、特にどんなところが習得できたか、理由をお聞かせください。

- ・ 自分自身を見つめ直し、業界の現状と照らし合わせて具体的に将来図を描けた。
- ・ 介護におけるDX化を推進するというのが、どういうことなのかを具体的に理解することができた。
- ・ どれが一番か特定出来ない。全て繋がっていたので全部だと思う。
- ・ 自分を知り未来を明るく捉えられるようになった。

8. 受講した講座の中で、一番習得が難しかった講座はどの講座ですか？

4件の回答

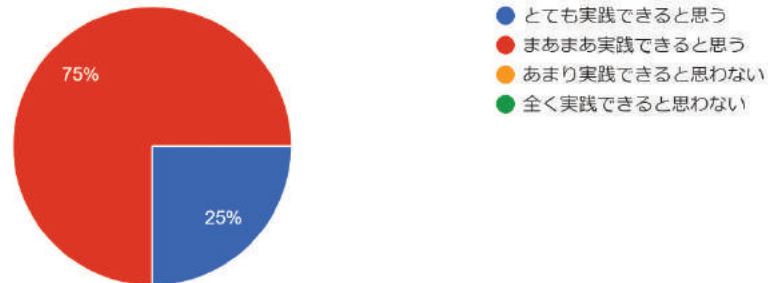


9. 8で答えた講座で、どんなところの習得が難しかったのか理由をお聞かせください。

- ・ 不器用なので実技に慣れるのが大変だった。
- ・ 15日間 知識教育・技能教育を長時間受け続けることが大変だった。
- ・ 特になし。

10. この講座の内容は、就職後に現場で即実践できると思う内容でしたか？

4件の回答

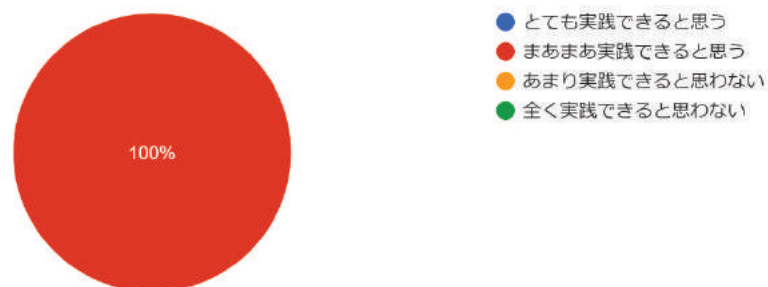


11. 10で回答した理由をお聞かせください。

- ・ 考え方や知識が汎用性あるものだから。
- ・ 文科省のリカレント教育プログラムで、介護業界のことを学んだということ、どのように強みと絡めて、自身の就職活動に展開できるのかで、実践力に幅が生まれるように思う。
- ・ 現場によってやり方が異なる部分があるかと思った。
- ・ 介護の内容の幅が広がったと思う。

12. 介護のDXについて、現場で即実践できそうですか？

4件の回答



13. 12で回答した理由をお聞かせください。

- ・ 事業所の状況や方針に左右されるため。
- ・ 現場には、それぞれの課題が存在する上に、自身が介護についての現場のことを理解していないこともあるので、必ずうまくいくかというところからわからないが、しかしかなり実践的に学ぶことができたので、実践に活かせるような気がする。
- ・ スマート介護、実践教育プログラムを受講して自信を持てたから。

14. 今後も、自分で学びたいことがあったら学び直しをしたいと思っていますか？

4件の回答

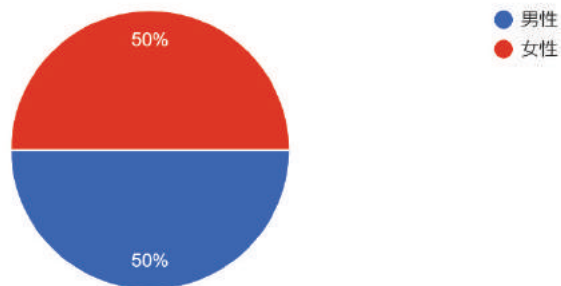


15. この講座のほかに、あったらいいと思う講座の内容があればお聞かせください。

・ 大学で人気のある講義を集約してプログラムを作ったら面白いと思った。

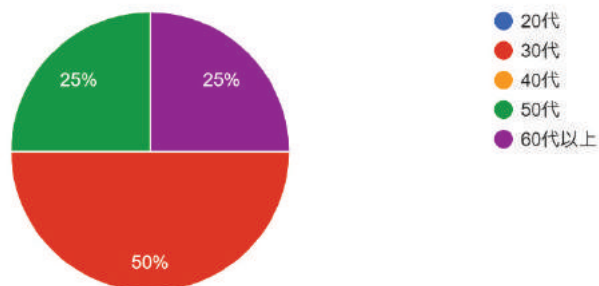
16. 性別についてお答えください。

4件の回答



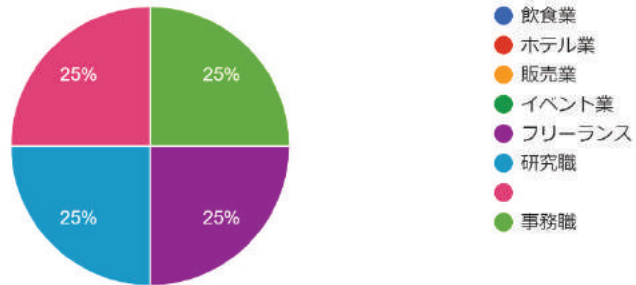
17. 年齢についてお答えください。

4件の回答



18. 直近の職業についてお答えください。

4件の回答

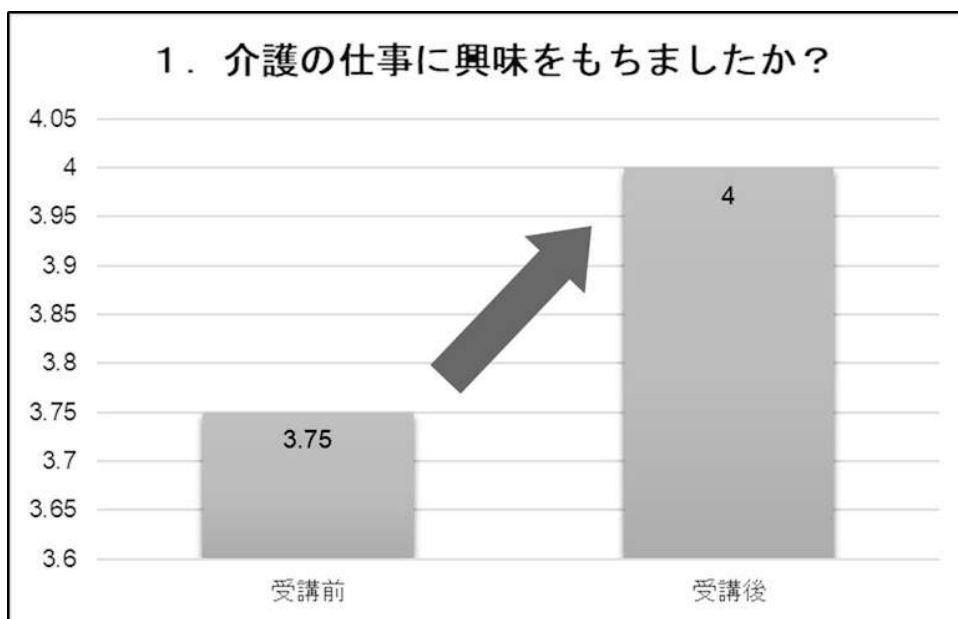


5. 実践教育プログラム受講前後アンケート調査の比較

実践教育プログラム受講アンケートについて、プログラム前後での比較を以下に示す。

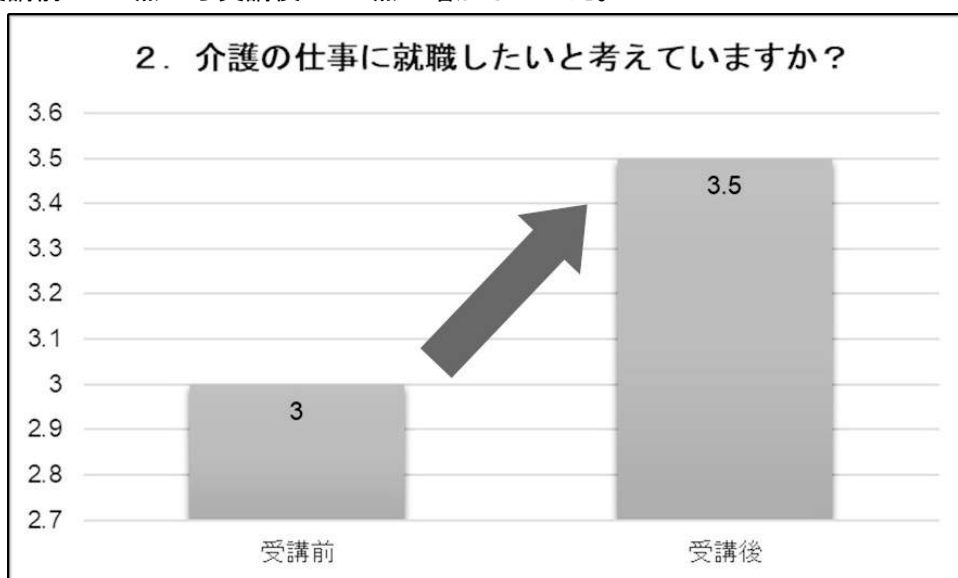
(1) 介護の仕事への興味について

介護の仕事への興味について、受講前と受講後の得点の平均値を比較すると、受講前 3.75 点から受講後 4.00 点に増加していた。



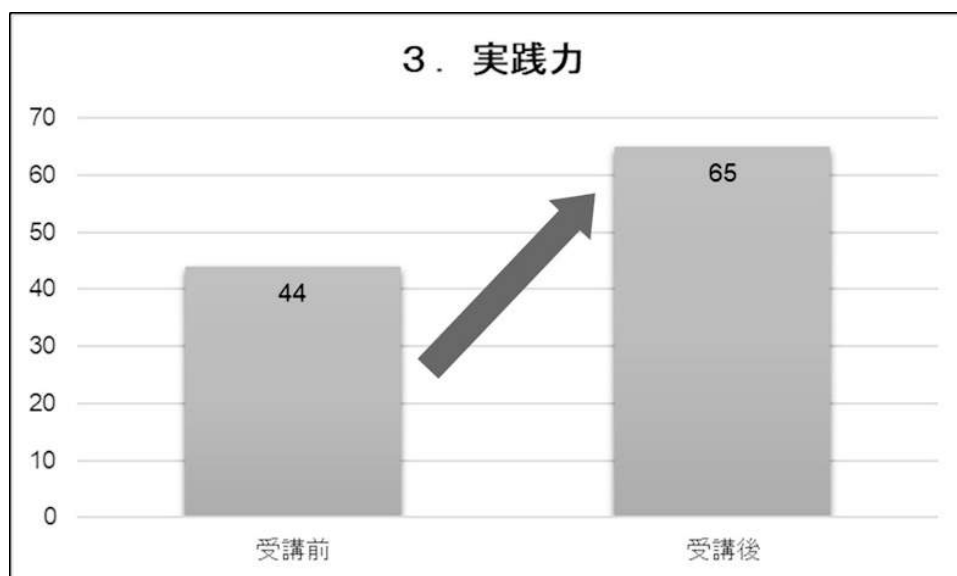
(2) 介護の仕事に就職するかについて

次に、介護の仕事に就職するかについて、受講前と受講後の得点の平均値を比較すると、受講前 3.00 点から受講後 3.50 点に増加していた。



(3) 主観的介護実践力について

また、介護分野における主観的実践力については、実践教育プログラムにおける各講座の達成目標に沿って作成した15項目について合計したものについて、受講前と受講後の得点の平均値を比較すると、受講前44点から受講後65点に増加していた。



※「3. あなたは、介護の分野において、以下の項目について実践できると思うか」における、①～⑮の得点を合算して算出した。

6. プログラム全体の振り返り（受講後インタビュー調査）

DX 福祉職養成プログラムにおける実践教育プログラムを受講した人を対象に、プログラムに対する考えについてインタビュー調査を行なった。

（1）調査対象者と調査時期

DX 福祉職養成プログラムにおける実践教育プログラム受講者を対象としてインタビュー調査を行った。調査協力者の自由な発言と主観を促すために「本プログラムを受講してどうでしたか」という質問の、回答者の答えに自由に質問をする非構造化インタビューを行なった。インタビューはすべてビデオカメラへ録音し逐語録を作成した。インタビューの時間は 120 分程度で、調査は 2023 年 2 月 2 日に行った。

（2）倫理的配慮

敬心学園職業教育研究開発センター研究倫理専門委員会で承認を得て実施した（承認番号 22-04）。データは、調査対象の個人名はすべて記号に変換した。また、対象者には調査を始める前に、本研究の主旨やプライバシーの保護に関する説明を行い、本研究以外の目的に使用しないことの同意を得た。

（3）インタビュー調査についてのまとめ

（i）プログラム全体の感想

A: 全くの未経験からの参加だったが誰でも参加すればわかるような内容になっていた。個人の理解度や経験の差に関係なく参加できる内容であった。

B: 初任者研修で介護の基本を学ぶことができた。オリジナル実践プログラムという先端の介護を学ぶことで、介護現場に入る前に、介護業界を知ることができ、介護にはいろいろな関わり方があることを知ることができた。

C: プログラムの流れはよかった。初任者研修で基本的なことを学んだうえで、スマート介護士で最先端の介護を学び、実践教育プログラムではそれらを学んだうえで、あなたはそれについて何を学びどうしていきますか？ということを常に問いかせられ、自分で考えなければならなかったということにも気づかされた。これまでの人生で、ここまで考えることを必要に迫られてやることはなかった。そういう意味で、学びが深かったと思った。

D: 初任者研修の記憶が薄れているなか、スマート介護士から受けたので、流れに乗れなかった。流れが出来ているのはよい事である。自分自身を見つめなおす時間になった。それは、介護に関わらず、とてもよい経験になった。導入部分がない中でのスマート介護士になると、スムーズに理解できなかった。オリジナルプログラムは、介護の復習から入って、それをどういう風に福祉機器に変えていき、その福祉機器をどういう風に導入するかであった。実践教育プログラムがあるのであれば、スマート介護士はその中に組み込んで受けた方が理解しやすいと思う。

(ii) プログラム受講のきっかけ

A:失業後に、次のステップを見いだせないなかで、「時間があるなら勉強したら」と知人に紹介されたことがきっかけだった。同時期に祖母の介護もあったので介護に興味を持った。どうせやるなら、色々学べる方がお得で、いいかと思って受講した。

B:エンジニア研究をしてきたが、自分なりに調べた後、世の中の変化に気が付いた。気が付いたときに、自分も変化に対応しないといけないということを知った。世の中の流れをつかむうちの一つが介護のDXだと思った。DX化が難しい分野が介護だと思ったことと、もともと興味があった業界が介護だと思ったため、学びたいと思った。こういう講座は他の業種だと埋まっていると思って、申し込んだらすごく空いていたからびっくりした。それだけ、DX化が難しい業界が介護業界で、障壁たくさんある分野であると思った。そういう業界を、どういう風に改革を実現していくかが重要であるということ、介護をDX化できたら他の業界にもいい影響が及ぶのではないかと思った。

C:成り行き人生でこの歳まで来てしまった。そのなかで、私に何ができるんだろうと思った。この先、自分が自身をもって送れるキャリアはどのようなキャリアなんだろうと思った。一つの会社でのキャリアは積んできたが、何が出来たんですかと問われたときに、自信が持てるものが自分でわからなかった。他の会社に行って同じ仕事ができるわけではないことが分かった。そんな時に、今からキャリアチェンジをしようって考えた時に、介護というワードが上がってきて介護DXに興味を持った(これから必要とされるのではないか)。近年よく言われているDXと、福祉職が一緒になったときにどのようなプログラムなんだろうって思った。単に、資格を取得して介護現場で働くためのハローワークであるようなプログラムもあったが、単純な初任者研修だけでないもの、付加価値があるもの、将来にも繋がって、社会に貢献できる可能性のあるものがよかった。ただ、これまで築き上げてきたものをゼロから築き上げないといけない不安もあったが、たくさん学べてよかった。キャリアチェンジの際に介護を選んだ理由は、今からでも出来そうかな？ということと、これから必要とされるのが介護DXだと思った。介護にマイナスイメージがあったところを、そこを自分の仕事にするか？ということで躊躇していたが、これからの介護というところに期待を込めて受講した。介護を学んで知ったあと、頭の中でしか描けていないところで、実際に働くイメージが持てていない。実際の現場を見た後で、就職を考えてみたい。

D:知り合いからプログラムについて教えてもらった。実際にこのプログラムが作られた経緯を聞いたときに、すごくプログラムの意義とプロセスが腑に落ちた。これからのDXということを知って集まったメンバーだけに、みんな前を向いていると感じた。

(iii) 受講について決定した理由

A:無料ですぐとれるから。短期間で資格がとれる。社会的なりハビリができる。自分の感覚だと、すぐだった。資格を取る感覚が、何年間も学んで取らないといけないイメージで

あった。それを考えると1ヶ月~2か月でとれるかと思った。

B:今年度中にアクションしないといけないというとき、11月くらいにどうにかしないといけないということを考えていた。そういう時にDXについては興味があった。初任者研修は知らなかったが、パッと見てちゃんとしたプログラムなんだろうなと思った。DXについては興味があったが、正直、無料でとれたからよかった。名前のある企業からのアクセスだったため、多少信頼感があった。他の大学でやっていたものは、すでに期間が終わっていた。タイミング的に、マッチングした。

C:ハローワークで見つけたため、信頼できた。何かアクションを起こさないといけないという時期だった。ハローワークのページだけでは、詳細がわからなかった。ハローワークに行ったときに、ハローワークの管轄ではないと一度は言われて、自分で調べてもよくわからないから、ハローワークの担当の人が丁寧に調べてくれた、いい人だった。調べてくれた間に、自分には何が合うのだろうと他のものも調べてはいた。自分に介護は向いていないと諦めようと思ったが、ハローワークの担当の人に、やらないで後悔するよりも、ちょっとでも興味があるならやって後悔した方がよいと、背中を押された。やってみて違うと思ったら、それはそれで次を見つけてくださいと言われた。

D:DXというテーマで、スマート介護士の資格が取れるから、資格は邪魔にならないと思った。

(Ⅳ) プログラムの期間や時間について

A:初任者研修との日程が過密だった。1回でも休むと取り返しがつかない状況であった。

B:初任者研修のオンデマンドは無理だと思う。介護はその場にはないと現実味がないため、実技は対面でやらないとためだと思う。リアルタイムでいたから、受講生どうしが仲良くなれたし、人との交流があって良かったと思う。ワークを通してお互いを少し知ったうえでオリジナルプログラムを始められたのはよかった。講師から直接想いを聞いたりできたため、オンラインでは得られないものを得られた。対面式の講座を通して、講義で目標にしていたことは達成できたと思うが、それ以上のことを学べた。

C:介護自体が、人と関わる仕事のため、やはりリアルがよいと思う。講義をしていただいた講師の方の熱意や想いが伝わる講義だったため、伝える側の想いは画面越しよりはリアルの方が絶対に伝わると思った。スマート介護士は、2日間でみっちりだったため、3日間くらいに分けて行った方がよいと思った。コロナなどがなかったら、リアルの見学や実習、施設の広さなど、現場を肌で感じるものがある方がよかった。福祉機器についても、映像で見るとよりも、実際に使う方がすごい使いやすい実感であった。百聞は一見に如かずだと思った。理想を掲げて現場に入っても、その通りにならないギャップに悩んだ人へのアドバイス方法に繋がると思った。

D:対面の方が良かった。学ぶ楽しさは、同じ空間で、人と共有して、話すことが大事で、だからこそ学べると思った。そういう時間が充実していたため、拘束時間がきついとは思

わなかった。

(V) プログラムについて気になった点

C: ハローワークを見て定員数が少なかったから、だめだろうと思った。定員数が少なかったので無理だと思った。ハローワークで人気がある IT 系はすぐにいっぱいになってしまう。

C: 介護はこうなるんだというような未来を提示した方が入りやすいと思う。介護をしている友人に聞いたが、スマート介護士を知らなかった。介護の仕事をしている人が、スマート介護士を知らない現状であることにびっくりした。まずは、介護業界にスマート介護士を知ってもらうことが大事だと思う。

B: 検索サイトで上位に挙がってこなかった。「DX 福祉」と入れたら出るが、「DX 介護」と入れても出てこなかったので、なかなか調べるのが難しかった。介護でも福祉でも出るようにしてもらえたら調べやすかったかもしれない。

(VI) 初任者研修と実践教育プログラムの内容の比較について

C: 初任者研修プラスαにしたらいと思うし、将来的には初任者研修にこういうプログラムを入れていかないといけないと思う。介護をはじめから目指している人は別として、初任者研修だけだと介護への暗いイメージへのルールが引かれている感じがする。介護の現状を学んで、介護の現状を変えるためには、初任者研修の中に入れていかないのではないか。国は介護 DX を勧めようとしているが、そうっていないのが現状だと思った。

B: 初任者研修の教科書には、尊厳や自立支援が載っていて、素晴らしかった。ただ、教科書には、初任者研修の後のキャリアプランが提示されていて、それが初任者研修、実務者研修、介護福祉士、ケアマネジャーのようなピラミッドが提示されていた。それしか知らないと、そういうキャリアしかないという風に思ったが、実践教育プログラムでそういうキャリアだけじゃないことを知ることができると、こういう関わり方があるのかという発想が生まれた。それが決まったキャリアプランを見せられると、ルールに乗っかるしかないのかということも思った。若い人ほど、色々なキャリアがあることを知ることができたらよいと思う。

(VII) 初任者研修と被っていた点

B: 受ける前、実践プログラム講座で ICF が被っていると思っていたが、そうではなかった。初任者研修で学んだことを実践的に深く学べたので、初任者研修だけでは学べないことを学べた。DX を学んだ後の就職先については、通常の就職先のみならず様々な就職先やキャリアを学ぶ機会が持てたらよかった。リクルーターだからこそ知る、業界の情報を教えてほしかった。どういう人が講座に受けているかを知ったうえで、就職先を提示してもらえたらよかったと思う。最初のマイナビの登録サイトがとてもカテゴライズされていた

のが問題だった。施設か在宅か、夜勤ありかなしか、のみで、その他がなかった。様々なキャリアを持った人が、自分のキャリアやキャリアプランと重ねて、介護業界とどうかかわっていくかを見据えた案内をして欲しい。

C: キャリアを考えたうえで介護業界に参入することが必要だと思った。社会の流れの中で介護をどう位置付けて、それを自分のキャリアのなかでどう位置付けるかを考えるのが必要なのではないかと、ただ単に、現場で働くことを前提とした資格になっていて、就職のあっせんも介護業界に就職するというものではない紹介も必要だと思った。この施設ですと働くんだらうなって思って働いていくと、成り行きの人生になってしまうと思った。

(Ⅷ) 実践教育プログラムの各講座について

C: ICF を漠然と初任者研修では知ってはいたし、介護過程やPDCA も知っていたが、改めて学べたことで、知識だけではなく、どうつながっているのかを納得し、理解できた。具体的な話もたくさん聞けたので、知識がリアルに感じられた。

A: リスクマネジメントを知ることで、個人の問題だけではなく、広い視野で介護現場に入っていく必要であることが理解できた。実際の話をもとにしてくれたため、現場のリアルを知ることができてよかったし、リスクマネジメントの重要性を確認することができた。

B: それまで介護だけを学んできたことを、フラットにしてキャリアに考えられた。他の人との人生観の共有と、自分の羅針盤を仲間と一緒に確認できた。

C: 実際に機器を試すことができてよかった。

D: すごい人が来たなと思った。影響力があった。トップの人が求めていることが理解できた。介護への視座が高くなった。話が入っていきやすかった。

(Ⅸ) プログラムについて次回への課題

A: 実際の介護現場に見学に行けたらよかった。見るポイントが分かったうえで、施設見学をしてみたい。

C: 百聞は一見に如かず。カメラで映っていないものを、見て、感じてみたい。動画ではわからないものを見てみたい。善光会のような複合的な施設があるところで、色々な施設をいっぱいに見てみたい。

B: 講師の人とのもう少し話が出来る時間がもてたらよかった。そういう意味では、対面でないとならない。

D: このインタビューでは、人の背景が表れている。現場を見たい、ということは、実際に働きたいから興味がわくし、講師と話がしたい人は、研究に活かしたいなど。自分は、どれだけ自分が理解したかを自覚できるような工夫をしたいと思った。

IV. 成果報告会

令和4年2月24日(金)、令和3年度文部科学省委託事業「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」における「テクノロジーを活用して介護DXを進める現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究」の成果報告会が、オンラインにて開催された。参加者は42名であった。元日本テレビアナウンサー（外部評価委員）の町亞聖氏の進行で、成果報告会がスタートした。まず、学校法人敬心学園理事長小林光俊、学校法人敬心学園職業教育研究開発センター長の川延宗之から開会の挨拶があった。

2022年度 文部科学省 委託事業
 【DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業】



DX
Digital transformation

成果報告会

参加費
無料

テクノロジーを活用して介護DXを進める
 現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発
 及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究

2023年2月24日(金)

Zoom開催 10:00～12:00

プログラム (予定)

9:50 受付開始

10:00 開会あいさつ

10:20 文部科学省「DX福祉職養成プログラム」事業内容・成果報告

11:00 座談会「DXを活用して人材不足を乗り越える福祉の未来」
 登壇者
 社会福祉法人 善光会 理事 COO 宮本 隆史 氏
 株式会社ビーブリッド 尾瀧 元太 氏
 社会福祉法人 三幸福社会 柳沼 亮一 氏

進行
 フリーアナウンサー 町 亞聖 氏

11:50 閉会あいさつ

12:00 終了

介護現場の方・介護教育に関わる方
必見です！

座談会では、「福祉×DX×教育」について各業界で活躍されている専門家とともに、「DXを活用して人材不足を乗り越える福祉の未来」について、議論いただけます。

開催概要

開催形式：ZOOMによるオンライン配信

参加費：無料

申込方法
 ：ご氏名、ご所属、メールアドレスを、メール本文にご入力のうえ
 kaicare@keishin-group.jpまでお送りください。

申込締切
 ：2023年2月22日(水) 正午

1. 事務局からの成果報告

事務局から、以下の資料の通り、事業の成果報告を行った。

文部科学省 敬心学園 職業教育研究開発センター

人に、社会に、輝かす。 敬心学園

令和3年度補正予算 文部科学省 委託事業
【DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業】

テクノロジーを利活用して介護DXを進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究

DX福祉職養成プログラム 成果報告(事務局)



本事業の背景

人に、社会に、輝かす。 敬心学園

2020年から現在に至るまで
新型コロナウイルスの影響

大きな社会の問題

失業者・休業者に対する生活の保障

5

今後、日本が抱える大きな社会問題

2025年問題

医療や介護などの社会保障費の増大
生産年齢人口の減少による経済の停滞と人手不足

6

生産力の向上

女性や高齢者の活躍推進

働きやすい環境の整備

生産性の向上への仕組みづくりが必要



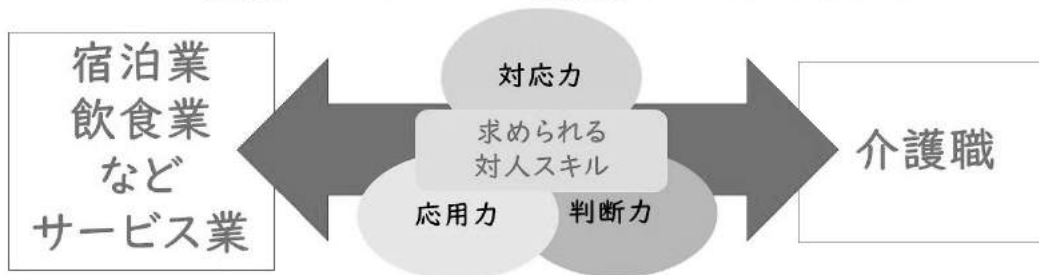
福祉業界の生産性の向上への仕組みづくり
環境を整えることが必要

7

本事業の背景

ターゲット層は対人サービス経験者!!

直接、人にサービスを提供することができる人



同じ対人サービスである
介護職を目指せるスキルがある

8

本プログラムの背景

従来の介護職養成のカリキュラム

介護の現場実践力が十分とはいえない状況がある

介護の業界では

デジタルテクノロジーを活用できる人が少ない

本来の介護、福祉業務に集中できない

介護職の業務への負担・離職者の増加

9

本プログラムの背景

全国の介護養成教員(119人)、マネジメント層の福祉職員(114人)を対象に、介護現場で即戦力となるために必要なスキルと、現場の介護職に求める力について調査を行いました。



福祉の知識と技術	ICTやデジタル活用力
現場での柔軟な対応力	リーダーシップ力
ファシリテーター力	キャリアを切り開く力 ¹⁰

本プログラムの背景

質問内容	介護教員	マネジメント職
講義の中に、ICTやデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れていますか？	約9割が取り入れていない	
ICTやデジタル機器（介護ロボット等）の授業を取り入れる必要があると思いますか？	約8割がそう思う	
現在、ICTやデジタル機器を事業所で導入していますか？		約6割が導入
現場の介護職員はICTやデジタル機器を使いこなせていますか？		約半数以上が使いこなせていない
研修の中に、介護のICTやデジタル機器（介護ロボット等）活用について取り入れていますか？		約7割が取り入れていない

- 特に、初任者研修や実務者研修において、デジタル機器活用の講義を行っておらず、デジタル機器活用の講義を取り入れる必要がないと思っている教員の割合が高い。

→初任者研修と実務者研修のテキストならびにカリキュラムに、ICTやデジタル機器の内容が含まれていない。

講義のなかにデジタル機器活用を取り入れていない理由

- 高価で現実味がない。
- 様々な物があり進化もしていくので、勤務先で導入する際に研修すればよいと思う。
- 対人職であるため、まずは基礎的な介護技術が出来ないのに、なぜ介護のICTを教えるのかわからない。
- 現場のICT化は施設管理者の考え方によって大きく変わるため、教育が必要なのは施設長や管理職に対してだと考える。
- 実際の現場で導入している所が少ないとおもう。現場で働いている人全員が扱えるかわからない。
- ロボットに頼らない介護技術の基本が出来ていなければ、家族介護者への助言が難しくなる可能性がある。

現場が求める研修や講座で取り入れたい内容

危機管理
医療介護連携
介護現場の業務改善
認知症の方への対応・認知症の理解
緊急時の対応
コミュニケーション
転倒予防
介護技術研修
介護ロボットの活用
最新の介護保険の情報・介護技術の研修
介護業務のIT化
組織作り
ICTなどの研修
チームワーク
他拠点への実習
アンダーマネジメント
業界のデジタル化について
定量的評価に基づくアセスメント方法
エンパワーメントできる取り組みについて
最新の技術研修
介護ICTの有効性と導入方法に関して
リーダーシップ
マネジメント
接遇
分析方法
各利用者の在宅におけるリスクヘッジ
制度の理解
PDCAサイクルの活用法
リスクに対する対応力
考えるということ
対人援助技術
多職種での交流や、他社との交流
個人記録、事故報告などの書類の書き方
先端施設の研修

・介護技術研修
・対人援助技術
・認知症の方への対応
・認知症の理解等
→ 初任者研修・実務者研修

・介護業務のIT化
・ICTの研修
・介護ロボットの活用
・先端施設の研修
・介護ICT有効性と導入方法
→ スマート介護士

・リーダーシップ
・マネジメント
・リスクマネジメント
・PDCAサイクルの活用法等
→ 実践教育プログラム

養 D
成 X
プ 福
ロ 社
グ 職
ラ ム

12

本事業の目的

福祉の知識と技術

ICTやデジタル活用力

現場での柔軟な対応力

ファシリテーター力

リーダーシップ

キャリアを切り開く力

ICTスキル等を身に付け即実践が出来る
DXを活用した福祉職教育プログラムの開発

13

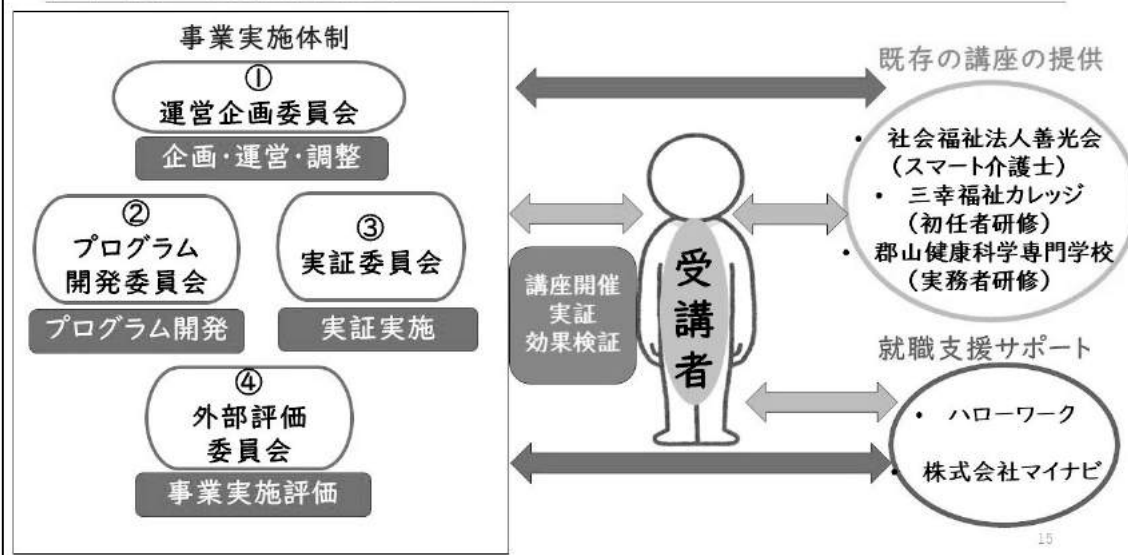
本プログラムの目的

この講座を受けることで身に付けられるスキル（力）

- ①現場で対応できる介護技術
- ②現場で必要とされるICTスキル
- ③現場で求められているチームをまとめる力
- ④キャリアプランを立てることができる力

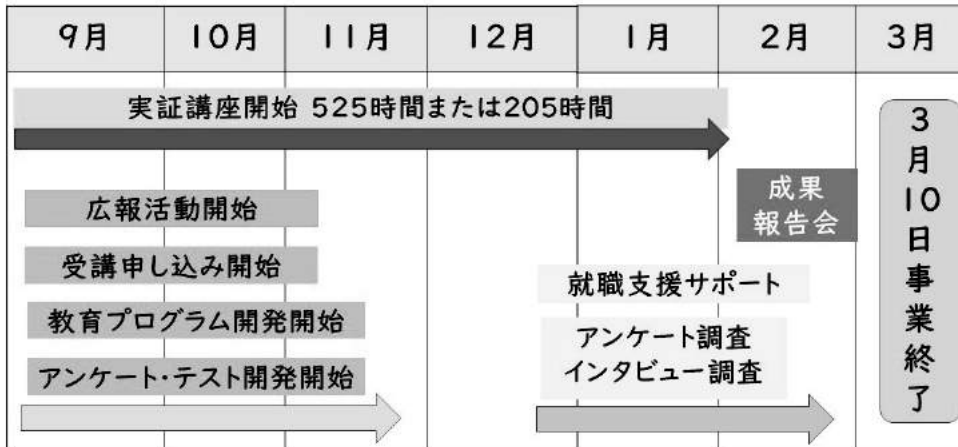
14

本事業の実施体制イメージ



15

本事業のスケジュール



16

提供するプログラム概要

初任者研修 
130時間(通信・通学)

実務者研修 
450時間(通信・通学)

産学連携

実践教育プログラム
60時間(通学)
学校法人敬心学園

人に、社会に、輝きを。
KEISHIN 敬心学園

オリジナル

スマート介護士
15時間(オンライン)
社会福祉法人善光会

ZENKOUKAI
social welfare corporation

介護職員初任者研修修了証明書
スマート介護士Expertを取得

就職サポート
株式会社マイナビ

W. マイナビ

実践教育プログラムの実施

コース名	コースⅠ (八王子)		コースⅡ (調布)		コースⅢ (調布)		コースⅣ (調布)		コースⅤ (調布)	
	期	日	期	日	期	日	期	日	期	日
申込締切	一般	10/5(水)	10/7(金)	10/31(水)	10/31(水)	11/6(火)	11/29(水)	12/6(水)		
	職員研修 研修費別途	9/16(金)	9/28(火)	10/17(水)	10/20(水)	11/10(水)	11/23(月)			
1. 事前ガイダンス	オンライン/対面	随時	随時	随時	随時	随時	随時	随時	随時	随時
2. 開講式	オンライン/対面	10/7(金)	10/11(水)	11/3(水)	11/30(水)	12/1(水)	12/12(月)			
3. 初任者研修	教室	八王子	立川	船橋	浦和	船橋	練馬			
	18日	9:30-17:00	30/18(水)	10/13(水)	11/9(水)	11/11(金)	12/2(水)	12/13(水)		
	7日	9:30-16:40	30/18(水)	10/31(水)	11/18(水)	11/17(水)	12/9(水)	12/13(水)		
	30日	9:30-16:40	30/25(水)	10/20(水)	11/11(水)	11/18(水)	12/9(水)	12/20(水)		
	4日	9:30-16:40	30/25(水)	10/21(水)	11/14(水)	11/21(水)	12/12(水)	12/20(水)		
	9日	9:30-17:00	30/24(水)	10/26(水)	11/16(水)	11/24(水)	12/13(水)	12/22(水)		
	4日	9:30-16:40	30/25(水)	10/31(水)	11/17(水)	11/24(水)	12/13(水)	12/22(水)		
	7日	9:30-16:40	30/27(水)	10/28(水)	11/18(水)	11/28(水)	12/13(水)	12/20(水)		
	8日	9:30-16:40	30/28(水)	11/2(水)	11/21(水)	12/1(水)	12/19(水)	12/27(水)		
	9日	9:30-16:40	30/28(水)	11/4(水)	11/23(水)	12/1(水)	12/19(水)	12/27(水)		
	10日	9:30-16:40	13/3(水)	11/9(水)	11/24(水)	12/1(水)	12/22(水)	1/5(水)		
	11日	9:30-17:00	13/3(水)	11/11(水)	11/26(水)	12/1(水)	12/22(水)	1/6(水)		
	12日	9:30-16:40	13/4(水)	11/12(水)	11/27(水)	12/1(水)	12/22(水)	1/9(水)		
	13日	9:30-16:40	13/7(水)	11/15(水)	11/28(水)	12/1(水)	12/27(水)	1/12(水)		
	14日	9:30-16:40	13/10(水)	11/18(水)	12/1(水)	12/16(水)	1/9(水)	1/16(水)		
15日	9:30-16:40	13/11(水)	11/20(水)	12/3(水)	12/22(水)	1/12(水)	1/17(水)			
※ネット受講生・実践教育プログラムからの受講生と同等の月の数に該当										
4. ネット受講生 + 実践教育プログラム 【10日履修】	教室	東京都内		東京都内		東京都内		東京都内		
	18日	9:30-16:00	22/9(水)		12/22(水)		1/28(水)			
	22日	9:30-16:00	22/9(水)		12/29(水)		1/29(水)			
	26日	9:30-16:00	22/9(水)		12/27(水)		1/29(水)			
	4日	9:30-16:00	22/9(水)		12/28(水)		1/29(水)			
	5日	9:30-16:00	12/17(水)		1/5(水)		1/24(水)			
	6日	9:30-16:00	12/17(水)		1/5(水)		1/24(水)			
	7日	9:30-16:00	12/18(水)		1/12(水)		1/24(水)			
	8日	9:30-16:00	12/18(水)		1/12(水)		1/24(水)			
	9日	9:30-16:00	12/18(水)		1/12(水)		1/24(水)			
※ネット受講生・実践教育プログラムからの部分受講も可能です。										
5. 修了式	オンライン/対面		12/21(水)		1/17(水)		2/2(水)			

初任者研修は、
5つの会場で6期間の開催

実践教育プログラムは、受講生数の関係で
1月18日(水)～の1回のみ

初任者研修の概要

科目	通信	通学	学習時間
1. 職務の理解	×	6時間	6時間
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	7.5時間	1.5時間	9時間
3. 介護の基本	3時間	3時間	6時間
4. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	7時間	2時間	9時間
5. 介護におけるコミュニケーション技術	3時間	3時間	6時間
6. 老化の理解	3時間	3時間	6時間
7. 認知症の理解	3時間	3時間	6時間
8. 障害の理解	1.5時間	1.5時間	3時間
9. こころとからだのしくみと生活支援技術	12時間	63時間	75時間
10. 振り返り	×	4時間	4時間
合計	40時間	90時間	130時間

実務者研修の概要

科目	通信	通学	学習時間
人間の尊厳と自立	○	×	5時間
社会の理解 I	○	×	5時間
社会の理解 II	○	×	30時間
介護の基本 I	○	×	10時間
介護の基本 II	○	×	20時間
コミュニケーション技術	○	×	20時間
生活支援技術 I	○	×	20時間
生活支援技術 II	○	×	30時間
介護過程 I	○	×	20時間
介護過程 II	○	×	20時間
発達と老化の理解 I	○	×	10時間
発達と老化の理解 II	○	×	20時間
認知症の理解 I	○	×	10時間
認知症の理解 II	○	×	20時間
障害の理解 I	○	×	10時間
障害の理解 II	○	×	20時間
こころとからだのしくみ I	○	×	20時間
こころとからだのしくみ II	○	×	60時間
医療的ケア	○	×	50時間
介護過程 III	×	○	40時間
医療的ケア演習I*	×	○	10時間
合計	400時間	50時間	450時間

20

実践教育プログラムの概要

初任者研修
130時間(通信・通学)

福祉社会を支えていく福祉教育専門校
三幸福社カレッジ

スマート介護士
15時間(オンライン)
社会福祉法人善光会

ZENKOUKAI
social welfare corporation

実践教育プログラム
60時間(通学)
学校法人敬心学園

人に、社会に、輝かす。
KEISHIN 敬心学園

オリジナル

就職サポート
株式会社マイナビ

W. マイナビ

介護の研修や講座で取り入れたい内容はありますか？

危機管理
医療介護連携
介護現場の業務改善
認知症の方への対応・認知症の理解
緊急時の対応
コミュニケーション
転倒予防
介護技術研修
介護ロボットの活用
最新の介護保険の情報・介護技術の研修
介護業務のIT化
組織作り
ICTなどの研修
チームワーク
他拠点への支援
業界のデジタル化について
定量的評価に基づくアセスメント方法
エンパワメントできる取り組みについて
最新の技術研修
介護ICTの有効性と導入方法に関して
リーダーシップ
マネジメント
接遇
分析方法
各利用者の在宅におけるリスクヘッジ
制度の理解
PDCAサイクルの活用法
リスクに対する対応力
考えるということ
対人援助技術
多職種での交流や、他社との交流
個人記録、事故報告などの書類の書き方
先端施設の研修

・介護技術研修
・対人援助技術
・認知症の方への対応
・認知症の理解等
→ 初任者研修・実務者研修

・介護業務のIT化
・ICTの研修
・介護ロボットの活用
・先端施設の研修
・介護ICT有効性と導入方法
→ スマート介護士

・リーダーシップ
・マネジメント
・リスクマネジメント
・PDCAサイクルの活用法等
→ 実践教育プログラム

DX
福祉職
養成プログラム

スマート介護士のプログラム概要

科目	オンライン	学習時間
スマート介護士概論(講義)	○	1時間
スマート介護士概論(演習)	○	1時間
ケアテック基礎論-ロボット・センサー編(講義)	○	1時間
ケアテック基礎論-ロボット・センサー編(演習)	○	1時間
ケアテック基礎論-ICT編&通信環境構築編(講義)	○	1時間
ケアテック基礎論-ICT編&通信環境構築編(演習)	○	1時間
オンライン施設見学	○	1時間
科学的介護基礎論(講義)	○	1時間
科学的介護基礎論(演習)	○	1時間
ケアテック導入の実践理論(講義)	○	1時間
ケアテック導入の実践理論(演習)	○	1時間
科学的介護の実践理論(講義)	○	1時間
科学的介護の実践理論(演習)	○	1時間
スマート介護士試験	○	1時間
スマート介護士解説	○	1時間
合計		15時間

実践教育プログラムの概要



講義名	授業目標	学習時間
介護職の課題と未来の展望 プラスαで学ぶ介護の実践	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、根拠や気づきのある介護が必要なのか分かり、実践できる。 安全な介助を行うためにはどの順番で行えばよいか分かり、実践できる。 	6時間
介護技術実践(介護過程) リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の展開が考えられ実践できる 利用者の状態に合わせた支援ができるように介護過程やリスクが考えられ実践できる。 	12時間
リスキリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER	<ul style="list-style-type: none"> リスキリングの学びの前に、「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたいか、何をしたいのか」について内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる。 ありたい生き方、働き方に近づくために、保有するキャリア資産(知識・スキル、能力、経験、人脈等)を棚卸し、捨てるもの、磨くもの、加えるべきものを明確にして、アンラーン(捨てる)とアップスキリング(磨く)、リスキリング(加える)の学びにつなげることができる。 ありたい生き方・働き方に自分を導くキャリアの羅針盤(こだわり抜きたい譲れない仕事観・人生観等)を創ることができる。 	6時間
介護演習	<ul style="list-style-type: none"> 介護現場を知り、イメージができるようになる。 最新の介護現場を知り、よい意味での先入観を持つことができる。 動画教材を用いた現場での活用実体を知り、当たり前に使っているイメージを持つ。 	18時間
これからの介護DXについて	<ul style="list-style-type: none"> 介護におけるICT利用の現状や今後の展望について学び、職場の中で介護DXを実践するための基本的な考え方を習得する。 	6時間
チームリーダー 介護マネジメント研修	<ul style="list-style-type: none"> チームリーダーの役割の必要性を説明できる チームリーダーになること条件を説明できる 主体的に問題を見つけて解決することができる 業務を円滑に行うためにファシリテーションができる 	6時間
就職活動の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> 就職先に求めることを説明できる。 自分のキャリアをもとにできる可能性の仕事イメージできる。 客観的に自分自身を観ることができる。 	6時間

実践教育プログラムの概要

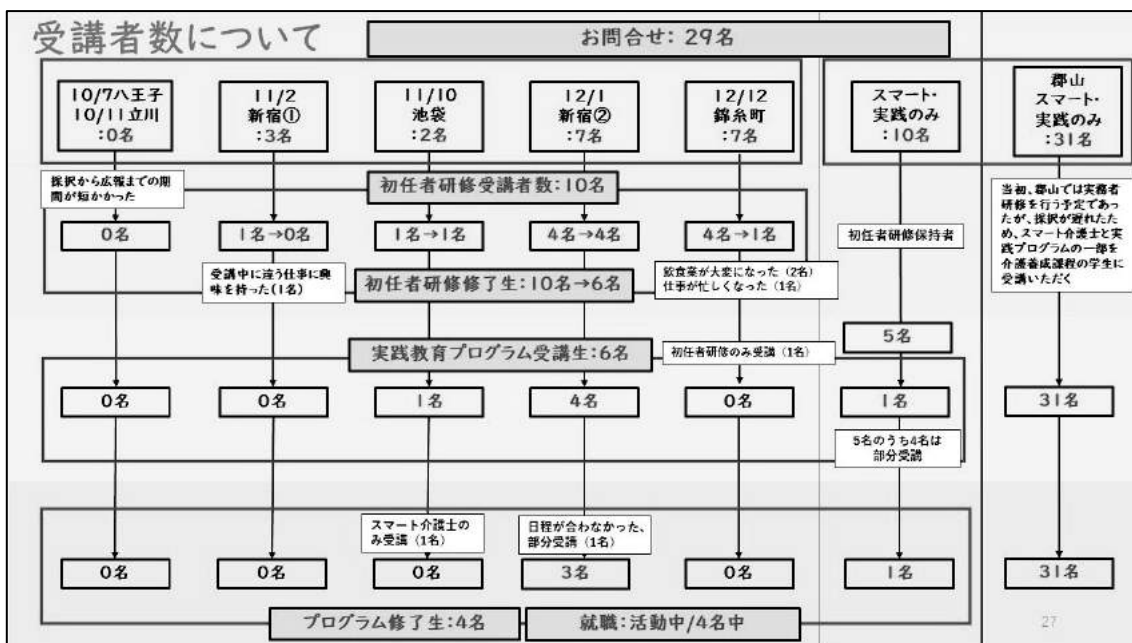


都内		
日時	講師	テーマ
1/18(水)	川廷宗之先生 渡邊みどり先生	介護の課題と未来の展望 プラスαで学ぶ介護の実践
1/19(木)	柳沼亮一先生	介護技術実践
1/20(金)	柳沼亮一先生	リスクマネジメント
1/24(火)	菊地克彦先生	リスキリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER
1/25(水)	伊藤健次先生	介護演習
1/26(木)	伊藤健次先生	介護演習
1/27(金)	スマート介護士	(オンライン)
1/30(月)	スマート介護士	(オンライン)
1/31(火)	尾滝元太先生	これからの介護DXについて
2/1(水)	宮本隆史先生	チームリーダー介護マネジメント研修
2/2(木)	マイナビ 酒井様	就職サポート・振り返りテスト・修了式

開催場所: 日本福祉教育専門学校 高田校舎 (東京都豊島区高田3-6-15)

1. 事業全体について

2. 事業内容について



受講者数について

- 採択時期が遅かったため、広報の時間を取ることが難しかった。
- 新型コロナウイルス感染症の状況が改善し、当初ターゲットとしていた飲食・観光業界の人手不足が発生した。
- 採択時期の都合上、実務者研修を実施できなくなった。
- スマート介護士と実践プログラムの一部を介護養成課程の学生に受講いただき検証をした。(郡山健康科学専門学校)

一部受講者	都内	郡山
スマート介護士	3名	31名
実践教育プログラム(1回)	1名	31名

28

スマート介護士 実践教育プログラム 実証の概要

29

実践教育プログラムの概要

講師	テーマ
川廷宗之先生 渡邊みどり先生	介護の課題と未来の展望 プラスαで学ぶ介護の実践
柳沼亮一先生	介護技術実践
柳沼亮一先生	リスクマネジメント
菊地克彦先生	リスクリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER
伊藤健次先生	介護演習
伊藤健次先生	介護演習
スマート介護士	(オンライン)
スマート介護士	(オンライン)
尾滝元太先生	これからの介護DXについて
宮本隆史先生	チームリーダー介護マネジメント研修
マイナビ 酒井様	就職サポート・振り返りテスト・修了式

30

介護の課題と未来の展望 (川廷宗之先生)



介護職の魅力

- 人生を学ぶ
 - ・目の前の人は、人生のサンプル
 - ・幸せに、人生を楽しんで全うするには…
 - ・「人」が生きていく(存在する)「価値」
 - …消費者がいかに成長しない経済システム

- 喜ばれる仕事
 - ・プロしか、できない対人援助
 - ・親族には「介護」はできない…

介護職の未来展望 ①国際編

- 無くならない仕事
 - ・究極の対人援助職
 - ・人生・生活を「楽しむ」のを、支援する
(介護+アルファ (色々の付く領域)「介護」以外))
- 広がる未来技術
 - ・介護職の職務内容の変化予測
 - ・情報技術 (IT) ・人工知能 (AI) の活用
 - ・介護ロボットの活躍
- ・コーディネータとしての介護職への職務内容変化

プラスαで学ぶ介護の実践(渡邊みどり先生)

動機(理由)づけ
をすること
根拠=エビデンス
なぜ?という視点に
気づくことが大事

VRを視認する

自分が居て、いる環境に居ります。空間で自分が動ける範囲は、履き足、腰、肩、肘、手、足、腕、首、頭の周辺を360度移動しながら動作の確認をすることになります。

自分がされたい介助
痛い・怖い介助
されたくない介助

尊厳の保持
自立支援
人権

それには、常に理由=根拠がある



介護技術実践(柳沼亮一先生)

健康状態
病状・けが・ストレス
高齢など広い意味

心身機能
身体機能
心と体の働き
両方レベル

活動
日常生活動作(AOI・IADL)
生活レベル

参加
仕事・役割など社会参加
人生レベル

環境因子
建物・制度
自分以外の人・制度

個人因子
その人個人の情
報・能力・考えなど

もう少しかみ砕いて...
(あくまでイメージです。)

柳沼亮一モデル

ICF
介護過程の展開
介護サービス

心身状況 生活背景 価値観
健康
自立支援

例えばの図です!「介護過程の展開」のイメージです。右はそれら組み立てて「介護サービス」として組み立てるものです。つまり、「介護過程の展開」が先で初めて「介護サービス」が完成します。逆に「介護サービス」が先だと、適切なサービスが提供できないとダメという事です。

祝! 青森文化遺産
北海道・北東北の縄文遺跡群

青森の旅
(2024年 青森観光コース)
3泊4日
「昔ながらの生活スタイル」

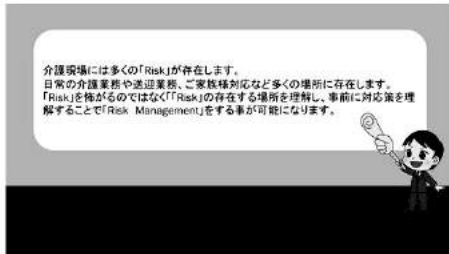
ようこそ縄文のふるさとへ

この旅は、道民から絆を以て送られています。

Welcome to Japan's Village, Seno Murayama Site.



リスクマネジメント(柳沼亮一先生)



次世代介護機器の導入

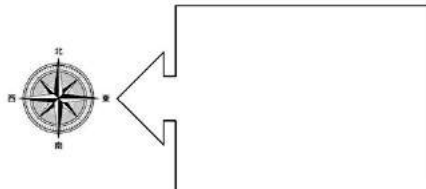
次世代介護機器は、導入を目的とするのではなく、「現場で発生している課題の解決」のツールである理解が重要となります。



リスクキングの前に考える MY LIFE/MY CAREER (菊地克彦先生)

演習8: わたしのキャリアの羅針盤/自論(ワークシート)

これからの自分のキャリア形成・発展の重要な判断指針、キャリア選択の基準となる考え方



介護演習 1日目 (伊藤健次先生)

見守り支援「眠りSCAN」



氏名	所属	担当	連絡先
伊藤 健次	敬心学園	講師	03-5621-1111
齋藤 慎	杜の癒しハウス	介護主任	03-5621-1111
...

介護演習 2日目 (伊藤健次先生)



スマート介護士 (善光会様)

アジェンダ (2日間、全10コマ)

SMART

1日目

講義テーマ	担当講師	開始時刻	終了時刻
1 はじめに + スマート介護士概論 (60分)	佐藤・遠藤	9:00	10:30
2 ケアテック基礎論 (ICT①)	佐藤	10:40	12:10
3 ケアテック基礎論 (ICT②)	佐藤	13:00	14:30
4 ケアテック基礎論 (ロボット・センサー①)	遠藤	14:40	16:10
5 ケアテック基礎論 (ロボット・センサー②)	遠藤	16:20	17:50

2日目

講義テーマ	担当講師	開始時刻	終了時刻
6 ケアテック基礎論 (通信環境) + オンライン施設見学	佐藤・遠藤	9:00	10:30
7 ケアテック導入の実践理論	遠藤	10:40	12:10
8 科学的介護の基礎 & 実践理論	山中	13:00	14:30
9 スマート介護士資格 確認テスト	佐藤	14:40	16:10
10 テストの解説+ラップアップ	山中	16:20	17:50

社会福祉法人 善光会
サンタフェ総合研究所
佐藤様 遠藤様 山中様



これからの介護DXについて (尾滝元太先生)



本日の授業の流れ

- 【1コマ目】
デジタル介護現場におけるICT活用について
- 【2コマ目】
最新の介護用ICT製品を知る
- 【3コマ目】
グループワーク型の講義場でのICT活用を考える
- 【4コマ目】
グループワーク発表・議論



Q&A

これからの介護DXについて グループワーク課題

このワークシートは、ICT活用に関する課題をグループで話し合い、意見を交換し、課題解決のためのアイデアを提案するためのものです。

- 課題解決のためのアイデアを提案する
- 課題解決のためのアイデアを議論する
- 課題解決のためのアイデアをまとめる

【課題】

- ICT活用による介護現場の効率化を図る
- ICT活用による介護現場の安全性を高める
- ICT活用による介護現場のコミュニケーションを促進する
- ICT活用による介護現場の業務負担を軽減する
- ICT活用による介護現場の業務の見える化を実現する
- ICT活用による介護現場の業務の自動化を実現する
- ICT活用による介護現場の業務の最適化を実現する
- ICT活用による介護現場の業務の革新を実現する

チームリーダー介護マネジメント研修(宮本隆史先生)

CONFIDENTIAL 本日の「達成目標」

- ・チームリーダーの役割の必要性を説明できる
- ・チームリーダーになること条件を説明できる
- ・主体的に問題を見つけて解決することができる
- ・業務を円滑に行うためのファシリテーションができる



40

就職サポート(マイナビ酒井様)・振り返りテスト・修了式



41

郡山健康科学専門学校様 実践教育プログラムの概要 人に、社会に、輝かす 敬心学園

日時	講師	テーマ
1/19(木)	スマート介護士	(オンライン)
1/20(金)	スマート介護士	(オンライン)
1/27(金)	川廷先生・事務局	「介護職の課題と未来の展望」 「プラスαで学ぶ介護の実践」



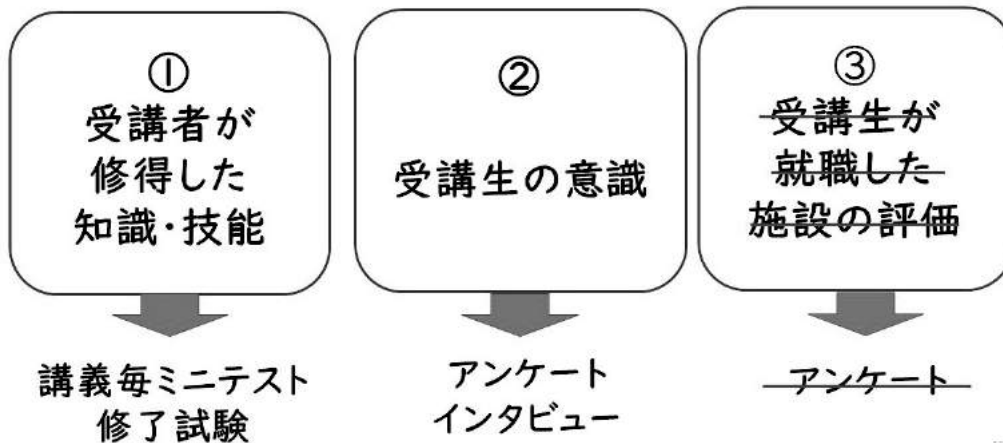
※採択時期の都合上、当初、実務者研修を修了した受講生に受けてもらう予定であったが、実施できなくなったため、部分受講となった。

42

効果検証について

人に、社会に、輝かす 敬心学園

検証項目：開発したプログラムが即戦力に向けて効果的だったか



43

修了者数について

- 初任者研修修了生：6名／10名
- スマート介護士修了生：39名／39名
（スマート介護士資格テスト 合格者39名／39名）
- 実践教育プログラム修了生：4名
（修了テスト 25点満点中 24点2名／25点：2名）
※初任者研修以上実務者研修程度を想定して作成

44

プログラム実施後の効果検証

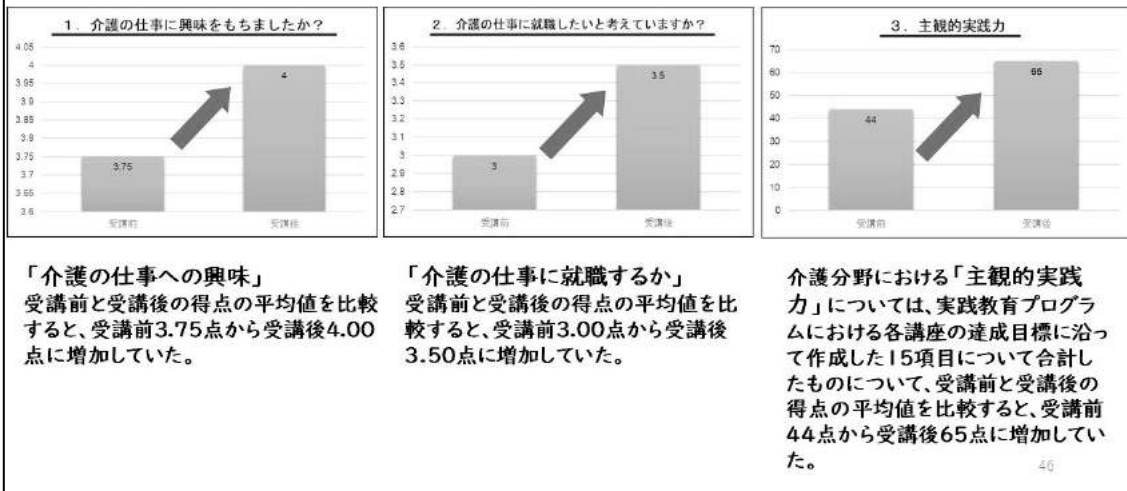
プログラム内容について、
修了者を対象に

- ・アンケート
- ・インタビュー

を行った。

45

全プログラム修了者4名を対象に 介護への興味についてのアンケート調査



全プログラム修了者4名を対象としたインタビュー調査

全体的を通しての感想

- 全くの未経験からの参加だったが、参加すれば誰でもわかるような内容になっていた。個人の理解度や経験の差に関係なく参加できる内容であった。
- 先端の介護を学ぶことで、介護にはいろいろな関わり方があることを知ることができた。
- 実践教育プログラムでは、あなたは何を学びどうしていきますか？ということを常に問いかげられ、考えることの重要性について気づかされた。これまでの人生で、ここまで考えることを必要に迫られることはなかった。
- 実践教育プログラムの流れでスマート介護士を受講したので、スムーズに理解できた。

受講のきっかけ

- 失業後に、知人に紹介された。どうせやるなら、色々学べる方がお得だと思って受講した。
- 世の中の変化をつかむうちの一つが介護のDXだと思っていた。こういう講座は他の業種だとすぐに埋まっているため、空いていてびっくりした。
- 成り行き人生で来てしまったなかで、この先、自分が自信をもって送れるキャリアはどのようなキャリアなんだろうと思ったことがきっかけだった。単に、資格を取得して介護現場で働くためのハローワークにあるようなプログラムではなく、単純に初任者研修だけでないもの、付加価値があるもの、将来にも繋がって社会に貢献できる可能性のあるものがよかった。

受講を決定した理由

- 無料で短期間で資格がとれる。資格を取るためには、何年間も学んで取らないといけないイメージがあるので、それを考えると1ヶ月～2か月でとれるのは短期間だと思う。
- 今年度中に何かアクションしないといけないタイミングだった。
- 名前のある企業からのアクセスだったため、信頼感があった。
- 何かアクションを起こさないといけないという時期だった。ハローワークの担当の人が丁寧に調べてくれた。自分に介護は向いていないと諦めようと思ったが、ハローワークの担当の人に、やらないで後悔するよりも、ちょっとでも興味があるならやって後悔した方がよいと、背中を押された。

期間や時間・講義形式について

- 初任者研修との日程が過密だった。1回でも休むと取り返しがつかない状況であった。
- 対面のため、受講生どうしが仲良くなれた。講師から直接想いを聞けたため、目標にしていたこと以上のことを学べた。
- 対面のため、講師の熱意や想いが伝わる講義だった。コロナがなかったら、現場見学や、施設の広さなど、現場を肌で感じるものがある方がよかった。介護機器については、実際に使う方とすごい使いやすさが分かった。百聞は一見に如かずだと思った。
- 学ぶ楽しさは、同じ空間で、人と共有して、話すことが大事で、だからこそ学べると思った。そういう時間が充実していたため、拘束時間がきついとは思わなかった。

初任者研修と比較して

- 将来的に初任者研修にこういうプログラムを付け加えるべきだと思う。
- 介護をはじめから目指している人は別として、初任者研修だけだと介護への暗いイメージへのルールが引かれている感じがする。
- 初任者研修の教科書には、実務者研修、介護福祉士、ケアマネジャーといったピラミッドのキャリアが提示されていた。そういうキャリアしかないという風に思っていたが、実践教育プログラムでそういうキャリアだけじゃないことを知り、色々な関わり方があるという発想が生まれた。
- 決まったキャリアプランを見せられると、ルールに乗っかるキャリアしかないのかと思ってしまう。若い人ほど、色々なキャリアがあることを知ることができたらよいと思う。

初任者研修と重複していた点

- ICFが重複していると思っていたが、そうではなかった。初任者研修で学んだことを実践的にさらに深く、初任者研修だけでは学べないことを学べた。
- 就職先については、通常の就職先のみならず、幅広い就職先やキャリアを学ぶ機会があったらよかった。
- キャリアを考えたいので介護業界に参入することが必要だと思った。社会の流れの中で介護をどう位置付けて、それを自分のキャリアのなかでどう位置付けるかを考えるのが必要だと思った。既存の講座は、現場で働くことを前提とした資格になっており、介護業界外への就職サポートも必要だと思った。

52

気になった点

- 「将来こうなるんだ」というような、介護の未来を提示した方が入りやすい。
- 介護をしている友人はスマート介護士を知らなかった。まずは、介護業界で問題意識を持つことが大事だと思った。
- 検索サイトでプログラムを調べることができなかった。
- 介護を学んだあと、頭の中でしか描けておらず、実際に働くイメージが持っていないため、実際の現場を見た後で、就職を考えてみたい。

53

スマート介護士について

1. パートによっては、内容をやや詰め過ぎてしまい質疑の時間を十分確保できていなかった。
2. 最終講義に作成した「今後の目標」を1人ずつ見ると、一連の講義から学びや刺激を受けている学生が多数を占めており、一定の成果を実感している。
3. 事前のプログラムで介護全般に関する知識を既に持たれており、且つ受講者同士の人間関係もある程度深まっていたため、進行し易く感じた。



全3回の講義を実施して、人数の違いはほとんど影響なかったが、対象者の違いによっての影響が大きかったため、今後様々な対象者に柔軟に対応できるようにスマート介護士プログラムを一層ブラッシュアップしていきたい。

まとめ

【DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業】

テクノロジーを活用して介護DXを進める、現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究



- 目的**
- ①現場で対応できる介護技術
 - ②現場で必要とされるICTスキル
 - ③現場で求められているチームをまとめる力
 - ④キャリアプランを立てることができる力



根拠に基づく介護の考え方・介護DXの理解とその方策、社会における介護の位置づけを踏まえたキャリアを考えるきっかけとなる、就職・転職支援のためのリカレント教育としては、有効であったのではないか。

今後の課題

1. 開催方法・開催場所（対面開催や全国への展開方法）
2. 費用（無料だと途中離脱者が出る可能性がある）
3. 対象者の選定（①意欲層、②仕事につながることのみ学びたい層、③初任者研修の資格を取得するだけでよい層）
4. 就職までつなげるサポート体制
5. 3.について、それぞれに効果があるかどうかは今後の検証課題となる



リカレントのためのプログラムとしては有効性はあったのではないか。上記の課題をクリアするために、今後は、対象者や内容の整理やブラッシュアップと、その効果測定が求められる。

振り返りと今後の展望

- ・プログラム開発委員 委員長
社会福祉法人 善光会 理事 COO
宮本 隆史 氏
- ・実証委員会 委員長
社会福祉法人 三幸福社会
柳沼 亮一 氏

2. 座談会「DX を活用して人材不足を乗り越える福祉の未来」

座談会では、町亞聖氏の進行で、「DX を活用して人材不足を乗り越える福祉の未来」をテーマに、介護職の養成に関わる立場から柳沼様、介護施設の経営に関わる立場から宮本様、介護 DX 企業の立場から尾滝様に話を伺った。以下に、座談会について報告する。

町：DX は、介護業界に限らず、日本のすべての業界において求められている要素の一つである。ただ、この DX がなぜ必要なのかといった意識統一が必要であり、導入するにあたってリーダーが職員一人一人にきちんと説明できているかが重要である。ただ単にテクノロジーやロボットの導入、パソコンが使いこなせることが DX ではなく、それらを導入したことで、現場の人の意識改革ができて初めて、DX が実行できていると言える。介護現場では ICT に弱いということが言われているが、これからは使っていかなければならないという意識で全員に臨んでいただきたいと思う。まず、「DX を活用して人材不足を乗り越えるには」ということで、それぞれの立場からご意見をいただきたい。

柳沼：「DX を活用して人材不足を乗り越える福祉の未来」について教育の立場から見ると、教育の内容自体が、私自身が 20 年前くらいに学んだ介護から少しずつ進化はしているが、そこに ICT の導入はまだまだ進んでいない状況である。徐々には入ってきてはいるが、それぞれの教育機関での自助努力でどうにかしている状況である。今後、社会全体が人手不足になることが分かっている中で、人の手をかけて介護をすることがよいという文化はもちろんあるが、それに加えて、生産性の向上も考えなければならない。生産性ということを用いて、「人の気持ちが大切なのではないか」というようなことも言われる。しかし、介護を必要としている人に必要な介護を提供するためには、今から介護ロボットや ICT を導入したシステムを作っていかなければ、介護が破綻して、介護を受けることができない人が出てしまうのではないかと感じる。そのため、今のうちから ICT リテラシーを取り入れた教育を提供して、現場で ICT を取り入れた仕事の組み立てができる人材が増えたらよいと思う。ただ、現状では、教育の段階でそういったプログラムは入っておらず、各学校が自助努力で何とかしている状況である。

町：今から意識を変革しなければ、介護は破綻するという現実を突き付けられている。介護業界がこのままの状態で行くと、他の業界にも変化が起きている中で、他の業界から介護業界に人材が入ってこないのではないかと感じる。そのため、介護現場をより魅力的にするために、ICT リテラシーを取り入れた教育などをして、教育現場の意識を変えていく必要があるのではないかと感じる。宮本様は「DX を活用して人材不足を乗り越えるには」という点で、どのようにお考えか。

宮本：介護業界が一番直面している問題は人材不足である。他業界から介護業界に入ってきた

た方はその他の業界に比べて増えているかもしれないが、需要の方が高いため、人材不足の状態は年々増加していく状況である。そういった中で、介護人材を獲得することとあわせて、介護人材のパフォーマンスを上げていかなければならないといった状況もある。人が足りなくなるから根性で頑張れというようなことだと、介護業界の魅力はなくなるし、これから新たに介護現場で働こうと思ってくれる人も増えない。そういった意味でも、介護機器を活用していくことによって、よりよい環境や介護サービスを作り上げていかなければならないと感じている。国でも、科学的介護やエビデンスを蓄積して活用していくという話が出ている。これまで属人的に行われていた介護サービスについて、よいところは残しながら、介護機器が持つパフォーマンスを用いながら、本来、人でなければならない仕事にどれだけ注力できるかといった環境を作っていくかが必要になってくる。どうしても、介護は3Kといったようなイメージが強く、肉体労働で大変ということもあるが、それだけではないということを、介護業界外の方にも理解していただかないといけない。介護機器を使えば、シニア層の方でも働いていただくことも可能である。まずは、介護業界にいる自分たちが変わっていくことで、よりよい環境づくりをしなければならないと思う。テクノロジーを使うことは、ご利用者に「思いやり」を提供していくということとはバッティングするものではないと思っている。そのため、テクノロジー等で使えるものは適切に使って、人間がやるべき仕事は人間がやるということを徹底して進めていくことが重要であると思う。

町：今後、数年の間に何十万人という介護人材が不足すると予想されている中で、一朝一夕に人材を確保ができるわけにはいかないのだから、今から備えていかなければならない。今回のプログラムは、介護業界の中の人だけではなく、他業界の人を巻き込んでいくうえで新しい価値があると感じる。介護業界は、様々な業界にサポートしてもらわないといけない状況にあるため、若者だけではなく、シニア層といった方にも入ってきてもらえるような学びの場があるとよいと思う。尾滝様は「DX を活用して人材不足を乗り越えるには」という点で、どのようにお考えか。

尾滝：ビーブリッドは介護事業者の ICT 活用のサポートをしている企業である。創設して十数年経っているが、年々ICT の必要性は高まっている。一方で、日頃、介護事業者を支援する立場として、介護業界は ICT の活用を苦手としている人が多いことを感じている。その一つの大きな要因として、介護現場に就業以前も以後も、ICT に関する教育を受ける機会がないといったことがある。介護事業所でも様々な研修が行われているが、なかなか ICT の研修は取り入れられていない現状である。他方で、現在の高校生は情報科目を必修で学んでいるため、そういった若者が就業するとなると、職員間のギャップもより生まれてくる可能性がある。今回のプログラムは、今後介護職を目指す方に向けたリカレント教育というところで設計されており、ICT を学ぶ機会がない人たちに向けて、介護とともに ICT を学ぶ機会がパッケージとして提供されることが重要であると思う。

町：今後、デジタルネイティブの若者が入っていくことも前提に考えていかなければならない。介護現場における生産性の向上とはどういう風に説明されているか、柳沼様にお尋ねしたい。

柳沼：介護における生産性の向上は、勘違いされることが多い言葉である。私は、ICTは介護の生産性を向上させるための道具の一つであるため、ICTを導入することによって私たちが楽になるために使うのではなく、介護の時間を創出するために使うということを伝えている。ICTを活用することによって、今まで1日1分しか利用者様と話せなかったところが5分話せるようになったとか、今までレクリエーションができなかったのにできるようになったということが、生産性の向上であると考えている。生産性向上というと自分たちが楽をするために導入すると思われがちだが、実際は介護の質を高めるための一つの手段であるということを伝えている。また、どうしても介護現場の職員は仕事に追われて、利用者様と一緒に楽しむというような介護の醍醐味を経験できていない人が増えていると感じるため、ICTを導入することで介護の醍醐味を経験できる環境にしていけたらよいと思う。

町：ICTを導入することによって、利用者様も働いている人も楽しく、介護がやりがいのある仕事になったらよいと思う。人とICTのベストミックスを目指すことが必要だと思う。介護現場における生産性の向上について、宮本様はどのようなお考えか。

宮本：間接業務の生産性を高めるというのが第一であると思う。厚生労働省も、介護の質をどう高めるかというところに軸足は置いている。制度というような視点になると要件緩和や規制緩和をしていかないといけないところもあると思うが、きちんと介護の質をどう高めていくのかといったところは前提としてあると思う。そのうえで、間接業務を減らしたうえで、人が人にできる業務を増やしていくことが重要であると思う。さらに、DXという点でとらえると、介護機器から得られるデータを、どうやって介護サービスに活かしていくのかということだと思う。介護を提供するうえでは、アセスメントが一番重要である。しかし、人が人を見ると、どうしても感覚知になってしまうことが多い。介護機器から得られるような、いつ・どのくらいの排泄があって、どのくらいの睡眠時間が確保できているか、というような、これまで介護業界で得られなかったアセスメント情報を、人材不足という観点だけでなく、どうやって介護サービスにつなげていくのかが必要になってくる。そのようなアセスメント情報をケアプランや介護過程に反映するとともに、介護現場で培ってきた職員の視点も加えていくことで、今まで提供していた介護サービスよりも、よりその人に合った個別ケア、自立支援につなげていくことができるのではないかと。そうなってくると、議論になり始めている「アウトカム」をどうしていくのかといったように、介護の質と介護の生産性がうまくリンクしていくのではないかと。また、介護業界として、今すぐに人を減らして生産性をあげなければならないということではないことを、合わせて理解しないといけ

ないと感じる。

町：医療の業界でも、実はなかなかデータを活用できていない。データを集めることが目的ではなく、どのように現場にフィードバックするかということが大事になってくる。これから科学的介護に基づく介護をしていくかが重要になってくる。介護現場における生産性の向上について、尾滝様はどのようなお考えか。

尾滝：「介護の生産性向上」は誤解されやすい言葉になっているが、ビーブリッドはこれを介護の質を保ちながら、より少ない人数でサービスを維持していくための、「職員負担軽減」「定着支援」の取り組みとして理解している。LIFE が始まる前も、各事業者で実践知をためて、素晴らしい取り組みをやっている事業所はたくさんある。ただ、そういったことを他の事業者と共有することは難しいため、その取り組みは事業所内にとどまってしまう場合が多い。そういったことが、LIFE などのシステムを通じて共有されていくことで、利用者により良いケアを提供できるようになる。利用者のことを考えても、データの活用は必要であると考えます。

町：DX した後に、何の負担が軽減したのかというようなアウトカムが明確であることが必要である。そこが明確でないと、取り組みの定着は難しいのではないかと。そういった意味で、今後は、データを読み解く力が求められてくるのではないかと。では、本事業についての振り返りも一言いただきたい。

柳沼：介護過程やリスクマネジメントを担当した。初任者研修を受けてきた方にプログラムを実施した。私のなかで介護過程の展開は重要なポイントになってくるが、その部分が初任者研修だと詳しく学んではいない。初任者研修で行ったことを踏まえて、現場で求められていることを振り返るようなプログラムといった点は非常によいと思った。受講生が少なかったことについては、プロモーションや期間の問題があるのではないかと。社会人から学び直しをして介護業界に入ってきてもらうということは、新しい視点が介護業界に入ってくるといった点において重要であると感じた。長い間介護をやってきた人は介護技術については素晴らしいという点があるが、介護の視点に偏ってしまうということもある。新しく介護業界に入ってくる人が、現場で何が必要かということはこのプログラムで学んで、ICT や生産性の向上を誤解のない形で学んでいただき、介護業界に入ってもらえたらと思う。

町：私自身は家族介護者の当事者であった。そのなかで、介護福祉の資格を取った方が良いのではないかとことを思ったことはある。しかし、介護の世界に入ってしまうと介護の当たり前が、当たり前になってしまうのではないかと考えた。家族介護を経験した一人として、家族としてどういうケアがよいのかということ、介護の外の立場から皆さまに提案し

たい。そういう意味で、他業界で社会人を経験した方が、今回のプログラムで ICT のリテラシーをもって入ってくることで、起爆剤として介護現場を変えてくれる人材になるのではないかと感じた。ターゲットをどうするかというところが、今後の一番の課題だと思うが、宮本様はどうお考えか。

宮本：私自身は、リーダーシップやマネジメントを担当した。なぜこのようなプログラムを入れたのかというと、介護はチームで行うことがほとんどであるためである。それは在宅ケアでも、施設ケアでも一緒である。自分自身も福祉教育を受けて介護現場に就職したが、マネジメントやリーダーシップを学ぶ機会がほとんどなかった。また、高校生までの教育においても、マネジメントやリーダーシップに通じる教育はあまりされていない印象があり、部活でキャプテンをするといったような話にされがちになっていると思う。リーダーシップは、リーダーになってから発揮するものではない。セルフリーダーシップというように、自分自身をどう見つめるかという考え方も重要である。このようなマネジメントとリーダーシップの教育が介護教育では抜け落ちているということを感じていた。介護教育の場では、1対1でご利用様にいかに良いケアを提供するかという視点に偏りがちだが、そういうシーンが介護現場ではあまりみられない。むしろ、限られた時間で10人・20人のご利用者をどうするかを考えなければならないことが多いが、そのようなことは体系的に教えられていない。そうすると、やりたい介護ができないという風になってしまうが、どんな職業でも職場でも与えられた環境があって、そのなかでどうやってよいパフォーマンスをチームでどう高めるかということが求められているといった意味で、プログラムとして必要であると考えている。本事業としては、ターゲットと時期がミスマッチになってしまったことが反省点であるが、そのような反省点を今後活かしていけたらよいのではないかなと思う。

町：介護施設にボランティアに行った際に、さくらの花がその施設の目の前で咲いているにもかかわらず、利用者様が見に行けない現状があった。それは、20人・30人の利用者に対して、少ないスタッフで対応しているため、利用者様も職員も見には行きたいけど、見に行けない状況があった。そういったときに、施設内だけではなく、地域や他業界を巻き込んでチームを組成できるような人材を育成するプログラムにもなるのではないかな。尾滝様は今回のプログラムを振り返ってどうだったか。

尾滝：他産業の ICT と介護の ICT を比較できるようにプログラムを組み、ケアテック機器の体験や、現場でよく起こる課題を例にグループワークを行った。ICT の環境は日々変化していくため、個々の機器について学ぶということではなく、それらを使う目的や課題の抽出、どう改善していくかというような基礎となる講義を行った。介護と ICT をつなぐ際には、介護現場も知っている人がいないと間をつなぐことが難しいため、弊社には、もともと介護福祉現場で働いていた職員が多数いる。介護側と ICT 側とお互いを理解しながら歩み寄って

いけるようになればいいと思う。

町：有意義な事業であったことは確かである。人の手の介護も ICT を使った介護も、相反するものではなくどちらも必要であるというが再確認できた。本年度の反省点を踏まえて、次年度以降の発展を期待したい。



最後に、事業責任者である小林英一より閉会の挨拶があり、成果報告会を閉会した。

V. 本年度の事業評価

1. はじめに

当事業は、「令和3年度文部科学省委託事業 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」である「テクノロジーを利活用して介護 DX を進める現場実践能力の高い介護職の効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究」である。事業を通じた研究の目的としては、宿泊業、飲食サービス業などの職業人を対象に、対人スキルを活かす多様な人材として、同じ対人サービス業である介護職への雇用促進サポートを行い、対人サービス業に就労していた失業者や退職者が、新たな対人サービス職である介護業界に転職できるよう、就労も含めた雇用システムの仕組みづくり、ICT スキル等を身に付け即実践が出来る DX を活用した介護職教育プログラムの開発を行うものである。本事業は、事業計画に基づき、調査、プログラムの開発、実証効果検証といったプロセスを経て遂行された。

事業の実施体制においても、①運営企画委員会、②プログラム開発委員会、③実証委員会において、多角的な視点から課題抽出、問題提起、助言等が行われていた。また、委員会横断連絡会議を実施し、各委員会の活動を共有するとともに、各委員会へ報告事項に対しての助言や提案などを行っていた。外部評価委員会においては、①②③が行う検証結果を客観的な視点から評価を行うため、事務局からの説明及び資料提供に基づき、評価表を用いて評価を行った。

2. 外部評価委員会の役割

【目的】

外部評価委員会は直接点検・評価を行うことはせず、各プロジェクトが行う自己点検・評価の結果をメタ評価実施することで、評価の有効性、適切性について第三者の立場から客観的のある評価を行う。

【役割】

- ① 計画段階において、目標が明確か、目標を達成したことを測定する評価指標は適切か、事業がスムーズに進み、大きな成果が得られるように助言する。
- ② プログラムの評価効果測定を担当するとともに、事業全体への評価・検証を行う。

【検討の具体的な内容】

- ① 事業企画・運営に関する助言
- ② 事業運営と成果に関する評価と検証

3. 評価方法について

各委員会の遂行した事業において、以下の評価項目に基づいて評価を行う。

- ① 委員会で立案した計画（年次計画・研究調査計画書等）に基づき、活動できていたか
- ② 事業計画書に記載されている委員会の目的と、委員会で実施された内容は一致していたか

- ③ 活動実績について、委員会で適切に振り返りを行っていたか
- ④ 委員会で行った振り返りに基づく、今後の計画は妥当性があるか（現実的か・目標と行動計画が合致しているか）

といった4つの項目について評価を行った。

4. 運営企画委員会に対する評価

運営企画委員会の目的は、プロジェクトに参加する多様な関係者による事業の目的、目標、運営方法の検討・共有を行うことである。その観点から①～④について評価を行った。

① 委員会で立案した計画（年次計画・研究調査計画書等）に基づき、活動できていたか
⇒事業計画に基づいた活動は、およそできていたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていないことがあった。しかし、スケジュール的に厳しい点が多かったが、そのような状況に応じて適切に、柔軟に活動を展開していたことは認められる。

② 事業計画書に記載されている委員会の目的と、委員会で実施された内容は一致していたか

⇒委員会の目的と、委員会で実施された内容は、だいたい一致していたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていないことがあった。しかし、議事録を確認すると、状況に応じて適切かつ柔軟に、プログラムの内容などについて、熱心で適切な議論が展開されていた。

③ 活動実績について、委員会で適切に振り返りを行っていたか

⇒活動実績について、委員会での適切な振り返りは、ほぼ行えていたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていないことがあった。しかし、議事録を確認すると、DX やリカレント教育という新たな視点での難しい取り組みのなかでも、課題認識など、委員会で適切な振り返りが行われていた。

④ 委員会で行った振り返りに基づく、今後の計画は妥当性があるか（現実的か・目標と行動計画が合致しているか）

⇒今後の計画は、妥当性はあると考えられる。そもそも事業の設定時点と事業開始時点での雇用情勢が変わり、対象者がミスマッチとなったことは明らかであった。しかし、介護現場が求めるような人材像という考え方としては現場に即したものであるため、今後は、リカレントとリスクリングの棲み分けを行い、内容を整理してブラッシュアップすることで、更なる発展が期待できると考えられる。

5. プログラム開発委員会に対する評価

プログラム開発委員会は、実践教育プログラムの企画・開発をすること、それに伴う教材

の企画・開発をすることである。その観点から①～④について評価を行った。

- ① 委員会で立案した計画（年次計画・研究調査計画書等）に基づき、活動できていたか
⇒事業計画に基づいた活動は、だいたいできていたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていないこともあった。結果として、十分な募集期間を得られず受講者数が少なく、プログラム修了者が4名に留まったのは残念であった。しかしながら、状況に応じて適切に、柔軟に活動を展開しており、期限に対しては、充実した内容だったと考えられる。
- ② 事業計画書に記載されている委員会の目的と、委員会で実施された内容は一致していたか
⇒委員会の目的と、委員会で実施された内容は、およそ一致していたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていないこともあった。しかし、議事録を確認すると、状況に応じて適切かつ柔軟に、プログラムの内容などについて、熱心で適切な議論が展開されていた。また、既存の学習資源を必要に応じて活用し、予定通りプログラム開発は行われていた。
- ③ 活動実績について、委員会で適切に振り返りを行っていたか
⇒活動実績について、委員会での適切な振り返りは、だいたい行われていたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていないこともあった。しかし、議事録を確認すると、DX やリカレント教育という新たな視点での難しい取り組みのなかでも、課題認識など、適切な振り返りは行われていた。
- ④ 委員会で行った振り返りに基づく、今後の計画は妥当性があるか（現実的か・目標と行動計画が合致しているか）
⇒今後の計画は、妥当性があると考えられる。そもそも事業の設定時点と事業開始時点での雇用情勢が変わり、対象者がミスマッチとなったことは明らかであった。しかし、介護現場が求めるような人材像という考え方としては現場に即したものであるため、今後は、リカレントとリスキリングの棲み分けを行い、内容を整理してブラッシュアップすることで更なる発展が期待できると考えられる。

6. 実証委員会に対する評価

実証委員会の目的は、開発した教育プログラムが受講者にとって即戦力の人材となるものかどうか検証を行うこと、また、そのための測定方法の検討を行うことである。その意義と観点から①～④について評価を行った。

- ① 委員会で立案した計画（年次計画・研究調査計画書等）に基づき、活動できていたか
⇒事業計画に基づいた活動は、だいたいできていたと考えられる。プログラム自体は充実し

ているが、研修はスケジュール通りに実行できず、受講者も予定人数をかなり下回っていた。また、計画では、実際に施設に行って実習を行う予定であったが、コロナ禍で実施することができなかった。現場での実務に繋げ、検証を行う事ができず残念であった。しかし、スケジュール的に厳しい点が多かったが、そのような状況に応じて適切に、柔軟に活動を展開していた。

② 事業計画書に記載されている委員会の目的と、委員会で実施された内容は一致していたか

⇒委員会の目的と、委員会で実施された内容は、だいたい一致していたと考えられる。受講生の数が少なく、就職にも結びついておらず、戦力になるのかどうかの評価ができないため、即戦力の実践力をどう評価していくかが、今後の課題である。また、期間内での受講生の募集計画に無理が生じていた。しかし、議事録を確認すると、そのような状況のなかでも、適切かつ柔軟に、実証方法などについて、熱心で適切な議論が展開されていた。

③ 活動実績について、委員会で適切に振り返りを行っていたか

⇒活動実績について、委員会での適切な振り返りは、だいたい行われていたと考えられる。事業の採択時期が遅れ、計画通りに進めることができない状況があり、委員会の時期も回数も予定通りに実行できていない状況もあった。しかし、議事録を確認すると、DX やリカレント教育という新たな視点での難しい取り組みのなかでも、課題認識など、適切な振り返りは行われていた。また、経験者には部分的受講も認められるなど、柔軟な対応が試みられていた。

④ 委員会で行った振り返りに基づく、今後の計画は妥当性があるか（現実的か・目標と行動計画が合致しているか）

⇒今後の計画は、だいたい妥当性があると考えられる。そもそも事業の設定時点と事業開始時点での雇用情勢が変わり、対象者がミスマッチとなったことは明らかであった。しかし、介護現場が求めるような人材像という考え方としては現場に即したものであるため、今後は、リカレントとリスクリングの棲み分けを行い、内容を整理してブラッシュアップすることで更なる発展が期待できると考えられる。

7. 外部評価委員からの評価

事業の推進にあたっては、事業開始の遅れや昨今の新型コロナウイルス感染症への懸念があり、多くの制約があったことは容易に推察できる。そのような状況のなか、各委員会及び協力頂いた関係機関には多くのご支援を賜り、心より謝意を申し上げます次第である。そうした想いのなか、本事業への更なる発展に期待を込めて、各委員から次のような意見があった。

(1) 事業全体の評価

・ 開始時期が遅れたなか、短期間の間ではよくやったのではないかと。厚生労働省の人材不

足解消のキーワードとして生産性向上が取り上げられている。そういうところと被る部分があるが、教育という形ですみ分けができればよいのではないか。

- ・ 介護現場における業務の効率化、多職種間の情報共有、エビデンスに基づいたケアの提供などを進めるためには、DX化が必要不可欠なのは言うまでもない。スマート介護士や実践教育プログラムに関しては、質の高い教育を十分提供できる内容になっているが、今回の事業で設定している対象者がミスマッチであることは明らかである。介護現場で働いたことのない他業種の人材が初任者からDXまでを限られた時間で学んでも即戦力にはならないことが考えられる。DX・リカレントによって、介護現場への転職を促すという発想自体が机上の空論であり、この事業で展開したプログラムを受ける必要があるのは、現在介護現場で働いている職員であり、介護業界を目指している学生ではないか。
- ・ 当初の事業スケジュール通りに実施できなかった点や、新型コロナウイルス感染症の感染状況が大きく変化した点など外的要因の影響を大きく受け、結果、受講生の確保ができなかった点は大変残念である。しかし、状況の変化に柔軟に対応してプログラムを実践した点や、修了者への丁寧なインタビュー調査など、限られた条件の中で臨機応変に適切な対応をしていた。また、DXへの対応と、それに向けた人材の育成は必要不可欠であるため、引き続き、事業への取り組みに期待している。
- ・ コロナ禍による失業者等への転職支援として始まった事業であったが、期中に社会的状況が大きく変わり、人あまりから一転して人手不足となったことから、受講対象者の募集に事務局は苦勞した。また、充実した内容でプログラムの評判は良い反応が認められたが、期間が直前であったため、何らかの予定が組まれていた人は受講、あるいは修了とならなかった。開発されたプログラムは、充実した内容でカリキュラムも時間をかければしっかりとしたものと思われるので、介護人材不足を補う他の手段として用いられることに期待する。
- ・ 介護DXの実証研究として大変に意義深い取り組みであったが、当初の事業計画より2ヶ月遅れてのスタートが、残念ながら全体評価を行う過程で大きなマイナスファクターであった。特に、広報が遅れ、受講申込者が少なく、プログラム修了者が4名、最終出口である就職ゼロという結果は残念である。ただ、郡山で介護養成課程1年生31名が受講しており、その後の学習意欲の向上、ICT活用の理解に繋がることに期待したい。介護分野におけるテクノロジーを活用した新たな養成プログラムの開発と実践、そしてその効果検証という取り組みそのものは、高く評価できる。

(2) 事業の改善点

- ・ 初任者研修にリーダーシップやマネジメントの研修まで求める必要はないかと思われる。重複する内容や講座のボリュームについて、検討が必要であると思われる。優先順位をつけて再構成が望まれる。

- ・ この事業で展開したプログラムを受ける必要があるのは、現在介護現場で働いている職員であり、介護業界を目指している学生ではないか。介護現場で働いていたことのない人間を DX 教育だけで即戦力に育てるという目標自体に無理があると考えられる。この事業を継続するのであれば、ターゲットの見直しが必要であると考えられる。
- ・ 十分な広報、実施期間を確保の上、実施することに尽きると考えられる。
- ・ 介護 DX を進める過程で、すでに現場で働く人材と、新たに外から来る人材、双方に対する ICT への理解に繋げる丁寧な説明が大事である。また、介護 DX の目的が、業務効率化だけでなく、質の向上であることを、講義や演習、そしてできるだけ現場に出ることを心掛けてもらいたい。

(3) 今後への期待

- ・ 介護現場が求めるような人材像という考え方としては現場に即したものであるため、今後は、リカレントとリスクリングの棲み分けを行い、内容を整理してブラッシュアップしていけたらよいと考える。動画での事前学習と、対面での集合演習の組み合わせ、事後の確認テストといった開催方法によって、受講する側の負担軽減も検討するとよいのではないかと考える。
- ・ プログラムの前提を整理し、もし DX に特化するのであれば、リカレントではなくリスクリングとして、プログラムを構成したらよいと考える。
- ・ DX に対応した現場実践能力の高い介護職の必要性は高いことから、事業的意義は高いと感じる。今年度の事業の課題、成果を踏まえたさらなる事業の発展に期待したい。
- ・ 介護 DX を進める上で、今回開発されたプログラムは、リカレント教育、リスクリング双方に有効であり、今後、現場と繋げ、ブラッシュアップすることで更なる進化が期待できる。また、介護人材不足解決に向けた外国人材育成の視点からも、国際社会に向けて情報発信を積極的に行ってもらいたい。

8. 総評

以上を踏まえ、本外部評価委員会において、本事業が多くの課題を残しながらも、適切に執行され、実施されたことを確認した。本事業は、コロナ禍で失業した人向けの就職・転職支援が目的であった。そのため、多くの委員が指摘している、ターゲットについては、計画立案時の状況を踏まえると、妥当ではあった。しかし、社会情勢の変化により、募集時にはミスマッチが起きてしまった。プログラムの内容自体は充実しているため、ターゲットやタイトルを再考し、これからの介護人材の育成・リスクリング等を前提としたプログラムにしていくという考えもある。スマート介護士を中心とした ICT・DX 教育に集中してもよいような受託期間であったが、就職・転職支援ということであれば、初任者研修からの受講が必要であることは当然である。また、リーダーシップやマネジメントについて学ぶことについては、受講生にとってはよかったかもしれないが、本来の目的までに到達できたかは、今後の

検討課題である。厚生労働省は、介護の生産性向上をうたっているが、介護サービスは生産性とは相反する点もある。この事業対象とした人材は、そうした世界とは別に生きる要介護者との間で、究極の対人サービス業を求められるからである。

今回のプログラムにおいては、介護業界にとどまらず、社会全体の事情を踏まえた上で ICT や DX 教育をしているため、根本的な問題がある介護業界への就業については、修了生も答えを出すことにためらったのではないか。

一方、介護業界がデジタル化しなければいけないことは明白である。介護事業におけるデジタル化のビジョンが明確に示されない過渡期の学びとしては、本プログラムは貴重な一石を投じた点において重要であったのではないか。この事業自体をさらに深化させ、プログラムを活かして、働く人を支援して、介護人材の質の向上をもって社会的地位の向上に寄与できるプログラムとなることを期待する。

様々な課題もあるが、各委員会、委員及び事務局の尽力により、既存・新規を問わず事業メンバーがネットワークされ、チームワークもよく運営されていた。多くの関係団体の協力を得られて、内容の濃い事業を展開できたと考えられる。

NPO 法人日本トラベルヘルパー（外出支援専門員）協会
会長 篠塚 恭一

VI. 本年度の振り返りと今後の展望

1. プログラム開発委員会

たくさんの方々にご協力をいただきまして、本事業のプログラム開発ならびに、現場での実証をさせていただきましたこと、感謝申し上げます。

介護福祉業界は人材不足が顕著であります。その対策として、DX化やデジタル化を推進していこうという方向性は様々なところで示されています。ただ、現状そのようなDX化やデジタル化がなかなか介護福祉現場に馴染まない状況にあり、その理由として介護福祉機器が悪いということになってしまいがちです。しかし、実はそういった介護福祉機器を使いこなすことができる人材を、なかなか育成できないといったことの方が課題としてあげられます。

リカレントやリスキリングも含めて、現在学んでいる人や、これから新たに介護業界に入ってこようとする人たちに向けて、本事業のような教育プログラムを提供できる事業は他にあまりないということを感じています。私自身も様々な事業に参画させていただいておりますが、介護福祉業界のなかの人材をいかに育てるかといったことについては、様々な講座や研修があります。そのようななかで、本事業は、他業界から介護福祉業界へ入ってくる人たちに向けて、既存のプログラムにプラスアルファした講座を提供することで、これからの介護福祉や社会に必要な知識、スキルといったものを掛け合わせた教育ができたことについて、非常に価値があったのではないかと考えています。本プログラムは、介護現場に精通している人たちが、「ここが問題だ」というところに主眼を置いて作成しました。そういう意味で、今までにない素晴らしいプログラムになっていると思います。他職種から介護に参入する際に、初任者研修や実務者研修だけを学んで現場に就職する人達を感じるような、スキルやマインドの差について抜け落ちているところについては、補完できる構成になっていると感じています。介護に関わらず、DXやITはどの分野でも必要になってくるため、これを契機にそういったことを広めていけたらよいと思います。

ただ、もう少しプロモーションを改善したほうがよいという指摘が受講生からもありました。広報やプロモーションは介護福祉業界の苦手としているところです。今後は、介護福祉業界の中の情報や、本事業のような新しい教育のあり方など、現在介護業界にいる人にも、これから入ってくる人にも、伝えていくことが必要であると考えています。コロナ禍ということもあり、期間が非常に短かったといったなかではよくできたと思いますが、こういった事業や教育というものをここで止めることなく、これからどんどん進めていきたいと考えています。本プログラムをブラッシュアップしていくことによって、さらによりプログラムにできるよう、今後も皆さまのご協力賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人善光会 理事 C00
プログラム開発委員会 委員長 宮本 隆史

2. 実証委員会

多くの皆さまにご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

ご存知の通り、日本では介護を必要とする人は増えていきますが、介護の担い手は不足していくという状況でございます。そのなかで、我々は介護が必要な人に、必要な介護を、必要なだけ提供できるような社会を実現していかなければなりません。職員の採用がうまくいっている介護事業所では手厚い介護が提供できるけれども、職員の採用がうまくいっていない介護事業所では手厚い介護が提供できないといった社会になってしまうと、同じような生活をしてきた人が、同じレベルの介護を受けることができないといった状況となってしまいます。

介護現場では、どうしても排泄・入浴・食事といった三大介護や、介護記録に追われてしまって、介護の一番の醍醐味をなかなか体験できない状況もあります。介護の講義の基礎的な部分は、DX が推進される前の常識で行われていることがほとんどであり、介護の講習で習ったことを実践しようとする、介護ロボットは必要ない場合が多いのが現状です。スマート介護士などにより、様々な考え方が入ってきたことで、介護ロボットの導入は増えていますが、実際は一人でやるより二人の方が早いという理由で、介護ロボットを使おうとしない場合も多くみられます。また、介護ロボット自体に汎用性がないため、一つのロボットで、できることが一つしかないということもあり、何かを継続してやろうとすると、介護ロボットを変えないといけないということもあります。

介護ロボットの推進は避けて通れない状況を踏まえると、既存の介護教育のプログラムも組み替える必要があるのではないかと思います。初任者研修のなかでも、介護過程やリスクマネジメントの授業がそこまで深く行われていないことや、介護ロボットの授業についてもほぼ行われていない状況があります。我々も介護ロボットを使いこなせるように、自分たちの仕事自体も変革していかないといけないのではないのでしょうか。そのためには、介護過程の展開というようなプログラム自体も、常識を変えていく必要性を感じます。

他業界から入ってくる方が、デジタルリテラシーを持って入ってきてくれることによって、ICT や介護ロボットがますます介護現場に浸透していくようになると思います。こういったプログラムをしっかりと開発をして、社会実装をすることによって、介護の担い手が増えていく社会を実現できるのではないかと思います。今回、広報の機会があまりなかったため、受講生が少なく、そのあたりをもう少ししっかりと出来ればよかったです。内容的には素晴らしいものになったのではないかと思います。本事業は、はじめの一歩としては、介護業界に大きなインパクトをもたらすものであると思います。今後も、本プログラムを続けることによって、介護業界に変革を起こせると期待しています。

三幸福社会 営業広報部 部長／東京未来大学 福祉保育専門学校 講師
実証委員会 委員長 柳沼 亮一

3. 事業責任者

本事業にご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

まず、本プログラムを企画した経緯をお話いたします。近所の居酒屋を営んでいるご夫婦の方から、2019年からのコロナ禍によって「店を閉める」という話しがございました。「家賃が払えない」、「支援金も入ってこない」ということで、困っているという状況を伺いました。そういうなかで、居酒屋を営んでいる夫婦が、他の職業で何かできることはないかということをお話していた際に、「実は介護タクシーができるのではないか」ということや、介護のことを知っていたら「介護施設で食事を提供することができるのではないか」ということを話したことが本プログラムの発端でした。

調理師資格を持っている人が、介護のことを学んだらどんな活躍ができるのだろうということや、介護と掛け合わせて、自分の好きなことを収入の糧にできないかということを考えていました。そういうことと、本研究事業がちょうど重なったことがきっかけで本事業は始まりました。居酒屋を営んでいる夫婦も、本プログラムを受講はしていましたが、ちょうどプログラムの時期が忘年会シーズンにかぶってしまったということや、こんなに景気やお客様が回復するとは思っていなかったということで、現在は中断しております。しかし、必ず時期を見て、受講して活かしていきたいという話をいただいております。

また、多種多様な人材が一番多いのが介護業界であり、外国人も活躍しておりますし、初任者研修から実務者研修、介護福祉士と、様々な方がいる業種でございます。こういった方たちに、どのようなプログラムを提供していけば効果的か、ということを整理することができるきっかけとなる研究をしたいと思っていました。以上のような経緯で、本研究事業がスタートいたしました。

実際、本プログラムを実施すると、講師や委員の皆さまから「プログラムはよかったよね」という話しはいただきました。本プログラムは、介護現場の職員に向けたプログラムとしてもよいのではないかと、という話もいただいたのですが、やはり、ターゲットや、どこで何を提供したらよいかというようなステップが、もう少しクリアになると提供しやすくなるのではないかと考えております。事業にご協力いただく先生方にお声がけをさせていただく際には、「基礎」と「基本」ということを、自分のなかで大事にしています。「基本」を教えるということは過去のデータに基づいて仕組化しやすいものではありませんが、「基礎」を教えるということは、まさに考える力や今必要な力を身につける支援といったことだと考えております。このような「基礎」を教えるということは、やはり対面でないとなかなか難しいのではないかと考えています。

今回、実践教育プログラムを作る際には、「基礎」の部分教えながら、「基本」を上乗せいただくことによって、現場に行ったとき、すぐに実践できるような教育プログラムを作っていた先生方にお声がけさせていただきました。その結果、先生方のご協力のおかげ

をもちまして、素晴らしいプログラムができたのではないかと考えております。しかし、受講者や利用者の立場から見た際に、本プログラムはどう見えるかということも考える必要がございます。今回、前向きな受講者の方にはよいプログラムですが、試しに介護福祉をやってみようかなという方にとっては、ハードルが高いプログラムになっていると思います。高校生でも、専門学校生でも、親が介護やっているから試しに介護をやってみようかなという方でも、受講しやすいレベルとはどういうものか、また、介護福祉士になる方に対してはどのようなプログラムにしていったらよいかということは、今後、プログラムを広げていくためには、課題であると考えております。

専門学校群としましては、介護福祉を学びたい学生を集めるということに非常に苦慮している状況でございます。本年度も、40数%程度しか介護福祉養成校の定員が埋まっていない状況でございます。そのなかには留学生も含まれているため、日本人で介護を学びたいという人が果たしてどの程度いるのかというくらい、大変厳しい状況になっております。そのようななかで、今回のプログラムのように、DXやICTの技術が入ってくることなどによって、自分が少し好きそうなことや興味を持てるという状況を作っていくことが重要であると思います。今回、VRを触ったこともない専門学生から、「新しいものに触れることや知らないものを知ることが、学ぶことに前向きになれるきっかけになる」ということを学びました。例えば、リストラをされてしまった人がリスタートする際に、前向きになれるようなプログラムに本プログラムがなっていけたらよいと考えています。介護で学んだことを、その人の得意なことと掛け合わせることによって、介護現場に限らず、介護福祉に関連する業界に就職できたらよいのではないかと考えています。介護ロボットを実際に自分も作ってみたいということなど、若い人たちが介護と〇〇を掛け算することによって、これやってみたいと思えるような最新のものを発信し続けることが重要だと考えます。そうすることで、学びたい学生を増やしていくこと、これがまさに介護人材不足を埋めていくということにおいて重要ではないかと思えます。そのため、このプログラムをどこでどう使っていたら効果的であるか、ということをもう一回整理をして、ブラッシュアップすることが必要です。そして、本プログラムを提供できるところに、適切に提供できるように、今後も実装化しながら研究を続けていくことが重要であると考えております。

最後に、今回、ご協力いただきました皆様に、改めて感謝申し上げます、挨拶とさせていただきますと存じます。誠にありがとうございました。

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター
事業責任者 小林 英一

資料

1. 介護の課未来の展望・プラスαで学ぶ介護の実践



介護職の
課題と
未来の展望

-  **介護の仕事とは**
できないとは何？
補足する
-  **介護職の魅力**
人生を学ぶ
喜ばれる仕事
-  **職業の未来展望**
「仕事」はなくなり、生まれる
-  **介護職の未来展望**
無くならない仕事
広がる未来技術



介護の仕事とは

- 何を「介護」するのか
- できないことは何？
- 幾つかの枠組み
- 補足する仕事

1. 学習と知識の応用
2. 一般的な課題と要求
3. コミュニケーション
4. 運動・移動
5. セルフケア
6. 家庭生活
7. 対人関係
8. 主要な生活領域
9. コミュニティライフ



介護職の魅力

- 人生を学ぶ
 - 目の前の人、人生のサンプル
 - 幸せに、人生を楽しんで全うするには・・・
 - 「人」が生きていく（存在する）「価値」
・・・消費者がいないと成立しない経済システム
- 喜ばれる仕事
 - プロしか、できない対人援助
 - 親族には「介護」はできない・・・



顧客プロフィール

- 対象となるお客様 ……変化する顧客
- «当面の顧客» (戦前世代 ⇒ 団塊の世代)
- 人生を楽しんできた人たち……楽しみ続けたいと考える人たち
 - 多様な人生を生きてきた人たち
 - 高齢社会を生きる覚悟 (準備) が出来ている人たち
- «20年後の顧客»
- 多様化する高齢者 (20年後の) 70歳代・80歳代・90歳代
・100歳代
 - 変化するアジア……高齢化が進むアジア諸国
 - 高齢化先進国の経験と理論 (知識)
- ⇒求められるエキスパート (専門家) (10年頑張ればなれる)



職業の 未来展望

- 無くなる仕事
 - 無くなった仕事を考えてみよう
 - 無くなりそうな仕事は何??
- 生まれる仕事
 - 今後生まれそうな仕事を考えてみよう
 - 高齢社会・国境なき社会・AIの発展
- オックスフォード大学の研究 (約10年前) ……
(現在ある仕事の半分は15年以内に無くなる。)





介護職の 未来展望 ① 国際編

- 無くない仕事
 - 究極の対人援助職
 - 人生・生活を「楽しむ」のを、支援する
(介護 + アルファ (色々ありそう・初めに「介護」ありき))
- 広がる未来技術
 - 介護職の職務内容の変化予測
 - 情報技術 (IT) ・ 人工知能 (AI) の活用
 - ・ 介護ロボットの活躍
- コーディネータとしての介護職への職務内容変化



介護職の 未来展望 ② 日本編

- 「介護保険」制度
 - 最低保証というプラス面 (顧客の期待とはズレ)
 - 最低保証というマイナス面 (発展が阻害される)
- 仕事として生き残るために
 - 「介護保険制度」の枠を超えて
 - 「既成概念」にこだわらず、ニーズへの対応を
 - 新たな発展の糸口が見つかる
 - 早い者勝ち・・・進む世界に遅れないために

と一緒に学べて
楽しかったです。
ありがとうございました。

川延 宗之 (かわてい もとゆき) (MOTOYUKI KAWATEI)
職業教育研究開発センター KAWATEI@KEISHIN-GROUP.JP
大妻女子大学名誉教授 (福祉教育・職業教育・研究など)



すべては、「学び」から始まる

- 1 番目 現在の問題点に気が付く
対応プランを考える
- 2 番目 出来学びの場を探す
できるだけ「深く」考える・学ぶ
- 3 番目 学びを生かして仕事 ⇒ 補完のための学習 ⇒ 仕事
に戻る ⇒ ステップアップのための学習 ⇒ 仕事に戻る

プラスαで学ぶ 介護の実践

渡邊 みどり

今日は何をするの？

現場が求める 介護福祉士とは？

根拠や気づきができる
デジタルが活用できる
実践できる

【本日のミッション】

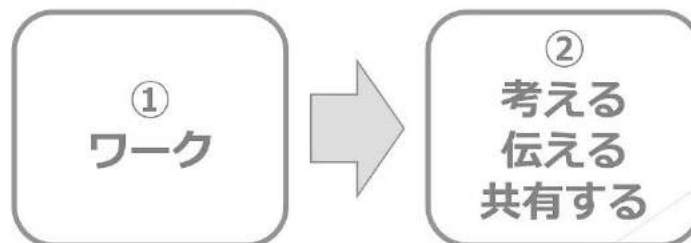


1. 自分の考えを理解してもらうための方法を考えよ！
2. 自分がしてもらいたい介助を見つけよ！

【ミッション1】



1. 自分の考えを理解してもらうための方法を考えよ！



【ミッション2】

2. 自分がしてもらいたい介助 を見つけよ！



【ミッション1】 開始

**1. 自分の考えを理解してもら
うための方法を考えよ！**

**どうすれば、自分の考えを
理解してもらえる？**

納得できる理由

説得と納得の違い

説得

こちらの考えを相手に理解して
もらうための働きかけ

納得

他人の考えを理解し認めること

新聞紙を効果的に 活用する方法を考えよう！

1日目：ワークシート②

効果的な 活用方法	なぜ 効果的なのか？	活用したら どんな効果になる？

新聞紙の効果的な 活用方法について 納得できたか？

なぜ？納得できたのか

**その説明には動機(理由)
があったから**

**物事が存在するための
動機（理由）となるもの**

根拠 = エビデンス

説得と納得の違い

説得

こちらの考えを相手に理解して
もらうための働きかけ

納得

他人の考えを理解し認めること

人は、説得されるより
納得したい生き物

私たちは、常に、相手が納得のいくよう
自分の考えを伝えることが必要！

人に寄り添う
成果を出すためには

人が納得するための根拠が必要

現場が求める
介護福祉士とは？

根拠や気づきができ実践できる

【ミッション2】

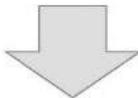
2. 自分がしてもらいたい介助 を見つけよ！



自分がしてもらいたい
介助とは？

痛くない介助
怖くない介助
自分を認めて欲しい

自分がされたい介助



どんなことが必要？

尊厳の保持
自立支援
人権

VRで 移動移乗を体験しよう



名前 : DX 太郎 さん

性別 : 男性

年齢 : 75歳

介護度 : 要介護3

既往歴 : 脳梗塞 (左片麻痺)

ADL (移乗)

: 端坐位から車いすやポータブルトイレの移乗では、健側の手で介助バーを握り座位を安定させ、膝折れに注意しながら立ち上がりを介助する。

安全な介助を行うためのポイントとは？		
ポイント項目	具体的な介助	なぜその介助が必要なのか
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	<p>なぜ？ その介助が必要 なのか？ それをしなかつ たらどんなこと が起きるか？項 目ごとに理由を 書いてみよう</p>
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側側の肩甲骨を支える ・患側側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の 利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

VRを視聴する

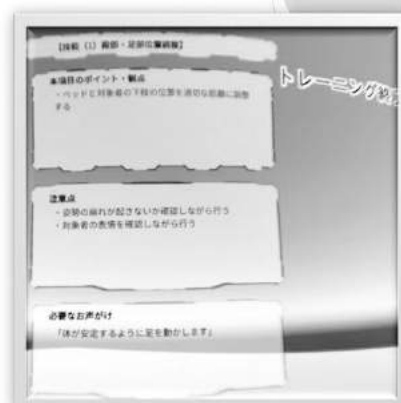
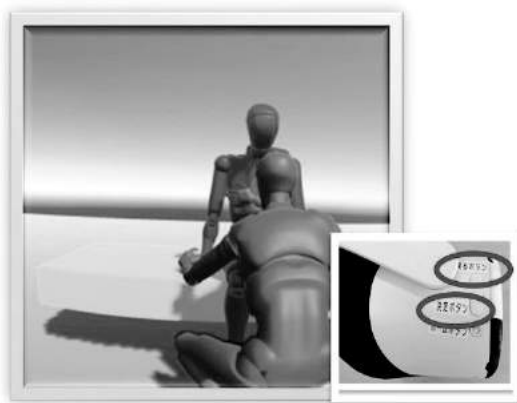


1. 目線に合わせて動く赤い点●がカーソルになります。
の文字中央に●（カーソル）を合わせ、決定ボタンを押すと次の画面に代わります。



2. 一連の流れについての動画をみます。
 (1)の項目の中央に目線●（カーソル）を合わせ、決定ボタンを押すと次の画面に代わります。

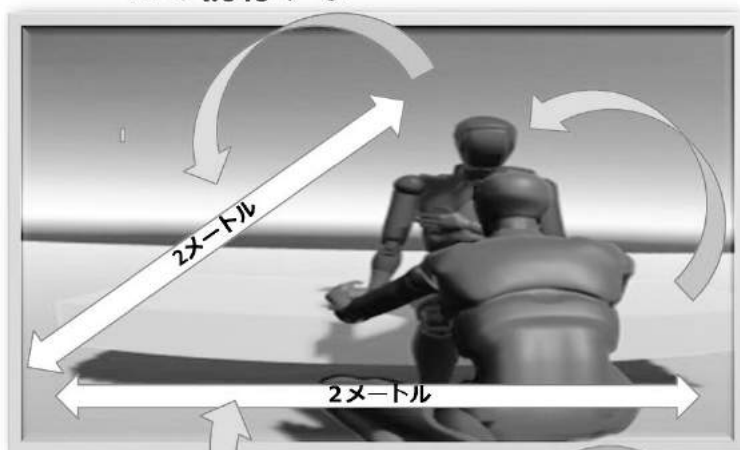
VRを視聴する



3. 決定ボタンで次の場面に進むことができます。前の場面に戻りたい場合は、戻るのボタンを押します。

4. 画面右上に各場面のポイントや注意点、必要なお声掛けが表示されます。

VRを視聴する



自分が見ている画面になります。
空間で自分が動ける範囲は、幅2メートル、奥行き2メートルになり、ベッドの周辺を360度移動しながら動作の確認をすることができます。

VRを視聴する



1. 目線に合わせて動く赤い点●がカーソルになります。
□の文字中央に●(カーソル)を合わせ、決定ボタンを押すと次の画面に代わります。



2. 一連の流れについての動画を見ます。
(1)の項目の中央に目線●(カーソル)を合わせ、決定ボタンを押すと次の画面に代わります。

【4コマ目】

安全な介助を行うためのポイントとは？		
ポイント項目	具体的な介助	なぜその介助が必要なのか
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	<p>なぜ？ その介助が必要なのか？ それをしなかったらどんなことが起きるか？項目ごとに理由を書いてみよう</p>
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側側の肩甲骨を支える ・患側側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

DX 太郎さんになった気持ちで
介助を行ってみよう



名前 : DX 太郎 さん

性別 : 男性

年齢 : 75歳

介護度 : 要介護3

既往歴 : 脳梗塞 (左片麻痺)

ADL (移乗)

: 端坐位から車いすやポータブルトイレの移乗では、健側の手で介助バーを握り座位を安定させ、膝折れに注意しながら立ち上がりを介助する。

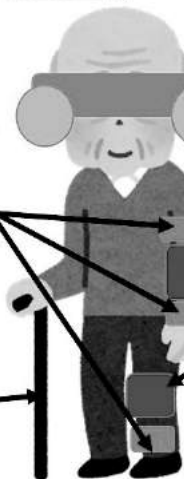
左片麻痺になる

手首・足首に
おもりをつける

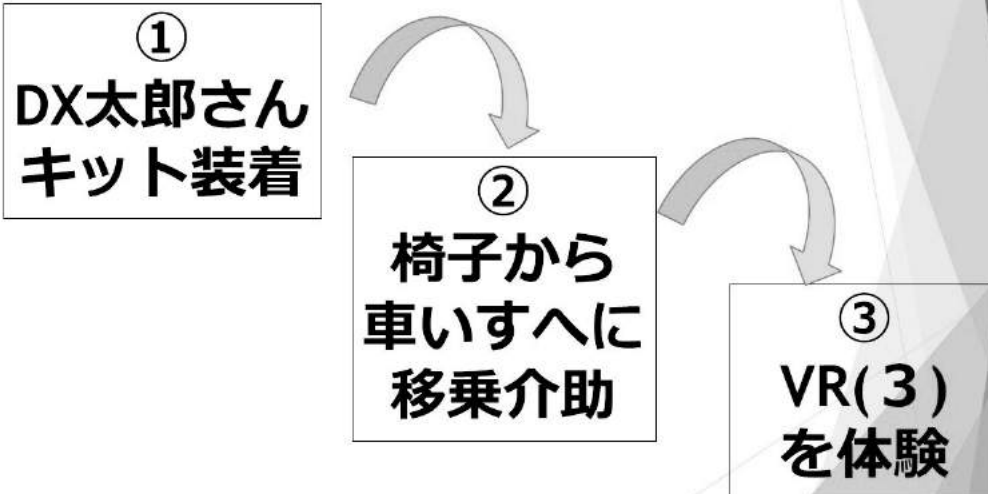
ゴーグル
ベッドフォン
をつける

ひじ・ひざの関節
にサポーターを
巻く

右手で
杖を持つ



これからの流れ



安全な介助を行うためのポイントとは？

ポイント項目	具体的な介助	なぜその介助が必要なのか
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	<p>実際に、DX太郎さんになって体験したときに感じたことで追加することを書いてみよう</p>
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側側の肩甲骨を支える ・患側側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

安全な介助を行うためのポイントとは？		
ポイント項目	具体的な介助	なぜその介助が必要なのか
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	<p>なぜ項目が この順番な のか？</p>
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側側の肩甲骨を支える ・患側側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の 利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

安全な介助を行うための介助の順序

- ① 環境
- ② 利用者の姿勢
- ③ 介助者の姿勢
- ④ 介助後の利用者の姿勢

順番通りに行うことで安心安全な介助になる

安全な介助を行うためのポイントとは？		
ポイント項目	具体的な介助	なぜその介助が必要なのか
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	<p>そのために 【重要】 ココが根拠 になる！</p>
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側側の肩甲骨を支える ・患側側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

ALIGHT 敬心学園

痛い・怖い介助
されたくない介助

×

尊厳の保持
自立支援
人権

それには、常に理由＝根拠がある

まとめ

【本日のミッション】

1. 自分の考えを理解してもら
うための方法を考えよ！
2. 自分がしてもらいたい介助
を見つけよ！

**動機（理由）づけ
をすること**

根拠 = エビデンス

**なぜ？という視点に
気づくことが大事**

**人は、説得されるより
納得したい生き物**

人に寄り添う・成果を出す

**人が納得するための
根拠が必要**

安全な介助を行うためのポイントとは？

ポイント項目	具体的な介助	なぜその介助が必要なのか
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	<p>なぜ必要 なのか 【重要】 ココが根拠 になる！</p>
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側側の肩甲骨を支える ・患側側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

安全な介助を行うための介助の順序

- ① 環境
- ② 利用者の姿勢
- ③ 介助者の姿勢
- ④ 介助後の利用者の姿勢

順番通りに行うことで安心安全な介助になる

自分がされたい介助

痛い・怖い介助
されたくない介助



尊厳の保持
自立支援
人権

それには、常に理由＝根拠がある

1. 自分の考えを理解してもらう
ための方法を考えよ！

2. 自分がしてもらいたい介助
を見つけよ！

常に根拠や気づきに基づいた
安心安全な介助ができること

現場が求める介護福祉士

**Mission
Complete**

効果的な 活用方法	なぜ 効果的なのか？	活用したら どんな効果になる？

安全な介助を行うためのポイントとは？		なぜ必要なのか
ポイント項目	具体的な介助	
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・体調確認 ・車いすの準備 ・アームサポートを跳ね上げる ・フットサポートを外す ・レッグサポートを外す 	
利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・マヒの有無はあるか ・浅座りをする ・足を開く（骨盤幅） ・足を引く ・足底が床についている 	
介助者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面積を広く取る ・健側の肩甲骨を支える ・患側の骨盤を支える ・重心を低くする 	
介助の後の 利用者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗したら跳ね上げているアームサポートをつける ・深く座れているか ・フットサポート、レッグサポートを取り付ける ・フットサポートに足をのせる ・痛み体調が悪いか確認する 	

第1日目 ミニテスト

氏名: _____

■問題①根拠=エビデンスについて正しいものを選びなさい。

解答: _____

- 1 : 根拠=エビデンスとは言い訳をすることである。
- 2 : 根拠=エビデンスとは、動機づけをすることである。
- 3 : 人に寄り添う、成果を出すためには根拠=エビデンスが必要である。
- 4 : ガイドラインがなくても手順だけあれば基本的な介護の考え方は成立する。
- 5 : 根拠=エビデンスの考え方には、なぜという考え方は必要ない。

■問題②気づきの5つのステップを行うためにはどの順番で行えばよいか下記の1～5番号を並び替えなさい。

解答: — — — —

- | |
|--|
| 1 : 発見（問題点）につながる 2 : 他人事を自分事に置き換える
3 : 人に寄り添った介護につながっていく 4 : 気づきの入り口
5 : 解決策を見つけ実行する |
|--|

■問題③安全な介助を行うためにはどの順番で行なえばよいか、下記の1～5番号を並び替えなさい。

解答: — — —

- | |
|--|
| 1 : 介助者の姿勢 2 : 介助後の利用者の姿勢 3 : 利用者の姿勢 4 : 環境整備 |
|--|

【今日の講座の感想】

--

授業展開表

初任者の振り返りを行うことで、2コマ目の介護過程の展開・リスクマネジメントに必要な考え方につながるような講義を行う。

【達成目標】

1. なぜ、根拠や気づきのある介護が必要なのがわかり、実践できる。
2. 安全な介助を行うためにはどの順番で行なえばよいかわかり、実践できる。

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
1コマ					
50分	開講式 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の目的・内容について理解する。 ・ICTの必要性について、この講座とICTのつながりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の目的・内容について理解できる。 ・自己紹介をする。 ・ICTの必要性について、この講座とICTのつながりについて理解できる。 ・スマートフォンで受講前アンケートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPTを活用し、講座の目的・内容について説明する。 ・ICTの必要性についての動画を流し、この講座とICTのつながりについて説明する。 ・受講前アンケートを行うようスマートフォンを準備しQRコードで読み取るよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT ・動画 ・PC ・プロジェクター ・QRコード ・スマートフォン
5分	休憩				
2コマ目					
90分	基調講演 川廷宗之 【介護の課未来の展望】				
50分	昼休憩				
3コマ目					
90分	講座の導入 初任者研修の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標・到達目標について理解でき、目標の達成が目指せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標や1日目の到達目標について理解し、この学習の内容について理解し実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の講座の目的・内容についてPPTを活用し説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT ・ワークシート ・ホワイトボード ・PC

			<ul style="list-style-type: none"> ・ペアまたはグループでチームを作り、ともに学ぶためのコミュニケーションを取る。 ・ペア・またはチームで新聞紙の活用方法についてまとめ発表する。 ・全体に発表し共有ができる。 ・ワークを通して、福祉または、日常には根拠が必要であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームでコミュニケーションが図れるようにゲームなどを提供する。 ・根拠に関する導入ワークとして新聞紙の活用方法についてチームで考えることを説明する。 ・なぜ、根拠が必要なのかについてのまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト <p>【留意】</p> <p>チームが仲良くなり盛り上がるゲームやテスト等を活用する。</p> <p>【留意】</p> <p>説得と納得の違いを説明する。</p>
10分	休憩				
4 コマ目					
60分	初任者研修の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自然な動きを理解する。 ・4コマ目に検討する移乗介助についてVRを活用して手順を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自然な動きと障害を持った利用者の動きの違いが理解できる。 ・VRを活用して移乗の手順が復習できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる利用者を基に、起き上がり、立ち上がり、座る、寝る動作について、高齢者の動きを行うことを説明する (モデルは左まひの一部介助が必要な利用者を設定) ・2人1組でVRを活用して移乗の手順が復習することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験グッズ ・ベッド ・車いす ・VR ・操作説明動画 ・除菌シート
	初任者研修の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な介助を行うためには何が必要か理解で 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の利用者の疑似体験を踏まえて、ワークの項目を基に、なぜ、 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのワークについて説明し、最終的に何を考えてもらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT ・高齢者疑似体験グッズ

		き、つねに安全な介助を考えながら実践することができる。	この介助が必要かをペアやグループで考え発表する。	たいのか説明する。 ・今日のまとめを説明し達成目標が達成できたかについて受講生にきく。 ・2日目の授業について説明する。 *時間があれば VR→対面での復習を行う。	・プロジェクター ・ベッド ・車椅子 ・VR ・操作説明動画 ・除菌シート
	まとめ ミニテスト	達成課題が理解できたか確認できる。	・ミニテスト・感想を書いて提出する。	ミニテスト・感想を提出することを伝える。	

2. 介護技術実践



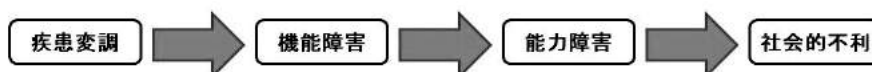
ICF (国際生活機能分類)
international classification of functioning, disability and health

- **ICFの考え方**
- ICFはWHO（世界保健機関）が2001年5月に採択した、「人間の生活機能と障害についての分類法」となります。「生活機能」とは、簡単に表現すると「生きていく上での生活全て」となります。ご飯を食べること・運動すること等、社会参加する環境・人間関係なども全て含んでいます。
- そして「障害」とは、心身機能だけでなく、コミュニケーションを取ることが難しい、周囲のサポートがない、仕事をする事ができない環境なども適用されます。
- ICFとは、各々がどのような環境や健康状態で生活（生きること）をしているかを、世界共通の分類に当てはめて認識するものとなります。ICFがあることにより、その人のおかれた状況を理解し、より良い生活を送るためのサポートに繋がると期待されます。
- ICFは教育や経済など多くの業界・分野で使用されていますが、一番使われているのが医療や介護の現場となります。

ICFの前のはICIDH

International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps

ICIDH（国際障害分類）モデル



ICFが登場する前に採用されていたモデルが「ICIDH」です。主に「障害」に焦点を当てた分類となります。障害を「心身」、「能力」、「社会参加」という3つのレベルに分類するという内容で、当時かなり斬新で画期的な分類法でした。

参考：厚生労働省ICF(国際生活機能分類) - 「生きることの全体像」(についての「共通言語」)

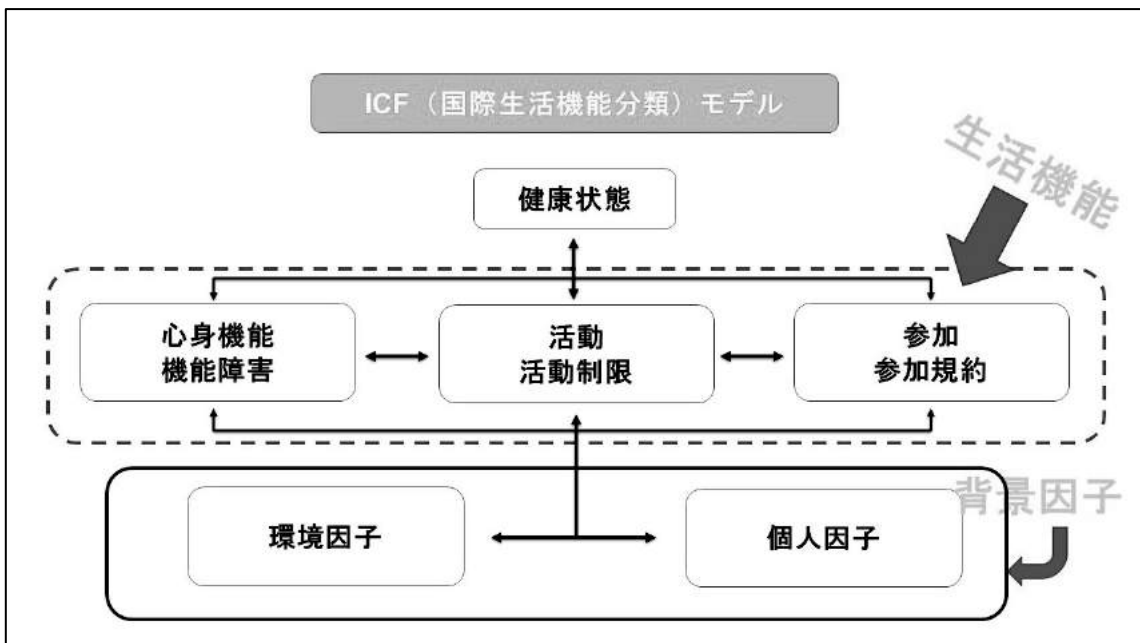
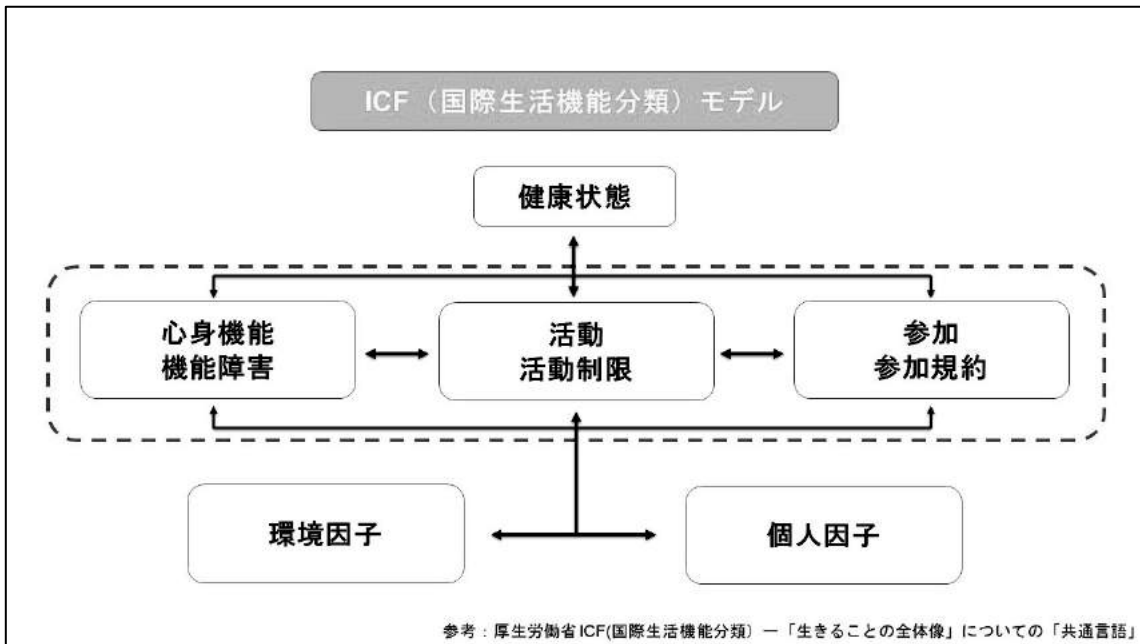
ICFの前のはICIDH

International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps

ICIDHは、画期的な分類方法でしたが、「機能障害」により「能力障害」が発生することから、社会的不利な状況に陥るという方向に進んでしまうという問題点がありました。

事例として、車椅子生活の方が買い物をする際、商店街の道路の段差やお店に入る時の段差、2階の店舗に行きたいけどエレベーターが無かったり、小さかったりバリアフリー環境やサポートしてくれる人がいないなど多くの環境要因が考えられますが、ICIDHはその人の抱える障害だけに焦点が当たり、その障害が唯一の原因と考えられてしまう危険性がありました。

そこで新しく考え出されたのがICFです。「障害」に焦点を当てるのではなく、個人の生活機能や環境因子などを含めた広い視点でプラス面に焦点を当てる様に変換したものです。



健康状態

健康状態とは、病気や変調、傷害や外傷などの広い意味での理解になります。
ストレス、妊娠、加齢、先天性異常、遺伝的素質などを含みます。病名・後遺症・合併症もこのカテゴリーです。
《具体例》
・1年前に脳梗塞を発症。(何があったか？何が原因か？大事な部分)
・高血圧症
・白血病
・脳梗塞のため後遺症が発症

生活機能は
「心身機能・身体構造」(生命レベル)・「活動」(生活レベル)、
「参加」(人生レベル)の3つに分けて理解します。

●心身機能・身体構造 (生命レベル) 英語でlifeなる。

心身機能とは、手足の動き・精神の働き、視覚や聴覚、内臓の働きなど身体系の生理的機能となります。心理的機能も含みます。

身体構造とは、心臓の一部といった器官、手足の一部といった肢体とその構成部分など、身体の解剖学的部分です。結構具体的です。

《具体例》

- ・右片麻痺(体の動き)
- ・認知機能の低下(軽度)(脳の働き)
- ・外出することが億劫になっている(心理的)

●活動（生活レベル）（英語でbody function)になる。

活動とは、課題や行為の個人による遂行のことです。

例えば、入浴や排せつ、食事や移動などの生活行為、調理や掃除などの家事行為、職業上の行為、趣味やスポーツなどの余暇活動に必要な行為、趣味、社会生活上必要な行為などです。また活動を、している活動とできる活動の2つに分けて捉えます。

《具体例》

- 外出する際は、車いすを使用している
- 見守りがあれば、杖を使って10mの歩行ができる

●参加（人生レベル）（英語でparticipation)になる。

参加とは、生活・人生場面へのかかわりのことです。

例えば、スポーツに参加する、地域組織の中で役割を果たす、文化的・政治的・宗教的などの集まりに参加する、親としての家庭内での役割、働くこと、職場での役割などです。

《例》

- デイサービスでは、レクリエーションに参加している
- 脳梗塞を発症してからは、囲碁クラブには、通わなくなった

(2) 背景因子

背景因子は「環境因子」と「個人因子」の2つにわけて考えます。

●環境因子 (Environmental factors)

環境因子とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境・人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことです。
環境因子には、次の2つの異なるレベルに分けて整理されます。

・個人的レベル

家庭や職場、学校などの場面を含む個人にとって身近な環境、人が直接接触するような物的・物質的な環境や家族、知人、仲間、よく知らない人など他社との直接的な接触を含みます。

・社会的レベル

就労環境、地域活動、政府機関、コミュニケーションと交通のサービス、非公式な社会ネットワーク、法律、規程、規則、人々の態度、イデオロギーなどに関連する組織やサービスを含みます。

《具体例》

- ・半年前に家をバリアフリー化・オール電化を取り入れた。
- ・デイサービスを利用している。
- ・娘夫婦が近所に住んでいて、援助を受けることができる

●個人因子(Personal Factors)

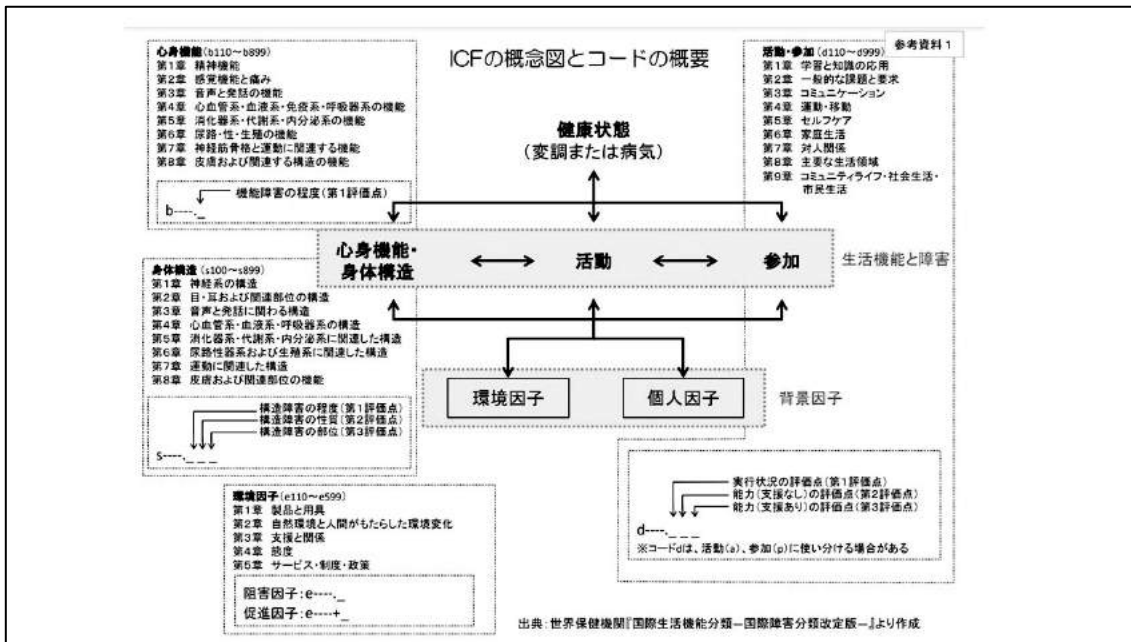
・個人因子

個人因子とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなります。

例えば、性別、人種、年齢、学歴、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難への対処方法、社会的背景、教育歴、職業、過去および現在の経験、全体的な行動様式、性格、個人の心理的資質、その他の特質などです。

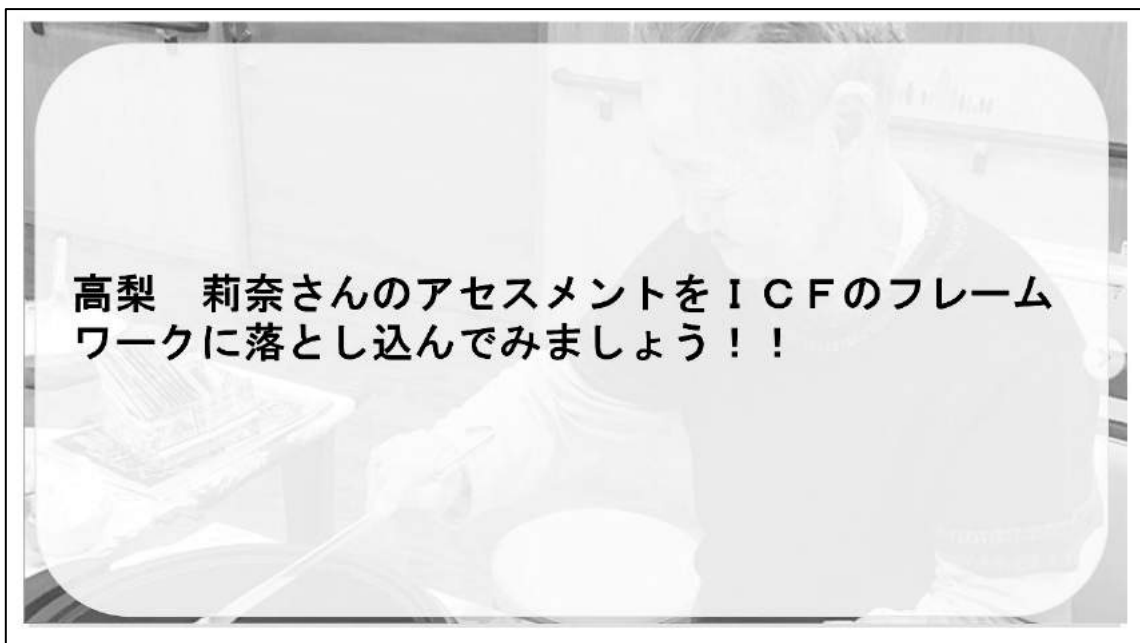
《具体例》

- ・98歳、男性。妻(88歳)と二人暮らしで、近隣に息子夫婦が住んでいる。
- ・50年間、自営で家電製品店を営んできた。
- ・趣味は、将棋・麻雀



氏名：高梨 莉奈 ①年齢：98歳 性別：女 ②2ヶ月前に脳梗塞で倒れてしまった。その際、左大腿骨骨頭骨折もしている。その際の後遺症で③左上下肢に麻痺が生じている。④現在は介護老人保健施設へ入居し⑤在宅復帰に向けリハビリを行っている。また、⑥車椅子は自走であり、⑦排せつに関しては、自力で行っているが、⑧居室内にポータブルトイレを設置し使用している。⑨自宅では、夫と2人暮らし⑩最近夫も腰痛が酷く通院ししており、重いものなどの移動も難しいため、奥様の介護も難しいと考えられる。在宅復帰後の⑪通院等は、近隣に住んでいる息子夫婦がフォローする予定である。⑫趣味は茶道、華道。共に師範であり脳梗塞で倒れるまでは教室を経営していた。

⑬本人の思いは「最後を迎える日まで夫と添い遂げたい。」という思いが強く、施設への入居は考えていない。





介護過程の展開

介護サービスを提供する際の土台となる根拠

介護過程の展開とは！

- 利用者が望む生活を実現するために必要な思考。
- 生活に寄り添い共に進むための科学的思考と実践のプロセス



介護過程の展開とはⅡ

- 介護実践の根拠となるものであり、生活支援を行う上で「個別ケア」の方向性や具体的な介護方法を示すものである。



介護過程の展開とはⅢ

- 個々の利用者に寄り添い、それぞれが自分らしく日々の生活を営むための介護支援を作り上げるために、必要な過程である。



わかりやすく言うと

- 介護過程とは、個人が個人として日々当たり前の生活を送るために、障壁となる生活の課題を解決するための、科学的根拠に基づいたプロセスである。

※生活の課題とは・・・

今まで可能だったこと、出来ていたことが困難になったり、自分の望むことが実現することが出来なくなること。

〇〇をするのに支障が出て来た・・・

介護過程を理解する事とは・・・

- 介護の展開というプロセスを踏んで介護サービスを提供するということは、利用者の身体状況・精神状況・生活背景に合わせた質の高い支援を行うことが可能である。

- つまり、個々の状況を総合的にしっかりと理解し、プランの立案を行う事で「質の高い個別ケア」の実践に繋がり、更には「QOLの向上」にも繋がる。

介護過程の構成要素



アセスメント→介護計画の立案→実施→評価この5つが常に回りながら見直されていきます。身体状況・精神状況・生活背景など流動性の高い情報をしっかりキャッチし都度状況にマッチングしたサービスを提供できるようにします。

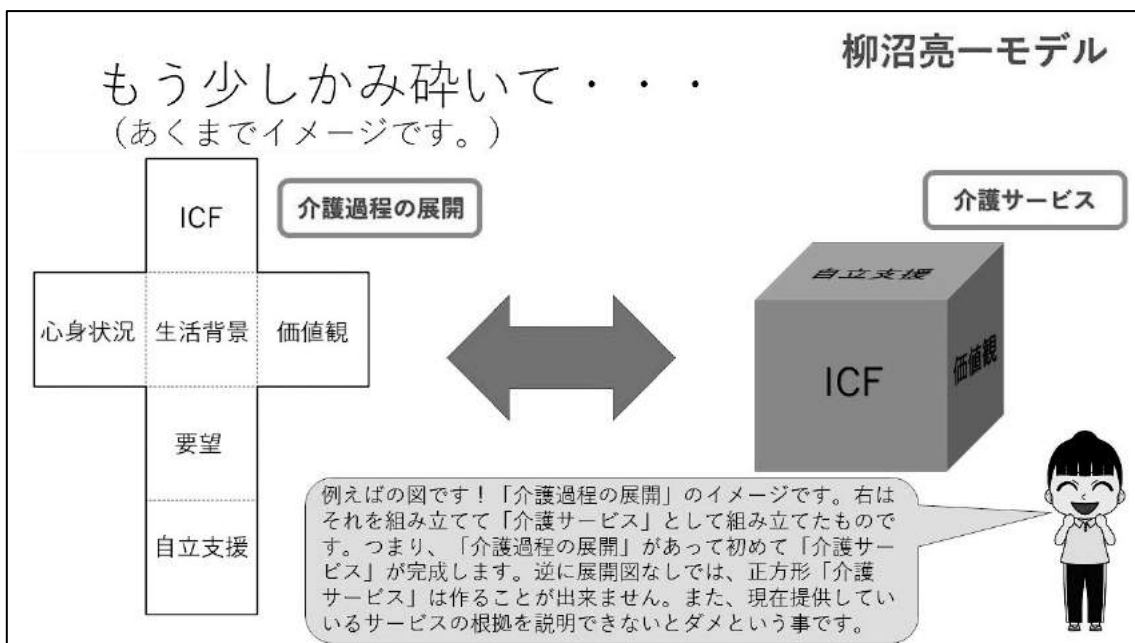
私たちが提供している「もの」は？

- 私たちが提供する「介護サービス」は「物」ではありません。なので、「形」としては存在しません。
- 「物」はモデルチェンジをしたり「進化」もします。
- 壊れていれば、修理が出来ます。



私たちが提供している「もの」は？

- 私たちの提供する「介護サービス」は、「形」として存在していません。それを形として捉えて個々に適応するように構築し「介護として提供可能にするため」に科学的根拠に基づいて、フレームワークに落とし込みます。



介護過程の展開無き介護サービス

- 「介護過程の展開」の無い介護サービスは、「場当たりの介護」となっている。
- 「介護過程の展開」というプロセスをしっかりと理解し、それを立体的に組み立てることで「個別ケア」の形が見えてくる。

Professionalの仕事

高い品質の商品を継続的に提供することが可能



農家の野菜は商品となりえる質の高いものを継続的に且つ、大量に提供し続けることが前提である。過家庭菜園は、自分が食べたり、近所に譲ったりするものを作り、品質にバラツキがあっても問題ない。



Professionalの仕事

- 質の高い野菜を作るには、植える季節（タイミング）・種から育成・土壌の管理・温度管理・雑草の管理・肥料の配合・収穫のタイミング・出荷等、多くの知識・過程が必要となります。
- 学術的な内容を踏まえエビデンス（根拠）に基づき野菜の育成を行います。



- 介護サービスも質の高い介護サービスを提供するために、学術的な内容を踏まえエビデンス（根拠）に基づいて行動します。

Professionalの仕事

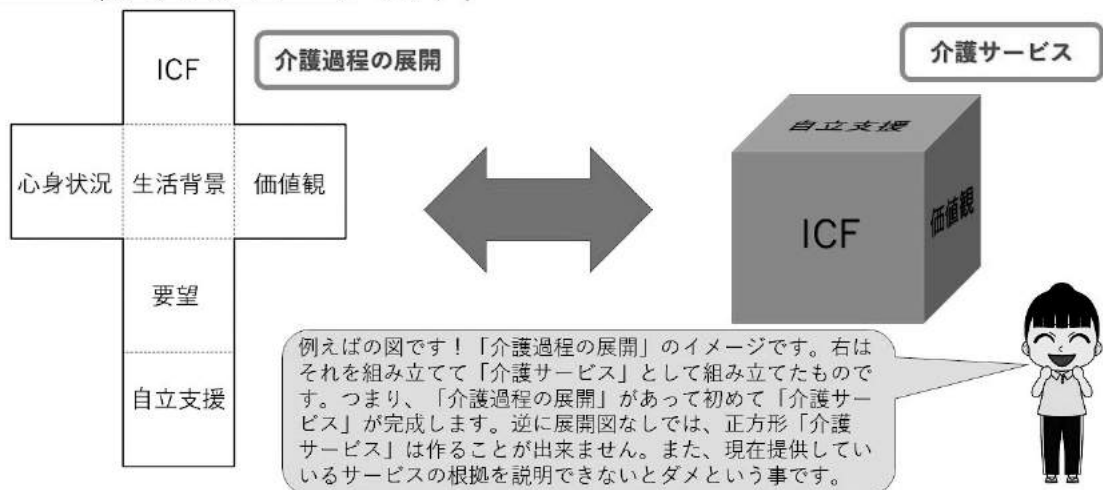
場当たりに商品を作り提供しているという事は、プロではない。

professional → 施設で仕事をしている人全て

Professionalである以上、場当たりのではいけない。

なので・・・ この部分の視点が大事

もう少しかみ砕いて・・・（再度登場）
（あくまでイメージです。）



「介護過程の展開」無くして
科学的な介護の提供は難しい



介護過程を学ぶことの意味

- 今まで学んだ多く知識や技術を利用し介護過程を展開し介護計画を立案する。そして、利用者へ適切な介護サービスが提供できる能力を養う。

本人の望む生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。



ちょっと練習



日常のイベントから考える

- 石原さとみさんは、友達のみちよばさん、篠原涼子さん、橋本環奈さんの4人で旅行に行こうと考えています。情報としてどのような内容が必要でしょう。（メモ欄に記載してみよう。）

①どこに行きたいのか？

②どんな旅行がしたいか、交通手段は？

③日程はいつがいいか？

④費用の上限は？

⑤体調どうか？

必要情報（メモ欄）

①～⑤の内容を各自検討し、このメモ欄に記載してください。（基本情報となります。）

4人個々の情報（アセスメント）



石原さん

- 石原さん（66歳）は、郊外で話題性が高い場所に行きたいと考えている。
- 腰痛と膝関節痛をもっており、長い距離を歩いたりするのは厳しい。
- 自営業を営んでいるため時間は自由になる。また、経費に関しても特に気にしていない。

みちよばさん

- みちよばさん（77歳）は、食べることが大好き！特に鮮魚を楽しみしている。
- 身体的には、健康体である。元陸上選手
- 年金生活で、費用は少し押さえたいと考えている。

篠原さん

- 篠原さん（73歳）は、温泉に浸かりゆっくりすることが今回の旅行の趣旨。
- 頸椎ヘルニアを持っており、首と首の周辺（左側）
- マンションなど賃貸経営しており、費用面は心配ない。
- かなり短気で頑固な性格である。

橋本さん

- 橋本さん（68歳）は、三内丸山遺跡に行きたい。と強く思っている。
- 脊柱管狭窄症があり、長時間の歩行は難しい。（生活には支障が無い程度）
- 仕事はしていないが、経費に問題は無し。
- 肉が凄く嫌い。

石原さん

- 石原さん（66歳）は、郊外で話題性が高い場所に行きたいと考えている。
- 腰痛と膝関節痛をもっており、長い距離を歩いたりするのは厳しい。
- 自営業を営んでいるため時間は自由になる。また、経費に関しても特に気にしていない。

みちよばさん

- みちよばさん（77歳）は、食べることが大好き！特に鮮魚を楽しみしている。
- 身体的には、健康体である。元陸上選手
- 年金生活で、費用は少し押さえたいと考えている。

篠原さん

- 篠原さん（73歳）は、温泉に浸かりゆっくりすることが今回の旅行の趣旨。
- 頸椎ヘルニアを持っており、首と首の周辺（左側）
- マンションなど賃貸経営しており、費用面は心配ない。
- かなり短気で頑固な性格である。

橋本さん

- 橋本さん（68歳）は、三内丸山遺跡に行きたい。と強く思っている。
- 脊柱管狭窄症があり、長時間の歩行は難しい。（生活には支障が無い程度）
- 仕事はしていないが、経費に問題は無し。
- 肉が凄く嫌い。

計画立案をする際の必要情報

- 今回の旅行は「青森」に決定。三内丸山遺跡
- 東京駅から
- 遺跡までは、2キロ程度なので町の散策も兼ねて歩く予定だが膝、腰に痛みがあればタクシーを利用。
- 石原さん、橋本さんは、膝痛・腰痛があるので症状がでたら休憩所で待機
- 初日の夜は皆で温泉でゆっくりする
- 食事は、魚介中心でラストは寿司
- お土産は3日目に時間を取りゆっくり選ぶ
- 遺跡から旅館までは、旅館の送迎車がある

祝！世界文化遺産
北海道・北東北の縄文遺跡群

青森の旅
(秘湯・鮮魚満喫コース)

3泊4日

貴方の先祖も生活していたかも・・・

三内丸山遺跡へようこそ縄文のふる里

この商品は、遺跡から旅館まで送迎がついております。

Welcome to jomon village,
Sannai Maruyama Site



旅行計画の作成

- ① 4人の情報を基に旅行中に起こる可能性の高い問題点を検討して下さい。(①～⑤の状況を踏まえて解釈・関連付け統合化してみましょう。)
- ② 分析して浮き上がった問題点を更に考察して「旅行計画」に書き込んでみましょう。
- ③ 2～3人で重要な情報についてまとめて発表をします。



計画立案をする際の必要情報

- 今回の旅行は「青森」に決定。三内丸山遺跡
- 東京駅から
- 遺跡までは、2キロ程度なので町の散策も兼ねて歩く予定だが膝、腰に痛みがあればタクシーを利用。
- 石原さん、橋本さんは、膝痛・腰痛があるので症状がでたら休憩所で待機
- 初日の夜は皆で温泉でゆっくりする
- 食事は、魚介中心でラストは寿司
- お土産は3日目に時間を取りゆっくり選ぶ
- 遺跡から旅館までは、旅館の送迎車がある

テキストの神谷さん

- 第3巻 心と体のしくみ テキストP389～391を熟読して下さい。

各要介護区分と心身の状態

区分	心身の状態
自立	日常生活に支援や見守りが必要ない。
要支援 1	基本的な日常生活動作は自分で行えるが、一部動作に見守りや手助けが必要。
要支援 2	筋力が衰え、歩行・立ち上がりが不安定。介護が必要になる可能性が高い。
要介護 1	日常生活や立ち上がり、歩行に一部介助が必要 。認知機能低下が少しみられる。
要介護 2	要介護 1 よりも日常生活動作にケアが必要で、認知機能の低下がみられる。
要介護 3	日常生活動作に全体的な介助が必要で、立ち上がりや歩行には杖・歩行器・車いすを使用している状態。認知機能が低下し、見守りも必要になる。
要介護 4	要介護 3 以上に生活上のあらゆる場面で介助が必要。 思考力や理解力も著しい低下がみられる 。
要介護 5	日常生活全体で介助を必要とし、コミュニケーションを取るのも難しい状態。

要介護認定等基準時間の内訳

区分	介護にかかる時間
要支援 1	25分以上32分未満
要支援 2	32分以上50分未満
要介護 1	
要介護 2	50分以上70分未満
要介護 3	70分以上90分未満
要介護 4	90分以上110分未満
要介護 5	110分以上

神谷さんのフェイスシートを
作ってみよう！

第2日目 ミニテスト

氏名: _____

■問題①介護過程の展開に関して下記の語群より正しいもの2つを選んでください。

解答: _____

- 1 : 介護過程の展開とは、決められたケアを行うことである。
- 2 : 入居者の状況を確認し、場当たりの行うことである。
- 3 : 利用者が望む生活を送るうえで必要な思考である。
- 4 : 介護とは、場当たりに提供されるものではない。
- 5 : 「介護」には決まった型がありそれを理解し提供するものである。

■問題②ICFについて下記の語群より正しいものを1つを選んでください。

解答: _____

- 1 : ICFとは、個人の持つ障がいを目を向け分類を行った手法である。
- 2 : ICIDHとは、全てに対してポジティブに取り組むことを推奨している思考である。
- 3 : ICFがあることにより、その人のおかれた状況を理解し、より良い生活を送るためのサポートに繋がれると期待されます。
- 4 : 個人因子と環境因子に大きな関係性は存在せず、独立している関係にある。
- 5 : 活動とは人生レベルである。

■問題③介護過程の構成要素に関して正しい順番に並べてください。

解答: _ _ _ _

1 : アセスメント 2 : 情報収集 3 : 実施 4 : 介護計画の立案 5 : 評価

【今日の講座の感想】

計画立案をする際の必要情報

- 今回の旅行は「青森」に決定。三内丸山遺跡
- 東京駅から
- 遺跡までは、2キロ程度なので町の散策も兼ねて歩く予定だが膝、腰に痛みがあればタクシーを利用。
- 石原さん、橋本さんは、膝痛・腰痛があるので症状がでたら休憩所で待機
- 初日の夜は皆で温泉でゆっくりする
- 食事は、魚介中心でラストは寿司
- お土産は3日目に時間を取りゆっくりに選ぶ
- 遺跡から旅館までは、旅館の送迎車がある

情報の解釈・関連づけ・統合化用紙

<p>旅行計画 4人それぞれ の情報の 項目</p> <p>①</p>	<p>旅行計画4人それぞれの情報を解釈・関連づけ・ 統合化する（～ではないか）</p>	<p>情報を解釈・関連づけ統合化して見えて来た旅行 課題（～という事から）（旅行提案）</p>	<p>楽しい旅行にするた めに解決しなければ ならない優先順位</p>
---	---	---	---

旅行計画

作成者氏名

旅行大項目

旅行計画

旅行課題を解決した状態 中目標 (～出来る)	中目標を解決するための 小目標 (中目標を叶えるための目標) (～する)	旅行の手助け	手助けの具体的方法	手助けの 頻度	手助けの評価

健康状態

病気・けが ストレス 高齢など広い意味

心身機能・身体構造

心と体の働き 肉体レベル

活動

日常生活動作 (ADL・IADL)
生活レベル

参加

仕事・役割など社会参加
人生レベル

環境因子

建物 制度 自分以外の人 制度

個人因子

その人個人の情報・趣向・考え方など

アセスメント・プロセスシート

情報収集	情報分析	課題抽出	目標と実施	
			具体的目標	具体的支援内容
利用者の現状を関連する情報ごと詳細に収集する	現状から考えられることを明らかにする。	情報分析の結果から、何が問題（課題）なのかまた、その課題を改善するためにすべきことを明らかにする	将来的に利用者が望む暮らしを達成するための目標を立てる	実施（サービスの提供）
端座位から車いす・ポーターバルトイレイへの以上は介助バーを使用。	<p>① 1.座位が不安定な為、介助バーの握り忘れがあると、ベッドから転落の可能性がある。</p> <p>② 1.安定した座位の確保。</p>	<p>③ 1.脳梗塞の後遺症か ④ 1.介助バーを使用する ら上下肢に麻痺があることで座位が安定し安定した座位が取り安くない。 行い、確実に介助バーを使用する。</p>	<p>・移乗時、介助バーの使用忘れが無いように習慣をつけ、安定した座位保が可能になる。</p> <p>・立位時は、少しでも下肢が安定するよう体重移動に注意するよう声掛けをする。</p>	<p>・端座位を取るたびに、介助バー使用の確認と忘れそうなどに声掛けを行う。</p>
下肢筋力の低下があり、膝折れに注意。（上下肢に麻痺あり）	<p>2.膝折れが発生し、転倒の危険性が高い。</p> <p>2.安定した立位の確保。</p>	<p>2.下肢筋力の低下課 から、立位時膝折れが 発生する。 助すること、膝折れを防ぐ。 声掛けを行いながら、協力動作を促す。</p>	<p>・立位時、患側にか ら支え、利用者の意識が患側に行くよう に「左側に体重を移動 しますよ。」と声 掛けを行う。</p>	

【講座名：介護技術実践】

授業展開表

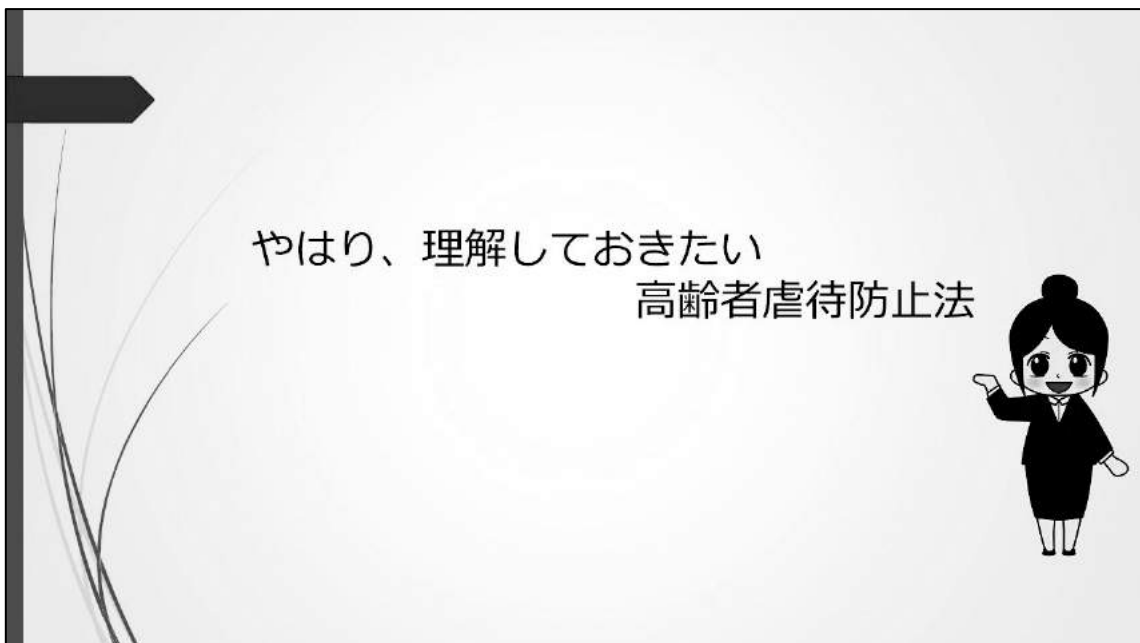
学習目標	この講座を受けることで、現場が求める力や即戦力となる力が身に付き実践できるようになる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ(チーム)で実践できる。 ② 何事にも根拠を示し解決方法を計画することができ、(チーム)で実践できる。 ③ 福祉職に必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる。 ④ 自分が活躍できる仕事についてイメージでき、それに向かって計画していく事ができる。
この講座の達成目標	・介護過程の展開が考えられ実践できる

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
90分	<ul style="list-style-type: none"> ・1 日目の講座の振り返りと本日の講義について 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 日目の講座の振り返りをする。 ・2 日目の講座の目的・内容について理解する。 ・1 日目の計画を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 日目のグループごとに着席する。 ・1、2 日目の講座がどうつながっているのか理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 日目のグループごとに着席するように指示する。 ・1 日目の振り返りをする。 ・1、2 日目の講座がどうつながっているのか説明する。 ・2 日目の課題を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> PPT 1 日目 2 日目 ・PC ・プロジェクトー ・計画書 ・ベッド ・車いす ・高齢者疑似体験グッズ
			<ul style="list-style-type: none"> ・1 日目のグループごとにベツドメイクを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 日目のグループごとにベツドメイクを行うことを指示する。 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・1日目の計画を基に、もう一度考え、実践する。 ・何故、計画することが必要なのか理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目の計画を基に、もう一度計画書の修正をし、それを基に実践することを指示する。 ・何故、計画することが必要なのか説明する。 	
10分	休憩				
90分	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開 ・ICFの考え方 ・アセスメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の必要性について理解する。 ・ICFの考え方・介護過程の展開の仕方・利用者の目標の必要性について理解する。 ・利用者の情報を基に問題点・解決策を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の必要性について理解できる。 ・ICFの考え方・介護過程の展開の仕方・利用者の目標の必要性について理解できる。 ・(ICF)に情報を整理し、グループごとに発表させる。 ・PCを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPTを活用し、今まで学んだことを含め介護過程の必要性について説明する。 ・(ICF)に情報の整理をグループですることPCを活用してまとめることを説明する。 ・グループごとに発表させる。PCを活用して、発表グループのシートを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT ・計画書 ・ベッド ・車いす ・高齢者疑似体験グッズ ・赤いペン ・初任者テキスト ・ワークシート ・(ICF付き) ・プロジェクター ・PC(グループごと)
10分	休憩				
90分	・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントで出た解決策を基に移乗の計画をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の目標の設定・移乗についての計画を立てることができきる。 ・PCを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の目標の設定・移乗についての計画をグループですることPCを活用してまとめることを説明する。 ・グループごとに発表させる。PCを活用して、発表グループ 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT ・計画書 ・ベッド ・車いす ・高齢者疑似体験グッズ ・赤いペン

			<ul style="list-style-type: none"> ・計画を基に、実践を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を基に、実践することが出来る。 ・ペアを組んで VR を活用し手順を確認する ・ベッドと車いすを活用して計画通りに実践することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーを組んで VR を活用し手順を確認する。 ・ベッドと車いすを活用して計画通りに実践することを指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者テキスト ・ワークシート (ICF 付き) ・プロジェクト ・PC (グループごと) ・VR ・除菌シート
10分	休憩					
90分	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに行えたかの評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を基に、計画通りに支援が出来たかについて評価をする。 ・気づきなどがあれば、PCを活用してまとめる。 ・グループごとに気づきを発表。 ・ベッド片付けをする ・今日の講座についての感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を基に、計画通りに支援が出来たかについて評価をする。 ・気づきなどがあれば、PCを活用してまとめることを伝える。 ・グループごとに発表させる。 ・PCを活用して、発表グループのシートを共有する。 ・ベッド片付けを指示する ・今日のまとめを説明し、達成目標が達成できたかについて受講生にさぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT ・計画書 ・ベッド ・車いす ・高齢者疑似体験グッズ ・赤いペン ・初任者テキスト ・ワークシート (ICF 付き) ・プロジェクト ・PC (グループごと) 	
	まとめ				<ul style="list-style-type: none"> ・明日の講座の説明をする。 	

3. リスクマネジメント



■ 高齢者虐待防止法による定義

- 「高齢者」
65歳以上の人。
- 「養護者」
日常的に世話をしている家族・親族・同居人などの、高齢者を現に養護している人。
- 「養介護施設従事者等」
老人福祉法・介護保険法に定める養介護施設・事業所の業務に従事。

高齢者虐待防止法の目的（H18・4施行）

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援に関する法律」

- ①「高齢者の尊厳の保持」
- ②「尊厳を妨げる」高齢者虐待を防止する。
- ③必要な措置を定める

結果的に・・・



高齢者の尊厳を守る

《緊急やむを得ない場合の3要件》

- 〇切迫性：利用者本人又は他の利用者等の生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高いこと
- 〇非代替性：身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替える介護方法がないこと
- 〇一時性：身体拘束その他の行動制限が一時的なものであること

緊急やむを得ず身体拘束を行う際の流れ・「緊急やむを得ない場合」の判断は、担当職員個人（又は数名）ではなく、施設全体で行えるように、関係者が幅広く参加したカンファレンス等で判断する体制を原則とします。・身体拘束の内容、目的、理由、時間、時間帯、期間などを高齢者本人や家族に対して十分に説明し、理解を求めることが必要です。・常に観察し、再検討し、要件に該当しなくなった場合には直ちに解除します。・身体拘束の方法・時間・心身の状況、緊急やむを得ない理由を記録することが必須です。

- 徘徊しないように、車いす、ベッドに体幹や四肢をひもで縛る
- ベッドから降りられないように、
ベット柵を4つ使用する（壁にベッドを付け柵を2本使用）
- 点滴や経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢を紐で縛る
- 点滴や経管栄養等のチューブを抜や皮膚をかきむしる等の行為をしないよに手指の機能を制限するミトン型の手袋等を付ける
- 車いす、いすからずり落ちたり、立ち上がったりにしないように、
Y字型抑制帯や腰ベルト、車いすテーブルを使用する
- 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるような環境を作る。
- 自分の意志で開けることのできない居室等に隔離する
- 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服薬させる
- 脱衣やおむつはずしを制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる

介護・世話の放棄・放任（ネグレクト）

- ・健康状態の悪化をきたすほどに水分や栄養補給を行わない
- ・医療が必要な状態にも関わらず、受診をさせない
- ・他の利用者に暴力行為を行ってしまう高齢者に対して
何ら予防的手立てをしていない等

心理的虐待

- 怒鳴る、ののしる、悪口を言う
- 排泄の失敗や食べこぼしなど老化現象やそれに伴う言動等を嘲笑する
- 侮辱を込めて、子どものように扱う
- 他の利用者に高齢者や家族の悪口等を言いふらす
- 高齢者が話しかけているのを意図的に無視する等

性的虐待

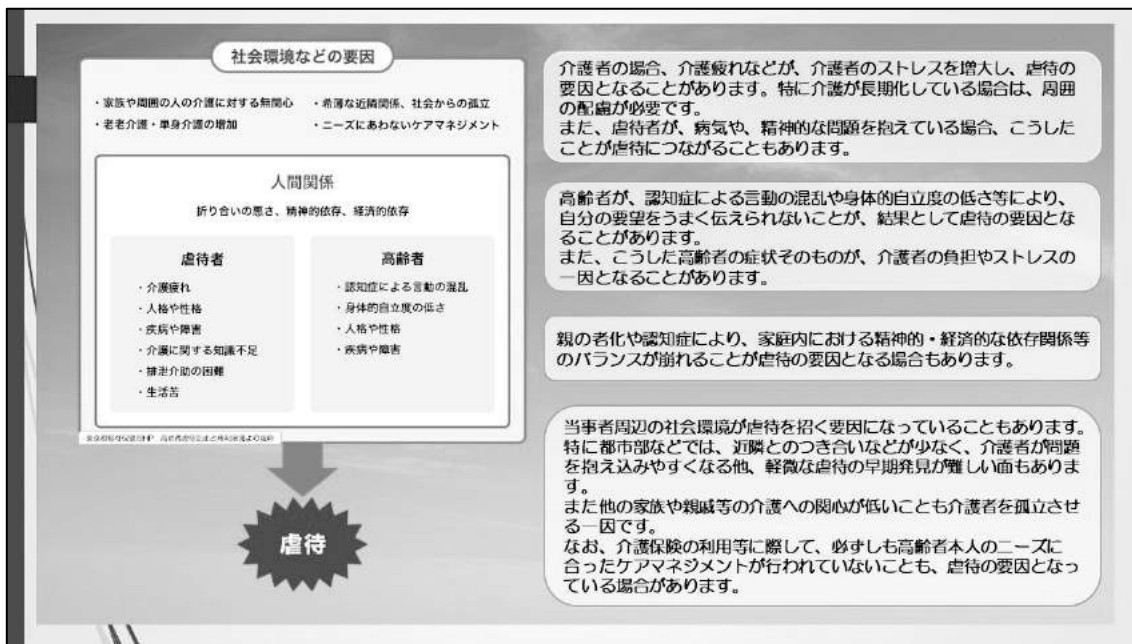
- 高齢者にわいせつな行為をする
- 排泄の失敗等に対して懲罰的に下半身を裸にして放置する
- 排泄介助（おむつ交換等）際プライバシーの配慮が全くされていない等

経済的虐待

- ・ 職員が金品を要求する
- ・ 年金や預貯金を本人の意志
- ・ 利益に反して使用する。または使わせない
本人の自宅等を本人に無断で売却する 等

養介護施設従事者等による高齢者虐待の発生の背景

- 実際は、何が原因で高齢者の虐待が発生しているか限定は出来ないと考えます。その時々状況や個々の性格にもよると考えますが次の表に示すような要因が背景として存在することが多いと考えられています。
- しかし、多くの事情が相互に関係している場合も多くあります。また、これらの要因は、直接的に虐待を生み出すということではなく放置されることでその温床となったり、いくつかの要因が作用することで虐待の発生が助長されたりすることもあります。これらの要因は高齢者虐待の問題のみならず、「不適切ケア」の背景としても捉えられるものです。



虐待の種類別に見た背景要因

括弧内の数字は%（複数回答）

	1位	2位	3位	4位	5位
身体的虐待	虐待者の介護疲れ ^{※1} (49.6)	虐待者の性格や人格 (48.5)	高齢者本人の認知症による言動の混乱 (46.5)	高齢者本人と虐待者の人間関係 (42.0)	高齢者本人の性格や人格 (36.0)
心理的虐待	虐待者の性格や人格 (55.3)	高齢者本人と虐待者の人間関係 (54.8)	高齢者本人の性格や人格 (43.5)	虐待者の介護疲れ ^{※1} (38.3)	高齢者本人の認知症による言動の混乱 (38.0)
経済的虐待	虐待者の性格や人格 (64.0)	高齢者本人と虐待者の人間関係 (55.5)	経済的困難 (47.9)	高齢者本人の性格や人格 (39.6)	経済的利害関係 (32.4)
介護・世話の放棄・放任	高齢者本人と虐待者の人間関係 ^{※2} (55.2)	虐待者の性格や人格 ^{※2} (55.0)	高齢者本人の性格や人格 ^{※2} (43.0)	配偶者や家族・親族の無関心 ^{※2} (34.6)	高齢者本人の認知症による言動の混乱 (33.0)

出典）財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構「家庭内における高齢者虐待に関する調査報告書」・2004

東京都福祉保健局HP 高齢者虐待防止と権利擁護より抜粋

気づかないうちに・・・高齢者虐待に・・・

- 意図的な虐待は、勿論考えることもなく虐待です。
- 「良くない事をしている」と気づいてるが忙しくて・・・結果的に入居者に不利益をもたらしている。「やむなく行動による不適切ケア」
- あのケアはどうなんだろう・・・と周りも気づきながらそのまま放置して放置してしまった「ほったらかしの不適切ケア」

色々な場面で発生している不適切ケア

グレーゾーンのケア（非意図的）

「緊急やむを得ない」場合以外の身体拘束

虐待へと発展

グレーゾーンのケアとは、
グレーとは何か？誰から見たグレーなのか？

自らのストレス発散方法 パーソンセンタードケア 医療に関する知識

バリデーション 認知症への正しい知識

ユマニチュード 自発的な学習

タクテール 経験の積み重ねと根拠に基づいた知識の習得

知識・経験不足による無意識の不適切ケア

適切なケアの提供
知識のupdate

時間の経過による成長

まっいいか？の中で放置された不適切ケアは自分の今後・施設の今後・利用者の今後を変えてしまう。

経験の積み重ねに依存した間違った知識の習得

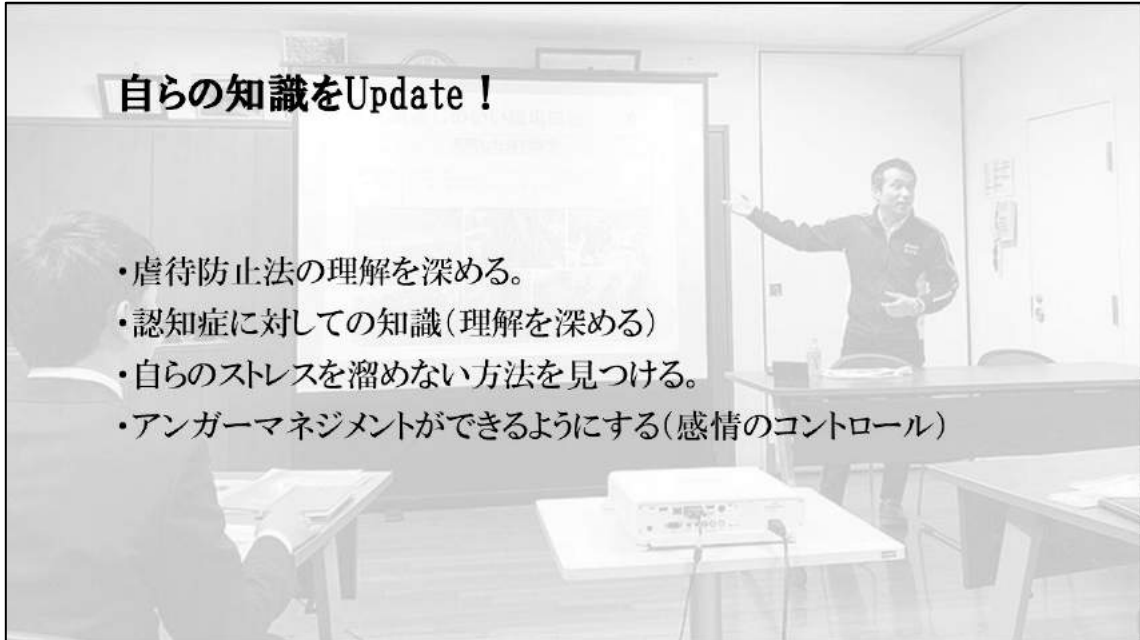
間違った知識による成長は虐待へと繋がる。

マンネリ化 根拠なき介護

受け身の知識のみ 日々時間の消化

ストレスを抱える 介護とは・・・

社会福祉法人 三幸福社会 特別養護老人ホーム 癒しの里青戸 施設長：柳沼 亮一



自らの知識をUpdate !

- ・虐待防止法や介護保険
- ・認知症に対する知識(理解を深める)
- ・自らの対応や介護の仕方を知る
- ・アンダーマインド(介護者が感情のコントロール)

認知症に対する知識(理解を深める)

《4大認知症》

- アルツハイマー型認知症
- 前頭側頭型認知症(前頭側頭葉変性症のひとつ)
- レビー小体型認知症
- 脳血管性認知症

※上記に関する知識の習得。

※知識の提供



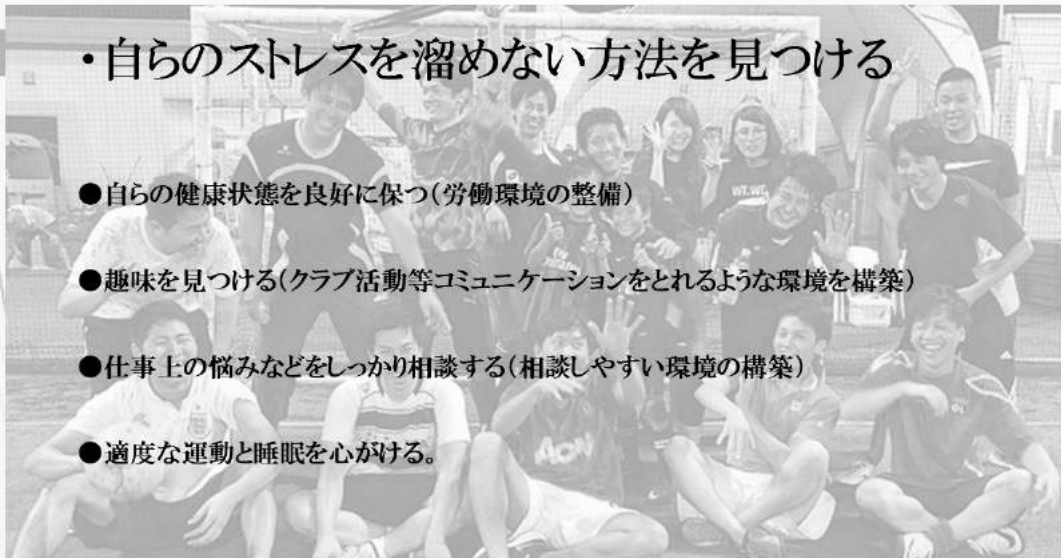
自らの知識をUpdate !

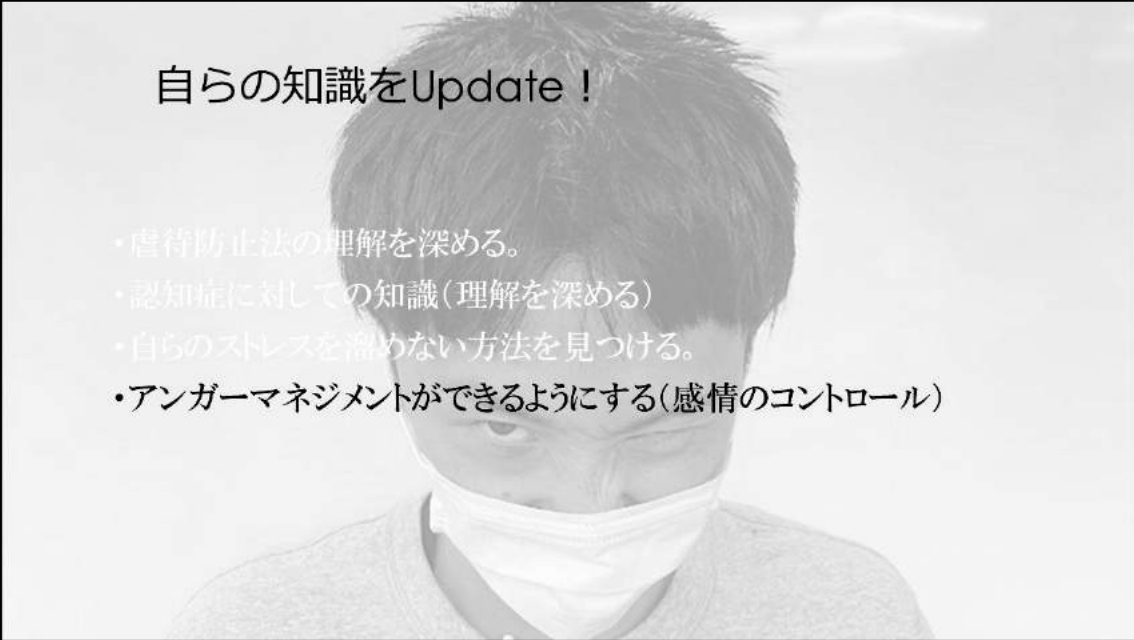


- ・虐待防止法の内容
- ・認知症に対する対応
- ・自らのストレスを溜めない方法を見つける。
- ・アンダーマネジメントによるストレスのコントロール

・自らのストレスを溜めない方法を見つける

- 自らの健康状態を良好に保つ(労働環境の整備)
- 趣味を見つける(クラブ活動等コミュニケーションをとれるような環境を構築)
- 仕事上の悩みなどをしっかり相談する(相談しやすい環境の構築)
- 適度な運動と睡眠を心がける。





自らの知識をUpdate！

- ・虐待防止法の理解を深める。
- ・認知症に対する知識(理解を深める)
- ・自らのストレスを溜めない方法を見つける。
- ・アンガーマネジメントができるようにする(感情のコントロール)



▶ アンガーマネジメントとは

物を壊したり、相手を怒鳴ったり、自分を責めたりと怒りは、攻撃的な行動を促します。怒りの攻撃的な面だけを見ると、“怒り＝良くない感情”と捉えて、抑え込まなければいけないと考えてしまいがちです。しかし、怒りにはプラスの面があります。例えば、スポーツで負けたときに悔しさや自分に対する怒りをバネにして練習をしたりと、怒りは人を動かすモチベーションとしても有効活用できるのです。そのため、アンガーマネジメントでは「怒らない」状態を目指しません。怒るべき場面では上手に怒り、怒る必要のない場面では怒らなくて済むようにトレーニングをします。怒りを区別し、自分が主体的に感情を選択できるように、一種のスキルとしてアンガーマネジメントを身に付けるのです。



➡ 6秒ルール

怒りの対処方法は「怒りに対し反射しないこと」です。そのため、自分の怒りを感じたら、まず6秒待って下さい。怒りを静めましょう。6秒で怒りが静まるか？いや怒りは完全にはなくなりません。幾分か理性的になることができる状況になります。6秒数えるとき、「1...2...3...」とカウントするだけでは効果を感じない場合は、「おこる必要性はない！」など、気持ちを落ち着けるための言葉を心の中で唱えます。何か自分なりのキーワードを作るのも良いと思います。



➡ 怒りを点数化する

6秒間のカウントの間、怒りを客観的に評価することも有効です。今までの最大の怒りを10点として10段階で怒りを評価し、今回の「怒りを点数化」します。そうすると以外に「ん？そこまで・・・」となることも多いです。その怒りが、その後に後悔に繋がる可能性も想像できると良いですね。

■ 怒りがわいたら、その場から離れる

6秒カウントルールでも怒りが収まりそうにない!そんなときは! その場から離れるのも効果があります。怒りの感情が外に出る前に、現場から移動したり、飲み物を買って外に出てみたりしてください。怒りの対象から気をそらすと、冷静になることができます。しかし、周りの状況をよく考えることが必要な手法です。

■ 「〇〇すべき」べきの価値観を捨てる

「〇〇すべき」といった理想や価値観は、大小合わせると誰もが持っています。強いほど、怒りが大きくなります。「こうあるべき」「こうするべき」はあくまで個人の理想やこだわりであることを理解しましょう! ご利用者様に対しての「べき価値観」は、非常に危険です。個人の生活背景や性格、認知症の原因等の理解をし、根拠をもとに対応することが大切です。

また、介護現場だと育ったフロアー・施設・会社で感覚が変わったりもします。また、責任者が変わっても「べきの価値観」が強いと、コミュニケーションが阻害されることがあります。

介護の現場であれば、ご利用者様にとって何が一番bestなのか建設的に話をする心構えが必要でしょう。

常識は、圧倒的多数の意見であり、正解とは限らないという概念も心のどこかがあると多角的に物事をとらえることが出来そうですね!



成年後見制度

1. 任意後見制度

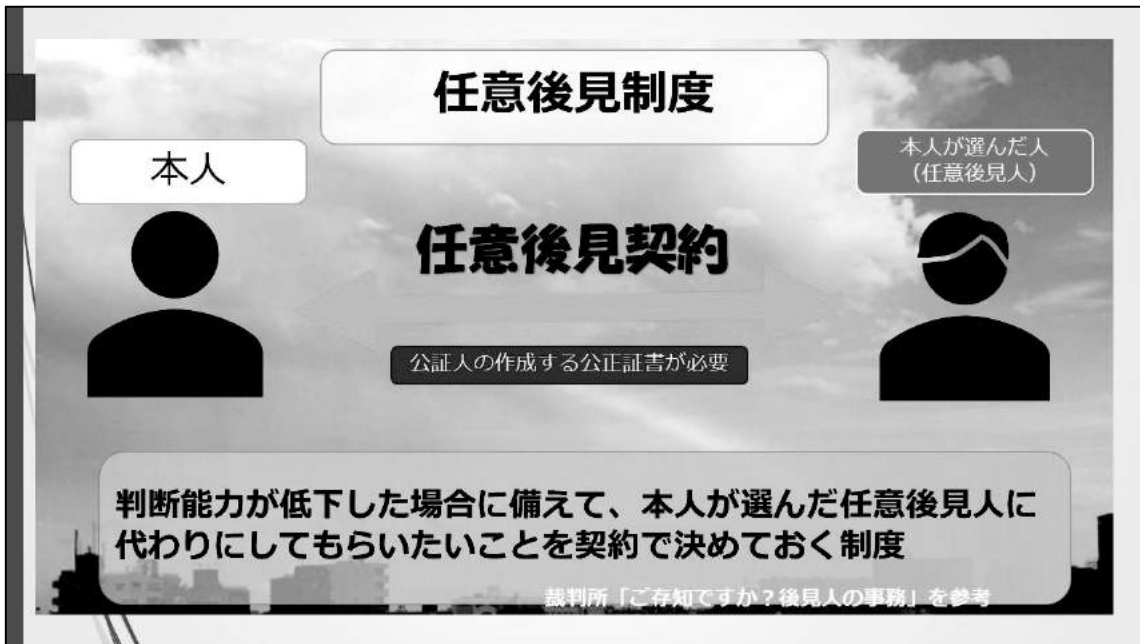
判断能力が不十分になったときに備えて、事前に「後見人になってくれる人」「どのような支援をしてもらうか」をあらかじめ契約で決めておきます。契約は公正証書により行い、本人の判断能力が不十分になったときに、家庭裁判所に任意後見監督人の選任申立てを行います。

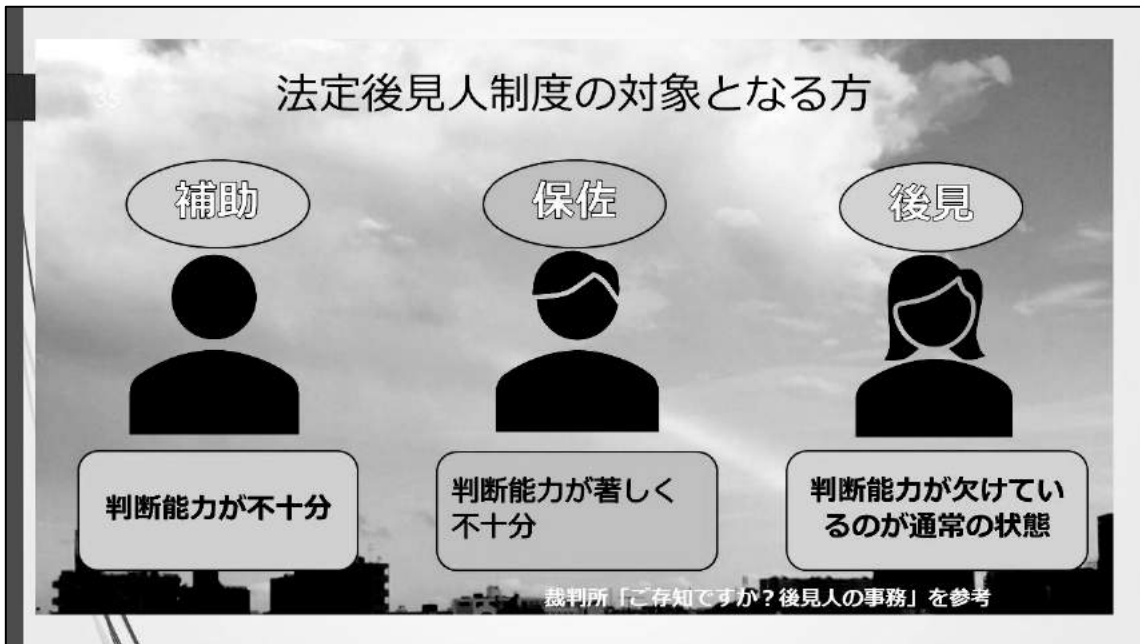
2. 法定後見制度

家庭裁判所により、本人の判断能力に応じて「成年後見人」「保佐人」「補助人」のいずれかの後見人が援助者として選任されます。制度を利用するためには、本人の住所地を管轄する家庭裁判所に審判の申立てを行う必要があります。

任意後見制度

- ▶ 本人に十分な判断能力があるうちに、判断能力が低下した場合は、あらかじめ本人自らが選んだ人（任意後見人）に、代わりにしてもらいたいことを契約（任意後見契約）で決めておく制度となります。
- ▶ 任意後見契約は、公証人の作成する公正証書によって結ぶものとされていますので、契約手続きは公証役場にて行います。
- ▶ 本人の判断能力が低下した場合に、家庭裁判所で任後見監督人が選任されて初めて任意後見契約の効力が生じます。この手続きを申し立てることが出来るのは、本人やその配偶者、四親等以内の親族、後見受任者となります。







- ### 最後に・・・
- ▶ 高齢者虐待は、「知識のUpdate」を行うことで多くの対応策を持つことになる。
 - ▶ 高齢者虐待は、誰も幸せにしない。寧ろ全員不幸になる。
 - ▶ 知識は、与えられるものではなく「自ら探し吸収するもの。」

介護現場におけるリスクマネジメント

～日常に潜む危険と介護職員の思考～

社会福祉法人 三幸福社会
柳沼 亮一

なぜ今リスクマネジメントなのか？

介護リスクマネジメントの背景

措置から契約へ

- 利用者本位のサービス内容
- 利用者個々人のニーズに沿うケア
- 尊厳の保持
- 消費者としての権利意識の芽生え

医療分野からの影響

- 医療・看護領域で行われている安止
- 医療事故防止対策の導入
- 院内の事故報告制度確立

身体拘束廃止



転倒等の介護サービス提供上起こりえるリスクの増大を招く？

激増するトラブル

高齢者施設はトラブルが多い業種

我慢・文句を言わない世代

『お世話になっている』

という意識

特別養護老人ホーム

転倒・骨折

火事・地震

喧嘩・トラブル

家族・クレーム

費用未払い

感染症蔓延

介護付きホーム

権利意識の強い世界へ…

『高いサービスを購入』

という意識

トラブル激増

リスクマネジメントの概念



リスクマネジメント



「安全管理」

人によって捉え方、取り組みの姿勢が違う



事故防止・事故発生時の対応・再発防止の
取り組みを作成

取り組みの反省と見直しを継続的に行うこと

福祉分野でのリスクマネジメントの視点

① 社会福祉法第3条の理念を基本とする。

- ・尊厳を守る
- ・良質かつ適切なサービスの提供

② 品質保証と質の改善

- ・品質保証
 - ・質の改善
- ※質の高いサービスを提供することによって
多くの事故が未然に防げる。

③ 経営者のリーダーシップ

- ・組織独自のリスクマネジメントの方針の決定
- ・委員会の設置など経営者の責任による必要なシステムの整備

5

福祉サービスにおける危機管理

(「福祉サービスにおける危機管理(リスクマネジメント)に関する取り組み指針～利用者の笑顔と満足を求めて～」2002年)

「契約に基づくサービスの利用制度のもとでは、利用者・事業者双方において、お互いの権利・義務関係が明確となり、事業者は利用者に対して契約に基づくサービスを適切に提供することが強く求められてきます。」

「福祉サービスの質の向上の必要性が高まるなか、利用者の安心や安全を確保することが福祉サービスの提供にあたっての基本であることから事故防止対策を中心とした福祉サービスにおける危機管理体制の確立が急務の課題であるといえます。」

サービスの質の向上

福祉サービスの基本

→ 利用者の安全の確保

福祉サービス分野のリスクマネジメントの目的

- ★福祉サービスを提供する課程における事故の未然防止
(事故は完全に未然防止はできないと捉える)
- ★事故を限りなくゼロにするにはどうしたらいいか
- ★もし事故が起こった場合の適切な対応…万が一にも発生した場合の対応(特に損害賠償等、法人・施設の責任問題を含む)
- ★再発防止策を講じる

具体的な事故の内容

- 身体上のけが、感染症、食中毒、健康・安全に直接影響を与える事故など⁷

介護事故の特性

- リスクは連鎖している(リンク)
- リスクは繰り返す(リピート)
- リスクは個別である(パーソナル)
- リスクは環境との摩擦である(コンフリクト)
- リスクは見えにくい



事故発生のメカニズム

米国医学研究機構

“TO ERR IS HUMAN : BUILDING A SAFER HEALTH SYSTEM”

「エラーを犯さない人間はいない、人は誰でも間違える」

- 人間の注意時間には限界がある
- 人間のバイオリズム（大脳機能が低下する**午前6時**）
- 瞬時に判断できる数は、せいぜい8個、8桁くらい
- リンゲルマン・ラタネの社会的怠慢理論
- ハインリッヒの法則（1：29：300）



9

- 遂行上のエラーと計画上のエラー

ミステイク、スリップ、ラプス、違反
計画のミス、遂行のミス、ど忘れ、意図的なルール違反

- インシデントとアクシデント
- Reasonのスイスチーズモデル（理由・根拠）
- 保守点検後の危険性



10



物事とは！

考え方の角度や個々の思考で変わる！！



物事とは！

考え方の角度や個々の思考で変わる！！2



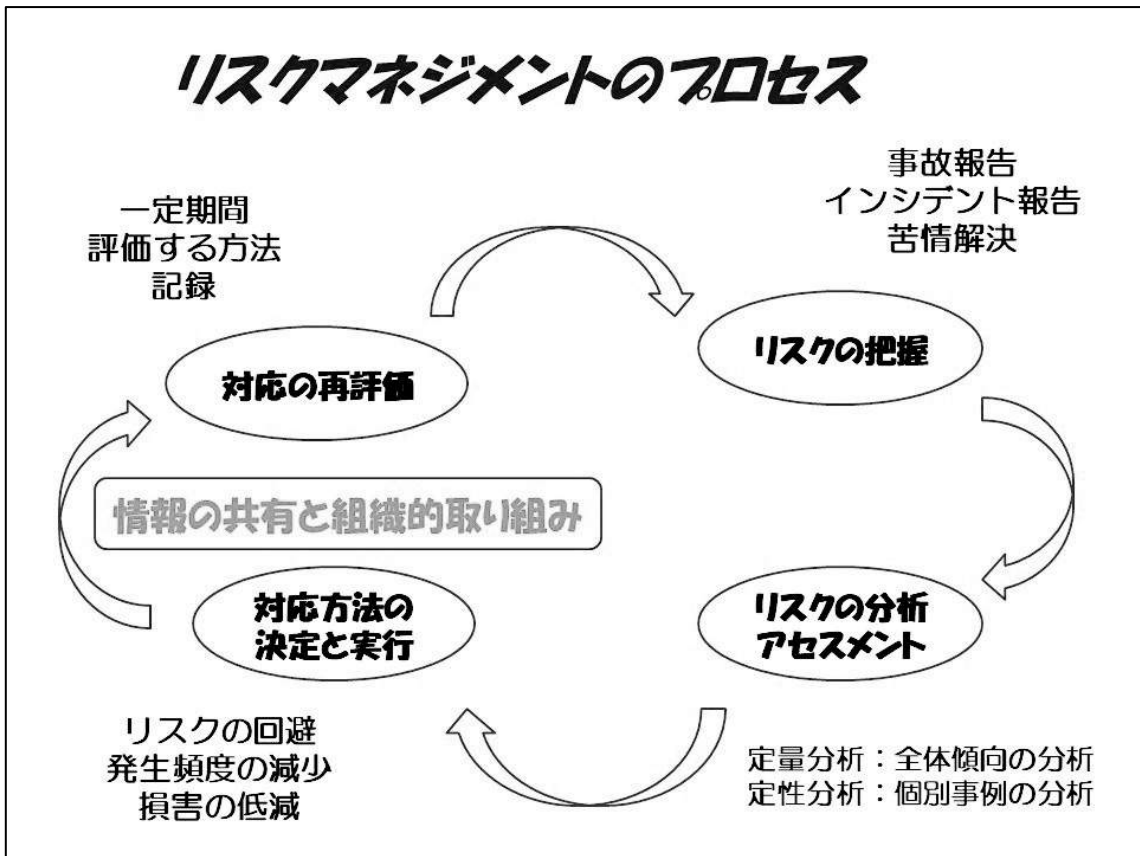
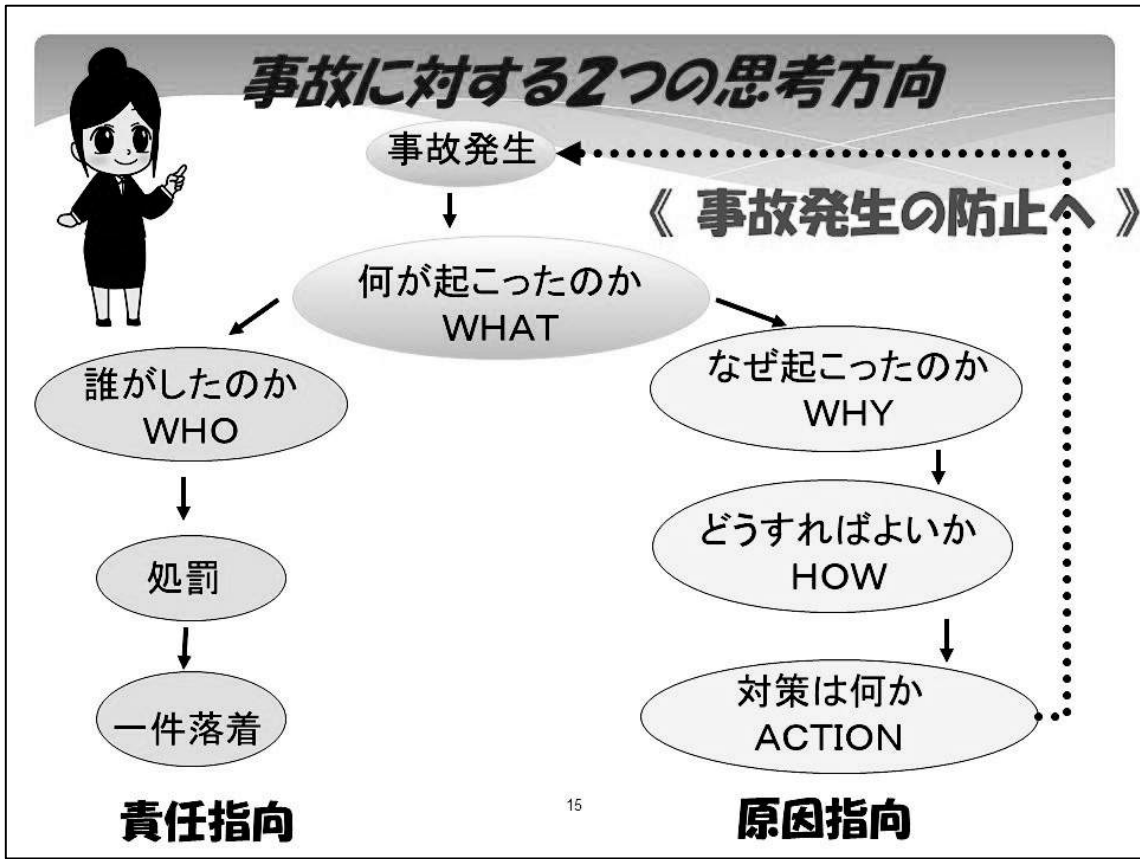
物事とは！

考え方の角度や個々の思考で変わる！！！！3



介護分野におけるリスクマネジメントの目的

- * 今後起こりそうなことを予見する
- * 発生した事故の要因を分析し、再発防止のシステムを構築する



マネジメントの基本的考え方～PDCAサイクル

Plan（計画）：従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成する。

Do（実施・実行）：計画に沿って業務を行う。

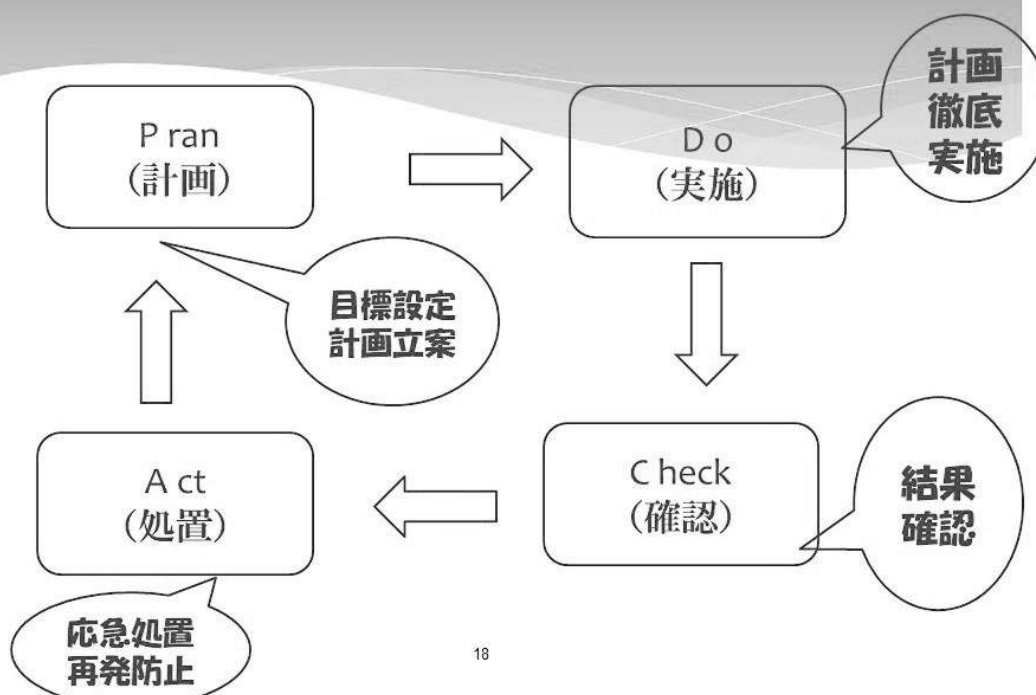
Check（点検・評価）：業務の実施が計画に沿っているかどうかを確認する。

Act（処置・改善）：実施が計画に沿っていない部分を調べて処置をする。

この4段階を順次行って1周したら、最後のActを次のPDCAサイクルにつなげ、螺旋を描くように一周ごとにサイクルを向上（スパイラルアップ、spiral up）させて、継続的な業務改善をしていく。リスクアセスメントを行うことでリスク低減を継続的に実施している。

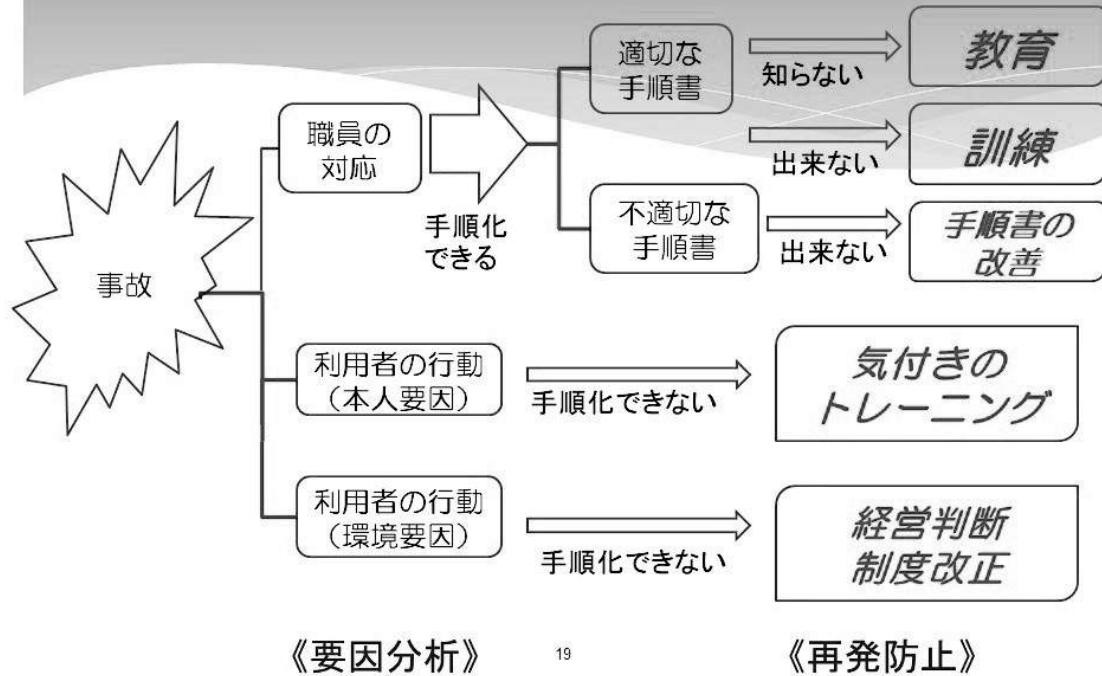
17

マネジメントの基本的考え方



18

要因分析と再発防止策



リスクマネジメントを進めるために

情報共有の原則

固定観念の払拭

責任・意志決定の明確化

重要事項説明書内容の十分な把握

犯人捜しにならない



リスクマネジメントの取り組みに当たって

◎記録の重要性

- 記録には目的がある。 ヒヤリ・ハット 事故報告書
- 事実に基づく記録

◎利用者像の的確な把握

- リスクを含めたアセスメント
- 適切なアセスメントに基づく個別援助計画

◎サービスの標準化・化学科の必要性

- マニュアル作成の必要性
何をマニュアル化するのか
⇒起こりやすい事故は特定されている！！

◎利用者・家族等とのコミュニケーション、職員間における情報の共有化

- 「言って頂く」から「聞きに伺う」へ
専門職にはなかなかモノが言いにくいということに気づく！！

21

記録の重要性

事実に基づいた記録はリスクマネジメントの視点からも重要な役割持つ。

◎マイナス面も含めて正しい記録を書くことにより信頼性は高まる。

現在の記録の取り方は万一事故が起こった場合に安全確保に配慮を行なった根拠となる記録か



22

ここで少しだけ、昨日の振り返り



23



福祉が求める
【気づき】ができる5つのステップ



24

【気づき】ができる5つのステップ

- ①他人事を自分事に置き換える
- ↓
- ②気づきの入り口
- ↓
- ③発見（問題点）につながる
- ↓
- ④解決策を見つけ実行
- ↓
- ⑤人に寄り添った介護につながっていく

25

ハインリッヒの法則



日常、ヒヤリ・ハットの状態にまでいかないが（もしくは自覚しない）、実は非常に不安全な状態や行為となると、相当な件数になるはず・・・いつもやっていることだから、今までも平気だったので・・・という不安全行為が、いつヒヤリ・ハットを飛び越え一気に重大災害になるかも知れない。

ヒヤリ/ハットとは…

重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例の発見をいう。

文字通り「突発的な事象やミスにヒヤリとしたりハットとしたりするもの」である。

ヒヤリ・ハットは結果として事故に至らなかったものであるで見過ごされてしまうことが多い。すなわち「ああよかった」と直ぐに忘れがちになってしまうものである。

重大な事故が発生した際にはその前に多くのヒヤリ・ハットが潜んでいる可能性があり、ヒヤリ・ハットの事例を集めることで重大な災害や事故を予防することができる。

なぜ、ヒヤリ/ハットを集めるのか

1.事故が起きてからでは遅い！！

だから手前で防止に取り組もう。

2.それでも事故は起きる！！

でも、めったに起きない。

だから起きてしまった事故だけでは問題は見えてこない

3.他の人も同じ失敗をしているはず！！

あなたはよくても、次の人は大事故になるかも！？だから情報を**共有**しよう

ヒヤリハットの意味

効果・・・事故の一手手前の出来事を認識することで、事故がおきる原因を把握することができ、それにより、事故を防止できる。

ヒヤリハット報告書を作成する場合は、医療の現場なのか、工場などの生産部門なのかによって、当然、必要となる項目は異なってくる。

適切なヒヤリハットの書式を作成することが大事

ヒューマンエラーを防止する10の方法

1. 声に出す（呼称確認）：視覚刺激を音声刺激に変える
2. 指をさす（指差し確認）：意識の焦点化・集中化を図る
3. 色をつける（カラーマーク）：感覚刺激を働かせる
4. 他者に見せる（ダブルチェック）
：思い込みによるエラーを確認する
5. 時間を与える：余裕をもって作業ができる
6. よく考える：じっくりと自分の記憶と照らし合わせる
7. ポスターを貼る：注意を常に誘発させる
8. 場所を変える
：物理的単純エラー、パターン認識エラーをなくす
9. 事例を調べる：当事者責任を体験できる
10. インシデント・レポートを読む：エラーの心理的不安を軽減する

演習: やってみましょう

現状把握：どんな危険が潜んでいるか???

表現は… ~なので、〇〇して、××になる

○つま先で立っているの等（「何が」「どのように」がわかるように）

×「不安定なので」「～が悪いので」等（他のメンバーが分かりにくい）

「現象」は「事故のかたち」で表現すること

○：「転倒する」「やけどする」「ぶつかる」「はさまる」等

×：「危険性がある」等の表現・・・・・・・・不要

×：事故の結果（障害の程度など）の表現・・不要

➤ **本質追求：これが危険のポイント!!!**

重要と思われる項目にチェック ⇒ 絞り込み

➤ **対策を立てる：あなたならどうしますか???**

➤ **目標設定：私たちはこうします!!!**

重点実施項目の提示

どんな危険が潜んでいるでしょうか？



『「ひやりはっと」から学ぶ、福祉用具の安全活用法』より

どんな危険が潜んでいるでしょうか？



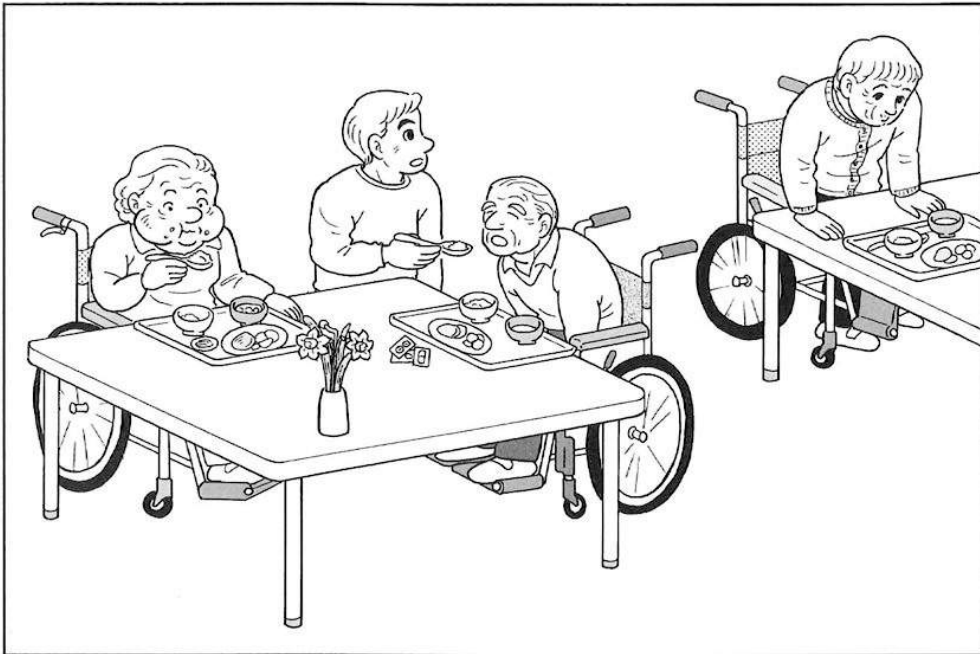
『「ひやりはっと」から学ぶ、福祉用具の安全活用法』より

**どんな危険が潜んでいるでしょうか？
あなたは浴室の洗い場で利用者の体を洗っています**



『「ひやりはっと」から学ぶ、福祉用具の安全活用法』より

どんな危険が潜んでいるでしょうか？
あなたは二人の利用者の食事介助をしています



『「ひやりはっと」から学ぶ、福祉用具の安全活用法』より

安全管理へのアプローチ

安全文化（安全を最優先事項とする組織文化）の確立



情報に立脚した文化

～正しいデータの収集と分析

1. 報告する文化
2. 公正な文化
3. 柔軟な文化
4. 学習し続ける文化



介護サービスにおける顧客満足度

利用者が日常生活を送れるように支援すること

→ 最低限のサービス【安全・安心】

利用者がその人らしい生活を送るように支援すること

→ 利用者が満足するサービス

利用者に感動・感激を与えるサービス

顧客満足が不十分な場合になにが起きるか？

37

事故と苦情の関係

・ 身体に傷がつくのが事故⇒見てわかる

・ 心に傷がつくのが苦情⇒

言ってもらわないとわからない = **苦情は**

贈り物

苦情の言いやすい環境とは・・・

①意見箱は何のために設置するのか

②「言って頂く」から「聞きに何う」へ

苦情の4類型

①質問、意見 ②希望、要望 ③請求 ④責任追及

38

事故発生時の対応

基本認識

日頃の実践がなければ適切な対応は図れないし説明や証明は出来ない。

事故対応の原則

- ①ご本人、ご家族等関係者の知りたい内容とは何かを知る。
- ②先に過失責任の有無を問題にするよりもまずは誠意ある態度で臨む
- ③速やかに対応する。
- ④組織として対応する。
- ⑤クレームを過度に恐れない。

《心しておくこと》

1. 嘘をつかない
2. 隠さない
3. 責任転嫁しない

事故対応の流れ

1) 事故の把握と家族への十分な説明

事実は出来るだけ早く確認・記録し家族に十分に説明する
迅速性・誠意ある態度で臨むほうがいい

2) 改善策の検討と実践

今後どうするのか、家族に安心してもらえるように具体的な
再発防止策を検討・実践し、家族に報告する

3) 誠意ある対応

苦情や迷惑を掛けたときには人間的な共感を持って誠意ある
対応をすることが大事
施設の責任問題、損害賠償につながることもある。

事故の発生に備えて・・・

日ごろの備えが大事！！スタッフ間の連携、連絡体制、事故後の記録
を誰がどのように記録するのか・・・など
明文化して全ての職員に周知徹底することが望まれる。

損害賠償

福祉サービス

措置



契約

福祉施設の経営者は・・・

利用者の支払った対価に見合う福祉サービスを実施する**義務（債務）**が発生する。

福祉施設のサービスに不備があった場合・・・

対価に見合ったサービスが提供されていない！！

その中でも

予見可能性（事故発生という結果を予見する可能性）

結果回避可能性（必要な防止措置をとる可能性）

41

が適切に行われていないと・・・

初期対応と連絡体制

- ・窓口の一本化 十分なコミュニケーションにより相手の本音・言い分を正確に理解する。
- ・事故に対する謝罪や事故原因の説明など、責任者がきちんと対応する
- ・介護担当者が誤った事実を説明し、謝罪したあと、責任者が異なる説明をして、責任を回避使用としたと思われて、法的手続きに及ぶ事例は多い。

最初に大事なことは・・・

相手に「耳を傾けてもらう」話し方

相手が「心をひらいてくれる」聴き方・話し方

苦情対応の基本原則

- 公平性
基本は利用者の立場に立って対応することが基本となる。
- 公正性
第3者委員という客観的かつ公正な存在が解決の方向性を正当化しうることになる。
- 迅速性
苦情を受けた際に「後で調べます。」「後で検討します。」では利用者の感情を損ねる
- 透明性
苦情を隠蔽することなくプライバシーを侵害しない形で公開するなど組織として対応する姿勢を示す。
- 応答性
苦情に対する応答、利用者からの反応をやり取りするとサービスの質の向上につながる。

質の改善の取り組みには

- ◎現場の創意工夫が活かされるような組織か
- ◎職員による気づきを重要視する組織か
- ◎すべての職員による参画が保障されているか
- ◎何でももの言えるような雰囲気があるか
- ◎トップにきちんと伝わるような組織か
- ◎犯人探しでない安心感はあるか

現場を巻き込んだ積極的な手法が必要！！

再発防止のために・・・

・ 1度起きた事故は2度起きる！！

- 1) 原因、経緯の解明をすること
- 2) 要因の検証
- 3) 必ず記録に残す
- 4) マニュアルの見直し

本人・家族の安心の為に・・・
同じ事故を繰り返さない為に・・・
サービスの質の向上の為に・・・

リスクマネジメントの視点



リスクマネジメントは、職員個々人で考えるものではなく、**事業組織の仕組みの問題**として考える

人の心の際間に潜む、 安全に対する油断、甘え

- 自分は事故を起こさない（思い込み）
- 今までだって何事もなくうまくやってきた（習慣行動）
- ルールを守っていたら間に合わない
- 面倒だから⇒手順の省略、近道反応
- 他の人だってルールを守っていない
- 監督者の目が届かない
- 自分には経験と自信がある。



私だけは

**これくらいは
(安全の三禁句)**

今回だけは

もう一度…

リスクマネジメントの基本的な考え方

- ①人は必ず事故を起こす。
(個々の努力に依存するだけでは限界がある。)
- ②組織で事故予防に取り組む。
(事故予防対策をシステムとして構築)
- ③万が一事故が起きても被害は最小限に
(事故発生後の対応次第で被害を最小限に)

ワインバーグ氏 曰く

(「コンサルタントの秘密」より)

問題は、
たとえそれがどう見えようとも
常に人間の問題である



責任者探しを始めると間
違った方向に進む

介護への次世代介護機器と ICTの導入

介護を必要とする人へ必要な介護サービスが提供できる仕組みづくり

社会福祉法人 三幸福社会
柳沼 亮一



介護×DX①

日々変化する日本の高齢社会。生産人口の減少に伴い介護業界だけでなく「全産業」で人材不足となることは、周知の事実となっている。

2025年問題に向け、多くの分野でロボット・AI・ICTの研究・実証・実用が進んでいる現在の日本ですがその高齢社会へのスピードは加速を増すばかりです。

高齢化社会は65歳以上の高齢者が全体の7%を占めた状態を言います。(1956年 昭和31年に国連の報告書で使われた表現が由来)日本では、1970年に高齢化率が7.1%を超え、高齢化社会に突入しました。

更には1995年には、高齢化率が14.6%を超え、高齢化社会から「高齢社会」(人口の14%が65歳以上)へ突入となります。

世界に類を見ないスピードでの高齢化が進む社会は、制度や社会の流れも同様に凄まじいスピードで変化していきました。社会の変動に合わせて多くの変革が必要となりました。

2020/2/27

介護×DX②

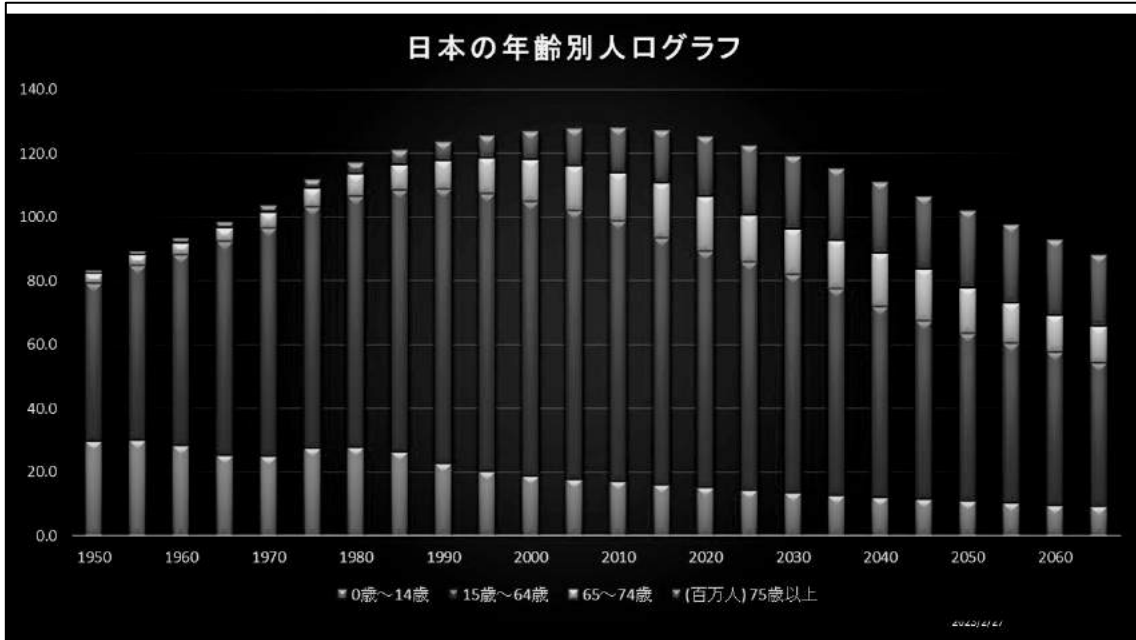
高齢社会が進んだ背景


高齢社会が進んだ背景としては、「医療の進歩」が深くかかわっていると考えられます。そしてその恩恵として平均寿命が延びたこと、食生活が豊かになり栄養状態が改善されたことなど多くの要因が考えられます。一方で、同じように色々な要因が重なり日本社会の「少子化」が急速に進んだことも高齢化率を押し上げた要因と考えられます。

結果的に「少子高齢化」という言葉があるように、少子高齢社会が日本において形成されました。

「少子高齢化」が進み乗り越えるために、多くの分野でロボット・AI・ICTの研究・実証・実用が進んでいるというのも事実です。

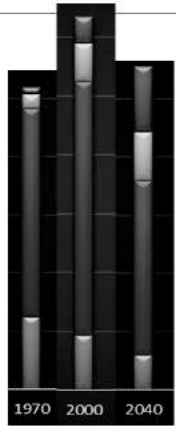
2020/2/27





介護DXは必須

1970年から2000年に向かい人口は最大に・・・
 しかし、生産人口と呼ばれる層は既に30年前
 を下回っている。
 2000年生産人口は、ほぼ最大となった日本だ
 が65歳以上の人口も増えだし、2040年の高齢
 率は40%越えと推測されている。



2020/1/27

介護需要の高まりと担い手の減少

日本の介護は、世界に輸出できるレベルと言われています。2000年に新ゴールドプランが施行され、22年という歴史の中で、多くの常識が変わり、現在は「ユニットケア」を中心とし「〇〇式ケア」など多くの概念が生まれています。それらは、「個」を大切に「人生に寄り添う」ことを目的とし、自立支援を促しています。そして、そこには「人」が数多くかかわっています。

現場では今なお「介護＝人を介して行う。」というようなイメージが強く、そこに「時間」をかけることが多く見受けられます。悪い事ではありませんが、担い手が減少し介護サービスの需要が増える未来では、そのような介護支援を成立させることは困難と考えます。

また、ご存じのように現在、福祉施設が増え続けており、多くの介護職員を必要としています。業界では採用合戦・引き抜き合戦が繰り広げられています。

「介護職員の絶対数が少ない」中で、「福祉施設の建築ラッシュ」と「介護サービスの需要の高まり」の3つが重なり、人材不足の更なる深刻化から、「介護サービスを必要としている人に必要な介護サービスが提供できない」そんな現状も発生しています。

2020/2/27

介護DXの前に・・・

介護で一番大切な事は、「人に寄り添いそして、その人の人生を肯定し、その人を受け入れること」と考えます。そこには「介護過程の展開」という概念があり、「個別ケア」を大切にしています。これが介護の基盤です。私たちの行動には全てに「エビデンス」が存在します。

そして人は誰もが、ある日・ある時間を境にし「要介護」になる可能性を持っています。核家族化が進んだこの国で、突然訪れる「家族の介護」は、その状況により「家庭に困難」を及ぼすことがあります。

私たちは、「介護サービス」を提供することで、「要介護になった方」の生活に潤いを与え、ある日「家族介護」を行う事で発生した「家庭の困難」を希望に変えることが出来ます。→大きなやりがい！！

私たち介護職は、「多く困難を希望に変える職業」です。そこには、科学的な根拠が存在します。

次世代介護機器の導入も、場当たりに導入を進めるのではなく、しっかりとした「手法」を用いて実施していきましょう。

2020/2/27

介護のやりがい・・・

介護サービスを提供するにあたり「介護職のやりがいとは何ですか？」と聞かれることが多くあります。

- ご利用様から頂ける「ありがとう」が心に響きました。
- フロアでおじいちゃん・おばあちゃんの笑顔を見ると心が落ち着きます。
- ご家族様から「〇〇さんに介護してもらって本当に感謝しています。」そんな手紙をもらった。

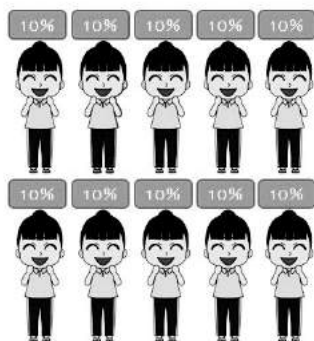
第三者からもらえる「本気の感謝の言葉」その言葉には、味わったことのない感覚を覚えます。

※しかし、もっと「大きな事実」もあります。

最初に話たように、私たちが「介護サービス」を提供することで多くの「困難を希望に変えている」という事です。

2020/2/27

施設が増えても職員は・・・



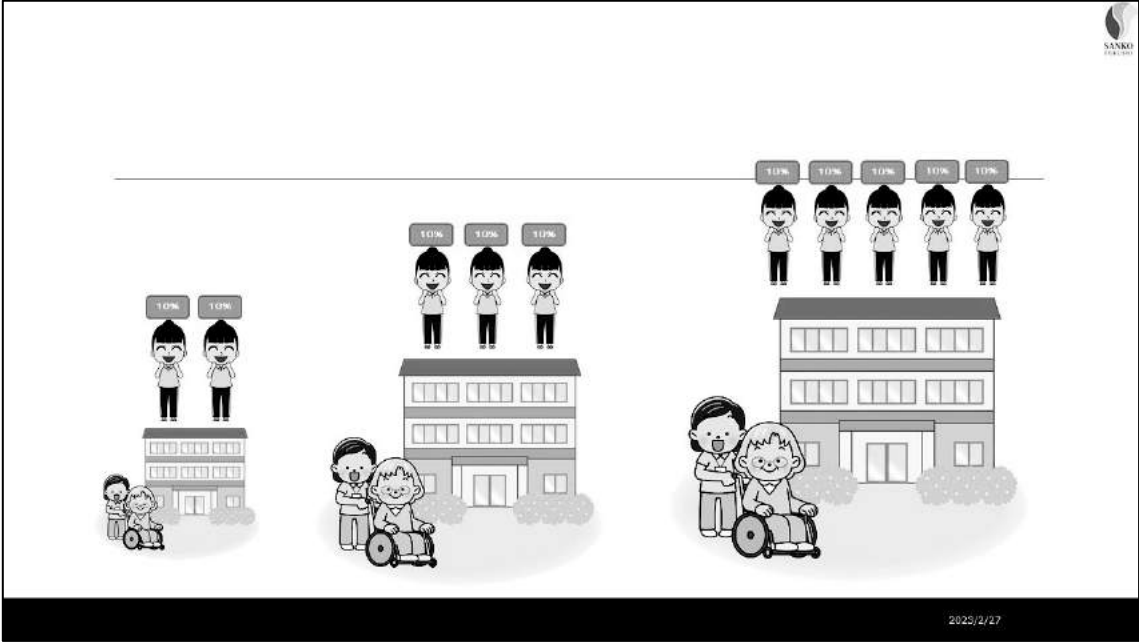
右の図は、ある地域の介護職員の総数を表します。
地域に存在し、実質的に勤務している介護職員（1人を10%）
として表現しています。

今回は、新宿区の介護職員の総数とします。
地域に施設が増えてもそこで働く職員は、簡単には増えません。

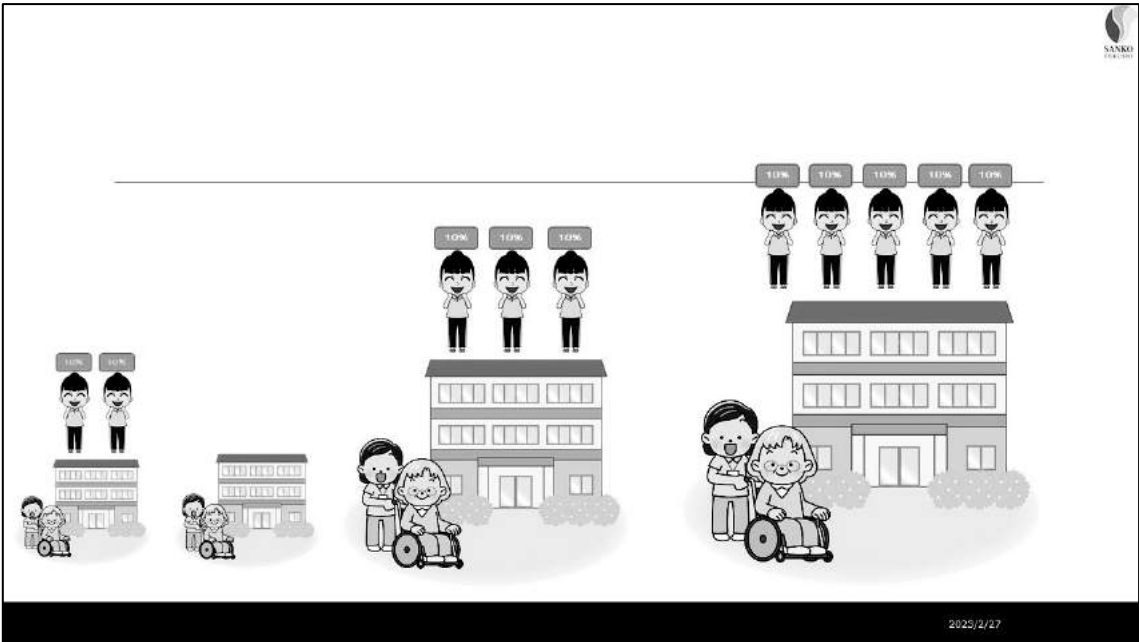
勿論、介護職そのものが「人気の職種」とは言えないのも現状ですが、その勤務形態にも原因があると考えます。
勤務形態から、遠方からの勤務が難しい職業でもあると言えます。

勤務形態2交代：早番・遅番・日勤・夜勤
勤務形態3交代：早番・遅番・超遅番・日勤・夜勤

2020/2/27



2020/2/27



2020/2/27

次世代介護機器の導入①

現在、多くの現場で電子カルテや次世代介護機器の導入が進められています。

現場からしてみれば、新しい技術を現場に入れるということは、「新たにタスクを入れる」という事になります。

そして、ベテランになればなるほど「介護」＝「人の手をかける」＋「家庭のぬくもり」というような感覚が強くなる傾向があり、「導入」の最初の壁となっていることが多いと感じます。

「壁」を乗り越える

**壁を乗り越えるには
次世代介護機器の知識が必要**

次世代介護機器とは？

6つの分野と13の項目に分かれています。

それぞれの業務で、手助けするロボットやソフトなどが開発されています。

現在、1つの機種で多くの事は出来ませんが、日進月歩で進化しています。



2020/2/27

次世代介護機器 次世代介護機器は、6分野13項目に分けられています。

介護ロボットにおける重点分野は、6つの分野と13項目

(※分野→項目)

- 移乗支援 → 装着・非装着
- 移動支援 → 屋外・屋内・装着
- 排泄支援 → 排泄物処理・トイレ誘導・動作支援
- 見守り・コミュニケーション → 施設・在宅・生活支援
- 入浴支援 → 入浴支援
- 介護業務支援 → 介護業務支援



2020/2/27

HAL®腰タイプ介護用



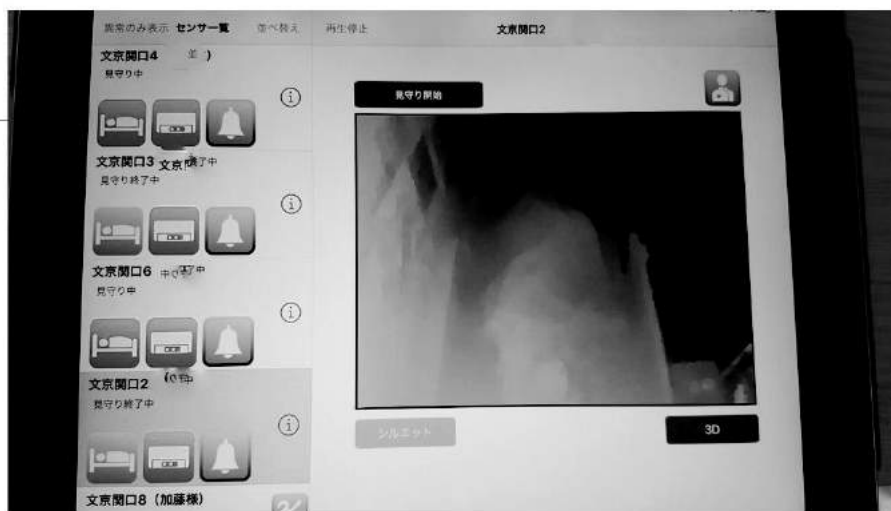
愛移乗くん



シルエット見守りセンサー



2020/2/27



2020/2/27

眠りSCAN

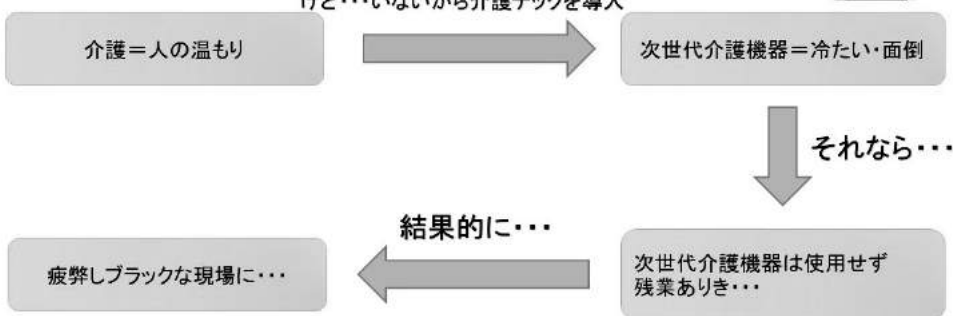


2020/2/27

介護テックは、「悪」？



人材がもっと欲しい・・・
けど・・・いないから介護テックを導入



2020/2/27

次世代介護機器の導入②

既に介現場では、「人員不足」が発生している現場も多く、残業なども多く発生している。

それを改善するために、「スピード」が重視され「介護の質」が下がっている現場も見受けられる。

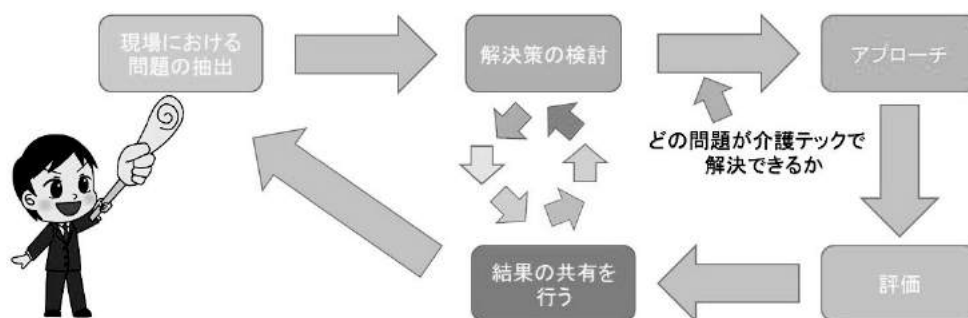
本来であれば「業務分析」を行い、分類し更に「優先順位の再度検討」を行います。そのうえでオペレーションの組み換えを実施すれば、業務が効率化され「介護の質」を保ちながら残業を減らすことが可能となります。更に、「次世代介護機器で何が解決できるか」を検討し導入を進めることで、次世代介護機器が現場で活躍し、介護職員の負担軽減を行うことが可能となります。

しかし、「スピード重視」の仕事をすることで業務タスクをこなす。という流れを組んでしまう現場の存在も多く確認されています。

2020/2/27

次世代介護機器の導入

次世代介護機器は、導入を目的とするのではなく、「現場で発生している課題の解決」のツールである理解が重要となります。



2020/2/27

現場における問題の抽出

準備期

1. 情報収集
2. 導入取組に対する組織全体での合意形成
3. 実施体制の整備

問題の抽出に関しては、その問題を実際に体感している本人に意見を聞く事が重要である。

トップダウンではなく、組織の合意構成を行いながら「問題を浮き彫り」にしていく。

業務分析期

4. 課題の見える化(業務分析)
5. 導入計画
6. 試行的導入

各職種・各フロア（2F・3F・4F・5F等）施設全体が情報を共通しやすい環境を作ります。

テック稼働期

7. 試行的な導入
8. 小さな成功事例の共有
9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

出典:平成30年度 介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業 報告書から一部修正

2020/2/27

準備期の取組とは

1. 情報収集
2. 導入取組に対する組織全体での合意形成
3. 実施体制の整備



次世代介護機器を導入する際、この準備期が大きなポイントになります。

「情報収集」「導入取組に対する組織全体での合意形成」「実施体制の整備」この3つをしっかりと時間をかけて行います。

2020/2/27

情報収集

- 各行政機関の次世代介護機器関連HP
- テクノエイド協会HP
- 販売元へ直接訪問
- 介護ロボットポータルサイト
- モデル施設等への訪問

どのような機器が開発され、どのような問題に対し解決の糸口になるかをしっかりと理解する必要がある。「情報」がなければ、浮き彫りになった問題に対し「正しい処置」を行う事が困難になり、次世代介護機器が活躍することが難しくなってしまう。

2020/2/27

道具としての次世代介護機器

現場の課題



ネジ・釘

ケアテック



工具



現場には多くの問題が点在します。イメージとしては、建物には、多くのネジ・釘が使われています。

それぞれが緩んでしまい打ち直したり、締めなおす際、マイナスのネジ山のネジにプラスのドライバーを使用しても問題は解決しません。

ハンマーが必要なのにドライバーを渡されたら上手に釘が打てません。問題に対し適切な対応をすることが重要なポイントと言えます。

適材適所で道具である次世代介護機器を配置することで、継続した使用と活躍が期待できる。

2020/2/27

活躍できる環境を作り上げる！

2020/2/27

導入取組に対する組織全体での合意形成

新しい「何か」が現場に導入される…そんな時必ずあるのが「反発」です。それを「無くす」ことは難しいですが「減らす」ことなら可能です。

新しい「何か」が自らにメリットがあり、組織運営において有効な手段であるということを確認する

「減らす」ということは、それだけで「取り組みを進める原動力」となります。

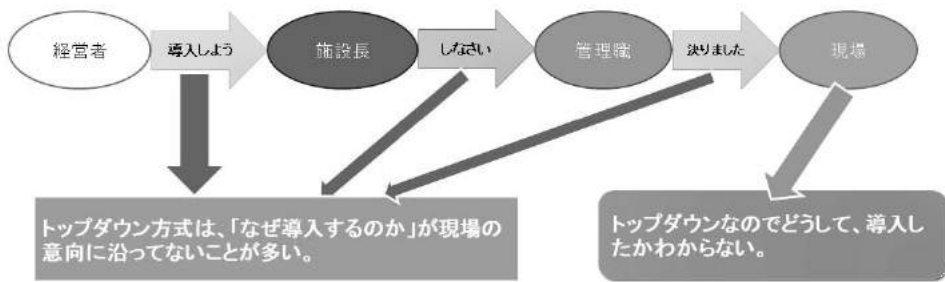
	役職	チーム内での役割
1	施設長	機材の購入の可否(最終決裁)
2	相談員	各フロアーへの通知やシフト変更の指示出し
3	主任	各フロアーの状況把握(業務分析)
4	副主任	//
5	各フロアー介護職員	各フロアーでの問題点の洗い出し
6	看護師	医療的な視点での意見

2020/2/27

介護ロボット導入は 組織全員で同じゴールを目指す。

組織の合意形成

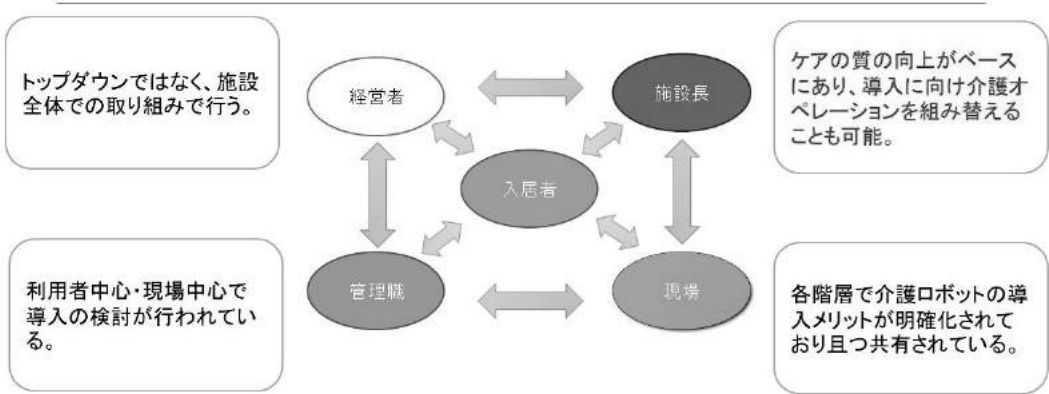
経営者層・マネージャー層・介護職各階層それぞれで、どのような目的をもって導入し稼働させるのかの明確な目標が必要である。トップダウンでは良い結果が生まれない可能性が非常に高い。



組織の合意形成

経営者層・マネージャー層・介護職等の各階層での視線で見ると

「導入し稼働させる」という目標は同じであるということが大切。



実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	機材の購入の可否(最終決裁)
2	相談員	各フロアーへの通知やシフト変更の指示出し
3	主任	各フロアーの状況把握(業務分析)
4	副主任	〃
5	各フロアー介護職員	各フロアーでの問題点の洗い出し
6	看護師	医療的な視点での意見

実施体制として、委員会を作成。委員会は多職種で構成し、各フロアーからもメンバーを選抜します。

取り組み自体が施設(組織)全体で共有されるように共有されるようにします。

「新しい何か！」を導入するためには、組織の合意形成が重要なポイントになります。

目的を明確にし、将来的にどんなメリットがあるのかを組織で理解する。

2020/2/27

業務分析期

介護現場に存在する多くの業務を見える化(書き出す)します。そして現在の業務オペレーションを再度検討します。

現在行っている業務が本当に必要な業務なのか? 既存の時間に行う必要性があるのか? 各フロアー斉に行っていた業務は、時間を少しづつ変えれば負担が軽減するのではないか?

人を増やさなければ改善しないのか? 介護テックの導入で解決するのか? もしくは、教育が必要なのではないか?

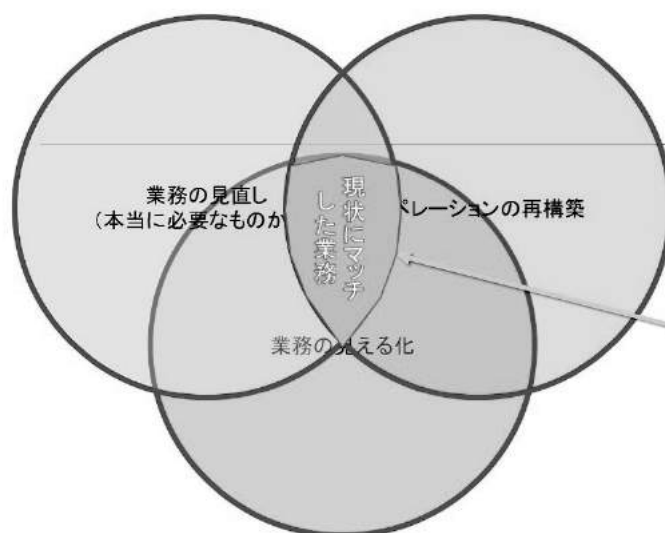
組織という枠組みで仕事をする、「疑問」を持つ事を置き去りにしてしまうことがあります。一度立ち止まって全て業務を考えてみると、本当に課題としなければならない新たな課題が見つかるかもしれません。

2020/2/27

委員会の会議風景



2020/2/27



現在の業務を徹底的に見直し、本当に必要な業務だけを残し、そして再度業務オペレーションを構築する。残った業務の中から、大幅に負担になっているものを洗い出し、どうすれば改善できるか検討する。

ここまで来て、初めてその業務は、人を増やさなければ改善されないのか？建物の構造上なのか？介護テックで改善可能なのか？という検討に入ります。

2020/2/27

次世代介護機器の稼働・・・

世の中に多く出回る次世代介護機器、その多くはまだ発展途上と言えます。そして、日進月歩で進化しています。

この次世代介護機器は、多くの施設で使われだしていますが「埃をかぶっている」現場多く、「大活躍」とは言えません。

理由は、現場にある「問題」と導入された「介護テック」がマッチングしていないことが問題点の一つとしてあげられます。それは、先に話をしたように、「組織の合意形成」や「問題の見える化」が出来ておらず適切な導入がされていないことです。

現場の問題をしっかりと理解し、その問題にあった介護テック（道具）を導入することが重要なポイントと言えます。

2020/2/27

介護テックの使用方法はnowで解決 導入後の委員会の活躍point！！

使い方が・・・
故障？



○使い方に関しては、その場で即解決！
○故障は即対応



ストレスなく使用。
悪い噂もない。

最初の印象が重要

○確認時間がかかる・・・後日対応・・・
○故障は即対応？？？



タイムラグが
ストレス。
悪い噂が・・・

2020/2/27

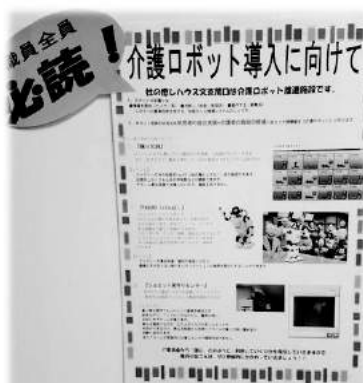
介護テックの使用法



介護テック(介護ロボット・電子カルテ等)の導入期間には、その使い方をしっかりと全体に周知する必要があります。その際、販売業者に説明を依頼し、他施設での導入成功事例や使い方なども紹介して頂くことで、導入後の成功イメージを持つことができます。

2020/2/27

継続した発信



新しいタスクが「特別ではない」という環境を構築していくために、発信を止めず至る所に、取り組みの内容や成功事例を掲示し、自然と情報が入る環境にしていく。

意図的に情報をインプットするのではなく、知らず知らずのうちに情報が入ってくる環境を構築する。

2020/2/27

IT委員は「ロボアテ」※造語です 生産性の低下を支える重要人物

次世代介護機器の導入を行うと、現場の生産性は急激に低下します。勿論一時的な低下です。業務オペレーションの変更や機器の使用手法、現場への周知と多くのタスクが発生。

職員からは「えー面倒・・・」「これいくらするんですか？ だったら給与を・・・」などの声が聞こえてくるかもしれません。しかしそこを支えるのが「ロボアテ」（介護ロボット導入アテンダント）です。

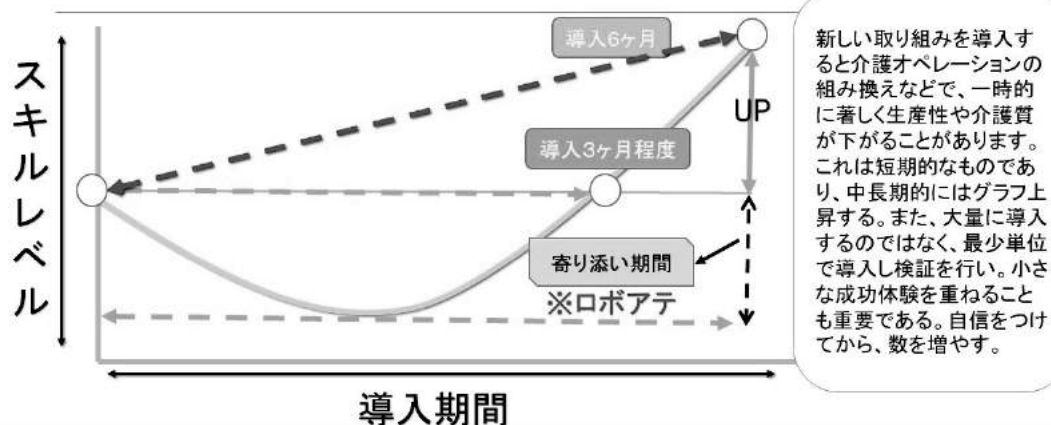
現場の取り組みは次世代介護機器に係わらず、生産性が低下し上昇がみられないと短い期間で「終了」していることがあります。介護は「今」nowで業務が進んでいきます。時系列で次の業務が待ち構えています。そして、突発的に発生する業務に対応しながら仕事をこなします。先の見えない取り組みにはどうしても否定的にならざる負えません。

そこで、「ロボアテ」が登場します。現在取り組んでいることが、将来のプラスになることをしっかりと伝える共に故障や取り扱いに関して即時対応していきます。まるで山を登る登山者に寄り添うようにその先のゴールを目指します。

2025/2/27

導入は中長期的な考えて取り組む

新しい技術の習得時には、短期的に全体的な効率の低下が見られる。



継続を促す

寄り添い期間 この部分をどのようにフォローするかで結果が大きく左右されます。この期間は先の見えないトンネルに入り更に、生産性が下がるという状況を抱えながら、その取り組みを継続することになります。

この期間を乗り越えることで、次世代介護機器がその施設に根付く土壌が出来上がります。

成功事例の共有

次世代介護機器の導入において、業務負担が軽減したと思われる事例を委員会等を活用し、社内で共有することが、大きなポイントであることは前述でも何度か話をしていますが、次世代介護機器の導入で現場のオペレーションが変更されることで、**ほとんどの場合慣れるまでは、生産性の低下がみられます。**介護現場では、「now」が大切です。

次の業務が時系列で控えており、その時折で発生する業務が多いため、生産性の低下は非常に懸念されます。成功のイメージが湧かないまま導入した介護テックは、稼働しない状態になっていきます。

そこで、**現場に寄り添い「生産性の向上」を促す存在が必要です。それが委員の仕事でもあり「ロボアテ」としての活躍の場所となります。**

未来の介護

介護テックとは、介護の現場を活性化する「道具」であり、介護サービスの「質」を向上を促すものです。

導入したから業務負担が減り、介護サービスを提供する側が「楽になる」ではなく「業務効率を上げることで、1時間かかっていたものが40分になり残りの20分で入居者とコミュニケーションが取れた」という感覚を持つことが大切です。

「楽になる」という感覚で導入した場合、サービスを受ける方から考えてみると「雑になっている」と感じる可能性があります。

人間は、道具を進化させ生活を豊かにしてきました。介護も「道具を使い」サービスの質を向上させる。そんな感覚が次世代の介護になると考えます。

最後になりますが、介護は「個」に寄り添い「受け入れ」そして共に「最後の日」まで歩むものだと考えます。次世代介護機器（介護テック）はそのための道具であり、「介護の質」を向上させるツールとして使いこなしていきたいものです。

まとめ

次世代介護機器導入における7つの Pickup point



- ・少子高齢化社会の介護にICT・ロボットは欠かせない
- ・反対派はゼロにはならない！でも減らせる
- ・ICT委員会的な組織を作って挑む
- ・組織の合意形成が重要（課題に対してマッチングしている道具）
- ・ICT・ロボットの導入は、中長期で取り組む
 - ・寄り添い期間で活躍のロボアテ（介護ロボット導入にアテンド）
- ・小さな成功事例の共有もロボアテにお任せ

第3日目 ミニテスト

氏名: _____

■問題①リスクマネジメントに関して下記の語群より正しいもの1つを選んでください。

解答: _____

- 1: しっかりとしたマニュアルがあれば「ミス」は発生しない。
- 2: 事故は突然発生するので、その場、その場で防げばよい。
- 3: 人は誰でもミスをするものであるが、データを分析することで減らすことは可能である。
- 4: 職員が経験を積めば、事故は確実に無くなる。
- 5: 先に謝罪をすると、ミスを認めたことになるのですぐに謝罪はやめた方がよい。

■問題②ヒヤリ・ハットについて下記の語群より正しいものを2つを選んでください。

解答: _____

- 1: 事故が発生してしまった後の報告書の事をいう。
- 2: 事故が発生する一歩手前の出来事をデータとして蓄積する。
- 3: 報告書は、時間が空いた時に作ればよい。急いで作成すると業務に支障が出る。
- 4: 報告書などの情報は、出来るだけ早く共有し、再発防止策の検討を行う

■問題③介護ロボットに関して下記の（ ）の部分当てはまる言葉を入れてください。

介護ロボットは介護の質を上げるための（ ）である。

【今日の講座の感想】

【講座名：リスクマネジメント】

授業展開表

学習目標	この講座を受けることで、現場が求める力や即戦力となる力が身に付き実践できるようになる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ(チーム)で実践できる。 ⑥ 何事にも根拠を示し解決方法を計画することができ、(チーム)で実践できる。 ⑦ 福祉職に必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる。 ⑧ 自分が活躍できる仕事についてイメージでき、それに向かって計画していく事ができる。
この講座の達成目標	・利用者の状態に合わせた、支援ができるようにリスクが考えられ実践できる。

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品 留意事項
90分	1コマ目 2日目の講座の振り返りと3日目の講義について	-2日目の講座の振り返りを する。	・1日目のグループごとに着席する。	・1日目のグループごとに着席するように指示する。 ・1日目の振り返りをする。 ・1、2日目の講座がどうつながっているのか説明する。	PPT 1日目 2日目 ・PC ・プロジェクター ・計画書 ・ベッド ・車いす ・高齢者疑似体験グッズ
	リスクマネジメントの考え方	-3日目の講座の目的・内容について理解する。	・1、2日目の講座がどうつながっているのか理解できる。	・2日目の課題を説明する。	

		<p>・リスクマネジメント必要かを理解する。</p> <p>・1日目のグループごとにベツドメイクを行う。</p>	<p>・リスクマネジメント必要かを理解できる。</p> <p>・1日目のグループごとにベツドメイクを行う。</p>	<p>・PPT を活用し、リスクマネジメント必要かを理解する。</p> <p>・1日目のグループごとにベツドメイクを行うことを指示する。</p>	
10分	休憩				
120分 (休憩 10分)	<p>起こりうるリスクについて</p> <p>事例の検討</p>	<p>・起こりうるリスクを考える。</p> <p>転倒 誤嚥 事例の検討応用編 1:食欲が低下している 2:気力が無い 3:暴言や暴力をふるう</p>	<p>・起こりうるリスクが考えられ、対応方法を考えることができる。</p> <p>解決策について、実演しながら発表する。</p> <p>事例をもとに、リスクが分かり回避する対応策が考えられる。</p> <p>・グループで行う。 ・グループごとに発表。</p>	<p>・動画を活用し、起こりうるリスクが考えられ、対応方法を PC でまとめることを指示する。</p> <p>解決策について、実演しながら発表する。PC でワークシートを共有する。</p> <p>問題点、解決策、対応の考え方が、介護過程に似ていることを説明する。</p> <p>事例をもとに、リスクが分かり回避する対応策を検討することを説明する。</p> <p>・グループで PC を活用しまとめることを説明する。</p> <p>・グループごとに気づきを発表することを説明する。</p>	<p>PPT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(ICF) ・PC(グループごと) ・プロジェクター ・良い介護・悪い介護の動画 ・ワークシート ・PC(グループごと) ・プロジェクター

10分	休憩					
90分	3コマ目振り返り 福祉用具の活用 まとめ	リスクマネジメントの必要性について理解する。 福祉用具の活用の仕方を理解する。 この講座のまとめをする。	リスクマネジメントの必要性について理解できる。 利用者の状態に合わせた、福祉用具の活用方法が理解できる。 ・この講座について何を学んだのかこの講座の必要性について理解できる。 ・講座の感想を発表する。 ・ミニテストをする。	リスクマネジメントの必要性について説明する。 ・今日のまとめを説明し、達成目標が達成できたかについて受講生にきく。 ・QRコードを読み取りミニテストを行うことを説明する。	・PPT 【留意】 ロボットだけではなく、福祉用具も大いに活用することにより必要性をつたえる。	ミニテスト

4. リスキリングの前に考える MY LIFE/MY CAREER



敬心学園 文科省委託研究事業



DX福祉職
養成プログラム

文部科学省
「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のための」
カレント教育推進事業」
責任者

聖徳大学 教授
敬心学園職業教育研究開発センター研究員
菊地克彦

『リスキリングの前に考える
MY LIFE/MY CAREER』



プログラム

	時間目安	実施内容
1	9:30～10:10	オリエンテーション
	10:10～10:40	§ 1 変わるキャリアのあり方・考え方
2	10:50～11:20	§ 2 ライフキャリアの方向性を考える
	11:20～12:20	§ 3 「なりゆきのキャリア」と「ありたいキャリア」
	12:20～13:20	昼食
3	13:20～14:50	§ 4 これまでのキャリア、これからのキャリア
4	15:00～16:00	§ 5 キャリア資産を可視化し、学びを仕分ける
	16:00～16:40	§ 6 キャリアの羅針盤を明らかにする



到達目標

1. リスキングの学びを契機に、「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたい生き方、働き方をしたいのか」等について内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる
2. ありたい生き方、働き方に近づくために、保有するキャリア資産（知識・スキル・能力・経験・人脈など）を棚卸し、捨てるもの、磨くもの、加えるべきものを明確にして、アンラーン（捨てる）とアップスキリング（磨く）、リスキング（加える）の学びにつなげることができる
3. ありたい生き方、働き方に自分を導くキャリアの羅針盤（こだわり抜きたい譲れない仕事観、人生観等）を明確にすることができる



演習1:ライフロールの変遷 (ワークシート)

過去は実感値としての比率%、将来は想定に基づき比率%を記入

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
子ども							
学ぶ人							
余暇を楽しむ人							
市民							
働く人							
配偶者							
親							
大きなライフイベント・出来事	就職						



演習2:私のキャリアの軌跡

自身のこれまでのキャリアの道筋・軌跡を振り返る

1. 自分はどのようなキャリアの道筋を歩んできたのか

ライフキャリアにおける現在までの主な出来事、出生、入学、転校、習い事、スポーツ、受験、成功体験、失敗体験、節目となる大きな出来事、その他…

2. 時々の充実度、満足度はどうだったか、どんな学び、気づきがあったか

※ワークシート配布



演習5: なりゆきのAS ISキャリアとありたいTO BEキャリア

なりゆきのAS ISキャリアとありたいTO BEキャリア

※記入例: 横軸は1時間ずつ詳細に記入する(15分単位)。40分程度。3時間程度。2ヶ月程度。1年程度。

学年	なりゆきのキャリア(AS IS)		ありたいキャリア(TO BE)		備考
	現在	将来	現在	将来	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					

『自分と向き合う』

⇒現実を直視する(AS ISキャリア)
⇒ありたい未来を描く(TO BEキャリア)

- 実施手順
- 1) これまでのキャリアを振り返る
 - 2) これからのキャリアを考える
 - ① このまま、なりゆきで進んだ場合のキャリア
 - ② ありたい未来を描いて、キャリアの再興に取り組んだ場合のキャリア

(ワークシート配布)



演習6: キャリアの開示と対話

なりゆきのAS ISキャリアとありたいTO BEキャリア

※記入例: 横軸は1時間ずつ詳細に記入する(15分単位)。40分程度。3時間程度。2ヶ月程度。1年程度。

学年	なりゆきのキャリア(AS IS)		ありたいキャリア(TO BE)		備考
	現在	将来	現在	将来	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					

【実施内容・目的】
左記のシートに基づき、自分のこれまでのキャリア、これからのキャリアをグループメンバーに説明する。
これまでのキャリアの意味づけを行うとともに、これからのキャリアをなりゆきにしないために、どうすべきか、ありたいキャリアは、なぜそうありたいのか理由や背景を明確する。
これらによって、自らのありたいキャリアへの内発的動機づけを高める。

- 【実施要領】
1. 発表順の決定
 2. 発表時間 ひとりあたり15分
(タイムキーパーを決める)



演習7: 私のキャリア資産とスキリング

私のキャリア資産

氏名

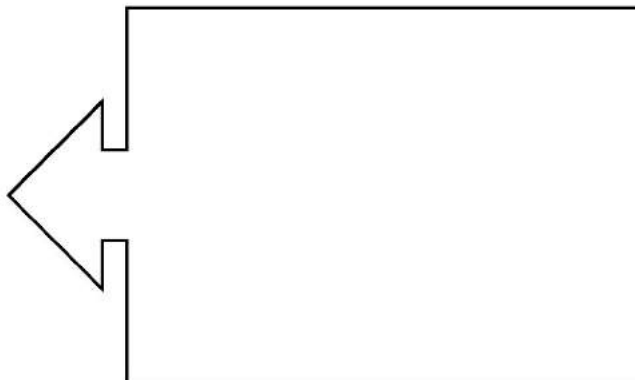
従事した業務	担当期間	選択してきた自己資産・財産と新たな学習の区分(仕分け)			成果・業績	市場価値の自己査定
		専門知識・スキル	能力	人脈・その他		

※上記は、転職に向け、呼びかけに応じて、先達が希望する人(本人)情報(ラベル)ロールモデル(目標とする人)等(各自に記入して下さい)
 ※市場価値の自己査定は、自分の経験して得た知識、それに関連する知識・スキル(知識)がどの程度の市場価値があるか(推定)に基づき、段階で査定して(仮に)市場価値(スキル)と査定(仮定)してください。
 ※新たな学習の区分(仕分け)は、専門知識・スキルに限り、加える(なし・有)は、更に細かく(ラベル)を記載し(ラベル)、替える(なし)も記入する



演習8: 私のキャリアの羅針盤(自論) ワークシート

これからの自分のキャリア形成・発展の重要な
判断指針、キャリア選択の基準となる考え方



【講座名：人生の再出発のためのライフ/キャリアデザイン（ワークショップ）】

授業展開表

菊地克彦

所要時間	テーマ	テーマの意図・到達目標	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品、留意事項
30分	オリエンテーション	・ワークショップの目的、到達目標、プログラム等を理解できる ・ともに学ぶ仲間を知り、相互理解を図ることができる	・ワークショップのねらいや内容等について理解する ・自己紹介する	・ワークショップの目的・到達目標・プログラム等を説明し、受講者の参加への動機づけ、導入を行う ・アイスブレイク	・PC、プロジェクト ・進行プログラム表 ・休憩(AM10分/PM10分×2回)
30分	§1 イマドキのキャリア論を知る	・キャリアの概念、キャリアを取り巻く環境や考え方の変化(キャリアオーナーシップ、キャリアデザイン等)、リスキリングの必要性とリワード等を理解できる	・キャリアを取り巻く環境変化を踏まえ、キャリアオーナーシップやキャリアデザイン等の考え方、リスキリングの必要性とリワード等を講義により理解する	・キャリアの概念、キャリアを取り巻く環境変化、キャリアオーナーシップ、キャリアデザインの考え方、リスキリングの必要性や越境学習の有効性等に関し情報提供する	・PC、プロジェクト
30分	§2 ライフ/キャリアの方向性を考える	・新しい働き方、多様化する働き方を理解できる ・人生と仕事を織り合わせる(統合する)働き方・生き方の方向性を明らかにすることができる	・講義を通じて、転職、副業、複業、ギグワーク、IC、起業、ワーケーション等の多様な働き方が浸透しつつある現状を理解し、これらの人生で自分は何を大切にし、どのような働き方・生き方を望むのかをワークを通じて考える	・新しい働き方、多様化する働き方に関し情報提供する ・個人ワーク、グループワークに関する実施要領の説明とワークのフアシリテートを行う	・PC、プロジェクト ・ワークシート
60分	§3 「なりゆきのキャリア」を直視し「ありたいキャリア」を描く	・「これまでのキャリア」を振り返り、可視化し、自己評価できる ・これまでの延長線上にある「なりゆきのキャリア」を想定し、直視できる ・「ありたいキャリア」を描くことができる	・ワークシートに基づき、これまでのキャリアを可視化し、評価する ・ワークシートに基づき、現状の延長線上にあるキャリアを想定する ・ワークシートに基づき、ありたいキャリアを描く	・個人ワークに関する実施要領の説明とワークのフアシリテートを行う ・「能力・才能/動機・欲求/意味・価値」フレームや「Will/Can/Must」フレーム等を解説し、ありたいキャリアを描く支援を行う	・PC、プロジェクト ・ワークシート

90分	§4 とらわれたキャリア アストーリーを 希望のアナザー ストーリーに転 換する	・§3で整理した3つのキャリアを仲 間に開示し、対話し多様な考えに触 れる。 ・それを通じて、ネガティブな思い込 みに気づき、具体的問題や原因、例 外的結果を見出し、ポジティブな 思考に転換する	・§3で作成したワークシートの内容を グループメンバーに説明する ・グループメンバーからの質問、 アドバイス等により気づきを得る	・TED 視聴『思うは招く』(植松努) ※キャリア開発における Causation と Effectuation の解説 ・グループディスカッションの進め 方、ルール等の説明とファシリテー トを行う ※ナラティブアプローチの解説 ドミナントストーリー(不安・ネガティブな思 い込み等)⇒オルタナティブストーリー(希 望・期待・ポジティブ等)	・PC、プロジェクト
60分	§5 キャリア資産を 可視化し、学び を仕分ける	保有する専門知識・スキル、能力、 経験、人脈等のキャリア資産を棚卸 し可視化して、「捨てる」「磨く」「加え る」等の判断をする	・ワークシートに基づき、キャリア 資産を棚卸し・可視化する ・アンラウン(学習棄却)やアップ スキリング・リススキリング等の仕 分けをする	・キャリア資産、リススキリング、アン ラウン等に関する情報提供を行う ・個人ワーク、相互コンサルに関する 実施要領の説明とワークのフアン リテートを行う	・PC、プロジェクト ・ワークシート
30分	§6 キャリアの羅針 盤をつくる	キャリア論に「正解はない、100人 100通り」を前提に、自分の人生、キ ャリアの羅針盤となる自論(こだわり 抜きたい 譲れない 仕事観・人生観 等)や理念を明確にできる	・様々な職業人のキャリア自論や キャリアアンカー論等を参考に、 大切にしたい、こだわり抜きたい キャリアの軸・自論や人生やキャ リアのミッション、ビジョン、バリユ ー等(=キャリアの羅針盤)を言語 化する。	・多様な職業人のキャリア自論やキ ャリア理論・考え方等に関する情報 提供を行う ・個人ワークの実施要領説明とワ ークのファシリテートを行う ・TED 視聴「あなたが理想のキャリ アを築けない理由」ラリー・スミス	・PC、プロジェクト ・ワークシート

5. 介護演習

使用する物品: プロジェクター、PC、介護用ベッド、車いす

・達成目標

介護現場を知り、イメージができるようになる。

最新の介護現場を知り、よい意味での先入観を持つことができる。

動画教材を用いた現場での活用実体を知り、当たり前に使えているイメージを持つ。

・内容

A-① 動画教材を通じた、介護現場で介護機器を使用している状態の見学
(介護機器使用の動画を8本程度作製)→動画を踏まえて検討する。

A-② 導入における障壁を知る(講義)

A-③ 障壁への対応案の立案(事例を用いたグループワーク)

A-④ グループワークを基にしたレポート提出

・実機を使った体験

B-① CYBERDYN 様 HAL(120分)

B-② FUJI 様 Hug(120分)

B-② マッスル様 SASUKE(120分)

B-③ 東京都福祉保健財団の福祉用具体験講習会・見学会(120分)

B-④ 体験内容のまとめとシェア

・1日目: 1月25日(水)

9:30~11:30 A-①:介護機器動画教材を見学 ワークシート①(記入ポイントを押さえておく)

11:30~13:00 休憩・移動

13:00~15:00 B-③:福祉用具体験講習会・見学会(東京都福祉保健財団)

16:00~17:00 B-④:体験内容のまとめとシェア 60分(伊藤先生オンライン)

2人1組で意見交換→ワークシート②→発表(ワークシートの共有)

・2日目: 1月26日(木)

9:30~12:00 B-②:Hug(120分)、B-②:SASUKE(120分)

13:00~15:00 B-①:CYBERDYNE(120分)

15:10~16:00 A-③:障壁への対応案の立案(事例を用いたグループワーク:60分)
ワークシート①と②に赤字で追加を行う(ワークシートの共有)

16:00~17:00 A-②:導入における障壁を知る(講義:60分)(伊藤先生オンライン)

課題提出:A-④グループワークを基にしたレポート提出

DX福祉職養成プログラム 介護演習 ワークシート① 名前：

動画タイトル	なぜ・何に使うのか？	使うことによって うまれる価値は何か？	機器の導入における障壁は何か？
①移乗支援 非装着 「SASUKE」			
②移乗支援 装着型 「HAL」			
③移乗支援 装着型 「マッスルスーツ」			
④移乗支援 装着型 「J-PAS fleairy」			
⑤見守り支援「眠り SCAN」			
⑥見守り支援 「シルエット見守り センサ」			
⑦介護ロボット 「パルロ」			

①気になった機器どれか？

②その機器を使うことによってどんな価値がうめるか？

③機器のキャッチフレーズを考えるとしたら？

6. これからの介護DXについて



就職への準備と心得フォローアップ

これからの介護DXについて

©2022 BI Brid Co., LTD

本日の授業の流れ

【1コマ目】

座学①介護現場におけるICT利用について

【2コマ目】

座学②介護向けICT製品を知る

【3コマ目】

グループワーク①介護現場でのICT活用を考える

【4コマ目】

グループワーク②発表・講評



介護ロボットと介護ICTの関係について

介護ロボットとは

厚生労働省による介護ロボットの定義は以下の通り。

1. ロボットの定義とは、以下3つの要素技術を有する、知能化した機械システム。

- 情報を感知（センサー系）
- 判断し（知能・制御系）
- 動作する（駆動系）

2. このうちロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいます。

介護ロボットには、パワードスーツや歩行支援機器なども含まれる。一方、介護におけるICTの利用という場合には、介護記録ソフトやインカム、見守りセンサー（これは介護ロボット）など通信によって情報をやりとりするソフトウェアや機器を指している。

つまり介護ロボットと介護ICTは重なる部分と重ならない部分がある。

介護現場で利用されるICT

介護ソフト

介護ソフトには様々な機能があるが、例えば以下のような機能がある。

- 利用者情報の管理
- 介護業務の記録
- 計画書の作成
- 介護保険請求データ作成

タブレットやスマートフォンに対応したソフトを利用することで、記録の入力や閲覧を効率的に行えるほか、音声入力や多言語対応、見守り機器やナースコール等と連携し自動記録するといった機能を備えたものもある。

介護ソフトやタブレットを導入していても、端末が少ないと入力の順番待ちや紙からの転記が発生してしまうため、十分な台数を配置することが望ましい。

見守り支援機器

各種のセンサー（カメラ、赤外線、ドップラーセンサー等）を搭載した機器を用いて、例えば以下のような情報を得られる。

- ベッドで寝ているか、起き上がる場所か、離れているか
- 心拍、呼吸、体動
- 入室・退室
- 尿の溜まり具合

高度な製品では蓄積した情報を分析し、危険の予兆を検知することなども可能。

見守り支援機器は製品数が多く、センシングする範囲や取得できる情報もそれぞれ異なるため、ニーズに合ったものを選ぶ必要がある。

ナースコール

ナースコールは居室等で利用者がコールボタンを押すと、表示盤や携帯端末に呼び出しが通知される仕組み。

特別養護老人ホームや有料老人ホームでは、ブザーや緊急通報装置＝ナースコール設備が必要。

ナースコール通知を受ける携帯受信端末としてはPHSが使用されてきたが、最新式のナースコールはIPネットワーク上で通信するようになり、端末もスマートフォンで通知を受ける形にシフトしている最中。

スマートフォンを利用することで、ナースコールを中心として見守りセンサーの通知などを集約する形の運用も多い。全床に設置することでブザーや緊急通報装置の要件を満たせる一体型の見守りシステムも出てきている。

今後はいわゆるレガシーな「ナースコール」が無い施設も増えると思われる。ビジネスフォンを含めた通信環境の見直しが発生。

インカム

主に施設系サービスにおいて職員間のコミュニケーションに利用。フロア内やフロアを跨いでの同報連絡が可能になることで、効率的に動くことが可能。コロナ禍においては職員間の接触機会を減らす面でも効果。

Wi-Fi環境で利用するインカム専用機器やスマートフォンアプリ、特定小電力無線を利用するものなど種類がある。また、ナースコールやセンサーと連携し、音声読み上げでインカムに通知することが可能な製品もある。

専用で1人1台とはいかないため、カナル型ではなくオープンイヤー型や骨伝導型のイヤピースを利用する場合もある。

Wi-Fi環境でインカムを利用する場合、それを想定した形でのネットワーク構築が必要になる。

AI系製品

以下のような時間のかかる事務作業をAIを使って省力化するためのソフトも登場している。

- 勤務シフト自動作成
- 送迎ルート自動作成
- ケアプラン作成アシスト

これらはスキルが属人化しがちなため、ソフトによって誰でも行えるようにできるといった利点もある。

その他

介護向けの製品以外にも最近はSaaSで様々なサービスが提供されているので、業務向けICTが介護現場でも活用されている。

- ビジネスチャット
- グループウェア
- ワークフロー
- 勤怠管理、人事労務
- タレントマネジメント

ビジネスチャットやグループウェアは介護ソフトではカバーできない範囲の情報共有に有効。

人数に対して課金が発生するサービスがほとんどのため、頭数が多くなる介護現場での利用だとコストがかさむ点がネック。

介護保険制度におけるICT

国保連請求

サービス提供事業者は国民健康保険団体連合会（国保連）に介護サービス費の請求を行う。請求データはインターネット経由で伝送する。

かつてはISDN回線のみで伝送可能だったが、2014年11月からインターネット経由での伝送が可能になり、2018年3月末でISDN回線での受付が廃止された。

請求データは介護ソフトで作成する。多機能な介護ソフトを使用していても請求のみにしか使っていないという場合も多い。

毎月1日～10日の間に伝送を行う必要があるため、この期間にパソコンやネットワークで問題が起こると現場は非常に困る。

加算との関連①

特養、短期入所の「夜勤職員配置加算」ではICTの導入が評価区分に関わっている。

夜勤職員配置加算(Ⅰ)(Ⅱ)の算定要件（0.9人配置要件）※該当部分抜粋

見守りセンサーなどの機器を利用者様の10%以上に設置し、センサーの安全有効活用を目的とした委員会の設置と検討会の実施がある場合には、人員基準+0.9人以上の配置をすること

夜勤職員配置加算(Ⅰ)(Ⅱ)の算定要件（0.6人配置要件）※該当部分抜粋

1. 見守りセンサーを利用者様全員(100%)に設置し、センサーの安全有効活用を目的とした委員会の設置と検討会の実施がある場合には、下記基準以上の配置をすること

- ユニット型：人員基準+0.6人以上
- 従来型：人員基準緩和を適用する場合0.8人
- 人員基準緩和を適用しない場合（利用者様の数が25人以下の場合等）0.6人

2. 夜勤職員全員がインカム等のICTを使用していること

3. 安全体制を確保していること

手間やコストの割には現状ではメリットが薄い

加算との関連②

科学的介護情報システム（LIFE）へのデータ提出とフィードバック情報の活用し、エビデンスに基づく介護の取り組みを評価する、科学的介護推進体制加算が幅広いサービスで設立された。

2021年から始まったばかりでデータを蓄積していく段階であり、フィードバック情報の活用などまだ発展途上であるが、取り組みがケアの質の向上に繋がっているという現場の声も聞かれる。

LIFEに提出するデータを作成するため、今まで以上に介護ソフトの活用が重要になっている。

生産性向上の文脈

現在、介護現場におけるICT利用については生産性向上の文脈で語られる。

一般的に生産性向上というと、より少ない「人員・コスト」で、より多くの「付加価値を生み出す」ことがイメージされるが、介護における生産性向上とは、以下の課題を背景に今後も介護の質を維持するための「職員負担軽減」「定着支援」の取り組みと理解すべき。

- 生産年齢人口の減少
- 人材獲得の難化
- 介護サービス利用者の増加
- 社会保障費の増加

介護現場での実際のICT利用状況

ICTの利用度合いは低い

介護現場におけるICT利用は他産業と比べて非常に遅れているのが現実。未だに紙とペンで記録を行っている事業所も少なくない。ICT利用が進んでいない背景には以下の理由がある。

- 就業以前にICTに関する教育に恵まれず、介護現場でICTを学ぶ機会もない
- 介護職の年齢層的にICTリテラシーのギャップが大きい
- 人手不足や事務作業の増大でケアの時間も削られていて、ICT導入に取り組む余裕がない
- ICTを導入するためのコストが捻出できない

故にICT導入をしたい／しなければいけないという意識があっても実行できない。

国の方向性

政府内や各省庁において介護の生産性向上が議論されている。

- 厚生労働省……社会保障審議会等
- 内閣官房……全世代型社会保障検討会議
- 内閣府……規制改革推進会議
- 経済産業省……ヘルスケアIT研究会
- 財務省……財務制度等審議会

次回の介護保険法改正では訪問系サービス・居宅介護支援事業所にもLIFEの拡充が予想される。

2023年4月からは居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間のケアプランのやり取りをデータで行う「ケアプランデータ連携システム」も稼働開始予定。

介護現場の状況とは裏腹に制度におけるICTの存在感は増えていく一方

国の対応

生産性向上については厚生労働省が実践的なツールを無料で提供している。

- 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン
- 介護分野における生産性向上の取組の進め方（e-ラーニングツール）
- 生産性向上の取組を支援・促進する手引き

ICT普及についても以下のような取り組みがされている。

- 介護事業所、介護ロボット開発企業向けの相談窓口の設置
- 開発企業に対し開発実証のアドバイスを行うリビングラボの設置

ICT導入のコストについては補助金活用により負担軽減できるが自治体によってバラツキがある。

介護におけるDX

一般的なDXの定義

デジタルトランスフォーメーション研究所のサイトから抜粋。

<https://www.dxlabs.jp/new-dx>

民間のDX

デジタルトランスフォーメーション（DX）は、企業がビジネスの目標やビジョンの達成にむけて、その価値、製品、サービスの提供の仕組みを変革することである。DXは顧客により高い価値を提供することを通じて、企業全体の価値を向上させることも可能にする。DXは戦略、組織行動、組織構造、組織文化、教育、ガバナンス、手順など、組織のあらゆる要素を変革し、デジタル技術の活用に基づく最適なエコシステムを構築することが必要である。DXは、トップマネジメントが主導し、リードしながら、全従業員が変革に参加することが必要である。

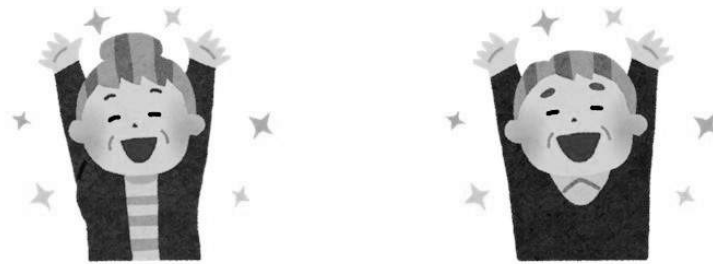
重要なのは、DXやICTの活用は目的達成のための手段であるということ。DXが目的化すると失敗する。

介護DXの意味するところ

介護の目的 = 高齢者が住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した生活を送ることができる。

- 今後も介護の質を維持するためには生産性向上の文脈にあった「職員負担軽減」「定着支援」の取り組みは避けられない
- 介護保険制度を守ってサービス提供する必要あり

介護DX = 法人の理念に沿った介護を実現し、高齢者の尊厳と生活を守るための、介護ロボットやICT等を活用した業務最適化。



これからの介護 DX について グループワーク課題

グループワークでは、以下に設定した架空の介護事業所の担当者になったつもりで、DX について検討していただきます。それぞれの介護サービスがどのような内容か、ツールを選定するかについては具体的な製品をインターネット検索して探してみてください。また、必ずしも全ての課題について網羅する必要はありません。

▼グループワーク発表でまとめていただく内容

- ① どの部分を DX して解決できそうか
- ② どのような ICT を導入するか
- ③ なぜそう考えたのか
- ④ 導入を進める上でどのような点に注意するか

【状況設定】

- ・ ここでは仮に法人名を「社会福祉法人 A」とする。
- ・ A は特別養護老人ホーム（80 床、以下特養）、ショートステイ（20 床、以下ショート）、デイサービス（定員 35 名、以下デイ）に加えて、訪問介護、居宅介護支援を同一施設内で運営している。建物は地下 1 階地上 4 階建の鉄筋コンクリート造。
- ・ 施設のナースコールは 10 年以上利用しており老朽化している。また、受信端末の PHS も故障して何台か使えなくなっているものがあるが、買い替えると高額なので今ある台数で業務を回している。
- ・ PHS を持ち歩いている職員は限られるため、誰かに用事があると施設内を探し回らないといけない。
- ・ 施設内のネットワークは無線 LAN 環境が全くない状態。最近はミーティングや研修受講をオンラインで行う機会も多いため、会議室などでもインターネットを使えるようにしたいという声がある。
- ・ 特養の居室は 2F～4F にある。建物が縦長の形状をしており、端から端まではだいぶ距離がある。
- ・ 特養の夜勤中、居室内でケアを行っている際に他の居室からナースコールが鳴ってもすぐに状況がわからず、また移動量が多くなって職員の負担になっている。
- ・ 特養の記録業務は全て紙に記入する形で行っており、介護ソフトは請求業務にしか使っていない。また現在使用している介護ソフトはタブレットに対応していない。
- ・ 記録が紙であるため、情報を確認するのにファイルの置いてある場所まで行かなければならないのは不便。
- ・ ショートでは予約管理をエクセルでシートを作って行っているが、変更があるたびに修正するのが大変。
- ・ デイでは入浴介助や送迎業務の際、離れたフロアにいるスタッフと連絡を取れる手段があると助かる。
- ・ 訪問介護では特定事業所加算を取得したいと考えているが、算定要件にある「文書等による指示及びサービス提供後の報告」にどんなツールを使えばいいのかが分からない。
- ・ 居宅介護支援ではコロナ禍の影響もあり在宅勤務も行っているが、社外からファイルサーバーに接続できないため、必要なファイルをコピーして持ち帰っている。セキュリティに問題があるという認識はあるので何かいい方法はないかと思っている。
- ・ A 法人内では様々な会議や委員会が行われているが、毎回資料を読み上げるだけで時間がかかっていて肝心の議論ができておらず、もっと効率的に行うべきだというスタッフの声が出ている。
- ・ A 法人内では紙で稟議書を回しているが、理事長は常に施設内にいるわけではないため、理事長の決裁が必要な際に時間を要することがある。

これからの介護 DX について 座学ワークシート

名前 ()

■1 コマ目

学んだこと、感じたこと、疑問に思ったこと等

■2 コマ目

学んだこと、感じたこと、疑問に思ったこと等

これからの介護 DX について リアクションペーパー

名前 ()

■ 今日 1 日の授業を通して学んだうえで、介護 DX についてどのように理解していますか？

■ 今日 1 日の授業を通して学んだうえで、もっと知りたいと考えたことはありますか？

■ 今後、介護現場で就業した際、組織の中でどのように介護 DX に取り組みますか？

これからの介護 DX について ミニテスト

名前 ()

【問1】

厚生労働省による介護ロボットの定義について、以下の (ア) (イ) に入る正しい単語を回答群から選択し、解答欄に番号を記入せよ。

1. ロボットの定義とは、以下3つの要素技術を有する、知能化した機械システム。
- ・ 情報を感知 (センサー系)
 - ・ (ア) し (知能・制御系)
 - ・ 動作する (駆動系)
2. このうちロボット技術が応用され利用者の (イ) や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいます。

<回答群>

(ア) ①会話 ②判断 ③収集 ④分析

(イ) ①身体機能回復 ②生活の質の向上 ③自立支援 ④危険行動防止

回答：ア () イ ()

【問2】

特別養護老人ホームや有料老人ホームでは設置が必要であり、見守りセンサー等と連携して運用することもある機器を回答群から選択し、解答欄に番号を記入せよ。

<回答群>

①インカム ②ナースコール ③勤務シフト自動作成ソフト ④ケアプラン作成アシストソフト

回答：()

【問3】

2021年から運用が開始された科学的介護情報システムの名称を回答群から選択し、解答欄に番号を記入せよ。

<回答群>

①CHASE ②VISIT ③CARE ④LIFE

回答：()

【講座名：これからの介護DXについて】

授業展開表

学習目標	この講座を受けることで、現場が求める力や即戦力となる力が身に付き実践できるようになる。
達成目標	<p>⑨ 気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ(チーム)で実践できる。</p> <p>⑩ 何事にも根拠を示し解決方法を計画することができ、(チーム)で実践できる。</p> <p>⑪ 福祉職に必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる。</p> <p>⑫ 自分が活躍できる仕事についてイメージでき、それに向かって計画していく事ができる。</p>
この講座の達成目標	介護におけるICT利用の現状や今後の展望について学び、職場の中で介護DXを実践するための基本的な考え方を習得する。

1コマ目

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品 留意事項
5分	オリエンテーション	全4コマの授業の目的・流れを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 介護DXについて何を学ぶか理解できる。 職業を考えるとことへの興味・関心を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙資料、ワークシートの配布。 本日の授業の目的・流れの説明・授業への関心を促す。 PPT、配布資料で説明。 ワークシートに随時学んだことをメモするように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクター PC 紙資料 ワークシート
5分	介護ロボットと介護ICTの関係	この日の授業で扱う介護ICTの範囲を理解する。	既にスマート介護士の授業で学んだ介護ロボットと重複する部分、しない部分を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> PPT、配布資料で説明。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクター PC 紙資料 ワークシート

20分	介護現場で使用されるICT	介護現場でどのようなICTが使用されているかを理解する。	・具体的な製品カテゴリーを学び、どういった用途でICTを使用しているかのイメージを持つことができる。	・PPT、配布資料で説明。	・プロジェクター ・PC ・紙資料 ・ワークシート
25分	介護保険制度におけるICT	介護保険制度とICTがどのように関係しているかを理解する。	・制度の中に入ってきているICT化の流れを学び、今後のICTの重要性についてのイメージを持つことができる。	・PPT、配布資料で説明。	・プロジェクター ・PC ・紙資料 ・ワークシート
20分	介護現場での実際のICT利用状況	介護現場におけるICT利用の実情を理解する。	・介護現場でのICT利用における理想と現実のギャップまたその原因を学び、課題についてのイメージを持つことができる。	PPT、配布資料で説明。	・プロジェクター ・PC ・紙資料 ・ワークシート
15分	介護におけるDXについて	介護DXという言葉が指す内容について理解する。	介護DXとはどのような内容を学び、この授業や就職後に考えておけるべき介護のイメージを持つことができる。	PPT、配布資料で説明。	・プロジェクター ・PC ・紙資料 ・ワークシート

2コマ目

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品 留意事項
5分	オリエンテーション	ケアテック企業から実際の製品を説明してもらうことの理由を理解する。 ※ケアテック企業はオンラインサイトもしくはオンラインでの参加	・馴染みのない介護向けのICTについて学び、どのようなものがイメージを持つことができる。	・冒頭の説明。 ・ケアテック企業担当者の紹介。	・プロジェクター ・PC ・紙資料 ・ワークシート ・インターネット環境(オンラインの場合) ・ビデオミーティングツール(オンラインの場合)

40分	介護向けICT製品の機能紹介(デモ)	どのような介護向けICT製品があるのかを理解する。	その介護向けICTがどのような場面で利用されるのか学び、またこれまで就いてきた仕事で利用してきた業界向けのICTと比較することで、イメージを深めることができる。	受講者の様子を見て、話についていけているかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・PC ・紙資料 ・ワークシート ・インターネット環境(オンラインの場合) ・ビデオミーティングツール(オンラインの場合)
10分	当該製品を活用して実現してもらいたい介護について	ケアテック企業がどのような思想を持って製品開発をしているのかを理解する。	その介護向けICTの機能によって何がどう変わるのかを学び、業務改善・効率化の具体的なイメージをもつことができる。	受講者の様子を見て、話についていけているかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・PC ・紙資料 ・ワークシート ・インターネット環境(オンラインの場合) ・ビデオミーティングツール(オンラインの場合)
10分	製品導入の現場で感じる課題	ケアテック企業が介護現場に製品を導入する際に直面する課題を理解する。	介護現場にICTを導入しようとした時にどのようなことが実際障壁になるのかを学び、就業した後のような動きをすればよいかについてのイメージを持つことができる。	受講者の様子を見て、話についていけているかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・PC ・紙資料 ・ワークシート ・インターネット環境(オンラインの場合) ・ビデオミーティングツール(オンラインの場合)
15分	1・2コマ目の中間まとめ	1・2コマ目の授業で学んだことを個人ワークで整理し、3・4コマ目のグループワークの準備をする。	ワークシートに学んだ内容、疑問点などについてまとめ、これまでの自分の理解度を確認することができる(提出不要)。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記入を指示する。 ・巡回し、記入に困っている受講者がいないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・PC ・紙資料 ・ワークシート
10分	1・2コマ目全体について質疑応答	個人ワークで整理した際に生じた質問や疑問を解消する。	これまでの内容で生じた質問や疑問が解消され、理解度を深めることができる。	質問者がいない場合は指名する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

3コマ目

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品 留意事項
5分	教材準備 グループ編成	スムーズに授業を開始する。	・4～5 グループ程度に分かれる。 ・模造紙を準備する。 ・マーカーを準備する。	・グループ分けを機械的に行う ・模造紙を配布する ・マーカーを配布する ・ワークシートを配布する	・模造紙 ・マーカーペン ・ワークシート
15分	オリエンテーション	このコマの目的・流れを理解する。	・グループワークで何を学ぶか理解できる。 ・課題解決に使えるICTの探し方を理解できる。	・配布したワークシートに記載のこ れから検討してもらった課題について 説明する。 ・模造紙の使い方を説明する。 ・発表の仕方について説明する。 ・ICTの探し方について説明する。	・模造紙 ・マーカーペン ・ワークシート ・各自のスマホ(あれば) ・Wi-Fi環境(あれば)
70分	グループワーク で介護現場での ICT活用について 考える	介護現場でのICT活用の可能性を自分たちで考えてまとめ、発想法や実行するための課題について理解する。	・介護現場にはどのような業務課題があるのかを理解する。 ・どうしたら課題を解決できるのか自分で考えられるようになる。 ・自分の意見を述べることに慣れる。 ・ICTを活用して、介護現場の業務課題を解決するための考え方を理解する。 ・検討した案を模造紙に書き出してまとめる。	・巡回し、検討が進んでいないようであれば適宜助言する。	・模造紙 ・マーカーペン ・ワークシート ・各自のスマホ(あれば) ・Wi-Fi環境(あれば)

4コマ目

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品 留意事項
5分	オリエンテーション	このコマの流れを理解する。	・グループ発表の流れを理解できる。 ・発表者を決める。	・グループ発表の流れを説明する。 ・発表と合わせて行う講評について説明する。	・模造紙 ・ホワイトボード ・マイク(あれば) ・指示棒(あれば)
65分 (1グループあたり12～15分程度)	グループ発表&講師による講評	検討した結果を根拠に基づいて発表する。	・記入した模造紙をホワイトボードに貼り出す。 ・まとめた内容について発表する。 ・発表内容についての講師からの質問に回答する。	・時間内で全グループが発表できるよう動作を促す。 ・検討結果について、受講者がより理解を深められるような質問を行う。	・模造紙 ・ホワイトボード ・マイク(あれば) ・指示棒(あれば)
20分	全体のまとめ リアクションペーパー記入	1～4コマ目全体を振り返り、これからの就業にどう役立てるかを理解する。	・1～4 コマの内容を学び、理解したこと、もっと知りたいこと、就業した際にどのように介護 DX に向き合うかをリアクションペーパーに記入する。	・主にグループワーク発表を振り返りつつ、全体のまとめや今後受講者にどのような心持ちでいてほしいかを説明する。 ・リアクションペーパーを配布する。 ・リアクションペーパーの記入について説明する。 ・リアクションペーパーを回収する。	・リアクションペーパー

7. チームリーダー介護マネジメント研修

CONFIDENTIAL

チームリーダー介護マネジメント研修

社会福祉法人善光会

CONFIDENTIAL

法人概要



項目	概要
法人名称	社会福祉法人 善光会
設立年月日	平成17年12月7日
代表者	理事長 西田 日出美
本部所在地	〒144-0033 東京都大田区東萩谷六丁目4番17号
従業員数	511名（令和4年4月1日現在）
資本金	825.5百万円（平成30年度）




国内最大級の複合福祉施設サンタフェガーデンヒルズをはじめ大田区を中心に7拠点を展開。

理 念

**オペレーションの模範となる
業界の行く末を担う先導者となる**



**誰も見たことも無い、
新しい介護の姿を追い求める。**

新しい考えや技術を積極的に取り入れることで、
介護業界に新たな風を吹かせる。それが私たちの使命です。

年月	沿革
H17.12	法人設立認可
H19.4	複合福祉施設「サンタフェガーデンヒルズ」開業
H22	認知症対応型グループホーム開業（西六郷・羽田・大森南）
H24.5	特別養護老人ホーム「バタフライヒル大森南」開業
H25.5	特別養護老人ホーム「バタフライヒル細田」開業
H25.8	介護ロボット研究室 設立
H29.10	サンタフェ総合研究所 設立
R2.8	Care Tech ZENKOUKAI Lab リビングラボ認定

1. お名前
2. 直近のお仕事
3. 部下や後輩を持った経験の有無



- ・ チームリーダーの役割の必要性を説明できる
- ・ チームリーダーになることの条件を説明できる
- ・ 主体的に問題を見つけて解決することができる
- ・ 業務を円滑に行うためのファシリテーションができる



1コマ目 (9:00-10:30)

- ・オリエンテーション (自己紹介・講義概要説明等)
- ・リーダーシップ概論
 - ☑ リーダーシップの定義
 - ☑ 介護福祉の現場で求められるリーダーシップの特徴
 - ☑ 学習する組織 など

2コマ目 (10:40-12:10)

- ・リーダーシップ実践
 - ☑ PM理論とは？
 - ☑ 自身のリーダーシップのタイプは？
 - ☑ 自身が目指したいリーダー像は？
 - ☑ PM理論診断テスト など

3コマ目 (13:00-14:30)

- ・マネジメント概論と実践
 - ☑ マネジメントの基礎
 - ☑ 心理的安全性
 - ☑ 部下マネジメント

4コマ目 (14:40-16:10)

- ・コーチング概論と実践
 - ☑ コーチングの基礎
 - ☑ ソーシャルスタイル
 - ☑ 聴く力 & Iメッセージ
- ・今後の目標立案 (GROWモデル)

1. リーダーシップとは何か
2. 介護福祉の現場で求められるリーダーシップ
3. リーダーの責任
4. 職場の停滞
5. 成長する組織文化

あなたが「リーダー」と
聞いて思いつく人物は？

皆さんの意見を教えてください。

「リーダーシップとは何か？」

あなたは職場でどんな
「リーダーシップ」を
発揮していますか？

セルフリーダーシップ

CONFIDENTIAL

1. PM理論とは何か
2. PM理論の実践
3. 様々なリーダーシップの形

PM理論とは何か

CONFIDENTIAL

PM理論：
 リーダーシップをP(目標達成)能力とM(集団維持)能力の2つで構成されるとし、
 PとMそれぞれの能力の高低によって、4つのリーダーシップタイプに分類した理論。

高	↑	高	↓	低
目 標 達 成 能 力		仕事ができるが 人望がないタイプ pm	目標を明確に示し成果を上げ、 集団をまとめられる理想型 PM	
		成果を上げる力も集団をまとめる力も弱い リーダー失格タイプ pm	人望は有るが、 仕事は今ひとつなタイプ pm	
低	↓	低	↑	高
		集 団 維 持 能 力		

リーダーシップには様々なスタイルがある。

- ①自分自身
- ②部下
- ③業務

有るべきリーダーシップは、
の3つの性質と状態によって異なる。

個人個人で以下のお題について考えてまとめてください。

・あなたのリーダーとしての課題とは何か？

1. マネジメントの基礎知識

2. 心理的安全性

3. 苦手な部下への対応

1. コーチングの基礎知識

2. ソーシャルスタイル診断

3. 聴くスキル & Iメッセージ

本日の研修の最後に、

今後の目標を
立てましょう

【講座名：授業展開表（チームリーダー介護マネジメント研修）】

授業展開表

学習目標	この講座を受けることで、現場が求める力や即戦力となる力が身に付き実践できるようになる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ⑬ 気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ(チーム)で実践できる。 ⑭ 何事にも根拠を示し解決方法を計画することができ、(チーム)で実践できる。 ⑮ 福祉職に必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる。 ⑯ 自分が活躍できる仕事についてイメージでき、それに向かって計画していく事ができる。
この講座の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・チームリーダーの役割の必要性を説明できる ・チームリーダーになることの条件を説明できる ・主体的に問題を見つけて解決することができる ・業務を円滑に行うためのファシリテーションができる

所要時間	テーマ	その項目の意図	学生の活動内容と方法	教員による学生の学習活動支援の内容	留意点・備考・準備事項
いつ	どんなテーマを	どんな目的で	学生が行うこと	教員が行うこと	必要な物品 留意事項
10分	オリエンテーション	本日の授業の目的・流れを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーと介護マネジメント講座で、何を学ぶか理解出来る。 ・本講座に興味・関心を持つことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業の目的・流れの説明・授業への関心を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター ・投影資料
50分	リーダーシップ概論①	リーダーシップの理論ならびに介護領域で求められるリーダーシップとは何かを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1)リーダーの定義 2)介護福祉の現場で求めら 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT 資料を活用しながら、主要なリーダーシップの理論やフレームワークを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター ・投影資料

80分	リーダーシップ 概論②	PM理論を活用して、自身のリーダーシップタイプと目指したいリーダー像を具体化する。	<p>れるリーダーシップの特徴 3) 様々なリーダーシップスタイルなど</p> <p>PM理論に添って、自身のリーダーシップを自己観照し、目指したいリーダー像を目標設定する。</p> <p>1) PM理論とは？ 2) 自身のリーダーシップのタイプは？ 3) 自身が目指したいリーダー像は？ 4) PM理論診断テスト(15分)など</p>	<p>「PM理論診断テスト」とPPT資料を活用しながら、リーダーシップの自己観照と目標設定を促す。</p>	<p>・PC ・プロジェクター ・投影資料 ・PM理論診断テスト用紙</p>
80分	リーダーシップ の実践	グループワークでのアウトプットを通じて、リーダーシップを実践するための知識・スキルを身につける	<p>＜ケーススタディ＞ 1) 個人ワーク(15分) 2) グループワーク(45分) 3) 発表(20分)</p>	<p>＜グループワーク開始前＞ ・PPT資料を活用して、ケーススタディの概要、進め方を説明する。 ＜グループワーク中＞ ・事前に決めておいたグループへの移動を促す。 ・ワークシート&模造紙&付箋を配布する。 ・グループ別の進捗を確認し、適宜進行をフォローする。 ＜グループワーク終了後＞ ・各グループの発表を促し、発表内容に適宜解説を加える。</p>	<p>・PC ・プロジェクター ・投影資料 ・ワークシート ・模造紙 ・付箋</p>

50分	介護マネジメント 概論	マネジメントの理論ならびに介護領域で求められるマネジメントとは何かを理解する。	<p>主要なマネジメントの理論やフレームワークを学ぶ。</p> <p>1)職場の停滞と成長する組織文化</p> <p>2)ティーチングとコーチング</p> <p>3)心理的安全性</p> <p>4)KPIとKGI など</p>	<p>・PPT 資料を活用しながら、主要なマネジメントの理論やフレームワークを説明する。</p>	<p>・PC</p> <p>・プロジェクター</p> <p>・投影資料</p>
80分	介護マネジメント の実践	グループワークでのアウトプットを通じて、介護マネジメントを実践するための知識・スキルを身につける。	<p><ケーススタディ></p> <p>・個人ワーク(15分)</p> <p>・グループワーク(45分)</p> <p>・発表(20分)</p>	<p><グループワーク開始前></p> <p>・PPT 資料を活用して、ケーススタディの概要、進め方を説明する。</p> <p><グループワーク中></p> <p>・事前に決めておいたグループへの移動を促す。</p> <p>・ワークシート&模造紙&付箋を配布する。</p> <p>・グループ別の進捗を確認し、適宜進行をフォローする。</p> <p><グループワーク終了後></p> <p>・各グループの発表を促し、発表内容に適宜解説を加える。</p>	<p>・PC</p> <p>・プロジェクター</p> <p>・投影資料</p> <p>・ワークシート</p> <p>・模造紙</p> <p>・付箋</p>
10分	まとめ・感想 ・アンケート	本講義で学んだことを振り返り、習熟度を引き上げる。	<p>・学生数名が感想を発表する。</p> <p>・アンケートを回答する。</p>	<p>・学生数名に感想を聞いてコメントを加える。</p> <p>・QRコードを読み取り、今回の授業についてのアンケートの実施を説明する。(紙媒体の場合は回収)</p>	<p>・PC</p> <p>・プロジェクター</p> <p>・投影資料</p> <p>・受講アンケート</p>

8. 振返りテスト

DX 福祉職養成プログラム修了試験

問1：起居動作に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 側臥位→仰臥位→起き上がり→座位
- ② 仰臥位→側臥位→起き上がり→端座位
- ③ 仰臥位→腹臥位→起き上がり→椅座位

問2：安全な介助に関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① 安全な介助を行う際は、介助する環境を整えてから介助を行う。
- ② 利用者の姿勢を整えることを優先に行うが、介助者の姿勢は十分な介助のスペースが有れば整える必要はない。
- ③ 介助後、利用者の姿勢を整え、本人の状態を確認することまで行うことが、安全な介助につながる。

問3：介護過程に関する次の記述のうち正しいものを一つ選びなさい。

- ① 介護過程の目的は、介護職が望む支援を実現するために、利用者の生活課題を解決することで、介護の質を向上させることを目的としている。
- ② 評価は、これまでのプロセスを振り返るのみで、次のサイクルのアセスメントに繋げる必要がないため、見直しをしなくても記録を残しておけばよい。
- ③ 介護過程の展開の工程は、アセスメント→計画立案→実施→評価の順で展開をしていく。

問4：リスクマネジメントに関する次の記述のうち正しいものを一つ選びなさい。

- ① リスクマネジメントとは、介護事故のリスクを、個人的に把握し、管理することで、事故を未然に防ぐことを目的とすることである。
- ② リスクマネジメントを進めるためには、リスクを発見し把握する→リスクアセスメントを行う→リスクに対応し対策を立てる→リスクコントロール（運用・実施）をするという工程で行う。
- ③ 介護現場におけるリスクマネジメントの唯一の目的は、現場の介護職員を守ることである。

問5：リカレント教育に関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① リカレント教育とは、学校教育を終えて就職した後、必要に応じて教育機関に戻って学習を続け、再就職するなど、生涯にわたり周期的に学びとキャリアを繰り返すことである。
- ② リカレント教育は、趣味やスポーツ、ボランティア活動などを、生きがいとして学び、生涯にわたり行うさまざまな学習である。
- ③ リカレント教育が必要とされる理由の一つとして、ライフスタイルの変化により、従来の学校を卒業して働き続ける単線型の人生設計から、学びなおしを繰り返すマルチステージ型の人生設計へと転換するライフスタイルの変化があげられる。

問6：チームリーダー・介護マネジメントに関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① PM 理論とは、P=Performance は集団の目的達成や課題解決に関する行動、M=Maintenance は集団の維持を目的とする行動のことであり、P 行動と M 行動が共に高い PM 型のリーダーシップが望ましいとされている理論である。
- ② 介護事業所等でマネジメントを行う場合には、本人の介護業務スキルではなく、目標の設定・管理スキル、コーチングスキル、ICT スキル、評価スキルのみが求められる。
- ③ リーダー論（リーダーシップ論）とは、目標を設定し、組織を目指すほうへと導く能力である。

問7：キャリアに関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① キャリア教育とは、将来社会人として自立した人を育てる観点から「生きること」のみを考える教育である。
- ② ウェルビーイング（Well-being）とは、「身体的、精神的、社会的に、良好な状態になること」を意味する概念である。
- ③ キャリアアップに必要な「4 つの力」は、「戦略的に未来を設計する力」「自分について深く分析する力」「自分にうまく火をつける力」「人間関係をマネジメントする力」の4 つである。

問8：DXに関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、企業がデジタル技術やデータを活用することで商品・サービスやビジネスモデルを変革し、競合優位性を確立することである。
- ② 介護 DX とは、介護現場に ICT のデジタル技術のみを取り入れ、介護業務のワークフローを変革し、利用者と職員を笑顔にすることである。
- ③ 介護施設における DX の課題として、現場がついてこない、費用対効果がシビア、システム単体では成果を出しにくいなどの課題があげられる。

問9：DX 導入のメリットに関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① 介護 DX を導入することで、手書き書類への記入速度が向上し、経費削減の効率化が可能になる。
- ② 業務が効率化することでその分のマンパワーが不要となり、人材不足の解消につながる。
- ③ 利用者の状況をいつでも、どこでも情報共有できるので、サービスの質が向上する。

問10：ICT 機器導入のメリットに関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① ICT 機器・ソフトウェアの導入は、介護サービスの提供現場における「業務効率化」のみを目的に行う。
- ② ICT 機器・ソフトウェアは、導入効果の検証をしっかりと行い、効果を確認することが大切である。
- ③ ICT 機器・ソフトウェアの導入は、製品機能、価格、効果、サポート・メンテナンス等の観点から比較する。

問 11：福祉用具に関する次の記述のうち正しくないものを一つ選びなさい。

- ① 福祉用具の選定のポイントは、使う目的、使う人の状態や環境、予算、関係する専門家と相談する福祉用具を体感し、生活の中で使っているイメージができるものを選定することである。
- ② スライディングボードとは、ベッド・車椅子・ポータブルトイレなどの移乗を立ったままで横にスライドするように移乗介助を行う用具である。
- ③ スライディングシートを使って安全なベッド上の移動をする際は、必ず利用者の体と枕をシートに敷き込むように介助を行う。また、介護者が1人で移動させる場合は、必ず介助と反対のサイドレールはつけた状態で行う。

問題 12：_____のことばの漢字として適切なものを、1・2・3・4から1つ選びなさい。

高齢者は特に、ゴエン性肺炎に気を付けなければならない。

- 1 誤嚥 2 嚥下 3 口腔 4 誤飲

問 13：_____のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から1つ選びなさい。

歩行している時に転倒し、大腿部の骨が折れてしまった。

- 1 だいたうぶ 2 だいたいぶ 3 えきかぶ 4 ふとももぶ

問 14：バイタルサインの中で、誤っているものを、1・2・3・4から1つ選びなさい。

- 1 血圧 2 呼吸 3 意識 4 視力

問 15：_____のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

ベッドで寝ている方を端座位になるように介助します。

- 1 はしざい 2 はしさい 3 たんざい 4 たんさい

問 16：_____のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

ベッドから車いすへの移乗介助をします。

- 1 いどう 2 いこう 3 いしょう 4 いじょう

問 17： _____ のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

立つことが不安定な人は、歩ときに多点杖をつかう。

- 1 たてんつえ 2 だでんつえ 3 たでんつえ 4 おおてんつえ

問 18： _____ のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

利用者が歩いている時、転ばないように患側から見守ります。

- 1 かんぞく 2 がんぞく 3 がんぞく 4 かんぞく

問 19： _____ のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

ベッド上で45° 上半身を起した状態を半座位といいます。

- 1 はんざい 2 ばんざい 3 たんざい 4 ばんざい

問 20： _____ のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

寝ている利用者の体を側臥位に変えてください。

- 1 そくがい 2 よこがい 3 そくかい 4 よこかい

問 21： _____ のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

ベッド上でぎょうがいの利用者を介助する。

- 1 卵臥位 2 卵賀位 3 仰賀位 4 仰臥位

問 22： _____ のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

失禁など排泄の自立が困難になります。

- 1 はいべん 2 しつきん 3 しっきん 4 しつぎん

問 23： _____のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

排泄の介護は、羞恥心への配慮がとても大切です。

- 1 さちゅうしん 2 しゅうちしん 3 さじしん 4 れんちしん

問 24： _____のことばを漢字で書くとき、適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

片麻痺がある人は、かんそくから服を着ます。

- 1 健側 2 患側 3 患測 4 健測

問 25： _____のことばの読み方として適切なものを、1・2・3・4から一つえらびなさい。

顔が洗えない利用者には、顔の清拭をします。

- 1 せいしき 2 しふき 3 せいふき 4 せじき

以上で問題は終了です。

9. 受講前・受講後アンケート

DX を活用した介護職養成プログラムについての

受講前アンケート調査ご協力をお願い

この調査は、DX を活用した介護職養成プログラムを受講する方を対象に、介護職やキャリアに対するお考えについてお伺いするものです。プログラムの更なる発展のため、皆さまのお考えやご意見をいただきたく、調査をさせていただいております。ご多用のことと存じますが、格別のご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。以下の注意事項をよく読んで、お答えください。

【注意事項】

このアンケートは、すべて無記名で行いますので、あなたのプライバシーは守られます。さらに、この研究終了後、あなたのデータは、個人情報外部に漏れないようにしたうえで廃棄します。この研究で得られた成果を専門の学会や学術雑誌などに発表する可能性があります。発表する場合は被検者の方のプライバシーに慎重に配慮しますので、個人を特定できる情報が公表されることはありません。

このアンケートへの回答は自由です。答えたくない質問については、とばしても構いません。また、途中でやめたい場合は、回答を中止することができます。回答を拒否したり、アンケートを中止したりしても、皆さんが不利益を受けることはありません。また、回答内容によって皆さんが不利益を受けることも一切ありません。なお、調査にかかる所要時間は、おおよそ10分となっております。

以上の質問の趣旨をご理解のうえ、調査にご協力いただける場合は、次のページからの質問1にお進みください。アンケートはこの表紙を含め、計6ページあります。

この研究は、敬心学園職業教育研究開発センター研究倫理委員会の承認を得て、調査回答者の皆さまに不利益がないよう万全の注意を払って行われます。なお、本調査の内容に関してご意見ご質問などございましたら、研究責任者または研究代表者にお問合わせください。

【研究代表者】

敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員 内田 和宏

【連絡先】

敬心学園 職業教育研究開発センター

〒169-10075 新宿区高田馬場2-16-6

TEL : 03-3200-9074 E-mail : uchida@keishin-group.jp

1. あなたは、現在、介護の仕事に興味がありますか？

- ①とても興味がある
- ②少し興味がある
- ③どちらでもない
- ④あまり興味はない
- ⑤全く興味がない

2. あなたは、現在、介護の仕事に就職したいと考えていますか？

- ①とても介護の仕事に就職したいと考えている
- ②少し介護の仕事に就職したいと考えている
- ③どちらでもない
- ④あまり介護の仕事に就職したいとは考えていない
- ⑤全く介護の仕事に就職したいとは考えていない

3. あなたは、介護の分野において、以下の項目について実践できると思いますか？1～5の当てはまるものを選んでください。

①課題に気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ、実践できる

- 1. そう思う
- 2. 少しそう思う
- 3. どちらでもない
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

②何事にも根拠を示すことができ、解決方法の計画を立てることができて、実践できる

- 1. そう思う
- 2. 少しそう思う
- 3. どちらでもない
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

③必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる

- 1. そう思う
- 2. 少しそう思う
- 3. どちらでもない
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

④自分が活躍できる仕事についてイメージすることができ、それに向けて計画していく
事ができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑤根拠や気づきのある介護がなぜ必要なのか理解でき、実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑥安全な介助を行うための手順を理解でき、実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑦介護過程の目的を理解して、介護課程の展開が考えられ実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑧利用者の状態に合わせた支援ができるために、リスクを考えられ、実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑨チームリーダーにおける役割の必要性を説明できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑩チームリーダーになることの条件を説明できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑪主体的に問題を見つけて解決することができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑫業務を円滑に行うためのファシリテーションができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑬「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたいのか、働き方を描くことができる」について内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

DX を活用した介護職養成プログラムについての

受講後アンケートご協力をお願い

この調査は、DX を活用した介護職養成プログラムを受講した方を対象に、介護職やキャリアに対するお考えについてお伺いするものです。プログラムの更なる発展のため、皆さまのお考えやご意見をいただきたく、調査をさせていただいております。ご多用のことと存じますが、格別のご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。以下の注意事項をよく読んで、お答えください。

【注意事項】

このアンケートは、すべて無記名で行いますので、あなたのプライバシーは守られます。さらに、この研究終了後、あなたのデータは、個人情報外部に漏れないようにしたうえで廃棄します。この研究で得られた成果を専門の学会や学術雑誌などに発表する可能性があります。発表する場合は被検者の方のプライバシーに慎重に配慮しますので、個人を特定できる情報が公表されることはありません。

このアンケートへの回答は自由です。答えたくない質問については、とばしても構いません。また、途中でやめたい場合は、回答を中止することができます。回答を拒否したり、アンケートを中止したりしても、皆さんが不利益を受けることはありません。また、回答内容によって皆さんが不利益を受けることも一切ありません。なお、調査にかかる所要時間は、およそ10分となっております。

以上の質問の趣旨をご理解のうえ、調査にご協力いただける場合は、次のページからの質問1にお進みください。アンケートはこの表紙を含め、計7ページあります。

この研究は、敬心学園職業教育研究開発センター研究倫理委員会の承認を得て、調査回答者の皆さまに不利益がないよう万全の注意を払って行われます。なお、本調査の内容に関してご意見ご質問などございましたら、研究責任者または研究代表者にお問合わせください。

【研究代表者】

敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員 内田 和宏

【連絡先】

敬心学園 職業教育研究開発センター

〒169-10075 新宿区高田馬場 2 - 16 - 6

TEL : 03-3200-9074 E-mail : uchida@keishin-group.jp

1. あなたは、受講前に比べ、介護の仕事に興味をもちましたか？

- ①とても興味がある
- ②少し興味がある
- ③どちらでもない
- ④あまり興味はない
- ⑤全く興味がない

2. あなたは、受講前に比べ、介護の仕事に就職したいと考えていますか？

- ①とても介護の仕事に就職したいと考えている
- ②少し介護の仕事に就職したいと考えている
- ③どちらでもない
- ④あまり介護の仕事に就職したいとは考えていない
- ⑤全く介護の仕事に就職したいとは考えていない

3. あなたは、介護の分野において、以下の項目について実践できると思いますか？1～5の当てはまるものを選んでください。

①課題に気づくことができ、それに必要な対応方法を考えることができ、実践できる

- 1. そう思う
- 2. 少しそう思う
- 3. どちらでもない
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

②何事にも根拠を示すことができ、解決方法の計画を立てることができて、実践できる

- 1. そう思う
- 2. 少しそう思う
- 3. どちらでもない
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

③必要なICTは何かを理解し、活用効果について考えることができ、提案できる

- 1. そう思う
- 2. 少しそう思う
- 3. どちらでもない
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

④自分が活躍できる仕事についてイメージすることができ、それに向けて計画していく
事ができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑤根拠や気づきのある介護がなぜ必要なのか理解でき、実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑥安全な介助を行うための手順を理解でき、実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑦介護過程の目的を理解して、介護課程の展開が考えられ実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑧利用者の状態に合わせた支援ができるために、リスクを考えられ、実践できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑨チームリーダーにおける役割の必要性を説明できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑩チームリーダーになることの条件を説明できる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑪主体的に問題を見つけて解決することができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑫業務を円滑に行うためのファシリテーションができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

⑬「これからの人生や生活、仕事や働き方に向き合い、何を大切にしたいのか、働き方を描くことができる」について内省し、自身の内なる動機・欲求を明らかにし、ありたい生き方、働き方を描くことができる

1. そう思う
2. 少しそう思う
3. どちらでもない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

令和3年度 文部科学省委託事業
DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業

テクノロジーを活用して介護DXを進める現場実践能力の高い介護職の
効果的な養成プログラム開発及びその就職・転職に関する有効性を確認する実証研究
成果報告書

学校法人 敬心学園 職業教育研究開発センター

発行年月日 令和5年2月24日

発行 小林 光俊（事業代表者）

編集 小林 英一（事業責任者）

内田 和宏（事務局）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-6 宇田川ビル6階

学校法人 敬心学園 職業教育研究開発センター

TEL : 03-3200-9074 FAX : 03-3200-9088

印刷・製本 名鉄局印刷株式会社 東京営業所

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1丁目6番7号 九段NIビル2階

TEL : 03-3263-0141 FAX : 03-5276-7709

